

回復期・慢性期看護実態調査 報告書

2023 年 3 月

日本看護協会 編

は じ め に

公益社団法人日本看護協会では、毎年「病院看護実態調査」を実施し、病院における看護職員の需給動向や労働状況等を把握しています。

2022 年度は、例年の調査に加えて、回復期・慢性期病棟の看護業務の実態等を明らかにすることを目的に、選定基準に該当する全国の病院を対象に、「回復期・慢性期看護実態調査」を実施しました。この度、調査結果をまとめましたので報告いたします。

「回復期・慢性期看護実態調査」の実施にあたっては、「回復期・慢性期における看護の役割の明確化に係る調査検討委員会」（栗生田友子委員長）を設置し、回復期・慢性期病棟における看護の役割と、役割に応じた看護職員配置の実態把握に向けた調査設計等の検討を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響が残るなか、回復期・慢性期病棟における看護業務に関する詳細な調査にご協力をいただいた皆様及び検討委員会にご参加・ご協力をいただいた委員各位に感謝申し上げます。

本調査では、患者の高齢化に加え、急性期病棟からの早期退院が推進される状況において、回復期・慢性期病棟に入院する医療依存度の高い患者の増加、そのような状況に伴う回復期・慢性期病棟における看護業務に関する実態を把握しました。今後は、この調査結果を多角的に分析して、回復期・慢性期病棟における安全・安心な医療・看護の提供と看護職員の安全な働き方を確保するための看護職員配置等の在り方を検討し、政策提言等を行ってまいります。

2023 年 3 月

公益社団法人日本看護協会

常任理事 吉川 久美子（研究責任者）

目 次

第1章 本調査の概要と主な結果	11
Ⅰ 調査概要	13
Ⅱ 調査結果（要旨）	15
Ⅲ 調査結果(1)～病棟種類ごとの特徴比較～	16
1. 病棟概要	16
(1) 稼働病床数	16
(2) 在棟患者延べ数	16
(3) 平均在棟日数	16
(4) 病床稼働率	18
(5) 回転率	18
(6) 在宅復帰率	18
2. 患者像	18
(1) 75歳以上患者割合	18
(2) 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上患者割合	18
(3) 死亡退院割合	20
(4) 器具の装着や処置等の状況	20
(5) 新規褥瘡発生患者割合	20
(6) 身体的拘束実施状況	20
(7) 転倒・転落発生件数	21
3. 患者の状態とアウトカム	22
(1) 経口摂取訓練の状況	22
(2) CVカテーテルの挿入・抜去状況	22
(3) 膀胱留置カテーテルの挿入・抜去状況	22
4. 看護提供とその提供体制	24
(1) 看護情報提供書提供患者割合	24
(2) カンファレンス実施状況	24
(3) 意思決定支援・指導の実施状況	24
(4) 准看護師比率	24
(5) 実質的な看護職員及び看護補助者配置	26
(6) 他の医療専門職（専従）の病棟配置状況	26
5. 早朝・夜間の看護提供体制	26
(1) 看護職員・補助者・リハ職の夜勤人数	26
(2) 看護職員・補助者・リハ職の早出・遅出人数	28
(3) 平均夜勤時間	28
Ⅳ 調査結果(2)～病棟種類ごとの看護の役割と看護配置の状況～	29
1. 回復期リハビリテーション病棟における看護の役割と看護配置の状況	29
2. 地域包括ケア病棟における看護の役割と看護配置の状況	32

3. 療養病棟における看護の役割と看護配置の状況	35
4. 緩和ケア病棟における看護の役割と看護配置の状況	40
V 考察	43
第2章 調査票別調査結果	47
I 調査結果一病院票	49
1. 回答病院の属性	49
(1) 設置主体	49
(2) 許可病床数	50
(3) 入院基本料の算定状況	52
(4) 特定入院料の届出状況	58
(5) 併設する訪問看護事業所・介護施設	60
2. 医療提供体制	61
(1) 救急医療体制	61
(2) 医療安全対策加算	63
(3) 認知症ケア加算	64
(4) 排尿自立支援加算	65
(5) 摂食嚥下機能回復体制加算	66
(6) 感染対策向上加算	67
3. 看護提供体制等	68
(1) 看護管理者を長とした看護部門の有無	68
(2) 病院全体の看護職員の確保状況	69
(3) 看護職員を確保する際の有料職業紹介所（派遣会社）の使用有無	70
(4) 他施設の看護師や病院見学の看護学生等に自院の魅力として発信している内容	70
(5) 専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者（看護師）の人数と分野・領域	72
(6) 院内に設置している医療チーム	77
II 調査結果一回復期リハビリテーション病棟調査票	78
(1) 算定入院料	78
(2) 病棟数・稼働病床数	78
(3) 稼働状況	79
(4) 看護情報提供書の提供状況	81
(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況	82
(6) 在宅復帰率	82
(7) リハビリテーションの実績	83
(8) 体制強化加算の算定状況	84
(9) 休日リハビリテーション提供体制加算の算定状況	84
2. 回答病棟における在棟患者の状況	85
(1) 11月1日24時時点の入院患者数	85

(2) 入院患者の状態	86
(3) 令和3年度の新規入院患者数と入院元の内訳	87
(4) 令和3年度の退院患者数と退院先の内訳	88
(5) 直近6か月の重症の新規入院患者の割合	89
(6) 75歳以上の患者割合	89
(7) 認知症の評価状況と認知症患者割合	90
(8) 新規褥瘡発生の状況	91
(9) 身体的拘束の状況	92
(10) 器具の装着や処置等の状況	93
(11) 経口摂取訓練の状況	97
(12) 24時時点のCVカテーテル（中心静脈注射）の状況	98
(13) 24時時点の膀胱留置カテーテルの状況	99
(14) 転倒・転落の状況	100
3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況	102
(1) 看護職員数、看護補助者数	102
(2) 実質的な看護職員配置、看護補助者配置	104
(3) 他の医療専門職の病棟配置状況	105
(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制	105
(5) 月平均夜勤時間	108
(6) 患者・家族への支援の状況	108
(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況	109
(8) 夜間のトイレ介助の状況	109
(9) タスク・シフト／シェアの状況	110
(10) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況	117
4. 令和4年度診療報酬改定の影響	118
(1) 診療報酬改定事項への対応	118
Ⅲ 調査結果―地域包括ケア病棟調査票	120
1. 回答病棟の基本情報	120
(1) 算定入院料	120
(2) 病棟数・稼働病床数	120
(3) 稼働状況	121
(4) 看護情報提供書の提供状況	123
(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況	124
(6) 在宅復帰率	124
(7) 同一保険医療機関の一般病棟からの転棟割合	125
(8) 自宅等からの入棟患者割合	125
(9) 看護職員配置加算の算定状況	126
(10) 看護職員夜間配置加算の算定状況	127

(11) 看護補助者配置加算の算定状況	127
(12) 看護補助体制充実加算の算定状況	128
2. 回答病棟における在棟患者の状況	129
(1) 11月1日24時時点の入院患者数	129
(2) 入院患者の状況	130
(3) 令和3年度の新規入院患者数と入院元の内訳	131
(4) 令和3年度の退院患者数と退院先の内訳	132
(5) 75歳以上の患者割合	133
(6) 認知症の評価状況と認知症患者割合	134
(7) 新規褥瘡発生の状況	135
(8) 身体的拘束の状況	136
(9) 器具の装着や処置等の状況	137
(10) 経口摂取訓練の状況	141
(11) 24時時点のCVカテーテル（中心静脈注射）の状況	142
(12) 24時時点の膀胱留置カテーテルの状況	143
(13) 転倒・転落の状況	144
3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況	146
(1) 看護職員数、看護補助者数	146
(2) 実質的な看護職員配置、看護補助者配置	148
(3) 他の医療専門職の病棟配置状況	149
(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制	149
(5) 月平均夜勤時間	152
(6) 患者・家族への支援の状況	152
(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況	153
(8) 夜間のトイレ介助の状況	153
(9) タスク・シフト／シェアの状況	154
(10) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況	158
4. 令和4年度診療報酬改定の影響	159
(1) 診療報酬改定事項への対応	159
IV 調査結果—療養病棟調査票	161
1. 回答病棟の基本情報	161
(1) 算定入院料	161
(2) 病棟数・稼働病床数	161
(3) 稼働状況	162
(4) 看護情報提供書の提供状況	164
(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況	165
(6) 在宅復帰率	165
(7) 入退院支援加算の算定状況	166

(8) 在宅復帰機能強化加算の算定状況	166
2. 回答病棟における在棟患者の状況	167
(1) 11月1日24時時点の入院患者数	167
(2) 入院患者の状況	167
(3) 令和3年度の新規入院患者数と入院元の内訳	172
(4) 令和3年度の退院患者数と退院先の内訳	173
(5) 在宅復帰の課題	174
(6) 75歳以上の患者割合	174
(7) 認知症の評価状況と認知症患者割合	175
(8) 新規褥瘡発生の状況	176
(9) 身体的拘束の状況	176
(10) 器具の装着や処置等の状況	177
(11) 経口摂取訓練の状況	180
(12) 24時時点のCVカテーテル（中心静脈注射）の状況	181
(13) 24時時点の膀胱留置カテーテルの状況	182
(14) 転倒・転落の状況	183
3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況	185
(1) 看護職員数、看護補助者数	185
(2) 実質的な看護職員配置、看護補助者配置	186
(3) 他の医療専門職の病棟配置状況	187
(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制	188
(5) 月平均夜勤時間	190
(6) 患者・家族への支援の状況	190
(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況	191
(8) 夜間のトイレ介助の状況	191
(9) タスク・シフト／シェアの状況	192
(10) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況	195
4. 令和4年度診療報酬改定の影響	196
(1) 診療報酬改定事項への対応	196
V 調査結果—緩和ケア病棟調査票	197
1. 回答病棟の基本情報	197
(1) 算定入院料	197
(2) 病棟数・稼働病床数	197
(3) 稼働状況	198
(4) 看護情報提供書の提供状況	200
(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況	200
(6) 自宅に帰宅できた患者割合	201
(7) 緩和ケア病棟入院初期加算の算定状況	201

(8) 緩和ケア疼痛評価加算の算定状況	202
2. 回答病棟における在棟患者の状況	203
(1) 11 月 1 日 24 時時点の入院患者数	203
(2) 令和 3 年度の新規入院患者数と入院元の内訳	204
(3) 令和 3 年度の退院患者数と退院先の内訳	204
(4) 75 歳以上の患者割合	205
(5) 認知症の評価状況と認知症患者割合	206
(6) 新規褥瘡発生の状況	207
(7) 身体的拘束の状況	207
(8) 器具の装着や処置等の状況	208
(9) 転倒・転落の状況	211
3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況	212
(1) 看護職員数、看護補助者数	212
(2) 実質的な看護職員配置、看護補助者配置	213
(3) 他の医療専門職の病棟配置状況	214
(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制	215
(5) 月平均夜勤時間	217
(6) 患者・家族への支援の状況	217
(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況	218
(8) タスク・シフト／シェアの状況	218
(9) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況	221
4. 令和 4 年度診療報酬改定の影響	222
(1) 診療報酬改定事項への対応	222
< 調査票 >	223
< 検討委員会名簿 >	255

第1章

本調査の概要と 主な結果

第 1 章 本調査の概要と主な結果

I 調査概要

本調査の目的

本調査は、回復期・慢性期における看護の役割と看護職員配置に関する実態を明らかにすることで、回復期・慢性期における看護機能の明確化と役割発揮に係る政策課題を整理し、看護提供体制のあり方に関する政策提言の資料として活用することを目的としている。

調査対象

回復期リハビリテーション病棟入院料 1～5、地域包括ケア病棟入院料 1～4、療養病棟入院基本料 1～2、緩和ケア病棟入院料 1～2 のいずれかを算定する病院。ただし「新型コロナウイルス感染症専用病棟」「地域包括ケア入院医療管理料を算定している病棟」は調査対象外。

※対象となる病院のリストは、地方厚生局ホームページの「施設基準の届出状況」（令和 4 年 7 月時点）を使用して抽出

調査対象施設数

4,793 病院 ※看護部長および病棟看護管理者に回答を依頼

調査方法

Excel 調査票の入力・返信による調査とし、事前に調査協力依頼（ID・パスワード含む）を送付する。

回答にあたっては、調査専用サイトより、Excel 形式の調査票をダウンロードし、記入後、事前に郵送した ID・パスワードを入力の上送信（アップロード）し、回答する。

※ 倫理的配慮として、調査内容は全て統計的に処理し、病院名は公表しないこと、調査の記入は自由意思に基づくものであること、返送しない場合でも不利益は生じないこと、日本看護協会研究倫理委員会による倫理審査を受け、承認されていることを調査票に明示した。

調査実施日

2022 年 11 月 1 日～12 月 28 日

調査票の種類

調査対象病院には次の調査票（病院票 1 種類、病棟票 4 種類）への回答を依頼した。

①病院票：すべての調査対象病院が回答

②回復期リハビリテーション病棟票

③地域包括ケア病棟票

④療養病棟票

⑤緩和ケア病棟票

算定する入院料の調査票のみ回答（同一入院料算定病棟が複数ある場合は合算して回答。ただし複数種類の回復期リハビリテーション病棟入院料を算定する場合は入院料 1 又は 2 について回答）

回収状況

	全体	①病院票	②回りハ票	③地ケア票	④療養票	⑤緩和票
対象数	4,793 病院	4,793 病院	1,546 病院	2,222 病院	2,920 病院	447 病院
有効回答数	1,069 病院	1,069 病院	452 病院	450 病院	471 病院	147 病院
有効回答割合	22.3%	22.3%	29.2%	20.3%	16.1%	32.9%

(注1) 一病院で複数の該当病棟を有する場合、原則、該当する全病棟数分の病棟調査票を回答したが、一部の病棟についてのみ回答を作成した場合も集計対象とした。

(注2) 対象数は、令和4年7月時点の地方厚生局届出情報に基づき算出。

本書内の表記について

- ・回答率（各回答の百分比）は、小数点第2位を四捨五入した。このため、回答率の合算が100にならない場合がある。
- ・2段で表示した統計表（例：表2、表4）については、上段は件数、下段は百分率（%）である。百分率の数値は四捨五入のため内訳の合算が100にならない場合もある。
- ・平均値は「無回答・不明」を除いて算出している。
- ・本文、表、統計表等で用いた記号は主に以下の通りである。

n：その質問に対する回答者数であり、比率算出の基数である。

統計表中の「－」：計数がない（回答者がいない）ことを示す。

統計表中の「0」「0.0」：計数はあるが、四捨五入により0である場合を示す。

Ⅱ 調査結果（要旨）

急性期入院医療における在院日数の短縮などにより、回復期・慢性期入院医療において医療依存度の高い患者が増加し、看護職員の負担が増加しているとの声大きい。

今回行った「回復期・慢性期看護実態調査」の結果からも療養病棟入院料 1 算定病棟の看護職員配置の中央値は 13.1 対 1 であり、診療報酬上の 20 対 1 を大きく上回る配置がされていた。13 対 1 以上配置している病棟はそれ以外の病棟に比べて、点滴・酸素投与などの医療処置や、心電図モニター・気管カニューレ挿入中など医療依存度の高い患者が多く、意思決定支援も多く行われていた。さらに夜間看護職員 2 人以上を配置している病棟では、医療依存度の高い患者が多く、夜間の痰の吸引などの割合が有意に高いなど、夜間も手厚い看護ケアを必要としている実態が明らかとなった。今後ますます増加する医療ニーズへの対応や、在宅移行支援、意思決定支援を行うためには、適切な看護職員配置の確保が必要である。

回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では、24 時間を通した日常生活援助およびリハビリテーションの実施による早期回復・在宅復帰支援が求められており、看護職とリハビリテーション専門職が協働してその役割を担っていた。ただし、夜間や早朝、夕方勤務のリハビリテーション専門職は少なく（中央値 0 人）、この時間帯は主に看護職が業務を担っている。また、医療処置やモニターを要する患者は少ないが、点滴や経鼻経管栄養等が必要な患者は一定程度おり、一時的な身体的拘束（中央値 13.5%）があるものの、夜間は 94.2%の病院でできるだけトイレ誘導を行い、在宅復帰に向けたケアが提供されていた。看護職員配置は中央値 10.3 対 1 で、夜間に最低基準 2 人よりも多く加配している病棟が 19.5%あった。

地域包括ケア病棟入院料 1 算定病棟では、緊急入院割合が高く（急性期病棟を有する病院の地域ケア病棟で中央値 37.8%、急性期病棟を有さない病院の地域ケア病棟で中央値 55.5%）、医療機器の管理や医療処置が必要な患者、認知症患者が一定程度いる中で、短期間（平均在棟日数の中央値 23.3 日）の間に、入院受入体制の整備から看護計画の立案、看護ケアの提供を行い、在宅復帰（復帰率の中央値 82.4%）につなげていた。看護職員配置は中央値 8.3 対 1 で、夜間も 67.6%の病棟ではできるだけトイレ誘導を行っている。夜間の点滴や痰の吸引も多いこともあり、夜間に看護職員を加配している病棟が 35.7%あった。

緩和ケア病棟入院料 1 又は 2 算定病棟では、回転率が高く、短期間（平均在棟日数の中央値 22.2 日）に意思決定支援や患者・家族への指導を数多く行い、また ACP に基づくケアを提供し、自宅への帰宅等にもつなげている。昼夜を問わず点滴や酸素投与、痰の吸引の実施も多いこともあり、看護職員配置は中央値 3.7 対 1 と手厚く、夜間も加配している病棟が 29.6%あった。

以上のように、回復期・慢性期入院医療の中で、各入院料における患者像の特徴に応じた看護ケアが提供されている様子が見えてきた。

Ⅲ 調査結果(1)～病棟種類ごとの特徴比較～

以下では、「回復期・慢性期看護実態調査」の結果から幾つかの指標を取り上げて、病棟種類ごとの特徴を横並びで比較する(表1～表9)。また本会が2022年度に別に行った「急性期看護実態調査」の結果を活用して、急性期一般入院料(1又は2)の病棟とも比較を行っている(※)。

※「急性期看護実態調査」が主に6月1か月間の実績又は7月1日時点の状況を回答したのに対し、本「回復期・慢性期看護実態調査」では主に11月1か月間の実績又は11月1日時点の状況を回答している点、さらに急性期一般入院料1を算定している病院のうちの一部(DPC特定病院群又は標準病院群、かつ特定集中室入院料又はハイケアユニット入院医療管理料又は救命救急入院料を算定している)のみが「急性期看護実態調査」の対象である点に留意が必要。

なお、表内で用いている各略語の意味等は次のとおりであり、本報告書の記述では同様の略語を以下用いることとする。

「全体データ」＝回復期リハビリテーション病棟であれば、入院料1～5の種類を問わず、全体(入院料種別が無回答の場合を含む)の中央値を「回リハ」のデータとして示した。同様に「地域包括ケア病棟」「療養病棟」「緩和ケア病棟」それぞれの全体の中央値を「地ケア」「療養」「緩和」のデータとして示した。

「部分データ」＝回復期リハビリテーション病棟であれば、入院料1の病棟の中央値を「回リハ1」のデータとして示した。同様に、同様に「地域包括ケア病棟」「療養病棟」の各入院料1の病棟の中央値を「地ケア1」「療養1」のデータとして示した。なお緩和ケア病棟はn数が少ないことと、施設基準の差がさほど大きくないことを踏まえて、入院料1のデータは特に示さなかった。

1. 病棟概要

(1) 稼働病床数

「全体データ」(表1)でみると、1病棟あたりの稼働病床数(11月1日時点)の中央値は「緩和」では20床と他よりも少なく、「回リハ」「地ケア」「療養」のおよそ半分程度だった。

(2) 在棟患者延べ数

「全体データ」でみると、1病棟あたりの在棟患者延べ数(11月)の中央値は「緩和」では387人と他よりも少なく、「回リハ」「地ケア」「療養」のおよそ3～4割程度だった。

(3) 平均在棟日数

「全体データ」でみると、平均在棟日数(11月)の中央値は、「地ケア」の20.2日と「緩和」の22.2日が他よりも短く、「回リハ」はおおよそ3倍程度(58.7日)、「療養」はおおよそ9倍程度(190.8日)であった。

表 1 病棟種類別の特徴比較－①（データはすべて中央値）

区分	項目	全体データ				部分データ			(参考) 急性期看護実態調査より	
		回リハ (n=442)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)	回リハ 1 (n=313)	地ケア 1 (n=210)	療養 1 (n=392)	急性期一般 入院料 1 (n=2,367)	急性期一般 入院料 2 (n=64)
病棟概要	1 病棟あたり稼働病床数	45	45	46	20	48	44	46	45	50
	1 病棟あたり在棟患者延べ数	1,182	1,037	1,164	387	1,238	1,062	1,173	1,158	1,147
	平均在棟日数	58.7	20.2	190.8	22.2	60.2	23.3	201	10.4	13.7
	病床稼働率(%)	89.3	80.8	90.3	67.6	91.0	83.3	90.7	87.3	80.0
	回転率	0.5	1.5	0.2	1.4	0.5	1.3	0.1	2.9	2.2
	在宅復帰率(直近 6 か月)(%)	87.7	83.3	50.0		87.8	82.4	50.0		

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値の算出母数とは異なる

(4) 病床稼働率

「全体データ」でみると、病床稼働率（11月）の中央値は「緩和」では67.6%と他よりも低く、「回リハ」「地ケア」「療養」のおよそ8割程度だった。

(5) 回転率

「全体データ」でみると、回転率（11月）の中央値は「地ケア」の1.5が最も高く、次いで「緩和」では1.4、「回リハ」では0.5、「療養」では0.2だった。

(6) 在宅復帰率

「全体データ」でみると、在宅復帰率（※）の中央値は「回リハ」の87.7%が最も高く、次いで「地ケア」では83.3%、「療養」では50.0%だった（「緩和」については同様のデータを把握していない）。

※在宅復帰率として記載したデータは以下のとおりで、若干の差異があることに留意を要する。

「回リハ」＝11月に厚生局に届け出た「在宅復帰率（直近6か月）」（入院料1～4のみ回答）

「地ケア」＝11月に厚生局に届け出た「在宅等へ退出した患者の割合（直近6か月）」（様式50）

「療養」＝在宅復帰機能強化加算の要件と同様の計算方法に基づく「在宅復帰率（直近6か月）」

2. 患者像

(1) 75歳以上患者割合

「全体データ」（表3）でみると、75歳以上患者割合の中央値（11月1日時点）は「療養」の82.1%が最も高く、次いで「地ケア」では79.3%、「回リハ」では70.0%、「緩和」では66.7%だった。

(2) 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上患者割合

「全体データ」でみると、認知症自立度ランクⅢ以上患者割合（11月1日時点）の中央値は「療養」の63.3%が最も高く、次いで「地ケア」では29.4%、「回リハ」では23.5%、「緩和」では16.7%だった。

このデータの集計対象は、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価を行っている病院に限られることに留意が必要である。

なお、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価を行っている割合の中央値は、「全体データ」でみると、「地ケア」の76.0%が最も高く、次いで「回リハ」では73.5%、「療養」では62.9%、「地ケア」では46.7%であった（表2）。

表2 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準の評価状況

	全体データ				部分データ		
	回リハ (n=339)	地ケア (n=337)	療養 (n=345)	緩和 (n=122)	回リハ1 (n=233)	地ケア1 (n=162)	療養1 (n=309)
評価している	249 73.5%	256 76.0%	217 62.9%	57 46.7%	178 76.4%	123 75.9%	197 63.8%
評価していない	90 26.5%	81 24.0%	128 37.1%	65 53.3%	55 23.6%	39 24.1%	112 36.2%

※構成比は縦計が100%となるように、無回答を除いて算出した。

表 3 病棟種類別の特徴比較－②（データはすべて中央値）

区分	項目	全体データ				部分データ			(参考) 急性期看護実態調査より	
		回りハ (n=442)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)	回りハ 1 (n=313)	地ケア 1 (n=210)	療養 1 (n=392)	急性期一般 入院料 1 (n=2,367)	急性期一般 入院料 2 (n=64)
患者像	75 歳以上患者割合(%)	70.0	79.3	82.1	66.7	69.5	81.5	82.1	45.0	55.5
	認知症自立度Ⅲ以上患者割合(%)	23.5	29.4	63.3	16.7	24.1	35.9	64.5	5.3	11.5
	死亡退院割合(%)	0.0	4.1	62.5	77.8	0.0	6.7	64.3		
	①点滴実施割合(%)	1.6	11.1	11.1	29.2	1.8	12.2	11.3	48.6	46.2
	②経鼻経管栄養実施割合(%)	3.5	0.0	20.0	0.0	4.2	0.0	20.6		
	③胃ろう・腸ろう経管栄養実施割合(%)	0.0	1.6	15.7	0.0	1.2	1.8	16.3		
	④心電図モニター装着中割合(%)	0.0	7.9	7.1	0.0	0.0	8.1	7.4		
	⑤SpO2 モニター装着中割合(%)	0.0	5.0	6.7	0.0	0.0	5.1	8.0		
	⑥痰の吸引を実施割合(%)	4.9	10.7	48.0	18.2	5.5	12.0	50.0		
	⑦酸素投与中割合(%)	0.0	6.9	19.4	25.0	0.8	7.3	20.5	11.9	11.3
	⑧気管カニューレ挿入中割合(%)	0.0	0.0	9.2	0.0	0.0	0.0	10.3		
	夜間の点滴(①)実施患者割合(%)	0.0	7.0	8.9	12.5	0.0	6.3	9.1	36.9	27.2
	夜間の痰の吸引(⑥)実施割合(%)	0.0	9.4	44.4	12.5	0.0	10.5	45.5		
	新規褥瘡発生患者割合(‰)	0.0	0.0	14.3	23.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
	身体的拘束実施患者割合(%)	12.8	9.4	14.6	4.5	13.5	10.0	15.0	11.3	15.6
	患者一人あたり身体的拘束平均実施日数	18.6	11.6	24.7	10.3	18.7	12.7	24.9		
	転倒・転落発生件数(患者 100 人換算)	3.6	2.2	0.0	2.8	3.7	2.6	0.0	1.1	1.0
	夜間の転棟・転落発生件数(患者 100 人換算)	1.9	1.0	0.0	0.0	1.9	1.3	0.0	0.8	0.8

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値の算出母数とは異なる

(3) 死亡退院割合

「全体データ」でみると、死亡退院割合（11月の退院患者（転院を含む）に占める死亡退院した患者の割合）の中央値は「緩和」の77.8%が最も高く、次いで「療養」では62.5%、「地ケア」では4.1%、「回リハ」では0.0%だった。

(4) 器具の装着や処置等の状況

「全体データ」でみると、①点滴から⑧気管カニューレまで、それらの装着・処置等の実施患者割合（11月1日時点）の中央値は、①点滴と⑦酸素投与については「緩和」が最も多く、④心電図モニターは「地ケア」が最も多かった。その他（②③⑤⑥⑧）は「療養」が最も多かった。夜間の実施患者割合の中央値でみても、①点滴は「緩和」が最も多く、⑥痰吸引は「療養」が最も多かった。

また「療養」「緩和」の酸素投与は、急性期一般入院料1や2よりも多かった。

(5) 新規褥瘡発生患者割合

「全体データ」でみると、d2以上の新規褥瘡発生患者割合（11月）の中央値は「緩和」の23.3‰（パーミル）が最も高く、次いで「療養」では14.3‰、「回リハ」及び「地ケア」では0.0‰だった。

(6) 身体的拘束実施状況

「全体データ」でみると、身体的拘束（※）実施患者割合（11月）の中央値は「療養」の14.6%が最も高く、次いで「回リハ」では12.8%、「地ケア」では9.4%、「緩和」では4.5%だった。患者一人あたり身体的拘束平均実施日数（11月）の中央値は「療養」の24.7日が最も高く、次いで「回リハ」では18.6日、「地ケア」では11.6日、「緩和」では10.3日だった。

※本調査における身体的拘束の定義は次の通り。

「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの器具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言う（診療報酬の認知症ケア加算の定義と同じ）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内在型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含む。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まない。4点柵の使用も含まない。

また割合等の計算式は以下のとおり。

身体的拘束実施患者割合＝身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数

平均拘束日数＝身体的拘束をした延べ患者数÷身体的拘束をした実人数

(7) 転倒・転落発生件数

「全体データ」でみると、レベルⅡ以上の転倒・転落発生件数（患者 100 人換算 ※）の中央値は「回リハ」の 3.6 件が最も高く、次いで「緩和」では 2.8 件、「地ケア」では 2.2 件、「療養」では 0.0 件だった。

うち夜間帯の転倒・転落発生件数の中央値は、「回リハ」の 1.9 件が最も多く、次いで「地ケア」では 1.0 件、「療養」と「緩和」では 0.0 件であった。

なお病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用している割合の中央値は、「全体データ」でみると、「緩和」の 97.6%が最も多く、次いで「地ケア」では 96.3%、「回リハ」では 96.1%、「療養」では 89.6%であった（表 4）。

※患者 100 人換算の計算式は以下のとおり。

転倒・転落発生件数（患者 100 人換算）

=11 月のレベル 2 以上の転倒・転落発生件数÷11 月の入院実患者数×100

表 4 統一された転倒・転落アセスメントツールの活用状況

	全体データ				部分データ		
	回リハ (n=358)	地ケア (n=351)	療養 (n=371)	緩和 (n=124)	回リハ 1 (n=260)	地ケア 1 (n=167)	療養 1 (n=336)
活用している	344 96.1%	343 96.3%	335 89.6%	121 97.6%	252 96.9%	161 96.4%	305 90.8%
活用していない	14 3.9%	8 2.2%	36 9.6%	3 2.4%	8 3.1%	6 3.6%	31 9.2%

※構成比は縦計が 100%となるように、無回答を除いて算出した。

3. 患者の状態とアウトカム

(1) 経口摂取訓練の状況

「全体データ」（表5）でみると、11月1日24時時点で経口摂取していない患者割合の中央値は、「療養」の53.2%が最も高く、次いで「地ケア」では7.4%、「回リハ」では4.8%だった（「緩和」については同様のデータを把握していない）。

経口摂取をしていない患者のうち、11月1日時点で摂食嚥下の間接訓練（食べ物を利用しない訓練）をすでに開始している患者割合の中央値は、「回リハ」の100.0%が最も高く、次いで「地ケア」では16.7%、「療養」では3.7%であった。

11月1日時点で摂食嚥下の間接訓練を実施している患者のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練（食べ物を利用した訓練）を含む）をした患者割合の中央値は、「回リハ」及び「地ケア」の50.0%が最も高く、次いで「療養」が25.0%であった。

(2) CVカテーテルの挿入・抜去状況

「全体データ」でみると、11月1日24時時点でCVカテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者数（患者100人換算 ※）の中央値は「療養」の10.0人が最も高く、次いで「地ケア」では0.8人、「回リハ」では0.0人だった（「緩和」については同様のデータを把握していない）。

11月1日時点でCVカテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者のうち、11月30日までに抜去に至った患者割合の中央値は、「療養」「地ケア」「回リハ」とともに0.0%であった。

※患者100人換算の計算式は以下のとおり。

CVカテーテル挿入患者数（患者100人換算）

＝11月1日24時時点のCVカテーテル挿入患者数÷11月1日24時時点の入院患者数×100

(3) 膀胱留置カテーテルの挿入・抜去状況

「全体データ」でみると、11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者数（患者100人換算 ※）の中央値は「療養」の24.2人が最も高く、次いで「地ケア」では10.8人、「回リハ」では4.8人だった（「緩和」については同様のデータを把握していない）。

11月1日時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者のうち、11月30日までに抜去に至った患者割合の中央値は、「回リハ」の25.0%が最も高く、次いで「地ケア」が16.7%、「療養」が0.0%であった。

※患者100人換算の計算式は以下のとおり。

膀胱留置カテーテル挿入患者数（患者100人換算）

＝11月1日24時時点の膀胱留置カテーテル挿入患者数÷11月1日24時時点の入院患者数×100

表 5 病棟種類別の特徴比較－③（データはすべて中央値）

区分	項目	全体データ				部分データ			(参考) 急性期看護実態調査より	
		回リハ (n=442)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)	回リハ 1 (n=313)	地ケア 1 (n=210)	療養 1 (n=392)	急性期一般 入院料 1 (n=2,367)	急性期一般 入院料 2 (n=64)
患者の アウトカム と状態	経口摂取していない患者割合(%)	4.8	7.4	53.2		5.5	8.8	55.3		
	間接訓練実施患者割合(%)	100.0	16.7	3.7		100.0	15.5	4.5		
	経口摂取開始患者割合(%)	50.0	50.0	25.0		50.0	50.0	25.0		
	CV カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	0.0	0.8	10.0		0.0	2.0	10.3		
	CV カテ抜去に至った割合(%)	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0	0.0		
	膀胱留置カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	4.8	10.8	24.2		5.0	11.9	25.1		
	膀胱留置カテ抜去に至った割合(%)	25.0	16.7	0.0		25.0	14.3	0.0		

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値の算出母数とは異なる

4. 看護提供とその提供体制

(1) 看護情報提供書提供患者割合

「全体データ」（表6）でみると、11月の死亡退院以外の退院患者（転院も含む）のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者割合の中央値は、「療養」と「緩和」の100.0%が最も高く、次いで「回リハ」では72.7%、「地ケア」では42.9%だった。

(2) カンファレンス実施状況

調査時点（令和4年11月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）について、入院期間中の退院に向けた複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数（記録に残しているもの）を尋ねた。

「全体データ」でみると、11月の「①病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンス」の実施延べ回数（患者100人換算 ※）の中央値は「回リハ」の171.4回が最も多く、次いで「緩和」では100.0回、「療養」では58.3回、「地ケア」では41.9回だった。

一方、11月の「②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス」の実施延べ回数（患者100人換算 ※）の中央値は「回リハ」の26.0回が最も多く、次いで「緩和」では25.0回、「療養」では12.5回、「地ケア」では10.0回だった。

※患者100人換算の計算式は以下のとおり。

カンファレンス実施回数（患者100人換算）

$$= 11 \text{ 月のカンファレンス実施回数} \div 11 \text{ 月の退院患者数（死亡退院を除く）} \times 100$$

(3) 意思決定支援・指導の実施状況

「全体データ」でみると、意思決定支援（ICの同席やACPを含む）の実施回数（11月）の中央値（患者100人換算 ※）は「緩和」の65.0回が最も高く、次いで「回リハ」では19.4回、「地ケア」では10.5回、「療養」では7.6回だった。

また患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導実施回数（11月）の中央値（患者100人換算 ※）は「緩和」の22.2回が最も多く、次いで「回リハ」では8.3回、「地ケア」では5.0回、「療養」では0.0回だった。

※患者100人換算の計算式は以下のとおり。

意思決定支援（又は指導）実施回数（患者100人換算）

$$= 11 \text{ 月の意思決定支援（又は指導）実施回数} \div 11 \text{ 月の入院実患者数} \times 100$$

(4) 准看護師比率

「全体データ」でみると、11月の非管理職の看護職員配置数（実人数）に占める准看護師の配置数の割合（准看護師比率）の中央値は「療養」の21.4%が最も高く、次いで「回リハ」では5.6%、「地ケア」では4.2%、「緩和」では0.0%だった。

表 6 病棟種類別の特徴比較－④（データはすべて中央値）

区分	項目	全体データ				部分データ			(参考) 急性期看護実態調査より	
		回りハ (n=442)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)	回りハ 1 (n=313)	地ケア 1 (n=210)	療養 1 (n=392)	急性期一般 入院料 1 (n=2,367)	急性期一般 入院料 2 (n=64)
看護提供／ 提供体制	看護情報提供書提供患者割合(%)	72.7	42.9	100.0	100.0	76.5	52.3	100.0		
	カンファレンス回数(院内)(患者 100 人換算)	171.4	41.9	58.3	100.0	187.7	45.3	59.2		
	カンファレンス回数(地域)(患者 100 人換算)	26.0	10.0	12.5	25.0	26.3	14.5	13.3		
	意思決定支援回数(患者 100 人換算)	19.4	10.5	7.6	65.0	22.3	10.4	7.7	1.8	1.4
	指導実施回数(患者 100 人換算)	8.3	5.0	0.0	22.2	9.5	4.5	0.0	13.2	6.1
	准看護師比率(%)	5.6	4.2	21.4	0.0	4.8	5.0	21.2		
	看護職員配置(X 対 1)	10.3	8.2	13.0	3.7	10.3	8.3	13.1	5.9	6.9
	看護補助者配置(X 対 1)	22.1	20.4	17.5	33.8	22.3	19.7	17.7	37.7	15.7
	他の医療専門職(専従)の配置人数	11	2	0	0	14	2	0	0	0

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値の算出母数とは異なる

(5) 実質的な看護職員及び看護補助者配置

「全体データ」でみると、実質的な看護職員配置（X 対 1）の“X”の中央値は「緩和」が 3.7 で最も小さく（配置が手厚く）、次いで「地ケア」では 8.2、「回リハ」では 10.3、「療養」では 13.0 だった。

同様に、実質的な看護補助者配置（X 対 1）の“X”の中央値は「療養」が 17.5 で最も小さく（配置が手厚く）、次いで「地ケア」では 20.4、「回リハ」では 22.1、「緩和」では 33.8 だった。

※実質的な配置数の計算式は以下のとおり。

実質的な看護職員配置（X 対 1）の“X”

$= 11 \text{ 月の在棟患者延べ数} \times 8 \text{ 時間} \times 3 \text{ 勤務帯} \div \text{看護職員（非管理職）の 11 月の総勤務時間数} \times 100$

実質的な看護補助者配置（X 対 1）の“X”

$= 11 \text{ 月の在棟患者延べ数} \times 8 \text{ 時間} \times 3 \text{ 勤務帯} \div \text{看護補助者の 11 月の総勤務時間数} \times 100$

(6) 他の医療専門職（専従）の病棟配置状況

「全体データ」でみると、他の医療専門職（専従）の病棟配置人数の中央値は「回リハ」の 11 人が最も高く、次いで「地ケア」では 2 人、「療養」・「緩和」では 0 人だった。

5. 早朝・夜間の看護提供体制

(1) 看護職員・補助者・リハ職の夜勤人数

「全体データ」（表 8）でみると、2 交代制夜勤の場合の看護職員の夜勤人数の中央値は「回リハ」「地ケア」「療養」「緩和」のいずれも 2 人だった。

2 交代制の場合に、看護職員 3 名以上で夜勤を行っている割合は、「全体データ」でみると、「地ケア」の 34.0% が最も高く、次いで「緩和」では 29.6%、「回リハ」では 16.2%、「療養」では 11.1% だった（表 7）。

前記と同様に、2 交代制夜勤の場合の看護補助者の夜勤人数の中央値は「回リハ」「地ケア」「療養」ではいずれも 1 人で、「緩和」では 0 人だった。2 交代制夜勤の場合のリハビリ職員の夜勤人数の中央値は「回リハ」「地ケア」「療養」「緩和」のいずれも 0 人だった。

表 7 看護職員の夜勤人数（2 交代）の場合

	全体データ				部分データ		
	回リハ (n=308)	地ケア (n=288)	療養 (n=343)	緩和 (n=108)	回リハ 1 (n=231)	地ケア 1 (n=143)	療養 1 (n=312)
3 名以上	50 16.2%	98 34.0%	38 11.1%	32 29.6%	45 19.5%	51 35.7%	35 11.2%
2 名	258 83.8%	190 66.0%	194 56.6%	76 70.4%	186 80.5%	92 64.3%	183 58.7%
1 名			111 32.4%				94 30.1%

※構成比は縦計が 100% となるように、無回答を除いて算出した。

表 8 病棟種類別の特徴比較－⑤（データはすべて中央値）

区分	項目	全体データ				部分データ			(参考) 急性期看護実態調査より	
		回リハ (n=442)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)	回リハ 1 (n=313)	地ケア 1 (n=210)	療養 1 (n=392)	急性期一般 入院料 1 (n=2,367)	急性期一般 入院料 2 (n=64)
看護提供体制 夜間の提供体制	2交代夜勤体制(看護職員、夜勤)	2	2	2	2	2	2	2	夜間看護 職員配置 9.9 対 1	夜間看護 職員配置 11.5 対 1
	2交代夜勤体制(補助者、夜勤)	1	1	1	0	1	1	1		
	2交代夜勤体制(リハ職、夜勤)	0	0	0	0	0	0	0		
	2交代夜勤体制(看護職員、早出・遅出)	1	0	0	0	1	0	0		
	2交代夜勤体制(補助者、早出・遅出)	2	2	2	0	2	2	2		
	2交代夜勤体制(リハ職、早出・遅出)	0	0	0	0	0	0	0		
	看護職員 1 人あたり月平均夜勤時間	69.5	67.1	69.6	73.8	69.4	66.5	69.8		

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値の算出母数とは異なる

なお、トイレ歩行の際に見守りもしくは介助が必要な状態の患者に対する、夜間のトイレ介助の現状として、「できるだけトイレに誘導している」割合は、「全体データ」でみると、「回リハ」の93.4%が最も高く、次いで「地ケア」では77.6%、「療養」では62.5%であった（表9）。

表9 トイレ歩行の際に見守りや介助が必要な患者に対する
夜間のトイレ介助の現状

	全体データ				部分データ		
	回リハ (n=440)	地ケア (n=415)	療養 (n=413)	緩和 (n=144)	回リハ1 (n=312)	地ケア1 (n=204)	療養1 (n=371)
できるだけトイレに 誘導している	411 93.4%	322 77.6%	258 62.5%		295 94.6%	142 69.6%	232 62.5%
主にポータブルトイレ 又はオムツ	29 6.6%	93 22.4%	117 28.3%		17 5.4%	62 30.4%	104 28.0%
見守り・介助が必要 な患者がいない	— —	— —	38 9.2%		— —	— —	35 9.4%

※構成比は縦計が100%となるように、無回答を除いて算出した。

※「緩和」については同様のデータを把握していない。

(2) 看護職員・補助者・リハ職の早出・遅出人数

「全体データ」でみると、2交代制夜勤の場合の看護職員の早出・遅出の人数（合計）の中央値は「回リハ」では1名、「地ケア」「療養」「緩和」ではいずれも0人だった。

同様に、2交代制夜勤の場合の看護補助者の早出・遅出の人数（合計）の中央値は「回リハ」「地ケア」「療養」ではいずれも2人で、「緩和」では0人だった。2交代制夜勤の場合のリハビリ職員の早出・遅出の人数（合計）の中央値は「回リハ」「地ケア」「療養」「緩和」のいずれも0人だった。

(3) 平均夜勤時間

「全体データ」でみると、11月の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間（夜勤専従者や月あたりの夜勤時間16時間未満の者は含まない。ただし短時間正職員の場合は月あたり12時間以上の者を含む）の中央値は、「緩和」の73.8時間が最も多く、次いで「療養」では69.6時間、「回リハ」では69.5時間、「地ケア」では67.1時間だった。

Ⅳ 調査結果(2)～病棟種類ごとの看護の役割と看護配置の状況～

以下では、「回復期・慢性期看護実態調査」の結果から、「回リハ」「地ケア」「療養」「緩和」の病棟ごとに、看護の役割と看護配置の状況についてまとめる。

なお、病棟種類ごとの詳細なデータについては、「第2章 調査票別調査結果」に記載している。

1. 回復期リハビリテーション病棟における看護の役割と看護配置の状況

表 10 回復期リハビリテーション病棟入院料算定病棟の主な特徴

(特記なき場合は入院料1～5までを合算した数値を記載。【 】内は中央値)

病棟概要：	● 病床稼働率が高く【89.3%】、在宅復帰率が高い【87.7%】
看護体制等：	● 看護職員配置が中央値で10.3対1。入院料1では中央値で10.3対1。 ● 専従の他職種が中央値で11人。入院料1では中央値で14人。 ● 看護補助者配置は中央値で22.1対1。入院料1では中央値で22.3対1。 ● 院内・地域でのカンファレンス回数(1か月あたり)が多い【退院患者(死亡退院を除く)100人換算で院内171回・地域26回】 ● 意思決定支援や患者・家族への指導(1か月あたり)が、比較的多い【入院実患者100人換算で意思決定支援19.4回・指導8.3回】 ● 入院料1における月平均夜勤時間数は、夜間3人以上の場合は中央値で75.2時間。夜間2人配置病棟は中央値で68.7時間で、夜間3人以上配置病棟では2人配置病棟よりも月平均夜勤時間が有意に長い(2交代制夜勤の場合)。
患者像：	● 認知症患者も一定程度存在する【23.5%】 ● 医療処置やモニターが必要な患者は多くはないが一部存在する【点滴1.6%、経鼻経管栄養3.5%、痰の吸引4.9%】 ● 経口摂取できていない患者は少ない【4.8%】 ● 身体的拘束の実施割合・実施日数が比較的多い【12.8%・18.6日/人】 ● 転倒・転落が昼夜とわず、ある程度生じている【3.6%(夜間1.9%)】

回復期リハビリテーション病棟では、急性期を経過した患者に対し、24時間を通した日常生活援助およびリハビリテーションを実施し、早期回復・在宅復帰支援を果たすことが求められている。看護職員とリハビリテーション専門職が協働してその役割を担っており、専従の他職種配置も多い【14人】(以下、入院料1におけるデータを示し、【 】は中央値を示す。以下、同じ)。職種としては理学療法士や作業療法士が多い(表104)。

ただし、夜間や早朝(早出)、夕方(遅出)勤務のリハビリテーション専門職はほぼいない【0人】。

そのため、日中はリハ職によりリハビリテーションが提供されている一方、「朝および夕方の食事介助」や「夜間のトイレ介助」といった日常生活の援助・リハビリテーションは主に看護職員が実施している(表116・表117)。また経口摂取できていない患者は少ない【5.5%】ことから、経口摂取の患者に対する食事介助に時間(人手)がかかっ

ているものと考えられる。なお早出・遅出の看護補助者は一定程度いる【計2人】。

医療処置やモニターを要する患者は多くはないが、点滴を要する患者【1.8%】や経鼻経管栄養の患者【4.2%】、痰の吸引を要する患者【5.5%】は一定程度いる。身体的拘束の実施割合・実施日数も一定程度ある【13.5%・18.7日/人】ものの、夜間は94.2%（表114）の病棟でトイレ歩行の際に見守りや介助が必要な患者への夜間トイレ誘導を行っており、また在宅復帰率は高く【87.8%】、在宅復帰に向けたケアが提供されていた。

在宅復帰に向けては、意思決定支援や患者・家族の指導、院内・地域でのカンファレンスも必要になり、これらの回数は比較的多くなっている（表12）。なお75歳以上の患者割合は高く【69.5%】、認知症患者（自立度Ⅲ以上）も一定程度いる【24.1%】が、若年患者に対する、例えば一部の身体機能を喪失した場合の精神的サポートなども、「意思決定支援や患者・家族の指導」として行っていると考えられる。

こうした役割を果たすため、看護職配置は基準（入院料1・2では13対1以上）よりも手厚い配置【10.3対1】により対応していると考えられる。また夜間の看護職員配置（基準は2人以上）を3人以上に加配している割合は19.5%（「無回答・不明」を除いて算出した場合）であった（2交代夜勤の場合、表7）。なお夜間3人以上の場合の月平均夜勤時間（1人あたり、2交代夜勤の場合）は表11のとおり、中央値75.2時間（平均値77.1時間）で、夜間2人以上の場合よりも月平均夜勤時間が有意に長くなっており（ $P<0.01$ 、Mann-Whitney U検定）、夜間2名の体制では不十分と考え、3名体制に増やそうとすると、夜勤時間が長くなってしまう状況を示唆している。

表 11 夜間の看護職員体制別の特徴比較
（四分位数；2交代制夜勤、回りハ入院料1の場合）

	夜間看護職員 2 人 (n=186)			夜間看護職員 3 人以上 (n=456)			P 値
	25%tile	中央値	75%tile	25%tile	中央値	75%tile	
看護職員配置(X対1看護のX)	9.0	10.4	11.6	8.1	9.5	10.4	**
月平均夜勤時間(1人あたり)	62.9	68.7	75.0	69.3	75.2	80.4	**

**：<0.01（Mann-Whitney U検定による）、有意に数値が大きい項目に網掛けを付した

※ n数は調査対象数を示しており、中央値等の算出母数とは異なる

表 12 病棟種類別の特徴比較【再掲】（データはすべて中央値）

区分	項目	回リハ (n=442)	回リハ1 (n=313)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)
病棟概要	1 病棟あたり稼働病床数	45	48	45	46	20
	1 病棟あたり在棟患者延べ数(11 月)	1,182	1,238	1,037	1,164	387
	平均在棟日数(11 月)	58.7	60.2	20.2	190.8	22.2
	病床稼働率(11 月)	89.3	91.0	80.8	90.3	67.6
	回転率(11 月)	0.5	0.5	1.5	0.2	1.4
	在宅復帰率(直近 6 か月)(注)	87.7	87.8	83.3	50.0	
患者像	75 歳以上患者割合(%)	70.0	69.5	79.3	82.1	66.7
	認知症自立度Ⅲ以上患者割合(%)	23.5	24.1	29.4	63.3	16.7
	死亡退院割合(%)	0.0	0.0	4.1	62.5	77.8
	点滴実施割合(%)	1.6	1.8	11.1	11.1	29.2
	経鼻経管栄養実施割合(%)	3.5	4.2	0.0	20.0	0.0
	胃ろう・腸ろう経管栄養実施割合(%)	0.0	1.2	1.6	15.7	0.0
	心電図モニター装着中割合(%)	0.0	0.0	7.9	7.1	0.0
	SpO2 モニター装着中割合(%)	0.0	0.0	5.0	6.7	0.0
	痰の吸引を実施割合(%)	4.9	5.5	10.7	48.0	18.2
	酸素投与中割合(%)	0.0	0.8	6.9	19.4	25.0
	気管カニューレ挿入中割合(%)	0.0	0.0	0.0	9.2	0.0
	夜間の点滴実施患者割合(%)	0.0	0.0	7.0	8.9	12.5
	夜間の痰の吸引実施割合(%)	0.0	0.0	9.4	44.4	12.5
	新規褥瘡発生患者割合(%)	0.0	0.0	0.0	14.3	23.3
	身体的拘束実施患者割合(%)	12.8	13.5	9.4	14.6	4.5
	患者一人あたり身体的拘束平均実施日数	18.6	18.7	11.6	24.7	10.3
	転倒・転落発生割合(%)	3.6	3.7	2.2	0.0	2.8
	夜間の転倒・転落発生割合(%)	1.9	1.9	1.0	0.0	0.0
患者の状態 とアウトカム	経口摂取していない患者割合(%)	4.8	5.5	7.4	53.2	
	間接訓練実施患者割合(%)	100.0	100.0	16.7	3.7	
	経口摂取開始患者割合(%)	50.0	50.0	50.0	25.0	
	CV カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	0.0	0.0	0.8	10.0	
	CV カテ抜去に至った割合	0.0	0.0	0.0	0.0	
	膀胱留置カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	4.8	5.0	10.8	24.2	
看護提供/ 提供体制	膀胱留置カテ抜去に至った割合	25.0	25.0	16.7	0.0	
	看護情報提供書提供患者割合(%)	72.7	76.5	42.9	100.0	100.0
	カンファレンス回数(院内)(患者 100 人換算)	171.4	187.7	41.9	58.3	100.0
	カンファレンス回数(地域)(患者 100 人換算)	26.0	26.3	10.0	12.5	25.0
	意思決定支援回数(患者 100 人換算)	19.4	22.3	10.5	7.6	65.0
	指導実施回数(患者 100 人換算)	8.3	9.5	5.0	0.0	22.2
	准看護師比率	5.6	4.8	4.2	21.4	0.0
	看護職員配置(X 対 1)	10.3	10.3	8.2	13.0	3.7
	看護補助者配置(X 対 1)	22.1	22.3	20.4	17.5	33.8
夜間の看護 提供体制	他職種配置人数(専従)	11	14	2	0	0
	2交代夜勤体制(看護職員、夜勤)	2	2	2	2	2
	2交代夜勤体制(補助者、夜勤)	1	1	1	1	0
	2交代夜勤体制(リハ職、夜勤)	0	0	0	0	0
	2交代夜勤体制(看護職員、早出・遅出)	1	1	0	0	0
	2交代夜勤体制(補助者、早出・遅出)	2	2	2	2	0
	2交代夜勤体制(リハ職、早出・遅出)	0	0	0	0	0
	11月の月平均夜勤時間	69.5	69.4	67.1	69.6	73.8

(注) 在宅復帰率(直近 6 か月)は病棟種別ごとに若干の差異があることに留意が必要(P18 参照)

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値の算出母数とは異なる

2. 地域包括ケア病棟における看護の役割と看護配置の状況

表 13 地域包括病棟入院料算定病棟の主な特徴

(特記なき場合は入院料1～4までを合算した数値を記載。【 】内は中央値)

病棟概要：	● 平均在棟日数が短い【20.2日】。入院料1では中央値で23.3日。 ● 回転率・在宅復帰率が高い【1.5・83.3%】
看護体制等：	● 看護職員配置が中央値で8.2対1。入院料1では中央値で8.3対1（夜間は最低基準の2名よりも加配している病棟が34.0%）。 ● 専従の他職種が中央値で2人いて、看護補助者配置は中央値で20.4対1。 ※入院料1では、看護補助者配置＝19.7対1
患者像：	● 75歳以上患者割合が多く【79.3%】、認知症患者も一定程度いる【29.4%】 ● 医療機器の管理や医療処置が必要な患者が一定程度いる【点滴11.1%（夜間7.0%）、心電図モニター7.9%、SpO2モニター5.0%、酸素投与6.9%、痰の吸引10.7%（夜間9.4%）】 ● 身体的拘束の実施割合・実施日数も一定程度ある【9.4%・11.6日/人】

地域包括ケア病棟は、「①急性期治療を経過した患者の受け入れ」、「②在宅で療養を行っている患者等の受け入れ」、「③在宅復帰支援」の3つの役割が期待されている。この3つの役割には医療機関ごとの濃淡がある。そこで、急性期病棟を有する病院と有さない病院別に、地域包括ケア病棟の特徴を比較すると（以下、入院料1におけるデータを示し、【 】は中央値を示す。以下、同じ）、様々な点で差異（有意差）があった。

具体的には、急性期病棟を有さない場合は、自宅等からの入棟や緊急入院、75歳以上患者や認知症患者、痰吸引を要する患者、気管カニューレ患者、経口摂取なし患者、CVカテ挿入患者、転倒・転落、意思決定支援回数、死亡退院割合が有意に多かった（表14）。

平均在棟日数は、急性期病棟を有さない場合は中央値で31.6日、有する場合は20.2日だった（表14）。60日まで滞在できる病棟であることに比べて、短期間に入院受入体制の整備から看護計画の立案、看護ケアの提供を行い、在宅復帰につなげていた。

入院料1算定病棟全体のうち、夜間は67.6%（表197）の病棟でトイレ歩行の際に見守りや介助が必要な患者への夜間トイレ誘導を行っており、また在宅復帰率は高く【82.4%】、在宅復帰に向けたケアが提供されていた（表15）。医療機器の管理や医療処置が必要な患者、認知症患者が一定程度いる中、期待される役割を果たすため、看護職配置は基準（13対1以上）より手厚い配置【8.3対1】により対応していると考えられる。また夜間の点滴や痰の吸引も一定程度必要ななか、夜間の看護職員配置（基準は2人以上）を3人以上に加配している割合は35.7%であった（表7）。

表 14 急性期病棟の有無別に見た特徴比較（四分位数、入院料 1 の場合）

	急性期病棟を有する病院 の地ケア病棟 (n=134)			急性期病棟を有さない病院 の地ケア病棟 (n=76)			P 値
	25%tile	中央値	75%tile	25%tile	中央値	75%tile	
死亡退院患者割合(%)	2.3	5.4	9.8	3.7	8.7	18.2	**
平均在棟日数	16.0	20.2	26.8	25.5	31.6	37.2	**
病床稼働率	72.3	81.6	90.3	75.9	86.7	93.8	*
回転率	1.1	1.5	1.9	0.8	0.9	1.2	**
自宅等からの入棟割合(%)※1)	31.2	45.8	63.6	40.7	58.6	73.9	**
緊急入院患者割合(%)※2)	25.4	37.8	62.3	28.0	55.5	104.3	*
75 歳以上患者割合(%)	71.3	80.0	87.6	75.7	85.0	90.2	*
認知症(自立度Ⅲ以上)患者割合(%)	21.4	31.3	47.2	30.2	47.5	70.8	**
新規褥瘡 (d2 以上) 発生割合(%)	0.0	0.0	19.9	0.0	2.9	27.4	0.41
身体的拘束実施割合	2.4	9.4	18.5	3.3	10.4	30.2	0.36
身体的拘束平均実施日数	6.5	12.1	16.0	6.3	13.1	17.6	0.40
点滴患者割合(%)	4.4	11.5	24.3	3.2	12.5	27.3	0.82
経管経鼻栄養患者割合(%)	0.0	0.0	2.8	0.0	1.4	4.5	0.06
胃ろう等患者割合(%)	0.0	0.0	3.6	0.0	2.2	3.3	0.22
心電図モニター患者割合(%)	5.0	8.3	13.3	3.6	7.6	14.3	0.65
SpO2 モニター患者割合(%)	0.0	5.1	10.4	0.0	5.5	9.6	0.83
痰吸引患者割合(%)	5.3	10.3	15.8	9.8	16.0	21.8	**
酸素投与患者割合(%)	3.7	7.1	12.3	5.1	8.0	13.5	*
気管カニューレ患者割合(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.03
夜間の点滴患者割合(%)	3.0	5.6	14.5	2.5	8.3	18.2	0.38
夜間の痰の吸引患者割合(%)	4.2	8.5	15.3	8.9	14.8	19.7	**
経口摂取なし患者割合(%)	4.4	7.5	12.9	5.0	10.6	18.8	*
CV カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	0.0	0.0	3.8	0.0	2.5	6.8	*
膀胱留置カテ挿入患者数(同上)	6.4	11.3	15.4	5.9	13.8	22.6	0.13
転倒・転落(レベル 2 以上)発生割合(%)	0.7	1.9	4.7	2.3	3.9	5.5	**
夜間転倒・転落(同上)発生割合(%)	0.0	0.9	2.6	0.0	2.4	3.6	*
看護職員配置(X 対 1 看護の X)	7.0	8.4	9.4	7.5	8.2	9.1	0.89
月平均夜勤時間	61.6	66.3	72.0	62.0	66.7	77.4	0.35
意思決定支援回数(患者 100 人換算)	3.8	8.4	17.6	6.8	17.5	47.0	**

** : <0.01、* : <0.05 (Mann-Whitney U 検定による)、有意に数値が大きい項目に網掛けを付した

※n 数は調査対象数を示しており、中央値等の算出母数とは異なる

※1 直近 3 か月における自宅又は有料老人ホーム等から入棟した患者の割合 (様式 50 に基づく割合)

※2 直近 3 か月における割合 (様式 50 に基づく割合)

表 15 病棟種類別の特徴比較【再掲】（データはすべて中央値）

区分	項目	地ケア (n=422)	地ケア1 (n=210)	回りハ (n=442)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)
病棟概要	1 病棟あたり稼働病床数	45	44	45	46	20
	1 病棟あたり在棟患者延べ数(11 月)	1,037	1,062	1,182	1,164	387
	平均在棟日数(11 月)	20.2	23.3	58.7	190.8	22.2
	病床稼働率(11 月)	80.8	83.3	89.3	90.3	67.6
	回転率(11 月)	1.5	1.3	0.5	0.2	1.4
	在宅復帰率(直近 6 か月)(注)	83.3	82.4	87.7	50.0	
患者像	75 歳以上患者割合(%)	79.3	81.5	70.0	82.1	66.7
	認知症自立度Ⅲ以上患者割合(%)	29.4	35.9	23.5	63.3	16.7
	死亡退院割合(%)	4.1	6.7	0.0	62.5	77.8
	点滴実施割合(%)	11.1	12.2	1.6	11.1	29.2
	経鼻経管栄養実施割合(%)	0.0	0.0	3.5	20.0	0.0
	胃ろう・腸ろう経管栄養実施割合(%)	1.6	1.8	0.0	15.7	0.0
	心電図モニター装着中割合(%)	7.9	8.1	0.0	7.1	0.0
	SpO2 モニター装着中割合(%)	5.0	5.1	0.0	6.7	0.0
	痰の吸引を実施割合(%)	10.7	12.0	4.9	48.0	18.2
	酸素投与中割合(%)	6.9	7.3	0.0	19.4	25.0
	気管カニューレ挿入中割合(%)	0.0	0.0	0.0	9.2	0.0
	夜間の点滴実施患者割合(%)	7.0	6.3	0.0	8.9	12.5
	夜間の痰の吸引実施割合(%)	9.4	10.5	0.0	44.4	12.5
	新規褥瘡発生患者割合(‰)	0.00	0.00	0.0	14.3	23.3
	身体的拘束実施患者割合(%)	9.4	10.0	12.8	14.6	4.5
	患者一人あたり身体的拘束平均実施日数	11.6	12.7	18.6	24.7	10.3
	転倒・転落発生割合(%)	2.2	2.6	3.6	0.0	2.8
	夜間の転棟・転落発生割合(%)	1.0	1.3	1.9	0.0	0.0
患者の状態 とアウトカム	経口摂取していない患者割合(%)	7.4	8.8	4.8	53.2	
	間接訓練実施患者割合(%)	16.7	15.5	100.0	3.7	
	経口摂取開始患者割合(%)	50.0	50.0	50.0	25.0	
	CV カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	0.8	2.0	0.0	10.0	
	CV カテ抜去に至った割合	0.0	0.0	0.0	0.0	
	膀胱留置カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	10.8	11.9	4.8	24.2	
	膀胱留置カテ抜去に至った割合	16.7	14.3	25.0	0.0	
看護提供/ 提供体制	看護情報提供書提供患者割合(%)	42.9	52.3	72.7	100.0	100.0
	カンファレンス回数(院内)(患者 100 人換算)	41.9	45.3	171.4	58.3	100.0
	カンファレンス回数(地域)(患者 100 人換算)	10.0	14.5	26.0	12.5	25.0
	意思決定支援回数(患者 100 人換算)	10.5	10.4	19.4	7.6	65.0
	指導実施回数(患者 100 人換算)	5.0	4.5	8.3	0.0	22.2
	准看護師比率	4.2	5.0	5.6	21.4	0.0
	看護職員配置(X 対 1)	8.2	8.3	10.3	13.0	3.7
	看護補助者配置(X 対 1)	20.4	19.7	22.1	17.5	33.8
	他職種配置人数(専従)	2	2	11	0	0
夜間の看護 提供体制	2交代夜勤体制(看護職員、夜勤)	2	2	2	2	2
	2交代夜勤体制(補助者、夜勤)	1	1	1	1	0
	2交代夜勤体制(リハ職、夜勤)	0	0	0	0	0
	2交代夜勤体制(看護職員、早出・遅出)	0	0	1	0	0
	2交代夜勤体制(補助者、早出・遅出)	2	2	2	2	0
	2交代夜勤体制(リハ職、早出・遅出)	0	0	0	0	0
	11月の月平均夜勤時間	67.1	66.5	69.5	69.6	73.8

(注) 在宅復帰率(直近 6 か月)は病棟種別ごとに若干の差異があることに留意が必要(P18 参照)

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値の算出母数とは異なる

3. 療養病棟における看護の役割と看護配置の状況

表 16 療養病棟入院料算定病棟の主な特徴

(特記なき場合は入院料 1～2 までを合算した数値を記載。【 】内は中央値)

病棟概要：	● 平均在棟日数が長く【190.8日】、回転率・在宅復帰率が低く【0.2・50.0%】、病床稼働率が高い【90.3%】
看護体制等：	● 看護職員配置が中央値で13.0対1（夜間は最低基準の1名配置の病棟は32.4%で、2名配置は56.6%、3名以上配置も11.1%）。入院料1では中央値で13.1対1 ● 専従の他職種は中央値で0人 ● 看護補助者配置は中央値で17.5対1。入院料1では中央値で17.7対1。 ● 月平均夜勤時間数は中央値で69.6時間。入院料1では69.8時間（夜間看護配置人数別（2交代制夜勤の場合）では、2名以上では中央値72.0時間、1名で同66.0時間）。
患者像：	● 75歳以上患者割合が多く【82.1%】、認知症患者割合も多い【63.3%】 ● 死亡退院が多い【62.5%】 ● 医療機器の管理や医療処置が必要な患者が多い【経鼻経管栄養20.0%、胃ろう・腸ろう経管栄養15.7%、SpO2モニター6.7%、痰の吸引48.0%（夜間44.4%）、酸素投与（19.4%）、気管カニューレ（9.2%）】 ● 新規褥瘡発生が多い【14.3‰（パーミル）】 ● 身体的拘束の実施割合・実施日数が多い【14.6%・24.7日/人】

療養病棟（医療療養病床）は、主として長期療養を必要とする患者を入院させる役割を担っている。ただし、急性期病棟を退棟後に必要な医療処置が多く残る一方、リハビリを行う状態にはない患者等の受け皿としても活用されており、「療養」の場というよりも「治療」の場という意味合いも強い。医療機器の管理や呼吸器系の医療処置（SpO2モニター、痰吸引、酸素投与、気管カニューレ）を要する患者が多く、昼夜を問わない手厚い対応を行っている。患者像を反映して、新規褥瘡発生も多いため、褥瘡発生予防のための対応も行っていることが示唆される。

また看護職員配置は基準の20対1（入院料1）を大きく上回る【13.1対1】（以下、入院料1におけるデータを示し、【 】は中央値を示す。以下、同じ）だった（表20）。

夜間は59.2%（表271）の病棟でトイレ歩行の際に見守りや介助が必要な患者への夜間トイレ誘導を行っており、また在宅復帰率は50.0%で、ADL機能の維持・向上を目指したケアが提供されていた。夜間の配置基準は看護職員1名以上であるところ、1名配置の割合は約3割にとどまり、2名配置が約6割、3名以上配置が約1割だった（2交代制の場合、表7）。この結果は、呼吸器系の医療処置の多さや夜間のトイレ介助等に対応するためには、夜間看護職員1名配置では対応が困難な場合が多いことを示唆している。

入院料1の場合に、看護職員配置が「13対1を満たす病棟」と「満たさない病棟」別に特徴を比較すると、「13対1を満たす」場合は、酸素投与患者割合が有意に多く、経鼻経管栄養患者が有意に少ない（表17）。有意差はないが点滴患者や心電図モニター

の患者がやや多い傾向があった（表 17）。また平均在棟日数が有意に短く、意思決定支援回数が有意に多いことから、「13 対 1 を満たす」場合は、より円滑な在宅復帰支援ができていた可能性を示唆する。

表 17 看護職員配置別に見た特徴比較（四分位数、入院料 1 の場合）

	看護職員配置 13 対 1 を満たす (n=163)			看護職員配置 13 対 1 を満たさない (n=172)			P 値
	25%tile	中央値	75%tile	25%tile	中央値	75%tile	
平均在棟日数	110.7	171.9	267.2	133.0	221.7	316.0	**
病床稼働率	78.5	88.6	95.6	84.8	92.5	97.1	**
点滴患者割合 (%)	4.7	11.4	27.4	3.7	10.6	20.5	0.38
経管経鼻栄養患者割合 (%)	8.4	18.3	34.2	11.8	24.3	36.7	*
胃ろう等患者割合 (%)	8.2	16.3	27.1	7.7	15.7	24.5	0.49
心電図モニター患者割合 (%)	3.8	8.5	16.2	2.8	6.7	13.0	0.10
SpO2 モニター患者割合 (%)	1.5	6.9	20.5	1.7	9.8	21.1	0.51
痰吸引患者割合 (%)	37.3	50.0	66.0	34.6	50.6	65.9	0.73
酸素投与患者割合 (%)	15.2	23.4	37.5	11.8	18.8	29.3	**
気管カニューレ患者割合 (%)	4.6	11.1	21.7	5.7	10.3	16.8	0.57
夜間の点滴患者割合 (%)	3.0	8.0	19.7	2.8	9.5	18.1	0.98
夜間の痰の吸引患者割合 (%)	26.1	45.5	62.3	30.6	47.1	62.6	0.32
看護職員配置 (X 対 1 看護)	9.3	10.6	11.9	14.2	15.7	17.2	**
月平均夜勤時間	59.7	67.4	80.0	61.7	72.0	80.5	0.13
意思決定支援回数 (患者 100 人換算)	5.2	8.6	16.2	0.0	6.5	13.5	**

** : <0.01、* : <0.05 (Mann-Whitney U 検定による)、有意に数値が大きい項目に網掛けを付した

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値等の算出母数とは異なる

また入院料 1 の場合に、夜間看護職員配置が「2 名以上の病棟」と「1 名の病棟」別の特徴を比較すると、2 名以上配置の場合は、人工呼吸器の使用や 1 日 8 回以上の喀痰吸引、気管切開又は気管内挿管、経鼻経管栄養、痰の吸引、気管カニューレの患者が有意に多かった（2 交代制の場合、表 18）。また「夜間 2 名以上の病棟」では月平均夜勤時間が有意に多かった。

表 18 夜間看護職員配置別に見た特徴比較（四分位数、入院料 1 で 2 交代制の場合）

		夜間看護職員配置 2 名以上 (n=218)			夜間看護職員配置 1 名 (n=94)			P 値
		25%tile	中央値	75%tile	25%tile	中央値	75%tile	
平均在棟日数		122.6	196.2	301.4	122.8	210.1	310.5	0.86
病床稼働率		83.8	92.0	97.2	81.4	88.4	95.7	0.06
割合は医療区分 2 又は 3 かつ該当患者 (%)	人工呼吸器を使用	0.0	8.6	32.5	0.0	0.0	32.0	*
	筋ジス等指定難病 (スモンを除く)	22.6	67.4	132.4	10.8	47.6	111.1	0.13
	1 日 8 回以上喀痰吸引を実施	142.9	321.4	529.4	54.1	293.1	462.7	*
	気管切開又は気管内挿管	53.3	111.6	184.5	23.9	72.1	143.5	**
「医療区分 2 又は 3 かつ ADL 区分 3」 該当患者割合		48.3	64.6	77.4	37.1	60.0	74.0	0.12
「医療区分 2 又は 3 かつ ADL 区分が 2 又は 3」該当患者割合		74.7	82.4	90.2	74.3	81.0	87.5	0.28
点滴患者割合 (%)		3.8	10.5	23.2	4.2	12.4	27.5	0.46
経管経鼻栄養患者割合 (%)		10.5	24.1	36.6	7.7	14.7	29.4	**
胃ろう等患者割合 (%)		8.2	16.7	27.4	5.3	12.3	25.2	0.06
心電図モニター患者割合 (%)		2.9	7.5	14.5	2.9	6.7	12.3	0.49
SpO2 モニター患者割合 (%)		2.0	7.7	20.3	0.0	6.2	23.2	0.66
痰吸引患者割合 (%)		36.2	52.1	69.0	29.8	44.4	61.3	*
酸素投与患者割合 (%)		12.4	20.5	31.7	10.5	18.6	32.9	0.56
気管カニューレ患者割合 (%)		5.4	12.0	20.8	3.0	6.5	14.3	**
夜間の点滴患者割合 (%)		2.5	8.5	19.6	3.6	11.0	19.0	0.50
夜間の痰の吸引患者割合 (%)		32.2	46.7	65.6	22.5	39.9	56.8	*
看護職員配置 (X 対 1 看護)		10.9	13.0	15.5	11.9	14.5	16.8	**
月平均夜勤時間		62.9	72.0	81.2	56.8	66.0	80.0	**

** : <0.01、* : <0.05 (Mann-Whitney U 検定による)、有意に数値が大きい項目に網掛けを付した

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値等の算出母数とは異なる

療養病棟では、医療区分(1～3)及び ADL 区分(1～3)による医療の必要性に応じた診療報酬体系となっていることから、「医療区分 2 又は 3 かつ ADL 区分 2 又は 3」という患者割合が「中央値以上の病棟」と「中央値未満」の病棟別に特徴を比較すると、様々な点で差異（有意差）があった（表 19）。具体的には、入院料 1 算定病棟で、「医療区分 2 又は 3 かつ ADL 区分 2 又は 3」という患者割合が「中央値以上」の場合は、平均在棟日数、点滴や経鼻経管栄養や胃ろう等の患者、痰吸引や酸素投与や気管カニューレの患者、経口摂取なし患者、CV カテや膀胱留置カテ挿入患者が有意に多く、転倒・転落は有意に少なかった。

「医療区分 2 又は 3 かつ ADL 区分 2 又は 3」という患者割合が「中央値以上」の場合、より手厚い看護職員配置が必要と考えられるが、「中央値以上」の場合に【12.7 対 1】、「中央値未満」の場合に【13.4 対 1】と配置の差はわずかだった。ただし月平均夜勤時間は、「中央値以上」の場合に【72.4 時間】、「中央値未満」の場合に【67.9 時間】で有意に差があった。75%tile 値では、「中央値以上」の場合に【81.2 時間】、「中央値未満」の場合に【80.0 時間】と共に 80 時間を超えており、夜勤負担の重さが示唆された。

表 19 患者の医療区分・ADL 区分別に見た特徴比較（四分位数、入院料1の場合）

		「医療区分2又は3かつ ADL 区分2又は3」患者 割合が中央値（82.56） 以上の療養病棟（n=158）			「医療区分2又は3かつ ADL 区分2又は3」患者 割合が中央値（82.56） 未満の療養病棟（n=157）			P 値
		25%tile	中央値	75%tile	25%tile	中央値	75%tile	
	死亡退院患者割合（11月）	57.1	71.4	91.0	33.3	50.0	73.4	**
	平均在棟日数	128.9	225.2	318.3	105.3	153.1	241.3	**
	病床稼働率	82.2	91.4	97.1	81.5	89.4	96.0	0.32
	回転率	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.3	**
	在宅復帰率	14.0	54.8	77.8	23.0	50.0	72.2	0.91
医療 区分 2 又 は 3 該 当 患 者 割 合 （ % ）	常時、監視・及び管理を実施	0.0	98.4	297.4	0.0	58.8	174.9	*
	中心静脈注射を実施	28.1	117.6	343.6	13.3	62.5	172.4	**
	24時間持続点滴を実施	0.0	23.8	80.8	0.0	25.0	66.7	0.87
	酸素療法（密度の高い治療）を実施	23.0	50.4	128.0	12.4	36.4	76.0	*
	筋ジス等指定難病（スモンを除く）	25.5	71.8	114.3	0.0	57.1	121.0	0.24
	肺炎治療を実施	0.0	11.1	42.8	0.0	0.0	30.6	0.15
	尿路感染症治療を実施	0.0	0.0	17.9	0.0	0.0	23.3	0.18
	褥瘡治療を実施	48.8	77.9	120.0	29.5	67.0	114.3	0.21
	1日8回以上喀痰吸引を実施	188.2	390.9	582.2	97.2	253.5	367.6	**
	気管切開又は気管内挿管	68.5	125.0	200.0	35.0	83.8	171.7	**
	頻回の血糖検査を実施	0.0	46.6	95.4	0.0	43.5	89.7	0.71
	酸素療法（密度の高い治療を除く）を実施	94.1	145.5	240.2	52.6	117.6	212.4	*
	七五歳以上患者割合	72.7	81.6	89.6	72.0	80.9	88.4	0.70
	認知症（Ⅲ以上）患者割合	46.9	65.6	80.8	36.5	60.0	77.1	0.10
	新規褥瘡発生割合（%）	0.0	14.1	37.0	0.0	17.5	32.3	0.84
	身体的拘束患者割合	2.3	16.0	30.0	4.3	15.0	29.4	0.92
	身体的拘束平均実施日数	11.7	23.9	29.2	14.9	25.5	30.0	0.34
	点滴患者割合（%）	5.3	13.0	27.1	3.2	10.0	20.0	*
	経管経鼻栄養患者割合（%）	14.3	27.6	37.5	7.4	16.2	30.8	**
	胃ろう等患者割合（%）	9.6	16.7	30.4	6.7	13.1	24.5	*
	心電図モニター患者割合（%）	3.9	8.7	15.3	2.4	6.7	14.4	0.09
	SpO2 モニター患者割合（%）	1.7	8.6	23.1	0.0	6.7	18.4	0.33
	痰吸引患者割合（%）	45.0	61.6	71.8	29.5	42.9	54.8	**
	酸素投与患者割合（%）	15.0	22.4	36.7	9.1	16.9	28.7	**
	気管カニューレ患者割合（%）	6.8	13.3	21.8	3.7	8.4	16.8	**
	夜間の点滴患者割合（%）	3.8	10.0	23.3	2.3	7.8	14.6	0.06
	夜間の痰の吸引患者割合（%）	41.6	57.9	69.8	23.4	38.0	49.7	**
	経口摂取なし患者割合	44.8	63.4	76.6	31.3	44.7	64.0	**
	CV カテ挿入患者数（患者100人換算）	3.3	12.2	34.5	1.2	7.6	18.1	**
	膀胱留置カテ挿入患者数（同上）	19.9	28.0	38.7	12.3	21.2	33.9	**
	転倒・転落（レベル2以上）発生割合（%）	0.0	0.0	1.8	0.0	1.1	3.1	*
	夜間転倒・転落（同上）発生割合（%）	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.8	*
	看護職員配置（X対1看護のX）	10.2	12.7	15.5	11.0	13.4	15.5	0.24
	月平均夜勤時間	64.0	72.4	81.2	59.7	67.9	80.0	*
	意思決定支援回数（患者100人換算）	2.5	7.5	14.9	2.5	7.5	13.3	0.67

**：<0.01、*：<0.05（Mann-Whitney U 検定による）、有意に数値が大きい項目に網掛けを付した

※n数は調査対象数を示しており、中央値等の算出母数とは異なる

表 20 病棟種類別の特徴比較【再掲】（データはすべて中央値）

区分	項目	療養 (n=435)	療養 1 (n=392)	回リハ (n=442)	地ケア (n=422)	緩和 (n=144)
病棟概要	1 病棟あたり稼働病床数	46	46	45	45	20
	1 病棟あたり在棟患者延べ数(11 月)	1,164	1,173	1,182	1,037	387
	平均在棟日数(11 月)	190.8	201	58.7	20.2	22.2
	病床稼働率(11 月)	90.3	90.7	89.3	80.8	67.6
	回転率(11 月)	0.2	0.1	0.5	1.5	1.4
	在宅復帰率(直近 6 か月)(注)	50.0	50.0	87.7	83.3	
患者像	75 歳以上患者割合(%)	82.1	82.1	70.0	79.3	66.7
	認知症自立度Ⅲ以上患者割合(%)	63.3	64.5	23.5	29.4	16.7
	死亡退院割合(%)	62.5	64.3	0.0	4.1	77.8
	点滴実施割合(%)	11.1	11.3	1.6	11.1	29.2
	経鼻経管栄養実施割合(%)	20.0	20.6	3.5	0.0	0.0
	胃ろう・腸ろう経管栄養実施割合(%)	15.7	16.3	0.0	1.6	0.0
	心電図モニター装着中割合(%)	7.1	7.4	0.0	7.9	0.0
	SpO2 モニター装着中割合(%)	6.7	8.0	0.0	5.0	0.0
	痰の吸引を実施割合(%)	48.0	50.0	4.9	10.7	18.2
	酸素投与中割合(%)	19.4	20.5	0.0	6.9	25.0
	気管カニューレ挿入中割合(%)	9.2	10.3	0.0	0.0	0.0
	夜間の点滴実施患者割合(%)	8.9	9.1	0.0	7.0	12.5
	夜間の痰の吸引実施割合(%)	44.4	45.5	0.0	9.4	12.5
	新規褥瘡発生患者割合(‰)	14.3	14.3	0.0	0.00	23.3
	身体的拘束実施患者割合(%)	14.6	15.0	12.8	9.4	4.5
	患者一人あたり身体的拘束平均実施日数	24.7	24.9	18.6	11.6	10.3
	転倒・転落発生割合(%)	0.0	0.0	3.6	2.2	2.8
	夜間の転棟・転落発生割合(%)	0.0	0.0	1.9	1.0	0.0
患者の状態 とアウトカム	経口摂取していない患者割合(%)	53.2	55.3	4.8	7.4	
	間接訓練実施患者割合(%)	3.7	4.5	100.0	16.7	
	経口摂取開始患者割合(%)	25.0	25.0	50.0	50.0	
	CV カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	10.0	10.3	0.0	0.8	
	CV カテ抜去に至った割合	0.0	0.0	0.0	0.0	
	膀胱留置カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	24.2	25.1	4.8	10.8	
看護提供／ 提供体制	膀胱留置カテ抜去に至った割合	0.0	0.0	25.0	16.7	
	看護情報提供書提供患者割合(%)	100.0	100	72.7	42.9	100.0
	カンファレンス回数(院内)(患者 100 人換算)	58.3	59.2	171.4	41.9	100.0
	カンファレンス回数(地域)(患者 100 人換算)	12.5	13.3	26.0	10.0	25.0
	意思決定支援回数(患者 100 人換算)	7.6	7.7	19.4	10.5	65.0
	指導実施回数(患者 100 人換算)	0.0	0.0	8.3	5.0	22.2
	准看護師比率	21.4	21.2	5.6	4.2	0.0
	看護職員配置(X 対 1)	13.0	13.1	10.3	8.2	3.7
	看護補助者配置(X 対 1)	17.5	17.7	22.1	20.4	33.8
夜間の看護 提供体制	他職種配置人数(専従)	0	0	11	2	0
	2交代夜勤体制(看護職員、夜勤)	2	2	2	2	2
	2交代夜勤体制(補助者、夜勤)	1	1	1	1	0
	2交代夜勤体制(リハ職、夜勤)	0	0	0	0	0
	2交代夜勤体制(看護職員、早出・遅出)	0	0	1	0	0
	2交代夜勤体制(補助者、早出・遅出)	2	2	2	2	0
	2交代夜勤体制(リハ職、早出・遅出)	0	0	0	0	0
	11月の月平均夜勤時間	69.6	69.8	69.5	67.1	73.8

(注) 在宅復帰率(直近 6 か月)は病棟種別ごとに若干の差異があることに留意が必要(P18 参照)

※ n 数は調査対象数を示しており、中央値等の算出母数とは異なる

4. 緩和ケア病棟における看護の役割と看護配置の状況

表 21 緩和ケア病棟入院料算定病棟の主な特徴

(入院料1～2までを合算した数値を記載。【 】内は中央値)

病棟概要：	● 稼働病床数が少ない【20床】 ● 平均在棟日数が短く【22.2日】、回転率が高い【1.4】
看護体制等：	● 看護職員配置が中央値で3.7対1。夜間に最低基準（2名）よりも加配している病棟が30%。 ● 看護補助者配置は中央値で33.8対1 ● 意思決定支援が多く【入院実患者100人換算で月65.0回】、患者・家族への指導も多い【入院実患者100人換算で月22.2回】 ● 月平均夜勤時間が長い【73.8時間】。夜間看護配置人数別では、3名以上では中央値73.1時間、2名で同74.6時間（2交代制の場合）。
患者像：	● 75歳以上患者割合が少なく【66.7%】、認知症患者割合も少ない【16.7%】 ● 死亡退院が多い【77.8%】 ● 医療処置が多い【点滴29.2%（夜間12.5%）、痰の吸引18.2%（夜間12.5%）、酸素投与25.0%】 ● 新規褥瘡発生が多い【23.3‰（パーミル）】 ● 身体的拘束の実施割合・実施日数は少ないがある【4.5%・10.3日/人】

緩和ケア病棟は、主として苦痛の緩和を必要とする悪性腫瘍及び後天性免疫不全症候群の患者を入院させ、緩和ケアを行うとともに、外来や在宅への円滑な移行も支援する役割を担っている。終末期を過ごす施設という側面もあり、死亡退院が約8割である。医療処置（点滴、痰吸引、酸素投与）を要する患者が多く、昼夜を問わない手厚い対応を行っている。患者像を反映して、新規褥瘡発生も多いため、褥瘡発生予防のための対応も行っていることが示唆される。

また終末期を過ごす施設という側面がありながら、身体的拘束の実施割合・実施日数は少ないながらもあり【4.5%・10.3日/人】（以下、入院料1～2までを合算したデータで示し、【 】は中央値を示す。以下、同じ）、ターミナル期で意識レベルが低下するなかで点滴や酸素投与を行っていて、患者の安全を守るために必要時の拘束が行われていることが示唆される（表23）。

平均在棟日数は、診療報酬の点数が高い「30日（以内）」よりも短い【22.2日】で回転率も高い【1.4】。この平均在棟日数・回転率は地域包括ケア病棟に近い。1病棟あたりの稼働病床数は【20床】で、地域包括ケア病棟の半分程度である。

看護職員配置は、昼夜を問わず点滴や酸素投与、痰の吸引の実施が多いこともあり、基準の7対1を大幅に上回る手厚さで【3.7対1】、短期間の間に多くの医療処置やACPに基づくケアを提供し、意思決定支援【入院実患者100人換算で月65.0回】や患者・家族への指導【同月22.2回】も行っている。ACPで帰宅を望む場合には半数以上【65.3%】が帰宅（一時帰宅を含む）できている（表293）。

表 22 夜間看護職員配置別に見た特徴比較（四分位数、2 交代制の場合）

（入院料 1～2 までを合算した数値を記載）

	夜間看護職員配置 3 名以上 (n=32)			夜間看護職員配置 2 名 (n=76)			P 値
	25%tile	中央値	75%tile	25%tile	中央値	75%tile	
一病棟あたり稼働病床数	20.0	21.0	25.0	14.0	16.0	20.0	**
死亡退院患者割合	71.1	77.8	84.8	59.2	75.7	90.0	0.56
平均在棟日数	20.0	24.3	33.1	15.0	21.6	28.0	0.06
病床稼働率	63.0	72.7	84.9	54.5	66.8	77.5	0.09
回転率	0.9	1.2	1.5	1.1	1.4	2.0	0.06
ACP で帰宅を望む患者割合	4.6	15.8	32.5	9.8	24.0	43.3	0.16
うち帰宅できた患者割合	33.3	50.0	100.0	50.0	69.0	100.0	0.10
七五歳以上患者割合	42.9	55.0	75.0	57.1	66.7	80.0	*
認知症（Ⅲ以上）患者割合（%）	3.8	16.8	43.4	8.1	26.7	40.6	0.67
新規褥瘡発生割合（‰）	0.0	25.0	52.6	0.0	0.0	52.0	0.42
身体的拘束患者割合	0.0	2.5	23.4	0.0	8.2	32.3	0.37
身体的拘束平均実施日数	4.5	7.8	13.6	6.6	9.9	14.8	0.67
点滴患者割合（%）	10.4	38.2	69.5	5.4	26.8	50.0	0.16
経管経鼻栄養患者割合（%）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.68
胃ろう等患者割合（%）	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.05
心電図モニター患者割合（%）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.96
SpO2 モニター患者割合（%）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	*
痰吸引患者割合（%）	9.8	18.8	23.6	6.9	20.0	28.9	0.92
酸素投与患者割合（%）	18.6	28.9	37.8	10.0	22.2	36.0	0.29
気管カニューレ患者割合（%）	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	**
夜間の点滴患者割合（%）	3.9	17.7	52.2	0.0	11.8	40.0	0.17
夜間の痰の吸引患者割合（%）	7.4	14.3	23.1	0.0	12.5	25.0	0.50
看護職員配置（X 対 1 看護）	3.2	3.7	4.2	2.9	3.7	4.4	0.79
月平均夜勤時間	68.0	73.1	81.0	67.5	74.6	81.5	0.80
意思決定支援回数（患者 100 人換算）	8.1	64.5	102.6	25.0	60.9	100.0	0.67
指導回数（患者 100 人換算）	6.7	14.3	47.1	9.4	21.7	55.6	0.48

**：＜0.01、*：＜0.05（Mann-Whitney U 検定による）、有意に数値が大きい項目に網掛けを付した

※n 数は調査対象数を示しており、中央値等の算出母数とは異なる

第1章 本調査の概要と主な結果

表 23 病棟種類別の特徴比較【再掲】

(データはすべて中央値)

区分	項目	緩和 (n=144)	回リハ (n=442)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)
病棟概要	1 病棟あたり稼働病床数	20	45	45	46
	1 病棟あたり在棟患者延べ数(11 月)	387	1,182	1,037	1,164
	平均在棟日数(11 月)	22.2	58.7	20.2	190.8
	病床稼働率(11 月)	67.6	89.3	80.8	90.3
	回転率(11 月)	1.4	0.5	1.5	0.2
患者像	75 歳以上患者割合(%)	66.7	70.0	79.3	82.1
	認知症自立度Ⅲ以上患者割合(%)	16.7	23.5	29.4	63.3
	死亡退院割合(%)	77.8	0.0	4.1	62.5
	点滴実施割合(%)	29.2	1.6	11.1	11.1
	経鼻経管栄養実施割合(%)	0.0	3.5	0.0	20.0
	胃ろう・腸ろう経管栄養実施割合(%)	0.0	0.0	1.6	15.7
	心電図モニター装着中割合(%)	0.0	0.0	7.9	7.1
	SpO2 モニター装着中割合(%)	0.0	0.0	5.0	6.7
	痰の吸引を実施割合(%)	18.2	4.9	10.7	48.0
	酸素投与中割合(%)	25.0	0.0	6.9	19.4
	気管カニューレ挿入中割合(%)	0.0	0.0	0.0	9.2
	夜間の点滴実施患者割合(%)	12.5	0.0	7.0	8.9
	夜間の痰の吸引実施割合(%)	12.5	0.0	9.4	44.4
	新規褥瘡発生患者割合(%)	23.3	0.0	0.00	14.3
	身体的拘束実施患者割合(%)	4.5	12.8	9.4	14.6
	患者一人あたり身体的拘束平均実施日数	10.3	18.6	11.6	24.7
	転倒・転落発生割合(%)	2.8	3.6	2.2	0.0
	夜間の転棟・転落発生割合(%)	0.0	1.9	1.0	0.0
看護提供／ 提供体制	看護情報提供書提供患者割合(%)	100.0	72.7	42.9	100.0
	カンファレンス回数(院内)(患者 100 人換算)	100.0	171.4	41.9	58.3
	カンファレンス回数(地域)(患者 100 人換算)	25.0	26.0	10.0	12.5
	意思決定支援回数(患者 100 人換算)	65.0	19.4	10.5	7.6
	指導実施回数(患者 100 人換算)	22.2	8.3	5.0	0.0
	准看護師比率	0.0	5.6	4.2	21.4
	看護職員配置(X 対 1)	3.7	10.3	8.2	13.0
	看護補助者配置(X 対 1)	33.8	22.1	20.4	17.5
夜間の看護 提供体制	他職種配置人数(専従)	0	11	2	0
	2交代夜勤体制(看護職員、夜勤)	2	2	2	2
	2交代夜勤体制(補助者、夜勤)	0	1	1	1
	2交代夜勤体制(リハ職、夜勤)	0	0	0	0
	2交代夜勤体制(看護職員、早出・遅出)	0	1	0	0
	2交代夜勤体制(補助者、早出・遅出)	0	2	2	2
	2交代夜勤体制(リハ職、早出・遅出)	0	0	0	0
	11月の月平均夜勤時間	73.8	69.5	67.1	69.6

(注)在宅復帰率(直近6か月)は病棟種別ごとに若干の差異があることに留意が必要(P18 参照)

※n 数は調査対象数を示しており、各中央値の算出母数とは異なる。

V 考察

回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟、緩和ケア病棟は、その病棟に期待される役割と、診療報酬上の施設基準等の差異を反映して、患者像や看護配置にそれぞれの特徴が表れていた。

一方、診療報酬上の施設基準はあくまで最低基準を定めるものであり、実際には基準を大きく上回る看護配置を行っている場合も多かった。このことは、急性期入院医療における在院日数の短縮などにより、回復期・慢性期入院医療において医療依存度の高い患者が増加するなか、加配しなければ患者の安全やケアの質が保てない現状があり、そうした状況に対応して看護師の加配等の対応を行っている現状を示唆する。一方、そうした対応の影響により、例えば月平均夜勤時間の負担が大きくなるなどの負担が看護職に生じていることもうかがわれた。

今後、2040年の高齢化のピークに向けては、後期高齢者（75歳以上）や認知症患者が急増する。それと並行して生産年齢人口の減少が進むなか、こうした急激な社会変化を看護職員の加配や現場での小さな工夫の積み重ね、個人の努力のみで対応することはできず、抜本的な医療提供体制の見直しや業務効率化は不可欠となる。

リハビリテーションを要する患者や、緊急に入院医療を必要とする患者、終末期のケアを要する患者等は、今後も絶え間なく生じ、そうした患者に対する医療・ケアが必要なことは2040年に向けても変わらない。そして、そうした必要な医療・ケアを、入院医療、外来医療、在宅医療、オンライン診療などを適切に組み合わせて提供することになる。

主に在宅等で暮らしながら外来医療、在宅医療、オンライン診療を受け、必要に応じて一時的に入院医療を受けて、再び在宅等で暮らす。急性期から在宅まで、医療・看護を受ける場所や方法は変化しつつも、一体的に医療・看護が受けられ、かつ的確な在宅移行支援、意思決定支援を行うことができるような、新たな医療・看護提供体制と、その中での看護の役割を今後検討していく必要がある。そのうえで、業務効率化を前提としつつも、適切な看護職員配置が確保されるよう、検討及び政策提言を行っていくことが課題である。

第1章 本調査の概要と主な結果

(参考) 病棟種類別の特徴比較【全体_再掲】(データはすべて中央値)

区分	項目	全体データ			
		回リハ (n=442)	地ケア (n=422)	療養 (n=435)	緩和 (n=144)
病棟概要	1 病棟あたり稼働病床数	45	45	46	20
	1 病棟あたり在棟患者延べ数(11 月)	1,182	1,037	1,164	387
	平均在棟日数(11 月)	58.7	20.2	190.8	22.2
	病床稼働率(11 月)	89.3	80.8	90.3	67.6
	回転率(11 月)	0.5	1.5	0.2	1.4
	在宅復帰率(直近 6 か月)(注)	87.7	83.3	50.0	
患者像	75 歳以上患者割合(%)	70.0	79.3	82.1	66.7
	認知症自立度Ⅲ以上患者割合(%)	23.5	29.4	63.3	16.7
	死亡退院割合(%)	0.0	4.1	62.5	77.8
	点滴実施割合(%)	1.6	11.1	11.1	29.2
	経鼻経管栄養実施割合(%)	3.5	0.0	20.0	0.0
	胃ろう・腸ろう経管栄養実施割合(%)	0.0	1.6	15.7	0.0
	心電図モニター装着中割合(%)	0.0	7.9	7.1	0.0
	SpO2 モニター装着中割合(%)	0.0	5.0	6.7	0.0
	痰の吸引を実施割合(%)	4.9	10.7	48.0	18.2
	酸素投与中割合(%)	0.0	6.9	19.4	25.0
	気管カニューレ挿入中割合(%)	0.0	0.0	9.2	0.0
	夜間の点滴実施患者割合(%)	0.0	7.0	8.9	12.5
	夜間の痰の吸引実施割合(%)	0.0	9.4	44.4	12.5
	新規褥瘡発生患者割合(%)	0.0	0.0	14.3	23.3
	身体的拘束実施患者割合(%)	12.8	9.4	14.6	4.5
	患者一人あたり身体的拘束平均実施日数	18.6	11.6	24.7	10.3
	転倒・転落発生件数(患者 100 人換算)	3.6	2.2	0.0	2.8
	夜間の転倒・転落発生件数(患者 100 人換算)	1.9	1.0	0.0	0.0
患者の状態 とアウトカム	経口摂取していない患者割合(%)	4.8	7.4	53.2	
	間接訓練実施患者割合(%)	100.0	16.7	3.7	
	経口摂取開始患者割合(%)	50.0	50.0	25.0	
	CV カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	0.0	0.8	10.0	
	CV カテ抜去に至った割合	0.0	0.0	0.0	
	膀胱留置カテ挿入患者数(患者 100 人換算)	4.8	10.8	24.2	
	膀胱留置カテ抜去に至った割合	25.0	16.7	0.0	
看護提供/ 提供体制	看護情報提供書提供患者割合(%)	72.7	42.9	100.0	100.0
	カンファレンス回数(院内)(患者 100 人換算)	171.4	41.9	58.3	100.0
	カンファレンス回数(地域)(患者 100 人換算)	26.0	10.0	12.5	25.0
	意思決定支援回数(患者 100 人換算)	19.4	10.5	7.6	65.0
	指導実施回数(患者 100 人換算)	8.3	5.0	0.0	22.2
	准看護師比率	5.6	4.2	21.4	0.0
	看護職員配置(X 対 1)	10.3	8.2	13.0	3.7
	看護補助者配置(X 対 1)	22.1	20.4	17.5	33.8
	他職種配置人数(専従)	11	2	0	0
夜間の看護 提供体制	2交代夜勤体制(看護職員、夜勤)	2	2	2	2
	2交代夜勤体制(補助者、夜勤)	1	1	1	0
	2交代夜勤体制(リハ職、夜勤)	0	0	0	0
	2交代夜勤体制(看護職員、早出・遅出)	1	0	0	0
	2交代夜勤体制(補助者、早出・遅出)	2	2	2	0
	2交代夜勤体制(リハ職、早出・遅出)	0	0	0	0
	11月の月平均夜勤時間	69.5	67.1	69.6	73.8

(注) 在宅復帰率(直近 6 か月)は病棟種別ごとに若干の差異があることに留意が必要(P18 参照)

※ n 数は調査対象数を示しており、各中央値の算出母数とは異なる。

回復期・慢性期看護実態調査

部分データ			(参考)急性期看護実態調査		項目(再掲)
回りハ 1 (n=313)	地ヶア 1 (n=210)	療養 1 (n=392)	急性期一般 入院料 1 (n=2367)	急性期一般 入院料 2 (n=64)	
48	44	46	45	50	1 病棟あたり稼働病床数
1,238	1,062	1,173	1,158	1,147	1 病棟あたり在棟患者延べ数(11 月)
60.2	23.3	201	10.4	13.7	平均在棟日数(11 月)
91.0	83.3	90.7	87.3	80.0	病床稼働率(11 月)
0.5	1.3	0.1	2.9	2.2	回転率(11 月)
87.8	82.4	50.0			在宅復帰率(直近 6 か月)(注)
69.5	81.5	82.1	45.0	55.5	75 歳以上患者割合(%)
24.1	35.9	64.5	5.3	11.5	認知症自立度Ⅲ以上患者割合(%)
0.0	6.7	64.3			死亡退院割合(%)
1.8	12.2	11.3	48.6	46.2	点滴実施割合(%)
4.2	0.0	20.6			経鼻経管栄養実施割合(%)
1.2	1.8	16.3			胃ろう・腸ろう経管栄養実施割合(%)
0.0	8.1	7.4			心電図モニター装着中割合(%)
0.0	5.1	8.0			SpO2 モニター装着中割合(%)
5.5	12.0	50.0			痰の吸引を実施割合(%)
0.8	7.3	20.5	11.9	11.3	酸素投与中割合(%)
0.0	0.0	10.3			気管カニューレ挿入中割合(%)
0.0	6.3	9.1	36.9	27.2	夜間の点滴実施患者割合(%)
0.0	10.5	45.5			夜間の痰の吸引実施割合(%)
0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	新規褥瘡発生患者割合(‰)
13.5	10.0	15.0	11.3	15.6	身体的拘束実施患者割合(%)
18.7	12.7	24.9			患者一人あたり身体的拘束平均実施日数
3.7	2.6	0.0	1.1	1.0	転倒・転落発生件数(患者 100 人換算)
1.9	1.3	0.0	0.8	0.8	夜間の転倒・転落発生件数(患者 100 人換算)
5.5	8.8	55.3			経口摂取していない患者割合(%)
100.0	15.5	4.5			間接訓練実施患者割合(%)
50.0	50.0	25.0			経口摂取開始患者割合(%)
0.0	2.0	10.3			CV カテ挿入患者数(患者 100 人換算)
0.0	0.0	0.0			CV カテ抜去に至った割合
5.0	11.9	25.1			膀胱留置カテ挿入患者数(患者 100 人換算)
25.0	14.3	0.0			膀胱留置カテ抜去に至った割合
76.5	52.3	100.0			看護情報提供書提供患者割合(%)
187.7	45.3	59.2			カンファレンス回数(院内)(患者 100 人換算)
26.3	14.5	13.3			カンファレンス回数(地域)(患者 100 人換算)
22.3	10.4	7.7	1.8	1.4	意思決定支援回数(患者 100 人換算)
9.5	4.5	0.0	13.2	6.1	指導実施回数(患者 100 人換算)
4.8	5.0	21.2			准看護師比率
10.3	8.3	13.1	5.9	6.9	看護職員配置(X 対 1)
22.3	19.7	17.7	37.7	15.7	看護補助者配置(X 対 1)
14	2	0	0	0	他職種配置人数(専従)
2	2	2	夜間看護 職員配置 9.9 対 1	夜間看護 職員配置 11.5 対 1	2交代夜勤体制(看護職員、夜勤)
1	1	1			2交代夜勤体制(補助者、夜勤)
0	0	0			2交代夜勤体制(リハ職、夜勤)
1	0	0			2交代夜勤体制(看護職員、早出・遅出)
2	2	2			2交代夜勤体制(補助者、早出・遅出)
0	0	0			2交代夜勤体制(リハ職、早出・遅出)
69.4	66.5	69.8			11月の月平均夜勤時間

第 1 章 本調査の概要と主な結果

第 2 章

調査票別調査結果

I 調査結果—病院票

1. 回答病院の属性

(1) 設置主体

全体では「法人」が 66.8%で最も多く、次いで「公的病院」が 11.5%、「公立病院」が 10.9%であった。

また、①回リハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみても、いずれも「法人」が最も多く、①では 75.2%、②57.6%、③83.2%、④50.3%であった。

表 24 病院グループ別 設置主体

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
国	16	1.5	3	0.7	8	1.8
公立病院	116	10.9	26	5.8	62	13.8
公的病院	123	11.5	50	11.1	82	18.2
社会保険関係団体	11	1.0	2	0.4	8	1.8
法人	714	66.8	340	75.2	259	57.6
その他	65	6.1	30	6.6	30	6.7
無回答・不明	24	2.2	1	0.2	1	0.2
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
国	—	—	7	4.8
公立病院	32	6.8	26	17.7
公的病院	19	4.0	23	15.6
社会保険関係団体	4	0.8	1	0.7
法人	392	83.2	74	50.3
その他	23	4.9	15	10.2
無回答・不明	1	0.2	1	0.7
計	471	100.0	147	100.0

(注) ①～④に複数該当する病院があるため、①～④の合計は全体の数を上回る（「無回答・不明」を除く）
（以下、本章において同じ）

(2) 許可病床数

病院全体の許可病床数は、「全体」では「100～199床」が43.8%で最も多く、平均では209.6床であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、①は212.4床、②222.6床、③159.1床、④380.6床（いずれも平均値）であった。

許可病床数のうちの一般病床数は、「全体」では148.2床、①139.2床、②163.4床、③68.0床、④316.1床（いずれも平均値）であった。

許可病床数のうちの療養病床数は、「全体」では59.9床、①64.6床、②47.7床、③85.8床、④27.5床（いずれも平均値）であった。

表 25 病院グループ別 許可病床数

	全体		①回りハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
99床以下	209	19.6	47	10.4	56	12.4
100～199床	468	43.8	230	50.9	195	43.3
200～299床	140	13.1	79	17.5	80	17.8
300～399床	136	12.7	64	14.2	85	18.9
400～499床	45	4.2	21	4.6	24	5.3
500床以上	48	4.5	11	2.4	10	2.2
無回答・不明	23	2.2	－	－	－	－
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0
平均	209.6床		212.4床		222.6床	

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
99床以下	137	29.1	4	2.7
100～199床	239	50.7	40	27.2
200～299床	48	10.2	16	10.9
300～399床	31	6.6	32	21.8
400～499床	8	1.7	17	11.6
500床以上	5	1.1	38	25.9
無回答・不明	3	0.6	－	－
計	471	100.0	147	100.0
平均	159.1床		380.6床	

表 26 病院グループ別 許可病床のうちの一般病床数

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
99 床以下	332	31.1	135	29.9	124	27.6
100～199 床	263	24.6	135	29.9	162	36.0
200～299 床	84	7.9	37	8.2	60	13.3
300～399 床	80	7.5	31	6.9	43	9.6
400～499 床	28	2.6	11	2.4	14	3.1
500 床以上	31	2.9	7	1.5	4	0.9
無回答・不明	251	23.5	96	21.2	43	9.6
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0
平均	148.2 床		139.2 床		163.4 床	

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
99 床以下	204	43.3	20	13.6
100～199 床	75	15.9	36	24.5
200～299 床	11	2.3	17	11.6
300～399 床	3	0.6	29	19.7
400～499 床	3	0.6	14	9.5
500 床以上	－	－	27	18.4
無回答・不明	175	37.2	4	2.7
計	471	100.0	147	100.0
平均	68.0 床		316.1 床	

表 27 病院グループ別 許可病床のうちの療養病床数

	全体		①回りハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
99床以下	420	39.3	137	30.3	150	33.3
100～199床	140	13.1	78	17.3	35	7.8
200～299床	24	2.2	15	3.3	8	1.8
300～399床	5	0.5	3	0.7	2	0.4
400～499床	1	0.1	－	－	－	－
500床以上	1	0.1	－	－	－	－
無回答・不明	478	44.7	219	48.5	255	56.7
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0
平均	59.9床		64.6床		47.7床	

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
99床以下	318	67.5	25	17.0
100～199床	117	24.8	10	6.8
200～299床	17	3.6	1	0.7
300～399床	4	0.8	－	－
400～499床	1	0.2	－	－
500床以上	1	0.2	－	－
無回答・不明	13	2.8	111	75.5
計	471	100.0	147	100.0
平均	85.8床		27.5床	

(3) 入院基本料の算定状況

一般病棟入院基本料の算定状況（令和4年11月1日時点）を見ると、全体では急性期一般の「入院料1」の割合が38.6%で最も高かった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、急性期一般の「入院料1」を算定している割合は、①では37.2%、②40.6%、③15.2%、④72.9%であった。

療養病棟入院基本料の算定状況（令和4年11月1日時点）を見ると、全体では療養病棟の「入院料1」の割合が88.1%だった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、療養病棟の「入院料1」を算定している割合は、①では86.5%、②93.8%、③88.1%、④100.0%であった。

表 28 一般病棟入院基本料の算定状況

		全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
		件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
急性期一般	入院料 1	314	38.6%	128	37.2%	189	40.6%
	入院料 2	32	3.9%	17	4.9%	18	3.9%
	入院料 3	5	0.6%	3	0.9%	1	0.2%
	入院料 4	200	24.6%	93	27.0%	114	24.5%
	入院料 5	32	3.9%	15	4.4%	15	3.2%
	入院料 6	48	5.9%	24	7.0%	12	2.6%
地域一般	入院料 1	80	9.8%	21	6.1%	58	12.4%
	入院料 2	64	7.9%	24	7.0%	52	11.2%
	入院料 3	37	4.5%	17	4.9%	6	1.3%
	特別入院基本料	2	0.2%	2	0.6%	1	0.2%
計		814	100.0%	344	100.0%	466	100.0%

		③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
		件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
急性期一般	入院料 1	40	15.2%	102	72.9%
	入院料 2	7	2.7%	1	0.7%
	入院料 3	3	1.1%	－	－
	入院料 4	80	30.3%	16	11.4%
	入院料 5	20	7.6%	4	2.9%
	入院料 6	32	12.1%	1	0.7%
地域一般	入院料 1	35	13.3%	5	3.6%
	入院料 2	24	9.1%	9	6.4%
	入院料 3	22	8.3%	2	1.4%
	特別入院基本料	1	0.4%	－	－
計		264	100.0%	140	100.0%

表 29 療養病棟入院基本料の算定状況

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院料 1	415	88.1%	135	86.5%	120	93.8%
入院料 2	47	10.0%	13	8.3%	6	4.7%
特別入院基本料	9	1.9%	8	5.1%	2	1.6%
計	471	100.0%	156	100.0%	128	100.0%

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院料 1	415	88.1%	21	100.0%
入院料 2	47	10.0%	－	－
特別入院基本料	9	1.9%	－	－
計	471	100.0%	21	100.0%

表 30 結核病棟入院基本料の算定状況

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 7 対 1	19	65.5%	－	－	7	58.3%
入院基本料 10 対 1	9	31.0%	－	－	5	41.7%
入院基本料 13 対 1	－	－	－	－	－	－
入院基本料 15 対 1	1	3.4%	－	－	－	－
入院基本料 18 対 1	－	－	－	－	－	－
入院基本料 20 対 1	－	－	－	－	－	－
特別入院基本料	－	－	－	－	－	－
計	29	100.0%	－	－	12	100.0%

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 7 対 1	－	－	13	81.3%
入院基本料 10 対 1	－	－	3	18.8%
入院基本料 13 対 1	－	－	－	－
入院基本料 15 対 1	1	100.0%	－	－
入院基本料 18 対 1	－	－	－	－
入院基本料 20 対 1	－	－	－	－
特別入院基本料	－	－	－	－
計	1	100.0%	16	100.0%

表 31 精神病棟入院基本料の算定状況

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 10 対 1	6	17.6%	3	21.4%	3	14.3%
入院基本料 13 対 1	10	29.4%	1	7.1%	6	28.6%
入院基本料 15 対 1	18	52.9%	10	71.4%	12	57.1%
入院基本料 18 対 1	－	－	－	－	－	－
入院基本料 20 対 1	－	－	－	－	－	－
特別入院基本料	－	－	－	－	－	－
計	34	100.0%	14	100.0%	21	100.0%

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 10 対 1	－	－	3	30.0%
入院基本料 13 対 1	1	14.3%	3	30.0%
入院基本料 15 対 1	6	85.7%	4	40.0%
入院基本料 18 対 1	－	－	－	－
入院基本料 20 対 1	－	－	－	－
特別入院基本料	－	－	－	－
計	7	100.0%	10	100.0%

表 32 特定機能病院入院基本料の算定状況

		全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
		件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
一般病棟	入院基本料 7 対 1	25	75.8%	5	62.5%	11	64.7%
	入院基本料 10 対 1	8	24.2%	3	37.5%	6	35.3%
	計	33	100.0%	8	100.0%	17	100.0%
結核病棟	入院基本料 7 対 1	1	100.0%	－	－	－	－
	入院基本料 10 対 1	－	－	－	－	－	－
	入院基本料 13 対 1	－	－	－	－	－	－
	入院基本料 15 対 1	－	－	－	－	－	－
	計	1	100.0%	－	－	－	－
精神病棟	入院基本料 7 対 1	1	25.0%	－	－	－	－
	入院基本料 10 対 1	1	25.0%	－	－	－	－
	入院基本料 13 対 1	1	25.0%	－	－	－	－
	入院基本料 15 対 1	1	25.0%	－	－	1	100.0%
	計	4	100.0%	－	－	1	100.0%

		③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
		件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
一般病棟	入院基本料 7 対 1	2	28.6%	14	93.3%
	入院基本料 10 対 1	5	71.4%	1	6.7%
	計	7	100.0%	15	100.0%
結核病棟	入院基本料 7 対 1	－	－	1	0.7%
	入院基本料 10 対 1	－	－	－	－
	入院基本料 13 対 1	－	－	－	－
	入院基本料 15 対 1	－	－	－	－
	計	－	－	1	100.0%
精神病棟	入院基本料 7 対 1	－	－	1	33.3%
	入院基本料 10 対 1	－	－	1	33.3%
	入院基本料 13 対 1	－	－	1	33.3%
	入院基本料 15 対 1	1	100.0%	－	－
	計	1	100.0%	3	100.0%

表 33 専門病院入院基本料の算定状況

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 7 対 1	3	23.1%	－	－	－	－
入院基本料 10 対 1	3	23.1%	－	－	－	－
入院基本料 13 対 1	7	53.8%	7	100.0%	1	100.0%
計	13	100.0%	7	100.0%	1	100.0%

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 7 対 1	－	－	3	50.0%
入院基本料 10 対 1	－	－	3	50.0%
入院基本料 13 対 1	－	－	－	－
計	0	－	6	100.0%

表 34 障害者施設等入院基本料の算定状況

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 7 対 1	11	9.1%	3	5.5%	4	10.0%
入院基本料 10 対 1	93	76.9%	47	85.5%	30	75.0%
入院基本料 13 対 1	17	14.0%	5	9.1%	6	15.0%
入院基本料 15 対 1	－	－	－	－	－	－
計	121	100.0%	55	100.0%	40	100.0%

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
入院基本料 7 対 1	1	1.5%	5	25.0%
入院基本料 10 対 1	53	80.3%	14	70.0%
入院基本料 13 対 1	12	18.2%	1	5.0%
入院基本料 15 対 1	－	－	－	－
計	66	100.0%	20	100.0%

(4) 特定入院料の届出状況

2022年11月1日現在で算定されている特定入院料の届出状況は、全体では、「回復期リハビリテーション病棟入院料」が42.3%で最も多かった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、①では「回復期リハビリテーション病棟入院料」100.0%、「地域包括ケア病棟入院料」37.2%の順に多かった。

②では、「地域包括ケア病棟入院料」100.0%、「回復期リハビリテーション病棟入院料」37.3%の順に多かった。

③では、「回復期リハビリテーション病棟入院料」33.1%、「地域包括ケア病棟入院料」27.2%の順に多かった。

④では、「緩和ケア病棟入院料」100.0%、「小児入院医療管理料」45.6%の順に多かった。

表 35 特定入院料の届出状況（複数回答）

	全体 (n=1,069)		①回りハ病棟を 有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=450)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
救命救急入院料	54	5.1	17	3.8	23	5.1
特定集中治療室管理料	89	8.3	26	5.8	29	6.4
ハイケアユニット入院医療管理料	142	13.3	64	14.2	73	16.2
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	38	3.6	23	5.1	14	3.1
小児特定集中治療室管理料	2	0.2	1	0.2	－	－
新生児特定集中治療室管理料	35	3.3	6	1.3	13	2.9
総合周産期特定集中治療室管理料	12	1.1	1	0.2	2	0.4
新生児治療回復室入院医療管理料	21	2.0	3	0.7	2	0.4
一類感染症患者入院医療管理料	3	0.3	－	－	－	－
特殊疾患入院医療管理料	10	0.9	8	1.8	3	0.7
小児入院医療管理料	126	11.8	40	8.8	58	12.9
回復期リハビリテーション病棟入院料	452	42.3	452	100.0	168	37.3
地域包括ケア病棟入院料	450	42.1	168	37.2	450	100.0
地域包括ケア入院医療管理料	154	14.4	54	11.9	44	9.8
特殊疾患病棟入院料	12	1.1	8	1.8	7	1.6
緩和ケア病棟入院料	147	13.8	38	8.4	57	12.7
精神科救急急性期医療入院料	5	0.5	4	0.9	1	0.2
精神科急性期治療病棟入院料	9	0.8	3	0.7	7	1.6
精神科救急・合併症入院料	3	0.3	－	－	1	0.2
児童・思春期精神科入院医療管理料	2	0.2	－	－	－	－
精神療養病棟入院料	6	0.6	1	0.2	2	0.4
認知症治療病棟入院料	12	1.1	5	1.1	2	0.4
特定一般病棟入院料	1	0.1	－	－	1	0.2
地域移行機能強化病棟入院料	1	0.1	－	－	－	－
特定機能病院リハビリテーション病棟入院料	1	0.1	－	－	－	－
無回答・不明	186	17.4	－	－	－	－

回復期・慢性期看護実態調査

	③療養病棟を有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を有する病院 (n=147)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
救命救急入院料	2	0.4	29	19.7
特定集中治療室管理料	5	1.1	54	36.7
ハイケアユニット入院医療管理料	9	1.9	52	35.4
脳卒中ケアユニット入院医療管理料	4	0.8	14	9.5
小児特定集中治療室管理料	-	-	1	0.7
新生児特定集中治療室管理料	-	-	24	16.3
総合周産期特定集中治療室管理料	-	-	11	7.5
新生児治療回復室入院医療管理料	-	-	17	11.6
一類感染症患者入院医療管理料	-	-	3	2.0
特殊疾患入院医療管理料	2	0.4	3	2.0
小児入院医療管理料	7	1.5	67	45.6
回復期リハビリテーション病棟入院料	156	33.1	38	25.9
地域包括ケア病棟入院料	128	27.2	57	38.8
地域包括ケア入院医療管理料	90	19.1	12	8.2
特殊疾患病棟入院料	8	1.7	2	1.4
緩和ケア病棟入院料	21	4.5	147	100.0
精神科救急急性期医療入院料	1	0.2	2	1.4
精神科急性期治療病棟入院料	3	0.6	2	1.4
精神科救急・合併症入院料	-	-	2	1.4
児童・思春期精神科入院医療管理料	-	-	2	1.4
精神療養病棟入院料	5	1.1	-	-
認知症治療病棟入院料	9	1.9	1	0.7
特定一般病棟入院料	-	-	-	-
地域移行機能強化病棟入院料	1	0.2	-	-
特定機能病院リハビリテーション病棟入院料	-	-	1	0.7
無回答・不明	158	33.5	-	-

(5) 併設する訪問看護事業所・介護施設

併設する訪問看護事業所・介護施設としては、全体では、「訪問看護事業所」が38.9%で最も多く、「併設する介護施設・訪問看護事業所はない」は23.6%であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみても、いずれも「訪問看護事業所」が最も多かった。

表 36 併設する訪問看護事業所・介護施設（複数回答）

	全体 (n=1,069)		①回りハ病棟を 有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=450)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
訪問看護事業所	416	38.9	195	43.1	233	51.8
介護医療院	94	8.8	31	6.9	32	7.1
介護老人保健施設	195	18.2	92	20.4	98	21.8
特別養護老人ホーム	46	4.3	25	5.5	31	6.9
有料老人ホーム	49	4.6	21	4.6	21	4.7
その他の介護施設	121	11.3	62	13.7	49	10.9
併設する介護施設・訪問 看護事業所はない	252	23.6	116	25.7	93	20.7
無回答・不明	244	22.8	85	18.8	78	17.3

	③療養病棟を 有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を 有する病院 (n=147)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
訪問看護事業所	167	35.5	59	40.1
介護医療院	81	17.2	2	1.4
介護老人保健施設	106	22.5	20	13.6
特別養護老人ホーム	25	5.3	4	2.7
有料老人ホーム	28	5.9	3	2.0
その他の介護施設	72	15.3	15	10.2
併設する介護施設・訪問 看護事業所はない	107	22.7	38	25.9
無回答・不明	80	17.0	43	29.3

2. 医療提供体制

(1) 救急医療体制

救急医療体制としては、全体の 58.4%が「救急告示・指定病院」であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、「救急告示・指定病院」である割合は、①では 56.6%、②79.1%、③42.3%、④84.4%であった。

表 37 救急医療体制

	全体		①回りハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
救急告示・指定病院である	624	58.4	256	56.6	356	79.1
救急告示・指定病院ではない	389	36.4	186	41.2	81	18.0
無回答・不明	56	5.2	10	2.2	13	2.9
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
救急告示・指定病院である	199	42.3	124	84.4
救急告示・指定病院ではない	253	53.7	22	15.0
無回答・不明	19	4.0	1	0.7
計	471	100.0	147	100.0

救急告示・指定病院である場合の、その救急医療体制の区分は、全体では「2 次救急 (24 時間 365 日対応)」が 59.5%で最も多かった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみても、いずれも「2 次救急 (24 時間 365 日対応)」が最も多かった。

表 38 救急告示・指定病院である場合の救急医療体制の区分

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
3 次救急	39	6.3	6	2.3	13	3.7
2 次救急 (24 時間 365 日対応)	371	59.5	178	69.5	222	62.4
2 次救急 (輪番制)	171	27.4	62	24.2	102	28.7
1 次救急	33	5.3	7	2.7	14	3.9
無回答・不明	10	1.6	3	1.2	5	1.4
計	624	100.0	256	100.0	356	100.0

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
3 次救急	2	1.0	25	20.2
2 次救急 (24 時間 365 日対応)	108	54.3	66	53.2
2 次救急 (輪番制)	64	32.2	27	21.8
1 次救急	22	11.1	4	3.2
無回答・不明	3	1.5	2	1.6
計	199	100.0	124	100.0

(2) 医療安全対策加算

医療安全対策加算を算定している割合は、全体では 35.4%が加算 1、34.2%が加算 2 を算定しており、約 70%がいずれかの加算を算定していた。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、加算 1 又は 2 を算定している割合は、①では約 77%、②約 84%、③約 55%、④約 94%であった。

表 39 医療安全対策加算の算定状況

	全体		①回りハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	378	35.4	164	36.3	224	49.8
加算 2 を算定している	366	34.2	185	40.9	156	34.7
算定していない	286	26.8	98	21.7	63	14.0
無回答・不明	39	3.6	5	1.1	7	1.6
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	53	11.3	115	78.2
加算 2 を算定している	204	43.3	23	15.6
算定していない	207	43.9	7	4.8
無回答・不明	7	1.5	2	1.4
計	471	100.0	147	100.0

(3) 認知症ケア加算

認知症ケア加算を算定している割合は、全体では 17.9%が加算 1、25.7%が加算 2、35.7%が加算 3 を算定しており、約 79%がいずれかの加算を算定していた。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、加算 1～3 のいずれかを算定している割合は、①では約 82%、②約 88%、③約 74%、④約 88%であった。

表 40 認知症ケア加算の算定状況

	全体		①回りハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	191	17.9	76	16.8	107	23.8
加算 2 を算定している	275	25.7	128	28.3	135	30.0
加算 3 を算定している	382	35.7	168	37.2	155	34.4
算定していない	189	17.7	77	17.0	52	11.6
無回答・不明	32	3.0	3	0.7	1	0.2
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	39	8.3	62	42.2
加算 2 を算定している	117	24.8	37	25.2
加算 3 を算定している	193	41.0	30	20.4
算定していない	116	24.6	16	10.9
無回答・不明	6	1.3	2	1.4
計	471	100.0	147	100.0

(4) 排尿自立支援加算

排尿自立支援加算を算定している割合は、全体では 21.2%であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、加算を算定している割合は、①では 24.8%、②26.2%、③11.5%、④36.1%であった。

表 41 排尿自立支援加算の算定状況

	全体		①回りハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
算定している	227	21.2	112	24.8	118	26.2
算定していない	781	73.1	334	73.9	317	70.4
無回答・不明	61	5.7	6	1.3	15	3.3
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
算定している	54	11.5	53	36.1
算定していない	396	84.1	86	58.5
無回答・不明	21	4.5	8	5.4
計	471	100.0	147	100.0

(5) 摂食嚥下機能回復体制加算

摂食嚥下機能回復体制加算を算定している割合は、全体では 4.2%が加算 1、6.9%が加算 2、4.0%が加算 3 を算定しており、約 14% (※) がいずれかの加算を算定した。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、加算 1～3 のいずれかを算定している割合は、①では約 16%、②約 14%、③約 12%、④約 19%であった (※)。

※複数回答のため、表の件数 (又は割合) を合算して算出した数値とは一致しない。

表 42 摂食嚥下機能回復体制加算の算定状況 (複数回答)

	全体 (n=1,069)		①回りハ病棟を 有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=450)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	45	4.2	29	6.4	16	3.6
加算 2 を算定している	74	6.9	38	8.4	41	9.1
加算 3 を算定している	43	4.0	9	2.0	8	1.8
算定していない	822	76.9	351	77.7	360	80.0
無回答・不明	93	8.7	29	6.4	28	6.2

	③療養病棟を 有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を 有する病院 (n=147)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	9	1.9	10	6.8
加算 2 を算定している	12	2.5	19	12.9
加算 3 を算定している	40	8.5	－	－
算定していない	387	82.2	104	70.7
無回答・不明	27	5.7	15	10.2

(6) 感染対策向上加算

感染対策向上加算を算定している割合は、全体では 25.4%が加算 1、19.8%が加算 2、30.4%が加算 3 を算定しており、約 76%がいずれかの加算を算定した。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、加算 1～3 のいずれかを算定している割合は、①では約 79%、②約 92%、③約 65%、④約 95%であった。

表 43 感染対策向上加算の算定状況

	全体		①回りハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	271	25.4	103	22.8	158	35.1
加算 2 を算定している	212	19.8	96	21.2	125	27.8
加算 3 を算定している	325	30.4	160	35.4	133	29.6
加算を算定していない	230	21.5	89	19.7	32	7.1
無回答・不明	31	2.9	4	0.9	2	0.4
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
加算 1 を算定している	24	5.1	103	70.1
加算 2 を算定している	89	18.9	21	14.3
加算 3 を算定している	194	41.2	15	10.2
加算を算定していない	159	33.8	7	4.8
無回答・不明	5	1.1	1	0.7
計	471	100.0	147	100.0

3. 看護提供体制等

(1) 看護管理者を長とした看護部門の有無

看護管理者を長とした看護部門（看護部等）がある割合は、全体では 95.3%であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみても、大きな差異はなく、約 97～98%に看護管理者を長とした看護部門（看護部等）があった。

表 44 看護管理者を長とした看護部門の有無

	全体 (n=1,069)		①回りハ病棟を 有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=450)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
ある	1019	95.3	442	97.8	440	97.8
ない	19	1.8	7	1.5	5	1.1
無回答・不明	31	2.9	3	0.7	5	1.1
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を 有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を 有する病院 (n=147)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
ある	455	96.6	144	98.0
ない	13	2.8	2	1.4
無回答・不明	3	0.6	1	0.7
計	471	100.0	147	100.0

(2) 病院全体の看護職員の確保状況

「求める看護職員数を確保できている」割合は、全体では 44.2%で、52.8%が「求める看護職員数を確保できていない」と回答した。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみても、大きな差異はなく、約 52～56%が「求める看護職員数を確保できていない」と回答した。

表 45 病院全体の看護職員の確保状況

	全体 (n=1,069)		①回りハ病棟を 有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=450)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
求める看護職員数を 確保できている	472	44.2	202	44.7	192	42.7
求める看護職員数を 確保できていない	564	52.8	245	54.2	252	56.0
無回答・不明	33	3.1	5	1.1	6	1.3
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を 有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を 有する病院 (n=147)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
求める看護職員数を 確保できている	204	43.3	70	47.6
求める看護職員数を 確保できていない	261	55.4	76	51.7
無回答・不明	6	1.3	1	0.7
計	471	100.0	147	100.0

(3) 看護職員を確保する際の有料職業紹介所（派遣会社）の使用有無

看護職員を確保する際、有料職業紹介所（派遣会社）を使用している割合は、全体では58.8%であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、有料職業紹介所（派遣会社）を使用している割合は、①では62.2%、②58.0%、③67.3%、④55.1%であった。

表 46 看護職員を確保する際の有料職業紹介所（派遣会社）の使用有無

	全体 (n=1,069)		①回りハ病棟を 有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=450)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
使用している	629	58.8	281	62.2	261	58.0
使用していない	407	38.1	167	36.9	182	40.4
無回答・不明	33	3.1	4	0.9	7	1.6
計	1,069	100.0	452	100.0	450	100.0

	③療養病棟を 有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を 有する病院 (n=147)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)
使用している	317	67.3	81	55.1
使用していない	152	32.3	65	44.2
無回答・不明	2	0.4	1	0.7

(4) 他施設の看護師や病院見学の看護学生等に自院の魅力として発信している内容

症例検討会等で集まる他施設の看護師や病院見学の看護学生等に自院の魅力として発信している内容は、全体では、「新人や中途採用者に対する教育体制がある」が74.5%で最も多く、次いで「有給休暇がとりやすい」が54.3%であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、自院の魅力として発信している内容は、①では「新人や中途採用者に対する教育体制がある」(85.0%)、「患者の回復過程（在宅復帰支援）に携わる看護の魅力」(71.2%)の順に多かった。

②では、「新人や中途採用者に対する教育体制がある」(86.0%)、「患者の回復過程（在宅復帰支援）に携わる看護の魅力」(62.9%)の順に多かった。

③では、「長期療養患者のその人らしい生活を支える看護や家族支援の魅力」(62.6%)、「新人や中途採用者に対する教育体制がある」(61.8%)の順に多かった。

④では、「新人や中途採用者に対する教育体制がある」(91.8%)、「緩和ケアが必要となる患者の看護（人生の最終段階への関わりも含む）の魅力」(83.7%)の順に多かった。

表 47 他施設の看護師や病院見学の看護学生等に自院の魅力として
発信している内容（複数回答）

	全体 (n=1,069)		①回リハ病棟を 有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=450)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
患者の回復過程（在宅復帰支援）に携わる看護の魅力	571	53.4	322	71.2	283	62.9
長期療養患者のその人らしい生活を支える看護や家族支援の魅力	486	45.5	210	46.5	190	42.2
緩和ケアが必要となる患者の看護（人生の最終段階への関わりも含む）の魅力	289	27.0	96	21.2	135	30.0
新人や中途採用者に対する教育体制がある	796	74.5	384	85.0	387	86.0
ローテーション制度があり、急性期領域から回復期・慢性期まで経験できる	368	34.4	199	44.0	206	45.8
時間外勤務が少ない	484	45.3	207	45.8	168	37.3
看護職員の負担が少なくなるよう配置を多くしている（昼間・夜間問わず）	216	20.2	110	24.3	91	20.2
有給休暇がとりやすい	580	54.3	257	56.9	222	49.3
近隣医療機関と比較して、給与が高い	109	10.2	47	10.4	49	10.9
その他	191	17.9	78	17.3	85	18.9
魅力として発信している内容はない	19	1.8	2	0.4	4	0.9
無回答・不明	32	3.0	3	0.7	5	1.1

表 47 他施設の看護師や病院見学の看護学生等に自院の魅力として
発信している内容（複数回答）（つづき）

	③療養病棟を有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を有する病院 (n=147)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
患者の回復過程（在宅復帰支援）に携わる看護の魅力	211	44.8	67	45.6
長期療養患者のその人らしい生活を支える看護や家族支援の魅力	295	62.6	45	30.6
緩和ケアが必要となる患者の看護（人生の最終段階への関わりも含む）の魅力	111	23.6	123	83.7
新人や中途採用者に対する教育体制がある	291	61.8	135	91.8
ローテーション制度があり、急性期領域から回復期・慢性期まで経験できる	116	24.6	78	53.1
時間外勤務が少ない	268	56.9	39	26.5
看護職員の負担が少なくなるよう配置を多くしている（昼間・夜間問わず）	85	18.0	32	21.8
有給休暇がとりやすい	283	60.1	73	49.7
近隣医療機関と比較して、給与が高い	40	8.5	25	17.0
その他	89	18.9	33	22.4
魅力として発信している内容はない	14	3.0	－	－
無回答・不明	4	0.8	1	0.7

(5) 専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者（看護師）の人数と分野・領域

専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者（看護師）の人数（平均値）は、「全体」では「①専門看護師かつ認定看護師」が0.1人（うち特定行為研修修了者0.0人）、「②専門看護師（①を除く）」が0.3人（うち特定行為研修修了者0.0人）、「③認定看護師（①を除く）」が3.8人（うち特定行為研修修了者0.5人）、「④特定行為研修修了者（専門看護師・認定看護師を除く）」が0.8人であった。

また、①回リハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、どの資格者も「④緩和ケア病棟を有す

る病院」で最も多く、「①専門看護師かつ認定看護師」が0.6人（うち特定行為研修修了者0.1人）、「②専門看護師（①を除く）」が1.5人（うち特定行為研修修了者0.0人）、「③認定看護師（①を除く）」が11.5人（うち特定行為研修修了者1.7人）、「④特定行為研修修了者（専門看護師・認定看護師を除く）」が2.5人であった。

表 48 専門看護師、認定看護師、特定行為研修修了者（看護師）の人数

	全体		①回リハ病棟を有する病院		②地ケア病棟を有する病院	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
①専門看護師かつ認定看護師	0.1	1.0	0.1	0.3	0.1	1.3
うち特定行為研修修了者	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.3
②専門看護師（①を除く）	0.3	1.2	0.2	0.5	0.3	0.6
うち特定行為研修修了者	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
③認定看護師（①を除く）	3.8	5.7	3.2	4.4	4.2	4.4
うち特定行為研修修了者	0.5	1.2	0.4	1.1	0.6	1.1
④特定行為研修修了者 （専門看護師・認定看護師を除く）	0.8	2.8	0.6	2.4	0.8	2.1

	③療養病棟を有する病院		④緩和ケア病棟を有する病院	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
①専門看護師かつ認定看護師	0.0	0.2	0.6	2.5
うち特定行為研修修了者	0.0	0.1	0.1	0.5
②専門看護師（①を除く）	0.1	0.4	1.5	2.8
うち特定行為研修修了者	0.0	0.2	0.0	0.1
③認定看護師（①を除く）	1.1	1.9	11.5	8.9
うち特定行為研修修了者	0.1	0.5	1.7	2.2
④特定行為研修修了者 （専門看護師・認定看護師を除く）	0.2	0.8	2.5	6.2

専門看護師・認定看護師がいる場合のその分野は、「全体」では「感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師」が60.4%で最も多かった。

また、①回リハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、①では「感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師」が55.1%で最も多かった。

②では、「感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師」が64.1%で最も多かった。

③では、「認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師」が37.6%で最も多かった。

④では、「緩和ケア看護認定看護師」が90.6%で最も多かった。

表 49 自院の専門看護師・認定看護師の分野（複数回答）

	全体 (n=651)		①回リハ病棟を 有する病院 (n=296)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=354)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
摂食嚥下障害看護／摂食・嚥下障害看護認定看護師	185	28.4	87	29.4	90	25.4
脳卒中看護／脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	119	18.3	72	24.3	47	13.3
感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師	393	60.4	163	55.1	227	64.1
皮膚・排泄ケア認定看護師	331	50.8	123	41.6	202	57.1
認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師	301	46.2	131	44.3	161	45.5
緩和ケア看護認定看護師	277	42.5	89	30.1	154	43.5
がん性疼痛看護認定看護師、がん薬物療法看護／がん化学療法看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん看護専門看護師	260	39.9	86	29.1	151	42.7
その他の分野の認定看護師、専門看護師	361	55.5	160	54.1	202	57.1

	③療養病棟を 有する病院 (n=197)		④緩和ケア病棟 を有する病院 (n=139)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
摂食嚥下障害看護／摂食・嚥下障害看護認定看護師	25	12.7	55	39.6
脳卒中看護／脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	18	9.1	32	23.0
感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師	70	35.5	109	78.4
皮膚・排泄ケア認定看護師	53	26.9	110	79.1
認知症看護認定看護師、老人看護専門看護師、精神看護専門看護師	74	37.6	86	61.9
緩和ケア看護認定看護師	53	26.9	126	90.6
がん性疼痛看護認定看護師、がん薬物療法看護／がん化学療法看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん看護専門看護師	30	15.2	107	77.0
その他の分野の認定看護師、専門看護師	75	38.1	97	69.8

特定行為研修修了者がいる場合のその分野は、「全体」では「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」が72.9%で最も多かった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、いずれも「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」が最も多く、①では67.7%、②75.0%、③64.6%、④82.5%であった。

表 50 特定行為研修修了者の領域別パッケージ・特定行為研修修了区分（複数回答）

		全体 (n=329)		①回りハ病棟を 有する病院 (n=133)		②地ケア病棟を 有する病院 (n=180)	
		件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
領域別 パッケージ 研修	在宅・慢性期領域	69	21.0	35	26.3	34	18.9
	外科術後病棟管理領域	21	6.4	9	6.8	10	5.6
	術中麻酔管理領域	33	10.0	15	11.3	15	8.3
	救急領域	26	7.9	9	6.8	11	6.1
	外科系基本領域	13	4.0	8	6.0	7	3.9
	集中治療領域	29	8.8	13	9.8	14	7.8
特定行為 研修修了 区分	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	95	28.9	31	23.3	49	27.2
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	119	36.2	45	33.8	57	31.7
	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	98	29.8	47	35.3	53	29.4
	循環器関連	40	12.2	15	11.3	21	11.7
	心臓ドレーン管理関連	27	8.2	14	10.5	16	8.9
	胸腔ドレーン管理関連	39	11.9	15	11.3	21	11.7
	腹腔ドレーン管理関連	45	13.7	14	10.5	24	13.3
	ろう孔管理関連	80	24.3	35	26.3	43	23.9
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	85	25.8	35	26.3	46	25.6
	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	88	26.7	39	29.3	47	26.1
	創傷管理関連	169	51.4	65	48.9	99	55.0
	創部ドレーン管理関連	87	26.4	31	23.3	43	23.9
	動脈血液ガス分析関連	103	31.3	34	25.6	51	28.3
	透析管理関連	35	10.6	13	9.8	25	13.9
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	240	72.9	90	67.7	135	75.0
	感染に係る薬剤投与関連	78	23.7	37	27.8	50	27.8
	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	114	34.7	49	36.8	70	38.9
	術後疼痛管理関連	45	13.7	17	12.8	26	14.4
	循環動態に係る薬剤投与関連	80	24.3	26	19.5	42	23.3
	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	84	25.5	36	27.1	46	25.6
	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	35	10.6	12	9.0	22	12.2

表 50 特定行為研修修了者の領域別パッケージ・特定行為研修修了区分（複数回答）（つづき）

		③療養病棟を有する病院 (n=65)		④緩和ケア病棟を有する病院 (n=97)	
		件数	割合(%)	件数	割合(%)
領域別パッケージ研修	在宅・慢性期領域	25	38.5	15	15.5
	外科術後病棟管理領域	3	4.6	9	9.3
	術中麻酔管理領域	2	3.1	12	12.4
	救急領域	1	1.5	11	11.3
	外科系基本領域	1	1.5	4	4.1
	集中治療領域	2	3.1	11	11.3
特定行為研修修了区分	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	9	13.8	43	44.3
	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	18	27.7	51	52.6
	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	23	35.4	29	29.9
	循環器関連	1	1.5	14	14.4
	心臓ドレーン管理関連	1	1.5	6	6.2
	胸腔ドレーン管理関連	2	3.1	15	15.5
	腹腔ドレーン管理関連	3	4.6	18	18.6
	ろう孔管理関連	13	20.0	25	25.8
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	16	24.6	31	32.0
	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連	15	23.1	32	33.0
	創傷管理関連	30	46.2	57	58.8
	創部ドレーン管理関連	10	15.4	36	37.1
	動脈血液ガス分析関連	10	15.4	44	45.4
	透析管理関連	4	6.2	6	6.2
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	42	64.6	80	82.5
	感染に係る薬剤投与関連	16	24.6	18	18.6
	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	21	32.3	35	36.1
	術後疼痛管理関連	4	6.2	18	18.6
	循環動態に係る薬剤投与関連	7	10.8	39	40.2
	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	19	29.2	22	22.7
	皮膚損傷に係る薬剤投与関連	5	7.7	11	11.3

(6) 院内に設置している医療チーム

院内に設置している、「専門看護師・認定看護師または特定行為研修修了者」及び他の専門職を含む医療チーム（名称や診療報酬の算定の有無は問わない）を尋ねたところ、「全体」では「感染防止対策チーム（ICT）」が 62.9%で最も多く、次いで「褥瘡対策チーム」が 60.2%であった。

また、①回りハ病棟を有する病院、②地ケア病棟を有する病院、③療養病棟を有する病院、④緩和ケア病棟を有する病院別にみると、①②④では「感染防止対策チーム（ICT）」が最も多く、①では 65.7%、②74.9%、④91.8%だった。③では、「褥瘡対策チーム」が 49.5%で最も多かった。

表 51 院内に設置している医療チーム（複数回答）

	全体 (n=1,069)		①回りハ病棟を有する病院 (n=452)		②地ケア病棟を有する病院 (n=450)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
栄養サポートチーム (NST)	527	49.3	246	54.4	281	62.4
感染防止対策チーム (ICT)	672	62.9	297	65.7	337	74.9
褥瘡対策チーム	644	60.2	287	63.5	310	68.9
緩和ケアチーム	297	27.8	104	23.0	180	40.0
摂食嚥下チーム	271	25.4	122	27.0	131	29.1
糖尿病チーム	176	16.5	72	15.9	110	24.4
認知症サポートチーム	390	36.5	178	39.4	208	46.2
心不全チーム	70	6.5	30	6.6	40	8.9
その他	107	10.0	41	9.1	43	9.6

	③療養病棟を有する病院 (n=471)		④緩和ケア病棟を有する病院 (n=147)	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
栄養サポートチーム (NST)	150	31.8	119	81.0
感染防止対策チーム (ICT)	229	48.6	135	91.8
褥瘡対策チーム	233	49.5	132	89.8
緩和ケアチーム	43	9.1	111	75.5
摂食嚥下チーム	69	14.6	59	40.1
糖尿病チーム	40	8.5	42	28.6
認知症サポートチーム	114	24.2	90	61.2
心不全チーム	9	1.9	29	19.7
その他	20	4.2	33	22.4

※「専門看護師・認定看護師または特定行為研修修了看護師」及び他の医療専門職種を含む医療チーム（名称や診療報酬の算定の有無は問わない）

Ⅱ 調査結果—回復期リハビリテーション病棟調査票

1. 回答病棟の基本情報

(注) 以下では、回復期リハビリテーション病棟の状況を記載。また 1 病院で複数の回復期リハビリテーション病棟を有する場合は、合算したデータでの回答を求めており、回答数＝回答病院数となっている。但し、複数種類の入院料を算定している場合は、入院料 1 又は入院料 2 の病棟について回答を求めた。

(1) 算定入院料

算定している回復期リハビリテーション病棟入院料は、「入院料 1」が 69.2%で最も多く、次いで「入院料 3」が 18.8%であった。

表 52 算定している回復期リハビリテーション病棟入院料

	件数	割合 (%)
計	452	100.0
入院料 1	313	69.2
入院料 2	37	8.2
入院料 3	85	18.8
入院料 4	10	2.2
入院料 5	11	2.4
無回答・不明	10	2.2

※「無回答・不明」は、病院票で「回復期リハビリテーション病棟入院料」を算定していると回答したが、病棟票でその種類の回答が無かった病院。

(2) 病棟数・稼働病床数

回復期リハビリテーション病棟の数は、入院料 1 では、「1 病棟」が 62.0%で最も多く、次いで「2 病棟」が 19.2%で、平均は 1.5 病棟であった。

表 53 回復期リハビリテーション病棟数

	計	1 病棟	2 病棟	3 病棟	4 病棟	5 病棟	6 病棟以上	無回答・不明	平均 (病棟)
計	452 100.0	303 67.0	68 15.0	31 6.9	9 2.0	2 0.4	1 0.2	38 8.4	1.4
入院料 1	313 100.0	194 62.0	60 19.2	26 8.3	9 2.9	1 0.3	1 0.3	22 7.0	1.5
入院料 2	37 100.0	25 67.6	3 8.1	5 13.5	— —	1 2.7	— —	3 8.1	1.5
入院料 3	76 100.0	64 84.2	3 3.9	— —	— —	— —	— —	9 11.8	1.0
入院料 4	8 100.0	6 75.0	1 12.5	— —	— —	— —	— —	1 12.5	1.1
入院料 5	8 100.0	8 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1.0
無回答・不明	10 100.0	6 60.0	1 10.0	— —	— —	— —	— —	3 30.0	1.1

回復期リハビリテーション病棟の稼働病床数（合計数）は、入院料 1 では、「40～60 床未満」が 47.6%で最も多く、次いで「100 床以上」が 22.4%で、平均は 72.5 床であった。

表 54 回復期リハビリテーション病棟の稼働病床数（合計数）

	計	20 床 未満	20～ 40 床 未満	40～ 60 床 未満	60～ 80 床 未満	80～ 100 床 未満	100 床 以上	無回答 ・不明	平均 (床)
計	452 100.0	3 0.7	88 19.5	203 44.9	45 10.0	28 6.2	80 17.7	5 1.1	64.7
入院料 1	313 100.0	1 0.3	30 9.6	149 47.6	34 10.9	27 8.6	70 22.4	2 0.6	72.5
入院料 2	37 100.0	－ －	5 13.5	17 45.9	7 18.9	1 2.7	7 18.9	－ －	66.8
入院料 3	76 100.0	1 1.3	41 53.9	30 39.5	3 3.9	－ －	1 1.3	－ －	38.7
入院料 4	8 100.0	－ －	5 62.5	2 25.0	－ －	－ －	1 12.5	－ －	43.0
入院料 5	8 100.0	1 12.5	5 62.5	2 25.0	－ －	－ －	－ －	－ －	31.1
無回答・不明	10 100.0	－ －	2 20.0	3 30.0	1 10.0	－ －	1 10.0	3 30.0	57.3

(3) 稼働状況

調査時点（令和 4 年 11 月）の患者の入院・入棟／退院・退棟の状況は、入院料 1 の病棟では在棟患者延べ数が平均 1,958.1 人、新規入院患者は平均 21.6 人、新規入棟患者（自施設内の転棟患者）は平均 12.2 人、退院患者は平均 30.0 人、退棟患者（自施設内の転棟患者）は平均 3.4 人であった。

表 55 患者の入院・入棟／退院・退棟状況

	11 月の在棟 患者延べ数		11 月の新規 入院患者数		11 月の新規 入棟患者数 (自施設内の転棟)		11 月の 退院患者数		11 月の 退棟患者数 (自施設内の転棟)	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=452)	1,704.4	1,179.5	18.3	20.2	12.4	15.3	26.6	17.2	3.0	9.3
入院料 1 (n=313)	1,958.1	1,257.5	21.6	22.0	12.2	16.9	30.0	18.3	3.4	10.8
入院料 2 (n=37)	1,612.0	1,000.5	18.0	16.7	7.9	10.7	21.9	14.3	2.0	2.8
入院料 3 (n=76)	923.9	348.4	7.4	8.4	14.3	10.8	17.2	8.3	1.9	3.5
入院料 4 (n=8)	1,012.5	477.5	8.1	12.2	13.5	11.1	16.6	12.0	1.1	1.3
入院料 5 (n=8)	749.1	378.7	7.4	6.7	16.5	12.3	20.9	12.1	6.8	10.6
無回答・不明 (n=10)	1,710.8	977.3	18.0	11.5	15.8	7.2	28.5	13.6	2.9	2.2

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

第2章 調査票別調査結果―回復期リハビリテーション病棟調査票

調査時点（令和4年11月）の退院患者に占める死亡退院した患者割合は、入院料1の病棟では「0%」が37.1%で最も多く、次いで「0%超～0.5%未満」が21.1%で、平均は0.7%であった。

表 56 死亡退院割合

	計	0%	0%超～ 0.5% 未満	0.5～ 1.0% 未満	1.0～ 1.5% 未満	1.5～ 2.0% 未満	2.0% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	452 100.0	179 39.6	80 17.7	55 12.2	38 8.4	13 2.9	47 10.4	40 8.8	0.8
入院料1	313 100.0	116 37.1	66 21.1	42 13.4	28 8.9	9 2.9	28 8.9	24 7.7	0.7
入院料2	37 100.0	12 32.4	1 2.7	3 8.1	4 10.8	2 5.4	12 32.4	3 8.1	1.8
入院料3	76 100.0	39 51.3	12 15.8	8 10.5	5 6.6	1 1.3	5 6.6	6 7.9	0.7
入院料4	8 100.0	4 50.0	－ －	2 25.0	－ －	－ －	1 12.5	1 12.5	0.5
入院料5	8 100.0	5 62.5	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 37.5	0.0
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	1 10.0	－ －	1 10.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	1.3

調査時点（令和4年11月）の平均在棟日数は、入院料1の病棟では「40～60日未満」が35.5%で最も多く、次いで「60～80日未満」が34.5%で、平均は62.0日であった。

表 57 平均在棟日数

	計	20日 未満	20～ 40日 未満	40～ 60日 未満	60～ 80日 未満	80～ 100日 未満	100日 以上	無回答 ・不明	平均 (日)
計	452 100.0	7 1.5	63 13.9	156 34.5	144 31.9	38 8.4	21 4.6	23 5.1	60.6
入院料1	313 100.0	3 1.0	32 10.2	111 35.5	108 34.5	27 8.6	13 4.2	19 6.1	62.0
入院料2	37 100.0	－ －	3 8.1	8 21.6	15 40.5	7 18.9	4 10.8	－ －	71.9
入院料3	76 100.0	2 2.6	22 28.9	30 39.5	13 17.1	3 3.9	4 5.3	2 2.6	52.8
入院料4	8 100.0	1 12.5	－ －	－ －	6 75.0	1 12.5	－ －	－ －	65.5
入院料5	8 100.0	1 12.5	4 50.0	3 37.5	－ －	－ －	－ －	－ －	34.7
無回答・不明	10 100.0	－ －	2 20.0	4 40.0	2 20.0	－ －	－ －	2 20.0	49.8

※平均在棟日数＝在棟患者延べ人数÷（新規入院・入棟患者数＋退院・退棟患者数）×2

調査時点（令和４年１１月）の病床稼働率は、入院料１の病棟では「90%以上」が50.5%で最も多く、次いで「80～90%未満」が25.6%で、平均は88.1%であった。

表 58 病床稼働率

	計	50%未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90%以上	無回答・ 不明	平均 (%)
計	452 100.0	8 1.8	17 3.8	22 4.9	69 15.3	114 25.2	200 44.2	22 4.9	85.8
入院料１	313 100.0	2 0.6	8 2.6	11 3.5	36 11.5	80 25.6	158 50.5	18 5.8	88.1
入院料２	37 100.0	1 2.7	－ －	4 10.8	12 32.4	8 21.6	12 32.4	－ －	82.4
入院料３	76 100.0	3 3.9	9 11.8	7 9.2	14 18.4	18 23.7	24 31.6	1 1.3	80.0
入院料４	8 100.0	－ －	－ －	－ －	5 62.5	2 25.0	1 12.5	－ －	80.6
入院料５	8 100.0	1 12.5	－ －	－ －	2 25.0	3 37.5	2 25.0	－ －	77.7
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	－ －	－ －	－ －	3 30.0	3 30.0	3 30.0	84.1

(4) 看護情報提供書の提供状況

調査時点（令和４年１１月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数及び提供患者割合は、入院料１の病棟では、提供患者数は平均20.7人、提供割合は平均68.4%であった。

表 59 看護情報提供書の提供状況

	提供患者数（実人数）（人）		提供患者割合（％）	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
計（n=452）	17.7	17.3	65.9	32.0
入院料１（n=313）	20.7	19.0	68.4	32.1
入院料２（n=37）	14.2	13.3	69.1	32.1
入院料３（n=76）	9.4	6.6	57.0	30.2
入院料４（n=8）	9.1	6.0	72.6	29.2
入院料５（n=8）	6.6	2.0	49.0	30.0
無回答・不明（n=10）	16.4	14.8	54.4	28.3

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

調査時点（令和4年11月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）について、入院期間中の退院に向けた複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数（記録に残しているもの）を尋ねた。

「①病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンス」の11月の実施延べ回数は、入院料1の病棟では、平均59.9回、退院患者（死亡退院を除く）1人あたり回数は平均2.6回であった。

一方、「②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス」の実施延べ回数は、入院料1の病棟では、平均10.6回、退院患者（死亡退院を除く）1人あたり回数は平均0.4回であった。

表 60 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

	①院内カンファレンス				②地域カンファレンス			
	実施延べ回数		1人あたり回数		実施延べ回数		1人あたり回数	
	平均 (回)	標準偏差	平均 (回)	標準偏差	平均 (回)	標準偏差	平均 (回)	標準偏差
計 (n=452)	63.0	23.6	2.4	3.4	9.2	12.2	0.4	0.5
入院料1 (n=313)	59.9	87.8	2.6	3.9	10.6	13.8	0.4	0.4
入院料2 (n=37)	71.2	100.8	2.2	2.1	7.4	8.5	0.4	0.6
入院料3 (n=76)	41.4	39.6	1.9	1.9	6.1	5.9	0.4	0.4
入院料4 (n=8)	31.1	34.4	0.8	0.4	4.3	7.0	0.2	0.2
入院料5 (n=8)	10.6	8.6	1.7	1.3	5.6	4.4	0.4	0.4
無回答・不明 (n=10)	30.8	30.7	2.4	0.9	6.1	3.5	0.2	0.1

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(6) 在宅復帰率

調査時点（令和4年11月）に厚生局に届出を行った「在宅復帰率（直近6か月）」を尋ねたところ、入院料1の病棟では「80～90%未満」が51.8%で最も多く、次いで「90%以上」が37.1%で、平均は87.3%であった。

表 61 在宅復帰率（直近6か月）

	計	70%未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	452 100.0	10 2.2	48 10.6	210 46.5	171 37.8	13 2.9	87.2
入院料1	313 100.0	5 1.6	26 8.3	162 51.8	116 37.1	4 1.3	87.3
入院料2	37 100.0	－ －	8 21.6	21 56.8	8 21.6	－ －	85.5
入院料3	76 100.0	4 5.3	11 14.5	22 28.9	38 50.0	1 1.3	87.7
入院料4	8 100.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	3 37.5	－ －	83.0
入院料5	8 100.0	－ －	－ －	－ －	2 25.0	6 75.0	97.5
無回答・不明	10 100.0	－ －	2 20.0	2 20.0	4 40.0	2 20.0	88.3

(7) リハビリテーションの実績

調査時点（令和4年11月）に厚生局に届出を行った「リハビリテーション実績指数」を尋ねたところ、入院料1の病棟では「40～50未満」が40.9%で最も多く、次いで「50～60未満」が36.1%で、平均は51.8であった。

表 62 リハビリテーション実績指数

	計	40 未満	40～ 50 未満	50～ 60 未満	60～ 70 未満	70～ 80 未満	80 以上	無回答・ 不明	平均
計	452 100.0	53 11.7	173 38.3	132 29.2	46 10.2	15 3.3	10 2.2	23 5.1	50.2
入院料 1	313 100.0	9 2.9	128 40.9	113 36.1	35 11.2	8 2.6	5 1.6	15 4.8	51.8
入院料 2	37 100.0	21 56.8	11 29.7	4 10.8	－ －	－ －	－ －	1 2.7	37.7
入院料 3	76 100.0	14 18.4	30 39.5	11 14.5	9 11.8	6 7.9	4 5.3	2 2.6	51.5
入院料 4	8 100.0	7 87.5	－ －	1 12.5	－ －	－ －	－ －	－ －	29.6
入院料 5	8 100.0	1 12.5	2 25.0	－ －	1 12.5	－ －	1 12.5	3 37.5	53.4
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	－ －	2 20.0	53.5

調査時点（令和4年11月）に厚生局へ届出を行った「直近6か月間に退院した患者で、入院時の判定で重症だった患者のうち、退院時に日常生活機能評価又はFIM総得点で基準以上に改善した患者の割合」を尋ねたところ、入院料1の病棟では「60～70%未満」が27.5%で最も多く、次いで「70～80%未満」が23.3%で、平均は65.5%であった。

表 63 日常生活機能評価又はFIM総得点で基準（※）以上に改善した患者割合

	計	50%未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90%以上	無回答・ 不明	平均 (%)
計	452 100.0	55 12.2	91 20.1	124 27.4	97 21.5	42 9.3	26 5.8	17 3.8	65.5
入院料 1	313 100.0	33 10.5	70 22.4	86 27.5	73 23.3	30 9.6	13 4.2	8 2.6	65.5
入院料 2	37 100.0	8 21.6	7 18.9	14 37.8	6 16.2	－ －	2 5.4	－ －	61.8
入院料 3	76 100.0	10 13.2	12 15.8	18 23.7	16 21.1	8 10.5	10 13.2	2 2.6	67.7
入院料 4	8 100.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	－ －	3 37.5	－ －	－ －	68.5
入院料 5	8 100.0	2 25.0	－ －	－ －	1 12.5	－ －	－ －	5 62.5	51.6
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	1 10.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	67.1

※退院時に入院時と比較して、

入院料1・2：日常生活機能評価で4点以上又はFIM総得点で16点以上の改善

入院料3～5：日常生活機能評価で3点以上又はFIM総得点で12点以上の改善

(8) 体制強化加算の算定状況

入院料1又は2を算定している場合に、体制強化加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料1では67.1%が加算1を、9.9%が加算2を算定していた。

表 64 体制強化加算の算定状況

	計	加算1を算定	加算2を算定	算定していない	無回答・不明
計	350 100.0	225 64.3	40 11.4	81 23.1	4 1.1
入院料1	313 100.0	210 67.1	31 9.9	68 21.7	4 1.3
入院料2	37 100.0	15 40.5	9 24.3	13 35.1	－ －

(9) 休日リハビリテーション提供体制加算の算定状況

入院料3又は4を算定している場合に、休日リハビリテーション提供体制加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料3では56.6%、入院料4では62.5%が算定していた。

表 65 休日リハビリテーション提供体制加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	84 100.0	48 57.1	34 40.5	2 2.4
入院料3	76 100.0	43 56.6	31 40.8	2 2.6
入院料4	8 100.0	5 62.5	3 37.5	－ －

2. 回答病棟における在棟患者の状況

(1) 11月1日24時時点の入院患者数

令和4年11月1日24時時点で回復期リハビリテーション病棟に入院している患者数は、入院料1では「60人以上」が32.3%で最も多く、平均は63.4人であった。

うち、算定要件に該当しない患者割合は、入院料1では「0%」が64.2%で最も多く、次いで「2～4%未満」が8.3%で、平均は1.7%であった。

表 66 11月1日24時時点の入院患者数

	計	20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40～50人未満	50～60人未満	60人以上	無回答・不明	平均(人)
計	452 100.0	19 4.2	67 14.8	100 22.1	96 21.2	54 11.9	113 25.0	3 0.7	55.4
入院料1	313 100.0	1 0.3	26 8.3	67 21.4	72 23.0	45 14.4	101 32.3	1 0.3	63.4
入院料2	37 100.0	– –	5 13.5	8 21.6	11 29.7	6 16.2	7 18.9	– –	52.8
入院料3	76 100.0	13 17.1	31 40.8	18 23.7	10 13.2	2 2.6	2 2.6	– –	29.2
入院料4	8 100.0	1 12.5	2 25.0	4 50.0	– –	– –	1 12.5	– –	34.9
入院料5	8 100.0	3 37.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	– –	– –	– –	23.1
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	– –	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	57.5

表 67 算定要件に該当しない患者割合

	計	0%	0%超～2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	293 64.8	20 4.4	42 9.3	17 3.8	14 3.1	25 5.5	41 9.1	1.9
入院料1	313 100.0	201 64.2	18 5.8	26 8.3	13 4.2	11 3.5	15 4.8	29 9.3	1.7
入院料2	37 100.0	22 59.5	1 2.7	8 21.6	2 5.4	1 2.7	2 5.4	1 2.7	2.0
入院料3	76 100.0	49 64.5	1 1.3	6 7.9	2 2.6	2 2.6	7 9.2	9 11.8	2.2
入院料4	8 100.0	7 87.5	– –	1 12.5	– –	– –	– –	– –	0.4
入院料5	8 100.0	7 87.5	– –	– –	– –	– –	1 12.5	– –	12.5
無回答・不明	10 100.0	7 70.0	– –	1 10.0	– –	– –	– –	2 20.0	0.4

(2) 入院患者の状態

調査時点（令和4年11月）の回復期リハビリテーション病棟に入院している患者の状態は、入院料1では「脳血管疾患等の発症後等の状態」が46.3%で最も多く、次いで「骨折等の発症後又は手術後の状態」が33.9%であった。

表 68 入院患者の状態別該当患者割合（平均値）

	脳血管疾患等の 発症後等の状態 (※1)	骨折等の発症後 又は手術後の状態 (※2)	廃用症候群を有する 手術後の状態 (※3)	神経、筋又は靱帯損傷 後の状態 (※4)	股関節又は膝関節の 置換術後の状態	心大血管疾患後の 状態 (※5)	それ以外（算定要件に あてはまらない）
計（n=452）	42.0%	36.0%	7.4%	1.8%	5.8%	0.2%	1.8%
入院料1（n=313）	46.3%	33.9%	6.8%	1.3%	4.9%	0.2%	1.7%
入院料2（n=37）	43.0%	32.7%	11.1%	0.8%	3.4%	0.0%	1.8%
入院料3（n=76）	30.7%	42.7%	6.9%	3.6%	9.1%	0.3%	1.8%
入院料4（n=8）	25.9%	51.9%	10.9%	0.0%	8.6%	0.0%	2.2%
入院料5（n=8）	18.7%	46.0%	12.9%	8.0%	14.1%	0.0%	0.4%
無回答・不明（n=10）	23.3%	44.3%	9.3%	2.1%	9.8%	0.0%	6.5%

※1 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態

※2 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は2肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態

※3 外科手術後又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態

※4 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態

※5 急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態

※n数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(3) 令和3年度の新規入院患者数と入院元の内訳

令和3年度の新規入院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料1の病棟では「300人以上」が48.6%で最も多く、次いで「200～300人未満」が30.4%で、平均は371.9人であった。

新規入院患者の入院元（令和3年度）は、入院料1の病棟では「他の病院・診療所からの転院」が55.2%で最も多く、次いで「院内からの転棟」が41.4%であった。

表 69 令和3年度の新規入院患者数

	計	100人未満	100～200人未満	200～300人未満	300人以上	無回答・不明	平均(人)
計	452 100.0	32 7.1	79 17.5	136 30.1	184 40.7	21 4.6	331.0
入院料1	313 100.0	13 4.2	39 12.5	95 30.4	152 48.6	14 4.5	371.9
入院料2	37 100.0	3 8.1	8 21.6	14 37.8	11 29.7	1 2.7	272.3
入院料3	76 100.0	11 14.5	26 34.2	23 30.3	13 17.1	3 3.9	216.6
入院料4	8 100.0	1 12.5	4 50.0	1 12.5	2 25.0	— —	212.4
入院料5	8 100.0	4 50.0	— —	1 12.5	2 25.0	1 12.5	155.7
無回答・不明	10 100.0	— —	2 20.0	2 20.0	4 40.0	2 20.0	381.0

表 70 新規入院患者（令和3年度）の入院元別割合（平均値）

	院内からの転棟	家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院	介護施設からの入院	介護医療院からの入院	その他
計 (n=452)	46.2%	3.0%	50.0%	0.6%	0.0%	0.2%
入院料1 (n=313)	41.4%	2.7%	55.2%	0.7%	0.0%	0.1%
入院料2 (n=37)	27.3%	3.7%	67.9%	0.9%	0.1%	0.1%
入院料3 (n=76)	70.1%	3.4%	25.8%	0.1%	0.0%	0.6%
入院料4 (n=8)	66.9%	1.6%	31.5%	0.0%	0.0%	0.0%
入院料5 (n=8)	72.9%	0.3%	26.8%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答・不明 (n=10)	54.6%	10.8%	33.4%	0.9%	0.0%	0.3%

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(4) 令和3年度の退院患者数と退院先の内訳

令和3年度の退院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料1の病棟では「200～400人未満」が48.2%で最も多く、次いで「400～600人未満」が18.2%で、平均は375.3人であった。

退院患者の退院先（令和3年度）は、入院料1の病棟では「家庭へ退院」が68.1%で最も多く、次いで「他の病院・診療所へ転院」が8.7%であった。

表 71 令和3年度の退院患者数

	計	200人未満	200～400人未満	400～600人未満	600～800人未満	800人以上	無回答・不明	平均(人)
計	452 100.0	114 25.2	207 45.8	62 13.7	25 5.5	19 4.2	25 5.5	331.1
入院料1	313 100.0	53 16.9	151 48.2	57 18.2	21 6.7	17 5.4	14 4.5	375.3
入院料2	37 100.0	12 32.4	19 51.4	1 2.7	3 8.1	－ －	2 5.4	254.8
入院料3	76 100.0	38 50.0	30 39.5	1 1.3	1 1.3	1 1.3	5 6.6	209.7
入院料4	8 100.0	6 75.0	1 12.5	1 12.5	－ －	－ －	－ －	211.4
入院料5	8 100.0	4 50.0	2 25.0	1 12.5	－ －	－ －	1 12.5	154.3
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	4 40.0	1 10.0	－ －	1 10.0	3 30.0	370.3

表 72 退院患者（令和3年度）の退院先別割合（平均値）

	転院 棟内の 他の病 棟へ	家庭 へ退 院	転院 他の 病院・ 診療所 へ	介護 老人 保健施 設に 入所	介護 老人 福祉施 設に 入所	介護 医療院 に入所	老人 社会 福祉 施設・ 有料 等に入 所	死亡 退院	その他
計 (n=452)	6.1%	68.4%	8.0%	6.4%	2.9%	0.4%	6.7%	0.8%	0.3%
入院料1 (n=313)	6.0%	68.1%	8.7%	6.5%	2.6%	0.4%	6.7%	0.7%	0.3%
入院料2 (n=37)	7.0%	61.7%	9.8%	5.9%	4.5%	1.1%	8.2%	1.8%	0.1%
入院料3 (n=76)	5.8%	72.0%	5.2%	6.3%	2.8%	0.3%	6.7%	0.7%	0.3%
入院料4 (n=8)	8.9%	59.9%	6.9%	6.7%	7.5%	0.5%	8.7%	0.5%	0.4%
入院料5 (n=8)	4.4%	89.9%	2.4%	1.6%	1.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%
無回答・不明 (n=10)	7.8%	70.6%	4.6%	6.0%	3.6%	0.0%	5.5%	1.3%	0.6%

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(5) 直近 6 か月の重症の新規入院患者の割合

調査時点（令和 4 年 11 月）に厚生局へ届出を行った直近 6 か月間の「重症の新規入院患者の割合」については、入院料 1 では、「40～60%未満」が 80.8%で最も多く、次いで「60～80%未満」が 8.9%で、平均は 50.4%であった。

表 73 直近 6 か月間の重症の新規入院患者の割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均 (%)
計	452 100.0	2 0.4	55 12.2	320 70.8	36 8	14 3.1	25 5.5	49.0
入院料 1	313 100.0	1 0.3	12 3.8	253 80.8	28 8.9	7 2.2	12 3.8	50.4
入院料 2	37 100.0	－ －	1 2.7	30 81.1	4 10.8	2 5.4	－ －	51.4
入院料 3	76 100.0	1 1.3	38 50	28 36.8	3 3.9	3 3.9	3 3.9	41.1
入院料 4	8 100.0	－ －	3 37.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	－ －	51.6
入院料 5 (※)	8 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	8 100.0	－ －
無回答・不明	10 100.0	－ －	1 10	6 60	－ －	1 10	2 20	51.3

※入院料 5 では、厚生局に上記届出を行っていないため、本問への回答なし。

(6) 75 歳以上の患者割合

令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で入院している患者のうち、75 歳以上の患者割合は、入院料 1 の病棟では「70～80%未満」が 28.4%で最も多く、次いで「60～70%未満」が 25.9%で、平均は 67.4%であった。

表 74 75 歳以上患者割合

	計	50%未満	50～60%未満	60～70%未満	70～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均 (%)
計	452 100.0	42 9.3	48 10.6	119 26.3	122 27.0	93 20.6	28 6.2	68.8
入院料 1	313 100.0	35 11.2	38 12.1	81 25.9	89 28.4	53 16.9	17 5.4	67.4
入院料 2	37 100.0	1 2.7	2 5.4	12 32.4	8 21.6	13 35.1	1 2.7	73.6
入院料 3	76 100.0	3 3.9	7 9.2	19 25.0	17 22.4	24 31.6	6 7.9	72.6
入院料 4	8 100.0	1 12.5	－ －	3 37.5	1 12.5	3 37.5	－ －	72.1
入院料 5	8 100.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	－ －	1 12.5	55.9
無回答・不明	10 100.0	－ －	－ －	3 30.0	4 40.0	－ －	3 30.0	71.7

(7) 認知症の評価状況と認知症患者割合

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況は、入院料 1 では「評価している」が 56.9%であった。

表 75 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況

	計	評価して いる	評価して いない	無回答 ・不明
計	452 100.0	252 55.8	92 20.4	108 23.9
入院料 1	313 100.0	178 56.9	55 17.6	80 25.6
入院料 2	37 100.0	23 62.2	6 16.2	8 21.6
入院料 3	76 100.0	38 50.0	23 30.3	15 19.7
入院料 4	8 100.0	4 50.0	4 50.0	— —
入院料 5	8 100.0	6 75.0	2 25.0	— —
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	2 20.0	5 50.0

評価を行っている場合は、認知症高齢者の自立度判定基準別（Ⅰ～Ⅴ）別に人数を尋ねた。令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で入院している患者のうち、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上の患者割合は、入院料 1 の病棟では「20～30%未満」が 19.7%で最も多く、次いで「30～40%未満」が 18.5%で、平均は 28.3%であった。

ランク別人数としては、入院料 1 ではランクⅢが最も多く、ランクⅤ該当者は中央値で 0 人だった。

表 76 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上患者割合

	計	10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30～40% 未満	40～50% 未満	50% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	252 100.0	34 13.5	40 15.9	44 17.5	44 17.5	24 9.5	23 9.1	43 17.1	27.9
入院料 1	178 100.0	21 11.8	30 16.9	35 19.7	33 18.5	16 9.0	17 9.6	26 14.6	28.3
入院料 2	23 100.0	2 8.7	2 8.7	3 13.0	7 30.4	2 8.7	3 13.0	4 17.4	32.2
入院料 3	38 100.0	10 26.3	4 10.5	6 15.8	2 5.3	5 13.2	1 2.6	10 26.3	22.0
入院料 4	4 100.0	— —	1 25.0	— —	1 25.0	— —	2 50.0	— —	44.2
入院料 5	6 100.0	1 16.7	2 33.3	— —	— —	— —	— —	3 50.0	11.4
無回答・不明	3 100.0	— —	1 33.3	— —	1 33.3	1 33.3	— —	— —	31.3

※ランクⅢ又はⅣ又はⅤに該当する患者割合を記載。

表 77 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランク別の人数（中央値）

(単位：人)	ランク				
	I	II	III	IV	M
計	4	7	7	2	0
入院料 1	5	8	10	2	0
入院料 2	5	9	10	3	0
入院料 3	3	4	3	1	0
入院料 4	3	6	6	3.5	0
入院料 5	4	2	2.5	10	0

(8) 新規褥瘡発生の状況

調査時点（令和 4 年 11 月）の入院実患者のうち、d2 以上の新規褥瘡を発生した患者割合は、入院料 1 の病棟では「0%」が 67.1%で最も多く、次いで「1～2%未満」が 16.2%で、平均は 0.6%であった。

表 78 d2 以上の新規褥瘡発生割合

	計	0%	0%超～ 1%未満	1～2% 未満	2～3% 未満	3～4% 未満	4%以上	平均 (%)
計	322 100.0	221 68.6	19 5.9	46 14.3	18 5.6	7 2.2	11 3.4	0.7
入院料 1	222 100.0	149 67.1	17 7.7	36 16.2	12 5.4	2 0.9	6 2.7	0.6
入院料 2	27 100.0	15 55.6	1 3.7	6 22.2	1 3.7	2 7.4	2 7.4	1.0
入院料 3	56 100.0	43 76.8	— —	3 5.4	4 7.1	3 5.4	3 5.4	0.7
入院料 4	4 100.0	4 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	0.0
入院料 5	6 100.0	6 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	0.0
無回答・不明	7 100.0	4 57.1	1 14.3	1 14.3	1 14.3	— —	— —	0.7

※構成比は、新規褥瘡発生割合「無回答・不明」を除外して算出。

(9) 身体的拘束の状況

調査時点（令和4年11月）に身体的拘束をした実患者数は、入院料1の病棟では平均18.1人で、一人あたりの平均拘束日数は平均16.6日であった。

表 79 11月に身体的拘束をした患者数・平均拘束日数

	実患者数		延べ患者数		一人あたりの平均拘束日数	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（日）	標準偏差
計（n=452）	15.3	32.6	247.7	340.9	16.8	9.2
入院料1（n=313）	18.1	38.4	281.3	371.6	16.6	8.9
入院料2（n=37）	13.2	12.7	259.0	302.3	18.1	10.4
入院料3（n=76）	6.9	6.5	121.2	136.3	16.3	9.2
入院料4（n=8）	10.0	11.5	249.8	308.5	21.2	10.3
入院料5（n=8）	5.0	4.4	70.3	84.2	16.1	8.9
無回答・不明（n=10）	14.6	18.0	318.1	505.1	22.1	8.7

※平均拘束日数＝身体的拘束をした延べ患者数÷身体的拘束をした実人数

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

※本調査における身体的拘束の定義は次の通り。

「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの器具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言う（診療報酬の認知症ケア加算の定義と同じ）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内在型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含む。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まない。4点柵の使用も含まない。

調査時点（令和4年11月）に身体的拘束を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「0%超～10%未満」が26.8%で最も多く、次いで「10～20%未満」が20.8%で、平均は18.4%であった。

表 80 身体的拘束実施患者割合

	計	0%	0%超～ 10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30～40% 未満	40% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	452 100.0	44 9.7	120 26.5	94 20.8	73 16.2	40 8.8	42 9.3	39 8.6	18.1
入院料1	313 100.0	24 7.7	84 26.8	65 20.8	47 15.0	34 10.9	27 8.6	32 10.2	18.4
入院料2	37 100.0	3 8.1	11 29.7	10 27.0	6 16.2	3 8.1	4 10.8	－ －	18.3
入院料3	76 100.0	11 14.5	22 28.9	15 19.7	15 19.7	2 2.6	7 9.2	4 5.3	16.4
入院料4	8 100.0	3 37.5	－ －	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	－ －	25.6
入院料5	8 100.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	－ －	1 12.5	－ －	16.0
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	－ －	1 10.0	3 30.0	17.9

※身体的拘束実施患者割合＝身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数

(10) 器具の装着や処置等の状況

令和4年11月1日24時時点で入院している患者が、11月1日の状態として、どのような器具の装着や処置等がされていたかを尋ねた。

点滴（持続的静脈注射）を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が53.4%で最も多く、平均は2.7%であった。

表 81 点滴（持続的静脈注射）の実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	200 44.2	218 48.2	18 4.0	3 0.7	— —	13 2.9	2.7
入院料1	313 100.0	125 39.9	167 53.4	11 3.5	2 0.6	— —	8 2.6	2.7
入院料2	37 100.0	9 24.3	26 70.3	1 2.7	— —	— —	1 2.7	3.2
入院料3	76 100.0	51 67.1	19 25.0	3 3.9	1 1.3	— —	2 2.6	2.0
入院料4	8 100.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5	— —	— —	— —	4.2
入院料5	8 100.0	7 87.5	1 12.5	— —	— —	— —	— —	1.0
無回答・不明	10 100.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	— —	— —	2 20.0	4.6

経鼻経管栄養を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が54.6%で最も多く、平均は5.3%であった。

表 82 経鼻経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	144 31.9	222 49.1	67 14.8	2 0.4	2 0.4	15 3.3	4.8
入院料1	313 100.0	75 24.0	171 54.6	55 17.6	1 0.3	1 0.3	10 3.2	5.3
入院料2	37 100.0	8 21.6	21 56.8	6 16.2	1 2.7	1 2.7	— —	7.4
入院料3	76 100.0	51 67.1	20 26.3	3 3.9	— —	— —	2 2.6	1.7
入院料4	8 100.0	2 25.0	5 62.5	1 12.5	— —	— —	— —	5.2
入院料5	8 100.0	5 62.5	1 12.5	1 12.5	— —	— —	1 12.5	2.4
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	— —	— —	2 20.0	2.9

胃ろうもしくは腸ろう経管栄養を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が48.9%で最も多く、平均は2.0%であった。

表 83 胃ろうもしくは腸ろう経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	452 100.0	225 49.8	203 44.9	8 1.8	1 0.2	－ －	15 3.3	1.9
入院料 1	313 100.0	145 46.3	153 48.9	6 1.9	－ －	－ －	9 2.9	2.0
入院料 2	37 100.0	15 40.5	20 54.1	1 2.7	－ －	－ －	1 2.7	2.4
入院料 3	76 100.0	49 64.5	23 30.3	1 1.3	1 1.3	－ －	2 2.6	1.9
入院料 4	8 100.0	4 50.0	4 50.0	－ －	－ －	－ －	－ －	2.0
入院料 5	8 100.0	7 87.5	－ －	－ －	－ －	－ －	1 12.5	0.0
無回答・不明	10 100.0	5 50.0	3 30.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0	1.5

心電図モニターを装着中の患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が56.2%で最も多く、平均は1.9%であった。

表 84 心電図モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	452 100.0	269 59.5	152 33.6	12 2.7	2 0.4	1 0.2	16 3.5	1.9
入院料 1	313 100.0	176 56.2	117 37.4	6 1.9	2 0.6	1 0.3	11 3.5	1.9
入院料 2	37 100.0	25 67.6	12 32.4	－ －	－ －	－ －	－ －	1.1
入院料 3	76 100.0	52 68.4	17 22.4	5 6.6	－ －	－ －	2 2.6	2.1
入院料 4	8 100.0	6 75.0	2 25.0	－ －	－ －	－ －	－ －	0.8
入院料 5	8 100.0	6 75.0	－ －	1 12.5	－ －	－ －	1 12.5	1.5
無回答・不明	10 100.0	4 40.0	4 40.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0	2.4

SpO2 モニターを装着中の患者割合は、入院料 1 の病棟では「1%未満」が 62.6%で最も多く、平均は 1.7%であった。

表 85 SpO2 モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	302 66.8	123 27.2	4 0.9	5 1.1	1 0.2	17 3.8	1.6
入院料 1	313 100.0	196 62.6	99 31.6	3 1.0	2 0.6	1 0.3	12 3.8	1.7
入院料 2	37 100.0	29 78.4	8 21.6	－ －	－ －	－ －	－ －	0.8
入院料 3	76 100.0	61 80.3	10 13.2	1 1.3	2 2.6	－ －	2 2.6	1.5
入院料 4	8 100.0	7 87.5	1 12.5	－ －	－ －	－ －	－ －	0.4
入院料 5	8 100.0	6 75.0	－ －	－ －	1 12.5	－ －	1 12.5	3.0
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	5 50.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0	2.2

痰の吸引を実施した患者割合は、入院料 1 の病棟では「1～10%未満」が 59.1%で最も多く、平均は 6.7%であった。

表 86 痰の吸引を実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	97 21.5	245 54.2	86 19.0	9 2.0	3 0.7	12 2.7	6.2
入院料 1	313 100.0	46 14.7	185 59.1	66 21.1	6 1.9	2 0.6	8 2.6	6.7
入院料 2	37 100.0	4 10.8	21 56.8	9 24.3	2 5.4	1 2.7	－ －	9.0
入院料 3	76 100.0	37 48.7	31 40.8	5 6.6	1 1.3	－ －	2 2.6	3.4
入院料 4	8 100.0	2 25.0	4 50.0	2 25.0	－ －	－ －	－ －	5.5
入院料 5	8 100.0	5 62.5	1 12.5	2 25.0	－ －	－ －	－ －	3.8
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	3 30.0	2 20.0	－ －	－ －	2 20.0	4.7

酸素投与中の患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が50.2%で最も多く、平均は1.6%であった。

表 87 酸素投与中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	452 100.0	240 53.1	189 41.8	8 1.8	－ －	－ －	15 3.3	1.7
入院料 1	313 100.0	157 50.2	145 46.3	1 0.3	－ －	－ －	10 3.2	1.6
入院料 2	37 100.0	17 45.9	19 51.4	1 2.7	－ －	－ －	－ －	2.3
入院料 3	76 100.0	50 65.8	18 23.7	6 7.9	－ －	－ －	2 2.6	1.9
入院料 4	8 100.0	4 50.0	4 50.0	－ －	－ －	－ －	－ －	1.5
入院料 5	8 100.0	7 87.5	－ －	－ －	－ －	－ －	1 12.5	0.0
無回答・不明	10 100.0	5 50.0	3 30.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0	1.9

気管カニューレを挿入中の患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が69.3%で最も多く、平均は0.9%であった。

表 88 気管カニューレ挿入中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	452 100.0	321 71.0	111 24.6	3 0.7	－ －	－ －	17 3.8	0.9
入院料 1	313 100.0	217 69.3	84 26.8	1 0.3	－ －	－ －	11 3.5	0.9
入院料 2	37 100.0	23 62.2	12 32.4	1 2.7	－ －	－ －	1 2.7	1.2
入院料 3	76 100.0	60 78.9	13 17.1	1 1.3	－ －	－ －	2 2.6	0.8
入院料 4	8 100.0	8 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
入院料 5	8 100.0	6 75.0	1 12.5	－ －	－ －	－ －	1 12.5	0.5
無回答・不明	10 100.0	7 70.0	1 10.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0	0.6

(11) 経口摂取訓練の状況

令和4年11月1日24時時点で経口摂取していない患者割合は、入院料1の病棟では「2%未満」が20.8%で最も多く、次いで「10%以上」が19.2%で、平均は6.0%であった。

表 89 経口摂取をしていない患者割合

	計	2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8～10%未満	10%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	125 27.7	70 15.5	62 13.7	55 12.2	41 9.1	82 18.1	17 3.8	5.8
入院料1	313 100.0	65 20.8	53 16.9	48 15.3	44 14.1	33 10.5	60 19.2	10 3.2	6.0
入院料2	37 100.0	9 24.3	3 8.1	4 10.8	4 10.8	4 10.8	12 32.4	1 2.7	9.4
入院料3	76 100.0	40 52.6	10 13.2	9 11.8	5 6.6	4 5.3	4 5.3	4 5.3	3.2
入院料4	8 100.0	4 50.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	－ －	1 12.5	－ －	3.3
入院料5	8 100.0	6 75.0	－ －	－ －	－ －	－ －	2 25.0	－ －	4.0
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	3 30.0	－ －	1 10.0	－ －	3 30.0	2 20.0	8.2

11月1日24時時点で経口摂取していない患者のうち、摂食嚥下の間接訓練（食べ物を利用しない訓練）をその時点ですでに開始している患者（11月1日に開始した患者を含む）の割合は、入院料1の病棟では平均74.9%であった。また間接訓練をすでに開始している患者のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練を含む）した患者割合は、入院料1の病棟では平均52.8%であった。

表 90 経口摂取をしていない患者のうち、間接訓練を行っている患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	326 100.0	49 15.0	26 8.0	28 8.6	33 10.1	187 57.4	3 0.9	70.6
入院料1	250 100.0	29 11.6	17 6.8	21 8.4	25 10.0	155 62.0	3 1.2	74.9
入院料2	29 100.0	4 13.8	6 20.7	4 13.8	4 13.8	11 37.9	－ －	59.9
入院料3	34 100.0	14 41.2	1 2.9	3 8.8	1 2.9	15 44.1	－ －	50.5
入院料4	4 100.0	1 25.0	－ －	－ －	1 25.0	2 50.0	－ －	66.7
入院料5	2 100.0	－ －	－ －	－ －	1 50.0	1 50.0	－ －	83.3
無回答・不明	7 100.0	1 14.3	－ 28.6	－ －	1 14.3	3 42.9	－ －	56.4

表 91 間接訓練を開始した患者のうち、1回でも経口摂取した患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	278 100.0	71 25.5	34 12.2	42 15.1	22 7.9	105 37.8	4 1.4	54.7
入院料 1	220 100.0	61 27.7	28 12.7	29 13.2	19 8.6	80 36.4	3 1.4	52.8
入院料 2	26 100.0	6 23.1	3 11.5	5 19.2	2 7.7	9 34.6	1 3.8	55.3
入院料 3	21 100.0	3 14.3	2 9.5	4 19.0	－ －	12 57.1	－ －	69.7
入院料 4	3 100.0	－ －	－ －	1 33.3	－ －	2 66.7	－ －	83.3
入院料 5	2 100.0	－ －	－ －	－ －	1 50.0	1 50.0	－ －	80.0
無回答・不明	6 100.0	1 16.7	1 16.7	3 50.0	－ －	1 16.7	－ －	47.9

※経口摂取には直接訓練（食べ物を利用した訓練）を含む

(12) 24 時時点の CV カテーテル（中心静脈注射）の状況

令和4年11月1日24時時点でCVカテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が84.7%で最も多く、平均は0.4%であった。

表 92 CV カテーテル挿入患者割合

	計	1%未満	1～2%未満	2～3%未満	3～4%未満	4～5%未満	5%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	384 85.0	15 3.3	21 4.6	5 1.1	4 0.9	10 2.2	13 2.9	0.5
入院料 1	313 100.0	265 84.7	12 3.8	16 5.1	4 1.3	3 1.0	4 1.3	9 2.9	0.4
入院料 2	37 100.0	30 81.1	2 5.4	3 8.1	－ －	－ －	2 5.4	－ －	0.8
入院料 3	76 100.0	67 88.2	1 1.3	1 1.3	1 1.3	1 1.3	3 3.9	2 2.6	0.6
入院料 4	8 100.0	8 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
入院料 5	8 100.0	8 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
無回答・不明	10 100.0	6 60.0	－ －	1 10.0	－ －	－ －	1 10.0	2 20.0	0.9

11月1日24時時点でCVカテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者のうち、11月30日までにCVカテーテルを抜去（ロックは含まない）した患者割合は、入院料1の病棟では、平均25.6%であった。

表 93 CVカテーテル抜去患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	59 100.0	40 67.8	1 1.7	4 6.8	－ －	14 23.7	－ －	27.8
入院料1	43 100.0	30 69.8	1 2.3	3 7.0	－ －	9 20.9	－ －	25.6
入院料2	7 100.0	5 71.4	－ －	－ －	－ －	2 28.6	－ －	29.9
入院料3	7 100.0	4 57.1	－ －	1 14.3	－ －	2 28.6	－ －	32.9
入院料4	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－
入院料5	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－
無回答・不明	2 100.0	1 50.0	－ －	－ －	－ －	1 50.0	－ －	50.0

(13) 24時時点の膀胱留置カテーテルの状況

令和4年11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が18.8%で最も多く、平均は5.6%であった。

表 94 膀胱留置カテーテル挿入患者割合

	計	1%未満	1～2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8～10%未満	10%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	99 21.9	18 4.0	79 17.5	63 13.9	63 13.9	41 9.1	78 17.3	11 2.4	5.7
入院料1	313 100.0	59 18.8	14 4.5	57 18.2	48 15.3	45 14.4	32 10.2	51 16.3	7 2.2	5.6
入院料2	37 100.0	6 16.2	3 8.1	7 18.9	2 5.4	5 13.5	4 10.8	10 27.0	－ －	7.2
入院料3	76 100.0	25 32.9	1 1.3	10 13.2	11 14.5	10 13.2	4 5.3	13 17.1	2 2.6	5.5
入院料4	8 100.0	2 25.0	－ －	2 25.0	2 25.0	－ －	1 12.5	1 12.5	－ －	4.8
入院料5	8 100.0	5 62.5	－ －	－ －	－ －	2 25.0	－ －	1 12.5	－ －	3.6
無回答・不明	10 100.0	2 20.0	－ －	3 30.0	－ －	1 10.0	－ －	2 20.0	2 20.0	5.9

11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者のうち、11月30日までに膀胱留置カテーテルを抜去した患者割合は、入院料1の病棟では平均32.3%であった。

表 95 膀胱留置カテーテル抜去患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	346 100.0	154 44.5	70 20.2	40 11.6	27 7.8	50 14.5	5 1.4	32.2
入院料1	251 100.0	108 43.0	56 22.3	25 10.0	26 10.4	33 13.1	3 1.2	32.3
入院料2	31 100.0	17 54.8	6 19.4	4 12.9	－ －	2 6.5	2 6.5	21.4
入院料3	49 100.0	24 49.0	3 6.1	9 18.4	1 2.0	12 24.5	－ －	36.6
入院料4	6 100.0	3 50.0	1 16.7	1 16.7	－ －	1 16.7	－ －	30.6
入院料5	3 100.0	－ －	2 66.7	－ －	－ －	1 33.3	－ －	55.6
無回答・不明	6 100.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	－ －	1 16.7	－ －	34.3

(14) 転倒・転落の状況

調査時点（令和4年11月）のレベル2以上の転倒・転落の発生件数（入院実患者100人換算）は、入院料1の病棟では「2件未満」が23.6%で最も多く、平均は4.9件であった。

表 96 転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

	計	2件未満	2～4件未満	4～6件未満	6～8件未満	8件以上	無回答・不明	平均(件)
計	452 100.0	113 25.0	74 16.4	51 11.3	35 7.7	59 13.1	120 26.5	4.8
入院料1	313 100.0	74 23.6	54 17.3	36 11.5	24 7.7	41 13.1	84 26.8	4.9
入院料2	37 100.0	9 24.3	6 16.2	4 10.8	4 10.8	4 10.8	10 27.0	4.3
入院料3	76 100.0	21 27.6	12 15.8	8 10.5	7 9.2	11 14.5	17 22.4	5.0
入院料4	8 100.0	2 25.0	－ －	1 12.5	－ －	1 12.5	4 50.0	6.4
入院料5	8 100.0	3 37.5	1 12.5	1 12.5	－ －	1 12.5	2 25.0	3.0
無回答・不明	10 100.0	4 40.0	1 10.0	1 10.0	－ －	1 10.0	3 30.0	2.5

※転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

＝11月のレベル2以上の転倒・転落発生件数÷11月の入院実患者数×100

レベル 2 以上の転倒・転落が発生している場合の、転倒・転落の夜間帯発生割合は、入院料 1 の病棟では、平均 56.1%であった。

表 97 転倒・転落のうち夜間帯発生割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	346 100.0	65 18.8	49 14.2	63 18.2	54 15.6	114 32.9	1 0.3	56.2
入院料 1	252 100.0	41 16.3	44 17.5	44 17.5	45 17.9	77 30.6	1 0.4	56.1
入院料 2	28 100.0	5 17.9	4 14.3	3 10.7	5 17.9	11 39.3	－ －	59.7
入院料 3	52 100.0	15 28.8	1 1.9	14 26.9	4 7.7	18 34.6	－ －	53.2
入院料 4	5 100.0	2 40.0	－ －	1 20.0	－ －	2 40.0	－ －	50.9
入院料 5	5 100.0	1 20.0	－ －	1 20.0	－ －	3 60.0	－ －	66.0
無回答・不明	4 100.0	1 25.0	－ －	－ －	－ －	3 75.0	－ －	72.4

病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用している割合は、入院料 1 の病棟では 80.5%であった。

表 98 統一された転倒・転落アセスメントツールの活用状況

	計	活用している	活用していない	無回答・不明
計	452 100.0	351 77.7	14 3.1	87 19.2
入院料 1	313 100.0	252 80.5	8 2.6	53 16.9
入院料 2	37 100.0	24 64.9	1 2.7	12 32.4
入院料 3	76 100.0	54 71.1	4 5.3	18 23.7
入院料 4	8 100.0	8 100.0	－ －	－ －
入院料 5	8 100.0	6 75.0	1 12.5	1 12.5
無回答・不明	10 100.0	7 70.0	－ －	3 30.0

3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況

(1) 看護職員数、看護補助者数

調査時点（令和4年11月）の看護職員（非管理職）の配置数（実人数）は、入院料1の病棟では「10～20人未満」が33.2%で最も多く、平均は32.0人であった。准看護師比率（看護職員配置数（実人数）に占める准看護師の割合）は、入院料1の病棟では、平均7.1%であった。

表 99 11月の看護職員（非管理職）配置数（実人数）

	計	10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40人以上	無回答・不明	平均(人)
計	452 100.0	9 2.0	190 42.0	124 27.4	38 8.4	87 19.2	4 0.9	28.0
入院料1	313 100.0	1 0.3	104 33.2	96 30.7	30 9.6	80 25.6	2 0.6	32.0
入院料2	37 100.0	1 2.7	12 32.4	13 35.1	6 16.2	5 13.5	— —	27.1
入院料3	76 100.0	5 6.6	58 76.3	12 15.8	1 1.3	— —	— —	15.3
入院料4	8 100.0	1 12.5	6 75.0	— —	1 12.5	— —	— —	16.0
入院料5	8 100.0	1 12.5	6 75.0	1 12.5	— —	— —	— —	14.4
無回答・不明	10 100.0	— —	4 40.0	2 20.0	— —	2 20.0	2 20.0	25.4

表 100 准看護師比率

	計	2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8～10%未満	10%以上	無回答・不明	平均(%)
計	452 100.0	140 31.0	35 7.7	66 14.6	29 6.4	28 6.2	148 32.7	6 1.3	8.9
入院料1	313 100.0	103 32.9	32 10.2	55 17.6	21 6.7	16 5.1	83 26.5	3 1.0	7.1
入院料2	37 100.0	3 8.1	3 8.1	5 13.5	2 5.4	4 10.8	20 54.1	— —	13.9
入院料3	76 100.0	23 30.3	— —	5 6.6	5 6.6	7 9.2	35 46.1	1 1.3	14.1
入院料4	8 100.0	3 37.5	— —	— —	— —	— —	5 62.5	— —	13.3
入院料5	8 100.0	6 75.0	— —	— —	— —	1 12.5	1 12.5	— —	2.7
無回答・不明	10 100.0	2 20.0	— —	1 10.0	1 10.0	— —	4 40.0	2 20.0	9.2

11 月の看護補助者の配置数（実人数）は、入院料 1 の病棟では「5～10 人未満」が 39.3%で最も多く、平均は 14.2 人であった

表 101 11 月の看護補助者配置数（実人数）

	計	5 人 未満	5～ 10 人 未満	10～ 15 人 未満	15～ 20 人 未満	20 人 以上	無回答 ・ 不明	平均 (人)
計	452 100.0	47 10.4	194 42.9	99 21.9	38 8.4	69 15.3	5 1.1	12.5
入院料 1	313 100.0	22 7.0	123 39.3	70 22.4	32 10.2	63 20.1	3 1.0	14.2
入院料 2	37 100.0	4 10.8	15 40.5	11 29.7	2 5.4	5 13.5	－ －	12.5
入院料 3	76 100.0	16 21.1	45 59.2	13 17.1	2 2.6	－ －	－ －	6.9
入院料 4	8 100.0	1 12.5	5 62.5	1 12.5	1 12.5	－ －	－ －	8.4
入院料 5	8 100.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5	－ －	－ －	－ －	5.6
無回答・不明	10 100.0	－ －	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	11.5

(2) 実質的な看護職員配置、看護補助者配置

調査時点（令和4年11月）の実質的な看護職員配置（非管理職）は、入院料1の病棟では「10対1を満たさないが12対1を満たす」が32.9%で最も多く、平均は10.3対1配置であった。同様に、実質的な看護補助者配置を算出すると、入院料1の病棟では平均27.4対1配置であった。

表 102 実質的な看護職員配置（非管理職）

	計	8対1を 満たす	8対1を 満たさないが 10対1を 満たす	10対1 を満たさないが 12対1 を満たす	12対1 を満たさない	無回答 ・不明	平均
計	452 100.0	60 13.3	113 25.0	144 31.9	71 15.7	64 14.2	10.4
入院料1	313 100.0	38 12.1	86 27.5	103 32.9	43 13.7	43 13.7	10.3
入院料2	37 100.0	3 8.1	8 21.6	12 32.4	8 21.6	6 16.2	11.0
入院料3	76 100.0	14 18.4	15 19.7	21 27.6	16 21.1	10 13.2	10.4
入院料4	8 100.0	1 12.5	1 12.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	11.1
入院料5	8 100.0	2 25.0	3 37.5	－ －	1 12.5	2 25.0	9.4
無回答・不明	10 100.0	2 20.0	－ －	5 50.0	1 10.0	2 20.0	10.3

※実質的な看護職員配置（X対1）の“X”＝11月の在棟患者延べ数×8時間×3勤務帯

÷看護職員（非管理職）の11月の総勤務時間数×100

表 103 実質的な看護補助者配置

	計	15対1を 満たす	15対1を 満たさないが 20対1を 満たす	20対1 を満たさないが 25対1 を満たす	25対1 を満たさない	無回答 ・不明	平均
計	452 100.0	50 11.1	94 20.8	94 20.8	145 32.1	69 15.3	27.6
入院料1	313 100.0	29 9.3	64 20.4	69 22.0	104 33.2	47 15.0	27.4
入院料2	37 100.0	3 8.1	10 27.0	7 18.9	11 29.7	6 16.2	27.6
入院料3	76 100.0	13 17.1	16 21.1	15 19.7	21 27.6	11 14.5	29.0
入院料4	8 100.0	3 37.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	26.7
入院料5	8 100.0	1 12.5	1 12.5	－ －	4 50.0	2 25.0	31.5
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	3 30.0	2 20.0	23.0

(3) 他の医療専門職の病棟配置状況

他の医療専門職の病棟配置数（実人数）については、入院料1の病棟では、①理学療法士が専従11.4人・兼務10.4人、②作業療法士が専従7.8人・兼務6.4人、③言語聴覚士が専従2.9人・兼務3.0人、④管理栄養士が専従1.0人・兼務1.0人、⑤薬剤師が専従0.5人・兼務1.3人、⑥MSWが専従1.7人・兼務1.3人であった（人数はすべて平均値）。

表 104 他の医療専門職（専従・兼務）の病棟配置数（実人数）

	①理学療法士				②作業療法士				③言語聴覚士			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=452)	9.8	12.6	9.0	11.6	6.4	8.3	5.5	7.2	2.3	3.4	2.6	3.5
入院料1 (n=313)	11.4	13.8	10.4	12.8	7.8	9.2	6.4	7.9	2.9	3.8	3.0	3.7
入院料2 (n=37)	10.9	11.4	9.0	11.5	6.3	6.9	6.1	7.8	2.4	2.4	2.6	4.6
入院料3 (n=76)	4.4	4.4	4.8	5.5	2.3	2.5	2.8	2.8	0.3	0.7	1.8	2.0
入院料4 (n=8)	3.4	2.6	5.0	2.9	1.4	0.7	3.0	3.2	0.1	0.3	1.3	1.3
入院料5 (n=8)	3.0	1.3	1.8	2.3	1.1	0.8	1.0	1.5	0.2	0.4	0.6	0.7
無回答・不明 (n=10)	10.6	13.4	3.4	5.2	4.1	3.1	1.4	2.8	1.5	1.6	1.1	1.7

	④管理栄養士				⑤薬剤師				⑥MSW			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=452)	0.8	1.1	1.0	1.1	0.4	0.9	1.2	1.8	1.4	1.5	1.2	1.6
入院料1 (n=313)	1.0	1.2	1.0	1.1	0.5	1.0	1.3	1.9	1.7	1.5	1.3	1.8
入院料2 (n=37)	0.4	0.9	0.9	0.8	0.2	0.6	1.0	1.3	1.2	1.2	1.1	1.1
入院料3 (n=76)	0.2	0.4	0.9	1.0	0.2	0.5	1.2	1.5	0.5	0.8	1.0	1.0
入院料4 (n=8)	0.1	0.3	0.6	0.7	0.3	0.4	0.6	1.0	0.4	0.7	1.0	1.3
入院料5 (n=8)	0.2	0.4	0.7	0.5	0.2	0.4	0.6	0.5	0.3	0.5	1.3	1.2
無回答・不明 (n=10)	0.6	1.0	0.9	0.6	0.4	1.0	0.6	0.7	1.1	0.9	0.6	0.7

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制

平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制について尋ねたところ、2交代制の入院料1の病棟では、看護職員は夜勤2.3人・早出0.6人・遅出0.8人で、看護補助者は夜勤1.1人・早出1.1人・遅出1.0人、リハビリ職員は夜勤0.0人・早出0.4人・遅出0.3人であった（人数はすべて平均値）。

表 105 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制 ①看護職員・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=394)	2.2	0.6	0.6	0.7	0.7	0.8
入院料 1 (n=271)	2.3	0.6	0.6	0.7	0.8	0.8
入院料 2 (n=32)	2.1	0.4	0.6	0.8	0.8	0.9
入院料 3 (n=67)	2.0	0.2	0.5	0.7	0.6	0.8
入院料 4 (n=8)	2.0	0.0	0.3	0.4	0.5	0.5
入院料 5 (n=7)	2.2	0.4	0.3	0.5	0.3	0.5
無回答・不明 (n=9)	2.4	0.8	0.0	0.0	0.5	0.9

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 106 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=394)	1.0	0.6	1.0	0.7	0.9	0.7
入院料 1 (n=271)	1.1	0.6	1.1	0.7	1.0	0.7
入院料 2 (n=32)	1.1	0.6	1.2	0.8	1.0	0.8
入院料 3 (n=67)	0.8	0.5	0.7	0.7	0.8	0.7
入院料 4 (n=8)	0.8	0.4	0.8	0.4	0.8	0.4
入院料 5 (n=7)	0.2	0.4	0.6	0.5	0.5	0.5
無回答・不明 (n=9)	1.8	1.2	0.6	0.5	1.0	0.7

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 107 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ③リハビリ職員・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=394)	0.0	0.1	0.3	0.8	0.2	0.7
入院料 1 (n=271)	0.0	0.1	0.4	0.9	0.3	0.7
入院料 2 (n=32)	0.0	0.2	0.2	0.7	0.2	0.7
入院料 3 (n=67)	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
入院料 4 (n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 5 (n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=9)	0.0	0.0	1.0	1.7	1.3	1.6

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

また、3交代制の入院料1の病棟では、看護職員は準夜勤2.2人・深夜勤2.1人・早出0.6人・遅出0.6人、看護補助者は準夜勤0.7人・深夜勤0.6人・早出0.9人・遅出0.8人、リハビリ職員は準夜勤0.0人・深夜勤0.0人・早出0.3人・遅出0.2人であった（人数はすべて平均値）。

表 108 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ①看護職員・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=138)	2.1	0.4	2.1	0.4	0.7	0.7	0.6	0.7
入院料 1 (n=81)	2.2	0.4	2.1	0.4	0.6	0.6	0.6	0.7
入院料 2 (n=9)	2.0	0.0	2.0	0.0	1.3	1.1	1.2	1.0
入院料 3 (n=37)	2.1	0.3	2.1	0.3	0.6	0.5	0.8	0.7
入院料 4 (n=4)	—	—	—	—	—	—	—	—
入院料 5 (n=2)	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=5)	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 109 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=138)	0.6	0.6	0.6	0.5	0.9	0.7	0.9	0.7
入院料 1 (n=81)	0.7	0.6	0.6	0.5	0.9	0.7	0.8	0.6
入院料 2 (n=9)	0.8	0.4	0.8	0.4	1.2	0.4	1.5	0.5
入院料 3 (n=37)	0.1	0.3	0.1	0.3	0.9	0.7	0.7	0.7
入院料 4 (n=4)	—	—	—	—	—	—	—	—
入院料 5 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0
無回答・不明 (n=5)	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 110 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ③リハビリ職員・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=138)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.2	0.6
入院料 1 (n=81)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8	0.2	0.7
入院料 2 (n=9)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 3 (n=37)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0
入院料 4 (n=4)	－	－	－	－	－	－	－	－
入院料 5 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 月平均夜勤時間

調査時点（令和4年11月）の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間は、入院料1の病棟では、「65時間未満」が30.7%で最も多く、平均は70.1時間であった。

表 111 看護職員1人あたりの月平均夜勤時間

	計	65時間 未満	65～72 時間未満	72～80 時間未満	80時間 以上	無回答 ・不明	平均 (時間) (※)
計	452 100.0	134 29.6	121 26.8	92 20.4	75 16.6	30 6.6	70.2
入院料 1	313 100.0	96 30.7	84 26.8	58 18.5	52 16.6	23 7.3	70.1
入院料 2	37 100.0	14 37.8	11 29.7	4 10.8	6 16.2	2 5.4	67.4
入院料 3	76 100.0	18 23.7	21 27.6	23 30.3	12 15.8	2 2.6	71.3
入院料 4	8 100.0	2 25.0	2 25.0	－ －	3 37.5	1 12.5	76.1
入院料 5	8 100.0	1 12.5	1 12.5	5 62.5	1 12.5	－ －	72.7
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	67.8

※平均の平均（単純平均）であることに留意する必要がある。

(6) 患者・家族への支援の状況

調査時点（令和4年11月）の患者・家族に対する意思決定支援（ICの同席やACPを含む）の延べ回数は、入院料1の病棟では、平均28.1回であった。

同様に、患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導回数は、入院料1の病棟では、平均17.6回であった。

表 112 患者・家族への支援の実施状況

	患者・家族に対する 意思決定支援回数		患者・家族に対する病態管理や 在宅移行に関する指導回数	
	平均 (回)	標準偏差	平均 (回)	標準偏差
計 (n=452)	23.2	38.3	15.4	36.4
入院料 1 (n=313)	28.1	43.7	17.6	36.9
入院料 2 (n=37)	18.8	24.7	7.5	9.7
入院料 3 (n=76)	9.1	11.3	6.9	9.9
入院料 4 (n=8)	11.8	13.1	5.1	6.3
入院料 5 (n=8)	7.6	4.7	62.3	124.7
無回答・不明 (n=10)	14.1	15.0	7.0	9.0

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況

調査時点（令和 4 年 11 月）の看護職員による退院前訪問の実施件数は、入院料 1 の病棟では平均 0.6 回であり、その内訳は病棟配属の看護職員によるものが平均 0.5 回、入退院支援部門配属の看護職員によるものが平均 0.0 回、外来部門等その他の所属の看護職員によるものが平均 0.0 回であった。

表 113 看護職員による退院前訪問の実施状況

	(内訳)							
	看護職員による 退院前訪問件数		病棟配属の 看護職員の訪問		入退院支援 部門配属の 看護職員の訪問		外来部門等 その他の所属の 看護職員の訪問	
	平均 (件)	標準 偏差	平均 (件)	標準 偏差	平均 (件)	標準 偏差	平均 (件)	標準 偏差
計 (n=425)	0.4	2.6	0.4	2.5	0.1	0.4	0.0	0.2
入院料 1 (n=299)	0.6	3.0	0.5	3.0	0.0	0.4	0.0	0.2
入院料 2 (n=36)	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 3 (n=68)	0.2	0.7	0.1	0.3	0.1	0.7	0.0	0.0
入院料 4 (n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 5 (n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=8)	0.1	0.4	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0

(8) 夜間のトイレ介助の状況

トイレ歩行の際に見守りもしくは介助が必要な状態の患者に対する、夜間のトイレ介助の現状を尋ねたところ、入院料 1 の病棟では、「できるだけトイレ誘導している（看護職員・看護補助者が共同して介助）」が 69.3%で最も多く、次いで「できるだけトイレ誘導している（看護職員が中心）」が 23.3%であった。

表 114 夜間のトイレ介助の状況

	計	できるだけトイレ誘導している（看護職員が中心）	できるだけトイレ誘導している（看護補助者が中心）	できるだけトイレ誘導している（看護職員・看護補助者が共同して介助）	夜間は主にポータブルトイレを使用している	夜間は主にオムツを使用している	見守り・介助が必要な患者がいない	無回答・不明
計	452 100.0	105 23.2	8 1.8	305 67.5	26 5.8	4 0.9	－ －	4 0.9
入院料 1	313 100.0	73 23.3	5 1.6	217 69.3	13 4.2	4 1.3	－ －	1 0.3
入院料 2	37 100.0	7 18.9	1 2.7	25 67.6	4 10.8	－ －	－ －	－ －
入院料 3	76 100.0	20 26.3	2 2.6	47 61.8	6 7.9	－ －	－ －	1 1.3
入院料 4	8 100.0	－ －	－ －	6 75.0	2 25.0	－ －	－ －	－ －
入院料 5	8 100.0	5 62.5	－ －	3 37.5	－ －	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	10 100.0	－ －	－ －	7 70.0	1 10.0	－ －	－ －	2 20.0

(9) タスク・シフト／シェアの状況

病棟内の各種業務について、主に実施している職種（部門）を尋ねた。

「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が70.6%で最も多く、次いで「どれにもあてはまらない」が17.9%であった。

表 115 「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	10 2.2	302 66.8	45 10.0	2 0.4	88 19.5	5 1.1
入院料 1	313 100.0	7 2.2	221 70.6	26 8.3	1 0.3	56 17.9	2 0.6
入院料 2	37 100.0	2 5.4	18 48.6	7 18.9	－ －	10 27.0	－ －
入院料 3	76 100.0	1 1.3	48 63.2	10 13.2	－ －	16 21.1	1 1.3
入院料 4	8 100.0	－ －	4 50.0	1 12.5	－ －	3 37.5	－ －
入院料 5	8 100.0	－ －	5 62.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	－ －	6 60.0	－ －	－ －	2 20.0	2 20.0

「朝および夕方の食事介助」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「看護職員」が 79.2%で最も多く、次いで「どれにもあてはまらない」が 12.1%であった。

表 116 「朝および夕方の食事介助」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	6 1.3	340 75.2	36 8.0	1 0.2	65 14.4	4 0.9
入院料 1	313 100.0	6 1.9	248 79.2	20 6.4	－ －	38 12.1	1 0.3
入院料 2	37 100.0	－ －	26 70.3	4 10.8	－ －	7 18.9	－ －
入院料 3	76 100.0	－ －	53 69.7	8 10.5	1 1.3	13 17.1	1 1.3
入院料 4	8 100.0	－ －	3 37.5	2 25.0	－ －	3 37.5	－ －
入院料 5	8 100.0	－ －	6 75.0	1 12.5	－ －	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	－ －	4 40.0	1 10.0	－ －	3 30.0	2 20.0

「夜間のトイレ介助」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「看護職員」が 67.7%で最も多く、次いで「どれにもあてはまらない」が 17.9%であった。

表 117 「夜間のトイレ介助」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	7 1.5	293 64.8	52 11.5	1 0.2	95 21.0	4 0.9
入院料 1	313 100.0	7 2.2	212 67.7	36 11.5	1 0.3	56 17.9	1 0.3
入院料 2	37 100.0	－ －	24 64.9	4 10.8	－ －	9 24.3	－ －
入院料 3	76 100.0	－ －	43 56.6	11 14.5	－ －	21 27.6	1 1.3
入院料 4	8 100.0	－ －	2 25.0	－ －	－ －	6 75.0	－ －
入院料 5	8 100.0	－ －	7 87.5	－ －	－ －	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	－ －	5 50.0	1 10.0	－ －	2 20.0	2 20.0

「休日のリハビリテーション」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「リハビリ職員」が97.8%で最も多かった。

表 118 「休日のリハビリテーション」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	412 91.2	21 4.6	－ －	3 0.7	9 2.0	7 1.5
入院料 1	313 100.0	306 97.8	3 1.0	－ －	－ －	1 0.3	3 1.0
入院料 2	37 100.0	35 94.6	－ －	－ －	－ －	1 2.7	1 2.7
入院料 3	76 100.0	53 69.7	14 18.4	－ －	3 3.9	5 6.6	1 1.3
入院料 4	8 100.0	6 75.0	1 12.5	－ －	－ －	1 12.5	－ －
入院料 5	8 100.0	5 62.5	3 37.5	－ －	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	10 100.0	7 70.0	－ －	－ －	－ －	1 10.0	2 20.0

「リハビリテーション中の排泄ケア」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「リハビリ職員」が72.8%で最も多く、次いで「看護職員」が15.7%であった。

表 119 「リハビリテーション中の排泄ケア」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	320 70.8	73 16.2	5 1.1	1 0.2	46 10.2	7 1.5
入院料 1	313 100.0	228 72.8	49 15.7	4 1.3	1 0.3	28 8.9	3 1.0
入院料 2	37 100.0	25 67.6	6 16.2	1 2.7	－ －	5 13.5	－ －
入院料 3	76 100.0	53 69.7	12 15.8	－ －	－ －	9 11.8	2 2.6
入院料 4	8 100.0	5 62.5	1 12.5	－ －	－ －	2 25.0	－ －
入院料 5	8 100.0	5 62.5	3 37.5	－ －	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	10 100.0	4 40.0	2 20.0	－ －	－ －	2 20.0	2 20.0

「リハビリテーション中の痰の吸引」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「看護職員」が 80.5%で最も多く、次いで「リハビリ職員」が 12.1%であった。

表 120 「リハビリテーション中の痰の吸引」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	52 11.5	353 78.1	21 4.6	18 4.0	8 1.8
入院料 1	313 100.0	38 12.1	252 80.5	7 2.2	11 3.5	5 1.6
入院料 2	37 100.0	4 10.8	31 83.8	1 2.7	1 2.7	－ －
入院料 3	76 100.0	8 10.5	52 68.4	11 14.5	4 5.3	1 1.3
入院料 4	8 100.0	1 12.5	7 87.5	－ －	－ －	－ －
入院料 5	8 100.0	1 12.5	4 50.0	2 25.0	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	－ －	7 70.0	－ －	1 10.0	2 20.0

「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「リハビリ職員」が 81.8%で最も多く、次いで「看護職員」が 10.5%であった。

表 121 「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	365 80.8	42 9.3	8 1.8	32 7.1	5 1.1
入院料 1	313 100.0	256 81.8	33 10.5	1 0.3	21 6.7	2 0.6
入院料 2	37 100.0	31 83.8	3 8.1	－ －	3 8.1	－ －
入院料 3	76 100.0	57 75.0	5 6.6	6 7.9	7 9.2	1 1.3
入院料 4	8 100.0	8 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料 5	8 100.0	5 62.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	8 80.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0

「入院時の持参薬の確認」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「薬剤師」が73.8%で最も多く、次いで「看護職員」が22.0%であった。

表 122 「入院時の持参薬の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	327 72.3	99 21.9	4 0.9	13 2.9	9 2.0
入院料 1	313 100.0	231 73.8	69 22.0	1 0.3	8 2.6	4 1.3
入院料 2	37 100.0	30 81.1	5 13.5	1 2.7	1 2.7	－ －
入院料 3	76 100.0	53 69.7	17 22.4	1 1.3	3 3.9	2 2.6
入院料 4	8 100.0	6 75.0	1 12.5	－ －	－ －	1 12.5
入院料 5	8 100.0	4 50.0	4 50.0	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0

「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が62.0%で最も多く、次いで「薬剤師」が30.7%であった。

表 123 「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	128 28.3	286 63.3	－ －	30 6.6	8 1.8
入院料 1	313 100.0	96 30.7	194 62.0	－ －	19 6.1	4 1.3
入院料 2	37 100.0	9 24.3	24 64.9	－ －	3 8.1	1 2.7
入院料 3	76 100.0	18 23.7	50 65.8	－ －	7 9.2	1 1.3
入院料 4	8 100.0	2 25.0	5 62.5	－ －	1 12.5	－ －
入院料 5	8 100.0	－ －	8 100.0	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	10 100.0	3 30.0	5 50.0	－ －	－ －	2 20.0

「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「看護職員」が 70.9%で最も多く、次いで「薬剤師」が 23.6%であった。

表 124 「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	102 22.6	323 71.5	－ －	20 4.4	7 1.5
入院料 1	313 100.0	74 23.6	222 70.9	－ －	13 4.2	4 1.3
入院料 2	37 100.0	8 21.6	27 73.0	－ －	2 5.4	－ －
入院料 3	76 100.0	16 21.1	55 72.4	－ －	4 5.3	1 1.3
入院料 4	8 100.0	－ －	8 100.0	－ －	－ －	－ －
入院料 5	8 100.0	2 25.0	5 62.5	－ －	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	2 20.0	6 60.0	－ －	－ －	2 20.0

「退院時の服薬指導」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「薬剤師」が 60.7%で最も多く、次いで「看護職員」が 32.9%であった。

表 125 「退院時の服薬指導」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	261 57.7	153 33.8	3 0.7	26 5.8	9 2.0
入院料 1	313 100.0	190 60.7	103 32.9	3 1.0	12 3.8	5 1.6
入院料 2	37 100.0	19 51.4	13 35.1	－ －	4 10.8	1 2.7
入院料 3	76 100.0	40 52.6	28 36.8	－ －	7 9.2	1 1.3
入院料 4	8 100.0	4 50.0	3 37.5	－ －	1 12.5	－ －
入院料 5	8 100.0	3 37.5	3 37.5	－ －	2 25.0	－ －
無回答・不明	10 100.0	5 50.0	3 30.0	－ －	－ －	2 20.0

「栄養指導」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「管理栄養士」が96.8%で最も多かった。

表 126 「栄養指導」を主に実施している職種（部門）

	計	管理栄養士	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	423 93.6	7 1.5	5 1.1	5 1.1	12 2.7
入院料 1	313 100.0	303 96.8	2 0.6	1 0.3	－ －	7 2.2
入院料 2	37 100.0	36 97.3	1 2.7	－ －	－ －	－ －
入院料 3	76 100.0	63 82.9	4 5.3	4 5.3	2 2.6	3 3.9
入院料 4	8 100.0	7 87.5	－ －	－ －	1 12.5	－ －
入院料 5	8 100.0	6 75.0	－ －	－ －	2 25.0	－ －
無回答・不明	10 100.0	8 80.0	－ －	－ －	－ －	2 20.0

「退院調整」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「病院配置のMSW」が63.9%で最も多く、次いで「病棟看護職員」が13.4%であった。

表 127 「退院調整」を主に実施している職種（部門）

	計	退院支援 部門	病棟 看護職員	病院配置の MSW	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	452 100.0	65 14.4	64 14.2	268 59.3	50 11.1	5 1.1
入院料 1	313 100.0	37 11.8	42 13.4	200 63.9	32 10.2	2 0.6
入院料 2	37 100.0	5 13.5	1 2.7	29 78.4	2 5.4	－ －
入院料 3	76 100.0	17 22.4	18 23.7	28 36.8	12 15.8	1 1.3
入院料 4	8 100.0	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	－ －
入院料 5	8 100.0	3 37.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	1 10.0	－ －	6 60.0	1 10.0	2 20.0

(10) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況

看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施しているか尋ねたところ、入院料1の病棟では、「実施している」が70.9%であった。

表 128 看護補助者との役割分担に係る病棟看護職員への研修状況

	計	実施している	実施していない	無回答・不明
計	452 100.0	320 70.8	122 27.0	10 2.2
入院料 1	313 100.0	222 70.9	85 27.2	6 1.9
入院料 2	37 100.0	23 62.2	14 37.8	— —
入院料 3	76 100.0	58 76.3	16 21.1	2 2.6
入院料 4	8 100.0	4 50.0	4 50.0	— —
入院料 5	8 100.0	7 87.5	1 12.5	— —
無回答・不明	10 100.0	6 60.0	2 20.0	2 20.0

4. 令和4年度診療報酬改定の影響

(1) 診療報酬改定事項への対応

令和4年度診療報酬改定により、回復期リハビリテーション病棟の施設基準のうち、「新規入院患者のうちの重症患者割合」が引き上げられたことを受けて、看護提供体制等に関して対応したことを尋ねたところ、入院料1の病棟では「特に対応はしていない」が76.0%で最も多く、次いで「看護職員を加配した」が9.6%であった。

表 129 新規入院患者の重症患者割合が引き上げられたことを受けて、
看護提供体制等に関して対応したこと（複数回答）

	回答 病院数	算定 入院料を 変更した	看護 職員を 加配した	リハ ビリ テー ション 職員 を加 配した	看護 補助 者を 加配 した	特 に 対 応 は し て い な い	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
計	452 100.0	11 2.4	45 10.0	18 4.0	23 5.1	343 75.9	30 6.6	10 2.2
入院料1	313 100.0	4 1.3	30 9.6	14 4.5	13 4.2	238 76.0	22 7.0	6 1.9
入院料2	37 100.0	1 2.7	5 13.5	2 5.4	2 5.4	29 78.4	3 8.1	－ －
入院料3	76 100.0	3 3.9	9 11.8	－ －	5 6.6	58 76.3	3 3.9	2 2.6
入院料4	8 100.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	7 87.5	－ －	－ －
入院料5	8 100.0	2 25.0	－ －	－ －	1 12.5	5 62.5	1 12.5	－ －
無回答・不明	10 100.0	－ －	－ －	1 10.0	1 10.0	6 60.0	1 10.0	2 20.0

「特に対応していない」と回答した場合のその理由は、入院料 1 の病棟では、「以前から重症患者割合が高い」が 61.3%で最も多く、次いで「以前から看護職員を多く配置している」が 26.1%であった。

表 130 新規入院患者の重症患者割合が引き上げられたことに対し、
特に対応していない理由（複数回答）

	回答病院数	以前から重症患者割合が高い	以前から看護職員を多く配置している	以前からリハビリ職を多く配置している	以前から看護補助者を多く配置している	その他	無回答・不明
計	343 100.0	200 58.3	88 25.7	48 14.0	54 15.7	67 19.5	6 1.7
入院料 1	238 100.0	146 61.3	62 26.1	38 16.0	40 16.8	46 19.3	3 1.3
入院料 2	29 100.0	19 65.5	3 10.3	4 13.8	4 13.8	4 13.8	2 6.9
入院料 3	58 100.0	27 46.6	22 37.9	6 10.3	8 13.8	11 19.0	— —
入院料 4	7 100.0	6 85.7	— —	— —	1 14.3	— —	— —
入院料 5	5 100.0	— —	— —	— —	— —	5 100.0	— —
無回答・不明	6 100.0	2 33.3	1 16.7	— —	1 16.7	1 16.7	1 16.7

Ⅲ 調査結果—地域包括ケア病棟調査票

1. 回答病棟の基本情報

(注) 以下では、地域包括ケア病棟の状況を記載。また1病院で複数の地域包括ケア病棟を有する場合は、合算したデータでの回答を求めており、回答数＝回答病院数となっている。

(1) 算定入院料

算定している地域包括ケア病棟入院料は、「入院料1」が46.7%で最も多く、次いで「入院料2」が45.8%であった。

表 131 算定している地域包括ケア病棟入院料

	件数	割合 (%)
計	450	100.0
入院料 1	210	46.7
入院料 2	206	45.8
入院料 3	1	0.2
入院料 4	5	1.1
無回答・不明	28	6.2

※「無回答・不明」は、病院票で「地域包括ケア病棟入院料」を算定していると回答したが、病棟票でその種類の回答が無かった病院。

(2) 病棟数・稼働病床数

地域包括ケア病棟の数は、入院料1では、「1病棟」が80.5%で最も多く、次いで「2病棟」が12.4%で、平均は1.2病棟であった。

表 132 地域包括ケア病棟数

	計	1病棟	2病棟	3病棟	4病棟以上	無回答・不明	平均(病棟)
計	450 100.0	361 80.2	38 8.4	5 1.1	— —	46 10.2	1.1
入院料 1	210 100.0	169 80.5	26 12.4	2 1.0	— —	13 6.2	1.2
入院料 2	206 100.0	181 87.9	12 5.8	2 1.0	— —	11 5.3	1.1
入院料 3	1 100.0	1 100.0	— —	— —	— —	— —	1.0
入院料 4	5 100.0	5 100.0	— —	— —	— —	— —	1.0
無回答・不明	28 100.0	5 17.9	— —	1 3.6	— —	22 78.6	1.3

地域包括ケア病棟の稼働病床数（合計数）は、入院料 1 では、「40～60 床未満」が 56.7%で最も多く、次いで「20～40 床未満」が 23.8%で、平均は 49.0 床であった。

表 133 地域包括ケア病棟の稼働病床数（合計数）

	計	20 床 未満	20～ 40 床 未満	40～ 60 床 未満	60～ 80 床 未満	80～ 100 床 未満	100 床 以上	無回答 ・不明	平均 (床)
計	450 100.0	6 1.3	97 21.6	262 58.2	30 6.7	20 4.4	11 2.4	24 5.3	48.4
入院料 1	210 100.0	1 0.5	50 23.8	119 56.7	20 9.5	14 6.7	5 2.4	1 0.5	49.0
入院料 2	206 100.0	4 1.9	44 21.4	137 66.5	10 4.9	6 2.9	5 2.4	— —	47.8
入院料 3	1 100.0	— —	1 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	30.0
入院料 4	5 100.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	— —	— —	— —	— —	34.4
無回答・不明	28 100.0	— —	1 3.6	3 10.7	— —	— —	1 3.6	23 82.1	62.4

(3) 稼働状況

調査時点（令和 4 年 11 月）の患者の入院・入棟／退院・退棟の状況は、入院料 1 の病棟では在棟患者延べ数が平均 1,192.4 人、新規入院患者は平均 35.8 人、新規入棟患者（自施設内の転棟患者）は平均 22.5 人、退院患者は平均 48.0 人、退棟患者（自施設内の転棟患者）は平均 4.8 人であった。

表 134 患者の入院・入棟／退院・退棟状況

	11 月の在棟 患者延べ数		11 月の新規 入院患者数		11 月の新規 入棟患者数 (自施設内の転棟)		11 月の 退院患者数		11 月の 退棟患者数 (自施設内の転棟)	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=450)	1,132.9	469.3	36.9	23.9	26.2	53.9	54.3	29.9	4.7	11.9
入院料 1 (n=210)	1,192.4	481.4	35.8	22.1	22.5	74.7	48.0	25.7	4.8	14.4
入院料 2 (n=206)	1,075.6	411.3	38.1	24.8	30.4	19.4	61.3	31.6	4.5	8.4
入院料 3 (n=1)	896.0	—	16.0	—	2.0	—	17.0	—	3.0	—
入院料 4 (n=5)	634.8	205.6	18.0	11.3	2.2	3.4	15.4	14.1	2.4	2.2
無回答・不明 (n=28)	1,612.0	1132.3	54.0	44.1	32.0	16.3	69.4	36.7	13.0	21.2

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

第2章 調査票別調査結果－地域包括ケア病棟調査票

調査時点（令和4年11月）の退院患者に占める死亡退院した患者割合は、入院料1の病棟では、「8%以上」が31.4%で最も多く、次いで「2～4%未満」「4～6%未満」がともに16.2%で、平均は7.2%であった。

表 135 死亡退院割合

	計	0%	0%超～ 2%未満	2～4% 未満	4～6% 未満	6～8% 未満	8% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	450 100.0	21 4.7	96 21.3	73 16.2	69 15.3	40 8.9	92 20.4	59 13.1	5.7
入院料1	210 100.0	5 2.4	26 12.4	34 16.2	34 16.2	23 11.0	66 31.4	22 10.5	7.2
入院料2	206 100.0	15 7.3	68 33.0	37 18.0	33 16.0	16 7.8	23 11.2	14 6.8	4.0
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－
入院料4	5 100.0	－ －	－ －	－ －	2 40.0	－ －	3 60.0	－ －	19.6
無回答・不明	28 100.0	1 3.6	2 7.1	2 7.1	－ －	1 3.6	－ －	22 78.6	2.3

調査時点（令和4年11月）の平均在棟日数は、入院料1の病棟では「20～40日未満」が53.3%で最も多く、次いで「20日未満」が33.8%で、平均は25.2日であった。

表 136 平均在棟日数

	計	20日 未満	20～ 40日 未満	40～ 60日 未満	60～ 80日 未満	80～ 100日 未満	100日 以上	無回答 ・不明	平均 (日)
計	450 100.0	202 44.9	181 40.2	25 5.6	2 0.4	－ －	－ －	40 8.9	22.4
入院料1	210 100.0	71 33.8	112 53.3	15 7.1	－ －	－ －	－ －	12 5.7	25.2
入院料2	206 100.0	126 61.2	66 32.0	8 3.9	1 0.5	－ －	－ －	5 2.4	19.1
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	47.2
入院料4	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －	42.5
無回答・不明	28 100.0	4 14.3	1 3.6	－ －	－ －	－ －	－ －	23 82.1	18.0

※平均在棟日数＝在棟患者延べ人数÷（新規入院・入棟患者数＋退院・退棟患者数）×2

調査時点（令和４年１１月）の病床稼働率は、入院料１の病棟では「90%以上」が30.0%で最も多く、次いで「80～90%未満」が24.8%で、平均は81.4%であった。

表 137 病床稼働率

	計	50%未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90%以上	無回答・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	19 4.2	35 7.8	63 14.0	84 18.7	107 23.8	105 23.3	37 8.2	78.7
入院料１	210 100.0	7 3.3	11 5.2	24 11.4	43 20.5	52 24.8	63 30.0	10 4.8	81.4
入院料２	206 100.0	12 5.8	21 10.2	39 18.9	39 18.9	52 25.2	39 18.9	4 1.9	75.9
入院料３	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	99.6
入院料４	5 100.0	－ －	3 60.0	－ －	－ －	1 20.0	1 20.0	－ －	69.8
無回答・不明	28 100.0	－ －	－ －	－ －	2 7.1	2 7.1	1 3.6	23 82.1	84.4

（４）看護情報提供書の提供状況

調査時点（令和４年１１月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数及び提供患者割合は、入院料１の病棟では、提供患者数は平均21.2人、提供割合は平均52.7%であった。

表 138 看護情報提供書の提供状況

	提供患者数（実人数）		提供患者割合	
	平均（人）	標準偏差	平均（%）	標準偏差
計（n=450）	21.8	14.8	47.9	29.4
入院料１（n=210）	21.2	14.8	52.7	30.9
入院料２（n=206）	22.8	14.6	43.5	26.4
入院料３（n=1）	16.0	－	100.0	－
入院料４（n=5）	3.6	3.5	33.6	35.3
無回答・不明（n=28）	20.3	17.3	39.8	36.5

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

調査時点（令和4年11月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）について、入院期間中の退院に向けた複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数（記録に残しているもの）を尋ねた。

病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンスの11月の実施延べ回数は、入院料1の病棟では、平均33.1回、退院患者（死亡退院を除く）1人あたり回数は平均0.8回であった。

一方、「②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス」の実施延べ回数は、入院料1の病棟では、平均9.1回、退院患者（死亡退院を除く）1人あたり回数は平均0.2回であった。

表 139 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

	①院内カンファレンス				②地域カンファレンス			
	実施延べ回数		1人あたり回数		実施延べ回数		1人あたり回数	
	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差
計 (n=450)	37.7	56.2	0.8	1.0	8.5	13.0	0.2	0.3
入院料1 (n=210)	33.1	45.1	0.8	1.0	9.1	14.2	0.2	0.4
入院料2 (n=206)	41.5	64.0	0.8	1.0	8.0	11.8	0.2	0.2
入院料3 (n=1)	25.0	-	1.6	-	10.0	-	0.6	-
入院料4 (n=5)	16.6	17.7	1.2	0.9	4.6	3.4	0.4	0.1
無回答・不明 (n=28)	82.0	89.9	1.2	1.5	9.8	18.6	0.2	0.4

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(6) 在宅復帰率

調査時点（令和4年11月）に厚生局に届出を行った「在宅等へ退出した患者の割合（直近6か月）」を尋ねたところ、入院料1の病棟では「80～90%未満」が54.8%で最も多く、次いで「70～80%未満」が27.6%で、平均は82.4%であった。

表 140 在宅復帰率（直近6か月）

	計	50%未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90%以上	無回答・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	4 0.9	2 0.4	4 0.9	104 23.1	224 49.8	69 15.3	43 9.6	82.9
入院料1	210 100.0	1 0.5	1 0.5	2 1.0	58 27.6	115 54.8	21 10.0	12 5.7	82.4
入院料2	206 100.0	1 0.5	1 0.5	1 0.5	42 20.4	107 51.9	47 22.8	7 3.4	84.2
入院料3	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0	- -	- -	- -	71.8
入院料4	5 100.0	2 40.0	- -	1 20.0	1 20.0	1 20.0	- -	- -	48.8
無回答・不明	28 100.0	- -	- -	- -	2 7.1	1 3.6	1 3.6	24 85.7	84.4

(7) 同一保険医療機関の一般病棟からの転棟割合

「同一保険医療機関の一般病棟から転棟した患者割合（直近3か月）」を尋ねたところ、入院料1の病棟では「20%未満」が34.3%で最も多く、次いで「40～60%未満」が18.6%で、平均は31.6%であった。

表 141 同一保険医療機関の一般病棟からの転棟割合（直近3か月）

	計	20%未満	20～40% 未満	40～60% 未満	60～80% 未満	80%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	450 100.0	99 22.0	76 16.9	153 34.0	52 11.6	15 3.3	55 12.2	38.7
入院料1	210 100.0	72 34.3	37 17.6	39 18.6	35 16.7	1 0.5	26 12.4	31.6
入院料2	206 100.0	23 11.2	37 18.0	111 53.9	16 7.8	13 6.3	6 2.9	45.4
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	0.0	1 100.0	－ －	－ －	76.5
入院料4	5 100.0	3 60.0	1 20.0	0.0	－ －	1 20.0	－ －	25.1
無回答・不明	28 100.0	1 3.6	1 3.6	3 10.7	－ －	－ －	23 82.1	39.2

(8) 自宅等からの入棟患者割合

「自宅又は有料老人ホーム等から入棟した患者割合（直近3か月）」を尋ねたところ、入院料1の病棟では「20～40%未満」、「40～60%未満」が共に29.0%で最も多く、次いで「60～80%未満」が21.0%で、平均は51.7%であった。

表 142 自宅等からの入棟患者割合（直近3か月）

	計	20%未満	20～40% 未満	40～60% 未満	60～80% 未満	80%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	450 100.0	24 5.3	99 22.0	159 35.3	82 18.2	38 8.4	48 10.7	50.0
入院料1	210 100.0	4 1.9	61 29.0	61 29.0	44 21.0	23 11.0	17 8.1	51.7
入院料2	206 100.0	17 8.3	34 16.5	97 47.1	37 18.0	14 6.8	7 3.4	49.3
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	23.5
入院料4	5 100.0	3 60.0	－ －	－ －	1 20.0	－ －	1 20.0	19.8
無回答・不明	28 100.0	－ －	3 10.7	1 3.6	－ －	1 3.6	23 82.1	46.0

第2章 調査票別調査結果－地域包括ケア病棟調査票

「自宅等からの緊急入院患者数（直近3か月）」を尋ねたところ、入院料1の病棟では「50人以上」が26.2%で最も多く、次いで「10～20人未満」が20.0%で、平均は39.9人であった。

表 143 自宅等からの緊急入院患者数（直近3か月）

	計	10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40～50人未満	50人以上	無回答・不明	平均（人）
計	450 100.0	102 22.7	77 17.1	65 14.4	49 10.9	22 4.9	90 20.0	45 10.0	33.1
入院料1	210 100.0	19 9.0	42 20.0	40 19.0	28 13.3	14 6.7	55 26.2	12 5.7	39.9
入院料2	206 100.0	79 38.3	32 15.5	24 11.7	20 9.7	8 3.9	34 16.5	9 4.4	27.1
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	12.0
入院料4	5 100.0	4 80.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	6.4
無回答・不明	28 100.0	－ －	1 3.6	1 3.6	1 3.6	－ －	1 3.6	24 85.7	32.3

(9) 看護職員配置加算の算定状況

看護職員配置加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料1では90.0%が加算を算定していた。

表 144 看護職員配置加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	450 100.0	387 86.0	35 7.8	28 6.2
入院料1	210 100.0	189 90.0	16 7.6	5 2.4
入院料2	206 100.0	189 91.7	17 8.3	－ －
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	3 60.0	2 40.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	5 17.9	－ －	23 82.1

(10) 看護職員夜間配置加算の算定状況

看護職員夜間配置加算の算定状況（令和４年１１月１日時点）を尋ねたところ、入院料１では 25.7%が加算を算定していた。

表 145 看護職員夜間配置加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	450 100.0	110 24.4	313 69.6	27 6.0
入院料 1	210 100.0	54 25.7	152 72.4	4 1.9
入院料 2	206 100.0	56 27.2	150 72.8	— —
入院料 3	1 100.0	— —	1 100.0	— —
入院料 4	5 100.0	— —	5 100.0	— —
無回答・不明	28 100.0	— —	5 17.9	23 82.1

(11) 看護補助者配置加算の算定状況

看護補助者配置加算の算定状況（令和４年１１月１日時点）を尋ねたところ、入院料１では 61.9%が加算を算定していた。

表 146 看護補助者配置加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	450 100.0	248 55.1	173 38.4	29 6.4
入院料 1	210 100.0	130 61.9	74 35.2	6 2.9
入院料 2	206 100.0	112 54.4	94 45.6	— —
入院料 3	1 100.0	1 100.0	— —	— —
入院料 4	5 100.0	2 40.0	3 60.0	— —
無回答・不明	28 100.0	3 10.7	2 7.1	23 82.1

(12) 看護補助体制充実加算の算定状況

看護補助体制充実加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料1では41.9%が加算を算定していた。

表 147 看護補助体制充実加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	450 100.0	177 39.3	247 54.9	26 5.8
入院料1	210 100.0	88 41.9	119 56.7	3 1.4
入院料2	206 100.0	84 40.8	122 59.2	－ －
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	3 60.0	2 40.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	1 3.6	4 14.3	23 82.1

2. 回答病棟における在棟患者の状況

(1) 11 月 1 日 24 時時点の入院患者数

令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で地域包括ケア病棟に入院している患者数は、入院料 1 では「30～40 人未満」が 33.3%で最も多く、平均は 38.9 人であった。

令和 4 年 11 月に地域包括ケア病棟に入院している実患者数のうち、算定要件に該当しない患者割合は、入院料 1 では「0%」が 35.7%で最も多く、次いで「8%以上」が 13.8%で、平均は 6.1%であった。

表 148 11 月 1 日 24 時時点の入院患者数

	計	20 人 未満	20～30 人未満	30～40 人未満	40～50 人未満	50～60 人未満	60 人 以上	無回答 ・不明	平均 (人)
計	450 100.0	32 7.1	101 22.4	144 32	89 19.8	28 6.2	28 6.2	28 6.2	36.8
入院料 1	210 100.0	11 5.2	41 19.5	70 33.3	47 22.4	17 8.1	19 9	5 2.4	38.9
入院料 2	206 100.0	20 9.7	55 26.7	71 34.5	41 19.9	11 5.3	8 3.9	— —	34.7
入院料 3	1 100.0	— —	1 100	— —	— —	— —	— —	— —	28.0
入院料 4	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	— —	— —	— —	— —	21.2
無回答・不明	28 100.0	— —	1 3.6	2 7.1	1 3.6	— —	1 3.6	23 82.1	53.4

表 149 算定要件に該当しない患者割合

	計	0%	0%超～ 2%未満	2～4% 未満	4～6% 未満	6～8% 未満	8%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	450 100.0	190 42.2	16 3.6	12 2.7	9 2.0	8 1.8	54 12.0	161 35.8	5.0
入院料 1	210 100.0	75 35.7	8 3.8	8 3.8	7 3.3	5 2.4	29 13.8	78 37.1	6.1
入院料 2	206 100.0	114 55.3	8 3.9	4 1.9	2 1.0	2 1.0	23 11.2	53 25.7	3.8
入院料 3	1 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 100.0	—
入院料 4	5 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	2 40.0	3 60.0	25.9
無回答・不明	28 100.0	1 3.6	— —	— —	— —	1 3.6	— —	26 92.9	3.4

(2) 入院患者の状態

調査時点（令和4年11月1日）で届出を行っている、重症度、医療・看護必要度の測定方法は、入院料1では「必要度Ⅰは60.5%で、「必要度Ⅱ」は31.4%であった。

表 150 重症度、医療・看護必要度の測定方法

	計	必要度Ⅰ	必要度Ⅱ	無回答・不明
計	450 100.0	197 43.8	204 45.3	49 10.9
入院料1	210 100.0	127 60.5	66 31.4	17 8.1
入院料2	206 100.0	63 30.6	135 65.5	8 3.9
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	4 80.0	1 20.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	2 7.1	24 85.7

重症度、医療・看護必要度の該当患者割合は、入院料1では「必要度Ⅰ」の場合は平均27.6%、「必要度Ⅱ」の場合は平均22.8%であった。

表 151 重症度、医療・看護必要度の該当患者割合 ①必要度Ⅰ

	計	15%未満	15～20%未満	20～25%未満	25～30%未満	30～35%未満	35%以上	無回答・不明	平均(%)
計	197 100.0	16 8.1	43 21.8	45 22.8	29 14.7	22 11.2	35 17.8	7 3.6	26.9
入院料1	127 100.0	8 6.3	28 22.0	25 19.7	20 15.7	15 11.8	24 18.9	7 5.5	27.6
入院料2	63 100.0	8 12.7	15 23.8	19 30.2	8 12.7	5 7.9	8 12.7	－ －	24.6
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	34.0
入院料4	4 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	1 25.0	3 75.0	－ －	39.0
無回答・不明	2 100.0	－ －	－ －	1 50.0	1 50.0	－ －	－ －	－ －	24.8

表 152 重症度、医療・看護必要度の該当患者割合 ②必要度Ⅱ

	計	10%未満	10～15% 未満	15～20% 未満	20～25% 未満	25～30% 未満	30%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	204 100.0	14 6.9	55 27.0	51 25.0	35 17.2	27 13.2	20 9.8	2 1.0	20.2
入院料 1	66 100.0	4 6.1	15 22.7	15 22.7	13 19.7	8 12.1	10 15.2	1 1.5	22.8
入院料 2	135 100.0	9 6.7	39 28.9	36 26.7	21 15.6	19 14.1	10 7.4	1 0.7	19.1
入院料 3	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
入院料 4	1 100.0	— —	— —	— —	1 100.0	— —	— —	— —	21.9
無回答・不明	2 100.0	1 50.0	1 50.0	— —	— —	— —	— —	— —	10.3

(3) 令和 3 年度の新規入院患者数と入院元の内訳

令和 3 年度の新規入院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料 1 の病棟では「400～600 人未満」が 23.3%で最も多く、次いで「800 人以上」が 22.4%で、平均は 626.5 人であった。

新規入院患者の入院元（令和 3 年度）は、入院料 1 の病棟では「家庭からの入院」が 41.9%で最も多く、次いで「院内からの転棟」が 34.4%であった。

表 153 令和 3 年度の新規入院患者数

	計	200 人 未満	200～ 400 人 未満	400～ 600 人 未満	600～ 800 人 未満	800 人 以上	無回答 ・不明	平均 (人)
計	450 100.0	22 4.9	78 17.3	100 22.2	91 20.2	114 25.3	45 10.0	683.6
入院料 1	210 100.0	11 5.2	43 20.5	49 23.3	46 21.9	47 22.4	14 6.7	626.5
入院料 2	206 100.0	9 4.4	33 16.0	48 23.3	42 20.4	65 31.6	9 4.4	732.7
入院料 3	1 100.0	— —	1 100.0	— —	— —	— —	— —	223.0
入院料 4	5 100.0	2 40.0	1 20.0	— —	1 20.0	1 20.0	— —	811.2
無回答・不明	28 100.0	— —	— —	3 10.7	2 7.1	1 3.6	22 78.6	908.7

表 154 新規入院患者（令和3年度）の入院元別割合（平均値）

	院内からの転棟	家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院	介護施設からの入院	介護医療院からの入院	その他
計（n=450）	46.8%	36.2%	11.9%	4.6%	0.2%	0.2%
入院料1（n=210）	34.4%	41.9%	16.4%	6.9%	0.3%	0.2%
入院料2（n=206）	59.6%	31.1%	6.5%	2.4%	0.0%	0.3%
入院料3（n=1）	9.9%	35.9%	52.5%	0.0%	1.8%	0.0%
入院料4（n=5）	28.1%	11.6%	50.2%	9.9%	0.1%	0.0%
無回答・不明（n=28）	55.4%	38.5%	5.6%	0.4%	0.0%	0.0%

※n数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

（4）令和3年度の退院患者数と退院先の内訳

令和3年度の退院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料1の病棟では「400～600人未満」が23.3%で最も多く、次いで「800人以上」が21.9%で、平均は613.6人であった。

退院患者の退棟先は、入院料1の病棟では「家庭へ退院」が63.3%で最も多く、次いで「死亡退院」が7.1%であった。

表 155 令和3年度の退院患者数

	計	200人未満	200～400人未満	400～600人未満	600～800人未満	800人以上	無回答・不明	平均（人）
計	450 100.0	21 4.7	78 17.3	102 22.7	94 20.9	110 24.4	45 10.0	668.9
入院料1	210 100.0	11 5.2	44 21.0	49 23.3	45 21.4	46 21.9	15 7.1	613.6
入院料2	206 100.0	6 2.9	33 16.0	50 24.3	46 22.3	63 30.6	8 3.9	729.6
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	221.0
入院料4	5 100.0	4 80.0	－ －	－ －	1 20.0	－ －	－ －	223.8
無回答・不明	28 100.0	－ －	－ －	3 10.7	2 7.1	1 3.6	22 78.6	910.2

表 156 退院患者（令和 3 年度）の退棟先別割合（平均値）

	院内の他の病棟へ 転棟	家庭へ退院	他の病院・診療所へ 転院	介護老人保健施設に 入所	介護老人福祉施設に 入所	介護医療院に入所	社会福祉施設・有料 老人ホーム等に入所	死亡退院	その他
計（n=450）	5.6%	66.2%	6.9%	4.0%	4.0%	1.0%	6.3%	5.7%	0.4%
入院料 1（n=210）	5.7%	63.3%	6.5%	4.2%	4.8%	1.1%	6.6%	7.1%	0.7%
入院料 2（n=206）	4.6%	69.9%	7.5%	3.7%	3.2%	0.9%	6.0%	4.0%	0.2%
入院料 3（n=1）	－	－	－	－	－	－	－	－	－
入院料 4（n=5）	35.6%	28.1%	4.0%	4.7%	1.1%	0.0%	6.9%	19.6%	0.0%
無回答・不明（n=28）	8.5%	72.1%	5.0%	4.3%	3.2%	0.1%	4.5%	2.3%	0.1%

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

（5）75 歳以上の患者割合

令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で入院している患者のうち、75 歳以上の患者割合は、入院料 1 の病棟では「80%以上」が 49.5%で最も多く、次いで「70～80%未満」が 18.6%で、平均は 78.9%であった。

表 157 75 歳以上患者割合

	計	50%未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80%以上	無回答・不明	平均 (%)
計	450 100.0	38 8.4	27 6.0	51 11.3	74 16.4	184 40.9	76 16.9	74.4
入院料 1	210 100.0	8 3.8	9 4.3	19 9.0	39 18.6	104 49.5	31 14.8	78.9
入院料 2	206 100.0	28 13.6	18 8.7	32 15.5	34 16.5	74 35.9	20 9.7	70.0
入院料 3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	89.3
入院料 4	5 100.0	－ －	－ －	－ －	1 20.0	2 40.0	2 40.0	80.7
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	－ －	－ －	－ －	3 10.7	23 82.1	69.4

(6) 認知症の評価状況と認知症患者割合

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況は、入院料 1 では「評価している」が 58.6%であった。

表 158 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況

	計	評価して いる	評価して いない	無回答 ・不明
計	450 100.0	260 57.8	81 18.0	109 24.2
入院料 1	210 100.0	123 58.6	39 18.6	48 22.9
入院料 2	206 100.0	130 63.1	39 18.9	37 18.0
入院料 3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －
入院料 4	5 100.0	2 40.0	3 60.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	4 14.3	－ －	24 85.7

評価を行っている場合は、認知症高齢者の自立度判定基準別（Ⅰ～Ⅳ）に人数を尋ねた。令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で入院している患者のうち、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上の患者割合は、入院料 1 の病棟では「50%以上」が 24.4%で最も多く、次いで「20～30%未満」が 17.1%で、平均は 44.0%であった。

ランク別人数としては、入院料 1 ではランクⅢが最も多く、ランクⅣ該当者は中央値で 0 人だった。

表 159 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上患者割合

	計	10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30～40% 未満	40～50% 未満	50% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	260 100.0	22 8.5	33 12.7	43 16.5	31 11.9	32 12.3	49 18.8	50 19.2	36.5
入院料 1	123 100.0	5 4.1	11 8.9	21 17.1	15 12.2	17 13.8	30 24.4	24 19.5	44.0
入院料 2	130 100.0	16 12.3	22 16.9	22 16.9	16 12.3	15 11.5	16 12.3	23 17.7	29.4
入院料 3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	50.0
入院料 4	2 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	2 100.0	－
無回答・不明	4 100.0	1 25.0	－ －	－ －	－ －	－ －	2 50.0	1 25.0	38.4

※ランクⅢ又はⅣ又はⅣに該当する患者割合を記載。

表 160 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランク別の人数（中央値）

(単位：人)	ランク				
	I	II	III	IV	M
計	3	4	8	2	0
入院料 1	3	5	9	2.5	0
入院料 2	3	4	6	2	0
入院料 3	6	7	8	6	0
入院料 4	－	1	－	－	－

(7) 新規褥瘡発生の状況

調査時点（令和 4 年 11 月）の入院実患者のうち、d2 以上の新規褥瘡を発生した患者割合は、入院料 1 の病棟では「0%」が 54.1%で最も多く、次いで「1～2%未満」が 13.0%で、平均は 1.4%であった。

表 161 d2 以上の新規褥瘡発生割合

	計	0%	0%超～ 1%未満	1～2% 未満	2～3% 未満	3～4% 未満	4%以上	平均 (%)
計	315 100.0	175 55.6	21 6.7	43 13.7	31 9.8	16 5.1	29 9.2	1.3
入院料 1	146 100.0	79 54.1	7 4.8	19 13.0	12 8.2	13 8.9	16 11.0	1.4
入院料 2	162 100.0	94 58.0	13 8.0	21 13.0	19 11.7	3 1.9	12 7.4	1.0
入院料 3	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－
入院料 4	3 100.0	1 33.3	－ －	1 33.3	－ －	－ －	1 33.3	8.8
無回答・不明	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	－ －	－ －	－ －	0.6

※構成比は、新規褥瘡発生割合「無回答・不明」を除外して算出。

(8) 身体的拘束の状況

調査時点（令和4年11月）に身体的拘束をした患者数は、入院料1の病棟では平均16.7人で、一人あたりの平均拘束日数は平均11.9日であった。

表 162 11月に身体的拘束をした患者数・平均拘束日数

	実患者数		延べ患者数		一人あたりの平均拘束日数	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（日）	標準偏差
計（n=405）	14.9	47.2	143.8	191.3	11.6	7.7
入院料1（n=196）	16.7	58.2	158.9	220.6	11.9	7.3
入院料2（n=198）	13.7	34.6	132.3	162.5	11.0	8.0
入院料3（n=1）	0.0	－	0.0	－	－	－
入院料4（n=5）	8.4	6.1	137.6	80.8	21.3	7.2
無回答・不明（n=5）	4.8	3.5	64.8	30.9	15.7	3.5

※平均拘束日数＝身体的拘束をした延べ患者数÷身体的拘束をした実人数

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

※本調査における身体的拘束の定義は次の通り。

「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの器具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言う（診療報酬の認知症ケア加算の定義と同じ）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内在型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含む。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まない。4点柵の使用も含まない。

調査時点（令和4年11月）に身体的拘束を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「0%超～10%未満」が41.0%で最も多く、次いで「10～20%未満」が20.5%で、平均は16.2%であった。

表 163 身体的拘束実施患者割合

	計	0%	0%超～ 10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30～40% 未満	40% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	450 100.0	22 4.9	185 41.1	90 20.0	38 8.4	25 5.6	34 7.6	56 12.4	14.7
入院料1	210 100.0	10 4.8	86 41.0	43 20.5	14 6.7	16 7.6	23 11.0	18 8.6	16.2
入院料2	206 100.0	11 5.3	92 44.7	46 22.3	23 11.2	8 3.9	11 5.3	15 7.3	13.5
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
入院料4	5 100.0	－ －	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	－ －	－ －	15.3
無回答・不明	28 100.0	－ －	5 17.9	－ －	－ －	－ －	－ －	23 82.1	3.0

※身体的拘束実施患者割合＝身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数

(9) 器具の装着や処置等の状況

令和4年11月1日24時時点で入院している患者が、11月1日の状態として、どのような器具の装着や処置等がされていたかを尋ねた。

点滴（持続的静脈注射）を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が31.9%で最も多く、平均は16.5%であった。

表 164 点滴（持続的静脈注射）の実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	450 100.0	58 12.9	136 30.2	98 21.8	66 14.7	53 11.8	39 8.7	14.8
入院料1	210 100.0	23 11.0	67 31.9	40 19.0	32 15.2	35 16.7	13 6.2	16.5
入院料2	206 100.0	33 16.0	64 31.1	55 26.7	33 16.0	18 8.7	3 1.5	13.5
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	7.1
入院料4	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	－ －	－ －	10.0
無回答・不明	28 100.0	1 3.6	2 7.1	2 7.1	－ －	－ －	23 82.1	9.1

経鼻経管栄養を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が51.9%で最も多く、平均は2.4%であった。

表 165 経鼻経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	450 100.0	224 49.8	154 34.2	20 4.4	2 0.4	2 0.4	48 10.7	2.6
入院料1	210 100.0	109 51.9	72 34.3	10 4.8	1 0.5	1 0.5	17 8.1	2.4
入院料2	206 100.0	111 53.9	76 36.9	9 4.4	1 0.5	1 0.5	8 3.9	2.6
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3.6
入院料4	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －	8.6
無回答・不明	28 100.0	3 10.7	2 7.1	－ －	－ －	－ －	23 82.1	2.8

第2章 調査票別調査結果－地域包括ケア病棟調査票

胃ろうもしくは腸ろう経管栄養を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が46.2%で最も多く、平均は2.7%であった。

表 166 胃ろうもしくは腸ろう経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	197 43.8	191 42.4	15 3.3	4 0.9	1 0.2	42 9.3	2.7
入院料 1	210 100.0	89 42.4	97 46.2	6 2.9	3 1.4	－ －	15 7.1	2.7
入院料 2	206 100.0	102 49.5	90 43.7	8 3.9	1 0.5	1 0.5	4 1.9	2.7
入院料 3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3.6
入院料 4	5 100.0	3 60.0	2 40.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3.2
無回答・不明	28 100.0	3 10.7	1 3.6	1 3.6	－ －	－ －	23 82.1	3.4

心電図モニターを装着中の患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が41.0%で最も多く、平均は9.9%であった。

表 167 心電図モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	61 13.6	177 39.3	129 28.7	31 6.9	11 2.4	41 9.1	9.6
入院料 1	210 100.0	24 11.4	86 41.0	60 28.6	22 10.5	4 1.9	14 6.7	9.9
入院料 2	206 100.0	34 16.5	87 42.2	67 32.5	8 3.9	6 2.9	4 1.9	9.2
入院料 3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3.6
入院料 4	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	－ －	1 20.0	－ －	15.5
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	1 3.6	1 3.6	1 3.6	－ －	23 82.1	9.4

SpO2 モニターを装着中の患者割合は、入院料 1 の病棟では「1～10%未満」が 41.4%で最も多く、平均は 7.5%であった。

表 168 SpO2 モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	123 27.3	171 38.0	79 17.6	24 5.3	10 2.2	43 9.6	7.4
入院料 1	210 100.0	57 27.1	87 41.4	32 15.2	13 6.2	6 2.9	15 7.1	7.5
入院料 2	206 100.0	61 29.6	81 39.3	45 21.8	10 4.9	4 1.9	5 2.4	7.4
入院料 3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
入院料 4	5 100.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	－ －	－ －	13.4
無回答・不明	28 100.0	3 10.7	2 7.1	－ －	－ －	－ －	23 82.1	1.2

痰の吸引を実施した患者割合は、入院料 1 の病棟では「10～20%未満」が 32.9%で最も多く、平均は 14.1%であった。

表 169 痰の吸引を実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	47 10.4	146 32.4	139 30.9	54 12.0	25 5.6	39 8.7	12.6
入院料 1	210 100.0	16 7.6	65 31.0	69 32.9	29 13.8	17 8.1	14 6.7	14.1
入院料 2	206 100.0	28 13.6	80 38.8	66 32.0	24 11.7	6 2.9	2 1.0	10.7
入院料 3	1 100.0	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	10.7
入院料 4	5 100.0	1 20.0	－ －	2 40.0	1 20.0	1 20.0	－ －	31.7
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	1 3.6	1 3.6	－ －	1 3.6	23 82.1	10.5

第2章 調査票別調査結果－地域包括ケア病棟調査票

酸素投与中の患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が48.1%で最も多く、平均は9.0%であった。

表 170 酸素投与中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	57 12.7	215 47.8	113 25.1	19 4.2	4 0.9	42 9.3	8.2
入院料1	210 100.0	21 10.0	101 48.1	55 26.2	15 7.1	3 1.4	15 7.1	9.0
入院料2	206 100.0	36 17.5	110 53.4	51 24.8	4 1.9	1 0.5	4 1.9	7.2
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	10.7
入院料4	5 100.0	－ －	－ －	5 100.0	－ －	－ －	－ －	13.3
無回答・不明	28 100.0	－ －	4 14.3	1 3.6	－ －	－ －	23 82.1	5.8

気管カニューレを挿入中の患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が78.1%で最も多く、平均は0.5%であった。

表 171 気管カニューレ挿入中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	450 100.0	340 75.6	62 13.8	1 0.2	－ －	－ －	47 10.4	0.5
入院料1	210 100.0	164 78.1	27 12.9	1 0.5	－ －	－ －	18 8.6	0.5
入院料2	206 100.0	165 80.1	35 17.0	－ －	－ －	－ －	6 2.9	0.6
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
入院料4	5 100.0	5 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
無回答・不明	28 100.0	5 17.9	－ －	－ －	－ －	－ －	23 82.1	0.0

(10) 経口摂取訓練の状況

令和4年11月1日24時時点で経口摂取していない患者割合は、入院料1の病棟では「10%以上」が41.9%で最も多く、次いで「6～8%未満」が12.9%で、平均は11.5%であった。

表 172 経口摂取をしていない患者割合

	計	2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8～10%未満	10%以上	無回答・不明	平均(%)
計	450 100.0	75 16.7	51 11.3	48 10.7	45 10.0	27 6.0	161 35.8	43 9.6	10.0
入院料1	210 100.0	22 10.5	21 10.0	26 12.4	27 12.9	12 5.7	88 41.9	14 6.7	11.5
入院料2	206 100.0	50 24.3	30 14.6	21 10.2	16 7.8	15 7.3	68 33.0	6 2.9	8.2
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	7.1
入院料4	5 100.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －	－ －	4 80.0	－ －	30.3
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	－ －	1 3.6	1 3.6	－ －	1 3.6	23 82.1	4.9

11月1日24時時点で経口摂取していない患者のうち、摂食嚥下の間接訓練をすでに開始している患者（11月1日に開始した患者を含む）の割合は、入院料1の病棟では平均32.7%であった。また間接訓練をすでに開始している患者のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練を含む）した患者割合は、入院料1の病棟では平均52.3%であった。

表 173 経口摂取をしていない患者のうち、間接訓練を行っている患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	339 100.0	170 50.1	39 11.5	34 10.0	25 7.4	66 19.5	5 1.5	33.2
入院料1	179 100.0	92 51.4	20 11.2	16 8.9	16 8.9	32 17.9	3 1.7	32.7
入院料2	152 100.0	76 50.0	17 11.2	17 11.2	9 5.9	32 21.1	1 0.7	33.4
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
入院料4	4 100.0	－ －	2 50.0	1 25.0	－ －	－ －	1 25.0	30.2
無回答・不明	3 100.0	1 33.3	－ －	－ －	－ －	2 66.7	－ －	66.7

表 174 間接訓練を開始した患者のうち、1回でも経口摂取した患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	178 100.0	65 36.5	11 6.2	23 12.9	11 6.2	68 38.2	－ －	50.7
入院料 1	97 100.0	32 33.0	9 9.3	12 12.4	5 5.2	39 40.2	－ －	52.3
入院料 2	76 100.0	31 40.8	1 1.3	9 11.8	6 7.9	29 38.2	－ －	50.3
入院料 3	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料 4	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	－ －	－ －	－ －	24.4
無回答・不明	2 100.0	1 50.0	－ －	1 50.0	－ －	－ －	－ －	25.0

※経口摂取には直接訓練（食べ物を利用した訓練）を含む

(11) 24 時時点の CV カテーテル（中心静脈注射）の状況

令和4年11月1日24時時点でCVカテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が44.3%で最も多く、平均は3.4%であった。

表 175 CV カテーテル挿入患者割合

	計	1%未満	1～2%未満	2～3%未満	3～4%未満	4～5%未満	5%以上	無回答・不明	平均(%)
計	450 100.0	205 45.6	11 2.4	49 10.9	31 6.9	18 4.0	97 21.6	39 8.7	3.4
入院料 1	210 100.0	93 44.3	6 2.9	26 12.4	15 7.1	6 2.9	51 24.3	13 6.2	3.4
入院料 2	206 100.0	107 51.9	5 2.4	22 10.7	15 7.3	12 5.8	42 20.4	3 1.5	3.0
入院料 3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	0.0
入院料 4	5 100.0	2 40.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 60.0	－ －	19.1
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	－ －	1 3.6	1 3.6	－ －	1 3.6	23 82.1	2.7

11月1日24時時点でCVカテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者のうち、11月30日までにCVカテーテルを抜去（ロックは含まない）した患者割合は、入院料1の病棟では、平均26.3%であった。

表 176 CVカテーテル抜去患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	207 100.0	130 62.8	14 6.8	15 7.2	4 1.9	43 20.8	1 0.5	27.9
入院料1	105 100.0	67 63.8	9 8.6	6 5.7	1 1.0	21 20.0	1 1.0	26.3
入院料2	96 100.0	60 62.5	5 5.2	8 8.3	2 2.1	21 21.9	－ －	29.3
入院料3	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料4	3 100.0	2 66.7	－ －	1 33.3	－ －	－ －	－ －	13.3
無回答・不明	3 100.0	1 33.3	－ －	－ －	1 33.3	1 33.3	－ －	55.6

(12) 24時時点の膀胱留置カテーテルの状況

令和4年11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者割合は、入院料1の病棟では「10～15%未満」が22.4%で最も多く、平均は13.9%であった。

表 177 膀胱留置カテーテル挿入患者割合

	計	5%未満	5～10%未満	10～15%未満	15～20%未満	20～25%未満	25%以上	無回答・不明	平均(%)
計	450 100.0	94 20.9	94 20.9	95 21.1	65 14.4	21 4.7	36 8.0	45 10.0	12.2
入院料1	210 100.0	37 17.6	40 19.0	47 22.4	37 17.6	10 4.8	23 11.0	16 7.6	13.9
入院料2	206 100.0	55 26.7	52 25.2	44 21.4	27 13.1	10 4.9	12 5.8	6 2.9	10.4
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	17.9
入院料4	5 100.0	2 40.0	－ －	2 40.0	－ －	－ －	1 20.0	－ －	16.5
無回答・不明	28 100.0	－ －	2 7.1	2 7.1	－ －	1 3.6	－ －	23 82.1	11.8

第2章 調査票別調査結果－地域包括ケア病棟調査票

11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者のうち、11月30日までに膀胱留置カテーテルを抜去した患者割合は、入院料1の病棟では平均24.6%であった。

表 178 膀胱留置カテーテル抜去患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	366 100.0	184 50.3	70 19.1	42 11.5	24 6.6	42 11.5	4 1.1	27.3
入院料1	181 100.0	95 52.5	35 19.3	22 12.2	12 6.6	14 7.7	3 1.7	24.6
入院料2	175 100.0	86 49.1	34 19.4	19 10.9	10 5.7	25 14.3	1 0.6	28.8
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －	60.0
入院料4	4 100.0	1 25.0	－ －	1 25.0	1 25.0	1 25.0	－ －	54.2
無回答・不明	5 100.0	2 40.0	1 20.0	－ －	－ －	2 40.0	－ －	45.7

(13) 転倒・転落の状況

調査時点（令和4年11月）のレベル2以上の転倒・転落の発生件数（入院実患者100人換算）は、入院料1の病棟では「2件未満」が32.4%で最も多く、平均は3.5件であった。

表 179 転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

	計	2件未満	2～4件未満	4～6件未満	6～8件未満	8件以上	無回答・不明	平均(件)
計	450 100.0	155 34.4	68 15.1	50 11.1	24 5.3	29 6.4	124 27.6	3.3
入院料1	210 100.0	68 32.4	32 15.2	26 12.4	15 7.1	13 6.2	56 26.7	3.5
入院料2	206 100.0	84 40.8	34 16.5	23 11.2	8 3.9	15 7.3	42 20.4	3.0
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－
入院料4	5 100.0	1 20.0	1 20.0	－ －	1 20.0	1 20.0	1 20.0	5.7
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	1 3.6	1 3.6	－ －	－ －	24 85.7	2.0

※転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

＝11月のレベル2以上の転倒・転落発生件数÷11月の入院実患者数×100

レベル 2 以上の転倒・転落が発生している場合の、転倒・転落の夜間帯発生割合は、入院料 1 の病棟では、平均 59.6%であった。

表 180 転倒・転落のうち夜間帯発生割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	307 100.0	64 20.8	31 10.1	57 18.6	46 15.0	108 35.2	1 0.3	57.3
入院料 1	155 100.0	28 18.1	16 10.3	29 18.7	25 16.1	56 36.1	1 0.6	59.6
入院料 2	143 100.0	33 23.1	14 9.8	28 19.6	20 14.0	48 33.6	－ －	54.9
入院料 3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	100.0
入院料 4	3 100.0	2 66.7	－ －	－ －	1 33.3	－ －	－ －	22.2
無回答・不明	5 100.0	1 20.0	1 20.0	－ －	－ －	3 60.0	－ －	65.0

病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用している割合は、入院料 1 の病棟では 76.7%であった。

表 181 統一された転倒・転落アセスメントツールの活用状況

	計	活用している	活用していない	無回答・不明
計	450 100.0	348 77.3	8 1.8	94 20.9
入院料 1	210 100.0	161 76.7	6 2.9	43 20.5
入院料 2	206 100.0	177 85.9	2 1.0	27 13.1
入院料 3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －
入院料 4	5 100.0	4 80.0	－ －	1 20.0
無回答・不明	28 100.0	5 17.9	－ －	23 82.1

3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況

(1) 看護職員数、看護補助者数

調査時点（令和4年11月）の看護職員（非管理職）の配置数（実人数）は、入院料1の病棟では「20～30人未満」が50.0%で最も多く、平均は24.5人であった。准看護師比率（看護職員配置数（実人数）に占める准看護師の割合）は、入院料1の病棟では、平均8.2%であった。

表 182 11月の看護職員（非管理職）配置数（実人数）

	計	10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40人以上	無回答・不明	平均(人)
計	450 100.0	4 0.9	140 31.1	212 47.1	31 6.9	28 6.2	35 7.8	23.7
入院料1	210 100.0	2 1.0	61 29.0	105 50.0	13 6.2	19 9.0	10 4.8	24.5
入院料2	206 100.0	2 1.0	71 34.5	105 51.0	18 8.7	8 3.9	2 1.0	22.9
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	17.0
入院料4	5 100.0	－ －	5 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	15.6
無回答・不明	28 100.0	－ －	2 7.1	2 7.1	－ －	1 3.6	23 82.1	31.2

表 183 准看護師比率

	計	2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8～10%未満	10%以上	無回答・不明	平均(%)
計	450 100.0	177 39.3	20 4.4	61 13.6	21 4.7	21 4.7	111 24.7	39 8.7	6.8
入院料1	210 100.0	69 32.9	13 6.2	26 12.4	10 4.8	15 7.1	66 31.4	11 5.2	8.2
入院料2	206 100.0	105 51.0	7 3.4	34 16.5	11 5.3	6 2.9	38 18.4	5 2.4	5.0
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0	－ －	11.8
入院料4	5 100.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －	－ －	4 80.0	－ －	18.3
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	－ －	1 3.6	－ －	－ －	2 7.1	23 82.1	7.3

11月の看護補助者の配置数（実人数）は、入院料1の病棟では「5～10人未満」が41.4%で最も多く、平均は9.4人であった

表 184 11月の看護補助者配置数（実人数）

	計	5人未満	5～10人未満	10～15人未満	15～20人未満	20人以上	無回答・不明	平均(人)
計	450 100.0	79 17.6	185 41.1	114 25.3	25 5.6	10 2.2	37 8.2	8.6
入院料1	210 100.0	25 11.9	87 41.4	66 31.4	17 8.1	5 2.4	10 4.8	9.4
入院料2	206 100.0	53 25.7	89 43.2	47 22.8	8 3.9	5 2.4	4 1.9	7.8
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	7.0
入院料4	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －	6.8
無回答・不明	28 100.0	－ －	5 17.9	－ －	－ －	－ －	23 82.1	8.4

(2) 実質的な看護職員配置、看護補助者配置

調査時点（令和4年11月）の実質的な看護職員配置（非管理職）は、入院料1の病棟では「8対1を満たさないが10対1を満たす」が36.7%で最も多く、平均は8.4対1配置であった。同様に、実質的な看護補助者配置を算出すると、入院料1の病棟では平均29.7対1配置であった。

表 185 実質的な看護職員配置（非管理職）

	計	8対1を満たす	8対1を満たさないが10対1を満たす	10対1を満たさないが12対1を満たす	12対1を満たさない	無回答・不明	平均
計	450 100.0	168 37.3	144 32.0	43 9.6	13 2.9	82 18.2	8.3
入院料1	210 100.0	73 34.8	77 36.7	19 9.0	6 2.9	35 16.7	8.4
入院料2	206 100.0	92 44.7	63 30.6	22 10.7	7 3.4	22 10.7	8.2
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	8.5
入院料4	5 100.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	－ －	1 20.0	8.0
無回答・不明	28 100.0	1 3.6	2 7.1	1 3.6	－ －	24 85.7	8.2

※実質的な看護職員配置（X対1）の“X”＝11月の在棟患者延べ数×8時間×3勤務帯

÷看護職員（非管理職）の11月の総勤務時間数×100

表 186 実質的な看護補助者配置

	計	15対1を満たす	15対1を満たさないが20対1を満たす	20対1を満たさないが25対1を満たす	25対1を満たさない	無回答・不明	平均
計	450 100.0	49 10.9	125 27.8	72 16.0	118 26.2	86 19.1	33.5
入院料1	210 100.0	21 10.0	71 33.8	36 17.1	46 21.9	36 17.1	29.7
入院料2	206 100.0	24 11.7	52 25.2	35 17.0	70 34.0	25 12.1	37.7
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	17.6
入院料4	5 100.0	4 80.0	－ －	－ －	－ －	1 20.0	12.5
無回答・不明	28 100.0	－ －	1 3.6	1 3.6	2 7.1	24 85.7	36.6

(3) 他の医療専門職の病棟配置状況

他の医療専門職の病棟配置数（実人数）については、入院料 1 の病棟では、①理学療法士が専従 1.3 人・兼務 3.4 人、②作業療法士が専従 0.6 人・兼務 1.5 人、③言語聴覚士が専従 0.2 人・兼務 0.9 人、④管理栄養士が専従 0.2 人・兼務 0.6 人、⑤薬剤師が専従 0.4 人・兼務 0.8 人、⑥MSW が専従 0.6 人・兼務 0.9 人であった（人数はすべて平均値）。

表 187 他の医療専門職（専従・兼務）の病棟配置数（実人数）

	①理学療法士				②作業療法士				③言語聴覚士			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=450)	1.3	1.7	2.8	5.1	0.5	0.9	1.5	2.3	0.1	0.5	0.8	1.3
入院料 1 (n=210)	1.3	1.7	3.4	6.1	0.6	1.0	1.5	2.4	0.2	0.6	0.9	1.4
入院料 2 (n=206)	1.3	1.6	2.2	3.5	0.4	0.8	1.3	2.3	0.1	0.4	0.7	1.1
入院料 3 (n=1)	4.0	-	-	-	2.0	-	-	-	1.0	-	1.0	-
入院料 4 (n=5)	1.6	1.2	0.0	0.0	0.2	0.4	1.2	2.4	0.4	0.5	0.4	0.8
無回答・不明 (n=28)	1.6	1.2	8.7	7.9	0.2	0.4	2.3	1.9	0.0	0.0	0.5	0.5

	④管理栄養士				⑤薬剤師				⑥MSW			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=450)	0.2	0.5	0.7	0.8	0.3	0.6	0.9	1.2	0.6	0.7	0.9	1.0
入院料 1 (n=210)	0.2	0.5	0.6	0.8	0.4	0.8	0.8	1.0	0.6	0.7	0.9	0.9
入院料 2 (n=206)	0.1	0.5	0.7	0.7	0.2	0.4	1.0	1.4	0.5	0.6	0.9	1.1
入院料 3 (n=1)	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-
入院料 4 (n=5)	0.0	0.0	0.4	0.5	0.0	0.0	0.4	0.5	0.6	0.5	0.2	0.4
無回答・不明 (n=28)	0.0	0.0	1.3	1.6	0.0	0.0	0.3	0.4	0.2	0.4	2.0	1.2

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制

平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制について尋ねたところ、2 交代制の入院料 1 の病棟では、看護職員は夜勤 2.4 人・早出 0.3 人・遅出 0.5 人で、看護補助者は夜勤 0.6 人・早出 0.9 人・遅出 0.9 人、リハビリ職員は夜勤 0.0 人・早出 0.0 人・遅出 0.0 人であった（人数はすべて平均値）。

表 188 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制 ①看護職員・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=363)	2.4	0.6	0.3	0.5	0.5	0.6
入院料 1 (n=169)	2.4	0.6	0.3	0.5	0.5	0.6
入院料 2 (n=163)	2.4	0.6	0.3	0.5	0.5	0.6
入院料 3 (n=1)	2.0	－	0.0	－	1.0	－
入院料 4 (n=4)	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=26)	2.7	0.5	0.0	0.0	0.3	0.5

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 189 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=363)	0.6	0.6	0.9	0.7	0.8	0.7
入院料 1 (n=169)	0.6	0.6	0.9	0.7	0.9	0.7
入院料 2 (n=163)	0.6	0.6	0.9	0.8	0.8	0.8
入院料 3 (n=1)	0.0	－	1.0	－	0.0	－
入院料 4 (n=4)	0.7	0.5	0.5	0.5	0.3	0.4
無回答・不明 (n=26)	0.3	0.5	0.3	0.5	0.3	0.5

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 190 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供4制 ③リハビリ職員・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=363)	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.2
入院料 1 (n=169)	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2
入院料 2 (n=163)	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 3 (n=1)	0.0	－	0.0	－	0.0	－
入院料 4 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=26)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

また、3交代制の入院料1の病棟では、看護職員は準夜勤2.4人・深夜勤2.3人・早出0.6人・遅出0.5人、看護補助者は準夜勤0.5人・深夜勤0.4人・早出1.1人・遅出0.9人、リハビリ職員は準夜勤0.1人・深夜勤0.0人・早出0.0人・遅出0.0人であった（人数はすべて平均値）。

表 191 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ①看護職員・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=159)	2.4	0.5	2.3	0.5	0.5	0.7	0.5	0.6
入院料 1 (n=67)	2.4	0.5	2.3	0.5	0.6	0.8	0.5	0.5
入院料 2 (n=66)	2.3	0.5	2.3	0.5	0.5	0.6	0.5	0.7
入院料 3 (n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—
入院料 4 (n=1)	2.0	—	2.0	—	0.0	—	1.0	—
無回答・不明 (n=25)	2.5	0.5	2.5	0.5	0.0	0.0	0.5	0.5

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 192 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=159)	0.5	0.6	0.4	0.5	1.1	0.8	0.9	0.8
入院料 1 (n=67)	0.5	0.6	0.4	0.5	1.1	0.9	0.9	0.8
入院料 2 (n=66)	0.5	0.6	0.4	0.5	1.1	0.8	0.9	0.7
入院料 3 (n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—
入院料 4 (n=1)	0.0	—	0.0	—	1.0	—	1.0	—
無回答・不明 (n=25)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 193 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ③リハビリ職員・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=159)	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 1 (n=67)	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 2 (n=66)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 3 (n=0)	—	—	—	—	—	—	—	—
入院料 4 (n=1)	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0	—
無回答・不明 (n=25)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 月平均夜勤時間

調査時点（令和4年11月）の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間は、入院料1の病棟では、「65時間未満」が40.5%で最も多く、平均は68.8時間であった。

表 194 看護職員1人あたりの月平均夜勤時間

	計	65時間未満	65～72時間未満	72～80時間未満	80時間以上	無回答・不明	平均（時間）
計	450 100.0	156 34.7	116 25.8	64 14.2	55 12.2	59 13.1	68.9
入院料1	210 100.0	85 40.5	48 22.9	24 11.4	31 14.8	22 10.5	68.8
入院料2	206 100.0	69 33.5	66 32.0	38 18.4	20 9.7	13 6.3	68.4
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	65.2
入院料4	5 100.0	－ －	1 20.0	1 20.0	3 60.0	－ －	82.8
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	－ －	1 3.6	1 3.6	24 85.7	80.3

(6) 患者・家族への支援の状況

調査時点（令和4年11月）の患者・家族に対する意思決定支援（ICの同席やACPを含む）の延べ回数は、入院料1の病棟では、平均15.8回であった。

同様に、患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導回数は、入院料1の病棟では、平均9.3回であった。

表 195 患者・家族への支援の実施状況

	患者・家族に対する意思決定支援回数		患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導回数	
	平均（回）	標準偏差	平均（回）	標準偏差
計（n=450）	16.1	33.2	13.4	36.6
入院料1（n=210）	15.8	20.3	9.3	16.4
入院料2（n=206）	16.2	42.2	17.4	49.0
入院料3（n=1）	16.0	－	14.0	－
入院料4（n=5）	4.5	3.6	4.5	3.8
無回答・不明（n=28）	35.0	33.2	19.5	16.5

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況

調査時点（令和4年11月）の看護職員による退院前訪問の実施件数は、入院料1の病棟では、平均0.2回であり、その内訳は病棟配属の看護職員によるものが平均0.1回、入退院支援部門配属の看護職員によるものが平均0.1回、外来部門等その他の所属の看護職員によるものが平均0.1回であった。

表 196 看護職員による退院前訪問の実施状況

	(内訳)							
	看護職員による退院前訪問件数		病棟配属の看護職員の訪問		入退院支援部門配属の看護職員の訪問		外来部門等その他の所属の看護職員の訪問	
	平均(件)	標準偏差	平均(件)	標準偏差	平均(件)	標準偏差	平均(件)	標準偏差
計 (n=408)	0.3	1.3	0.1	0.9	0.1	0.6	0.0	0.3
入院料1 (n=198)	0.2	0.7	0.1	0.4	0.1	0.5	0.1	0.4
入院料2 (n=200)	0.3	1.7	0.2	1.2	0.1	0.7	0.0	0.1
入院料3 (n=1)	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0	—
入院料4 (n=5)	1.0	2.2	0.0	0.0	1.0	2.2	0.0	0.0
無回答・不明 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(8) 夜間のトイレ介助の状況

トイレ歩行の際に見守りもしくは介助が必要な状態の患者に対する、夜間のトイレ介助の現状を尋ねたところ、入院料1の病棟では、「できるだけトイレ誘導している（看護職員・看護補助者が共同して介助）」が41.9%で最も多く、次いで「夜間は主にポータブルトイレを使用している」が27.1%であった。

表 197 夜間のトイレ介助の状況

	計	職誘で 員導可 がしだけ 中心ト レ	補誘で 助導可 者がしだけ 中心ト レ	職誘で 員導可 ・看護 補助者 がしだけ 中心ト レ	夜 間 は 主 に ポ ー タ ブル ト イ レ を 使 用 し て い る	夜 間 は 主 に オ ム ツ を 使 用 し て い る	見 守 り ・ 介 助 が 必 要 な 患 者 が い な い	無 回 答 ・ 不 明
計	450 100.0	138 30.7	9 2.0	178 39.6	84 18.7	11 2.4	— —	30 6.7
入院料1	210 100.0	47 22.4	7 3.3	88 41.9	57 27.1	5 2.4	— —	6 2.9
入院料2	206 100.0	87 42.2	1 0.5	87 42.2	24 11.7	6 2.9	— —	1 0.5
入院料3	1 100.0	— —	— —	1 100.0	— —	— —	— —	— —
入院料4	5 100.0	2 40.0	— —	2 40.0	1 20.0	— —	— —	— —
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	1 3.6	— —	2 7.1	— —	— —	23 82.1

(9) タスク・シフト／シェアの状況

病棟内の各種業務について、主に実施している職種（部門）を尋ねた。

「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が68.6%で最も多く、次いで「看護補助者」が16.2%であった。

表 198 「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	450 100.0	10 2.2	317 70.4	58 12.9	－ －	35 7.8	30 6.7
入院料 1	210 100.0	8 3.8	144 68.6	34 16.2	－ －	18 8.6	6 2.9
入院料 2	206 100.0	2 1.0	166 80.6	21 10.2	－ －	16 7.8	1 0.5
入院料 3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料 4	5 100.0	－ －	1 20.0	3 60.0	－ －	1 20.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	－ －	5 17.9	－ －	－ －	－ －	23 82.1

「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「リハビリ職員」が66.7%で最も多く、次いで「看護職員」が25.2%であった。

表 199 「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	450 100.0	280 62.2	110 24.4	8 1.8	22 4.9	30 6.7
入院料 1	210 100.0	140 66.7	53 25.2	4 1.9	7 3.3	6 2.9
入院料 2	206 100.0	134 65.0	55 26.7	3 1.5	13 6.3	1 0.5
入院料 3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料 4	5 100.0	3 60.0	1 20.0	－ －	1 20.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	1 3.6	1 3.6	1 3.6	23 82.1

「入院時の持参薬の確認」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「薬剤師」が 75.7%で最も多く、次いで「看護職員」が 19.0%であった。

表 200 「入院時の持参薬の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	450 100.0	308 68.4	102 22.7	－ －	10 2.2	30 6.7
入院料 1	210 100.0	159 75.7	40 19.0	－ －	5 2.4	6 2.9
入院料 2	206 100.0	141 68.4	59 28.6	－ －	5 2.4	1 0.5
入院料 3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料 4	5 100.0	4 80.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	28 100.0	3 10.7	2 7.1	－ －	－ －	23 82.1

「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「看護職員」が 60.5%で最も多く、次いで「薬剤師」が 33.8%であった。

表 201 「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	450 100.0	113 25.1	290 64.4	－ －	13 2.9	34 7.6
入院料 1	210 100.0	71 33.8	127 60.5	－ －	6 2.9	6 2.9
入院料 2	206 100.0	40 19.4	155 75.2	－ －	6 2.9	5 2.4
入院料 3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －
入院料 4	5 100.0	2 40.0	3 60.0	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	28 100.0	－ －	4 14.3	－ －	1 3.6	23 82.1

「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が73.8%で最も多く、次いで「薬剤師」が21.0%であった。

表 202 「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	450 100.0	75 16.7	334 74.2	1 0.2	9 2.0	31 6.9
入院料1	210 100.0	44 21.0	155 73.8	1 0.5	4 1.9	6 2.9
入院料2	206 100.0	31 15.0	169 82.0	－ －	4 1.9	2 1.0
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	－ －	5 100.0	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	28 100.0	－ －	4 14.3	－ －	1 3.6	23 82.1

「退院時の服薬指導」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「薬剤師」が64.8%で最も多く、次いで「看護職員」が29.0%であった。

表 203 「退院時の服薬指導」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	450 100.0	262 58.2	137 30.4	3 0.7	14 3.1	34 7.6
入院料1	210 100.0	136 64.8	61 29.0	2 1.0	4 1.9	7 3.3
入院料2	206 100.0	119 57.8	74 35.9	－ －	9 4.4	4 1.9
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	4 80.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	28 100.0	2 7.1	1 3.6	1 3.6	1 3.6	23 82.1

「栄養指導」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「管理栄養士」が91.0%で最も多かった。

表 204 「栄養指導」を主に実施している職種（部門）

	計	管理栄養士	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	450 100.0	398 88.4	6 1.3	4 0.9	7 1.6	35 7.8
入院料1	210 100.0	191 91.0	3 1.4	1 0.5	5 2.4	10 4.8
入院料2	206 100.0	197 95.6	2 1.0	3 1.5	2 1.0	2 1.0
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	4 80.0	1 20.0	－ －	－ －	－ －
無回答・不明	28 100.0	5 17.9	－ －	－ －	－ －	23 82.1

「退院調整」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「退院支援部門」が36.7%で最も多く、次いで「病棟配置のMSW」が32.9%であった。

表 205 「退院調整」を主に実施している職種（部門）

	計	退院支援 部門	病棟 看護職員	病棟配置の MSW	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	450 100.0	148 32.9	74 16.4	154 34.2	44 9.8	30 6.7
入院料1	210 100.0	77 36.7	35 16.7	69 32.9	23 11.0	6 2.9
入院料2	206 100.0	69 33.5	36 17.5	82 39.8	18 8.7	1 0.5
入院料3	1 100.0	－ －	－ －	1 100.0	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	2 40.0	1 20.0	－ －	2 40.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	－ －	2 7.1	2 7.1	1 3.6	23 82.1

(10) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況

看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施しているか尋ねたところ、入院料1の病棟では、「実施している」が80.5%であった。

表 206 看護補助者との役割分担に係る病棟看護職員への研修状況

	計	実施している	実施していない	無回答・不明
計	450 100.0	358 79.6	57 12.7	35 7.8
入院料1	210 100.0	169 80.5	32 15.2	9 4.3
入院料2	206 100.0	182 88.3	21 10.2	3 1.5
入院料3	1 100.0	1 100.0	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	3 60.0	2 40.0	－ －
無回答・不明	28 100.0	3 10.7	2 7.1	23 82.1

4. 令和4年度診療報酬改定の影響

(1) 診療報酬改定事項への対応

令和4年度診療報酬改定により、地域包括ケア病棟の施設基準のうち、「自宅からの入院患者割合」「緊急入院患者受け入れ数」「在宅復帰率」が引き上げられたこと（又は要件に追加されたこと）を受けて、看護提供体制等に関して対応したことを尋ねたところ、入院料1の病棟では「特に対応はしていない」が74.8%で最も多く、次いで「看護職員を加配した」が7.6%であった。

表 207 「自宅からの入院患者割合」「緊急入院患者受け入れ数」「在宅復帰率」が引き上げられたことを受けて、看護提供体制に関して対応したこと（複数回答）

	回答病院数	算定入院料を 変更した	看護職員を 加配した	リハビリ職員 を加配した	看護補助者を 加配した	特に対応は していない	その他	無回答・不明
計	450 100.0	11 2.4	31 6.9	6 1.3	33 7.3	306 68.0	45 10.0	36 8.0
入院料1	210 100.0	5 2.4	16 7.6	5 2.4	12 5.7	157 74.8	15 7.1	10 4.8
入院料2	206 100.0	6 2.9	15 7.3	— —	21 10.2	139 67.5	29 14.1	4 1.9
入院料3	1 100.0	— —	— —	— —	— —	1 100.0	— —	— —
入院料4	5 100.0	— —	— —	— —	— —	5 100.0	— —	— —
無回答・不明	28 100.0	— —	— —	1 3.6	— —	4 14.3	1 3.6	22 78.6

「特に対応していない」と回答した場合のその理由は、入院料1の病棟では、「以前から緊急入院患者の受け入れ数が多く、自宅からの入院患者割合、在宅復帰率が高い（今回の引き上げられた要件を以前から満たしている）」が81.5%で最も多く、次いで「以前から看護職員を多く配置している」が29.9%であった。

表 208 「自宅からの入院患者割合」「緊急入院患者受け入れ数」「在宅復帰率」が引き上げられたことに対し、特に対応していない理由（複数回答）

	回答病院数	以前から緊急入院患者の受け入れ数が多い（今回の引き上げられた要件を以前から満たしている）	以前から看護職員を多く配置している	以前からリハビリ職を多く配置している	以前から看護補助者を多く配置している	その他	無回答・不明
計	306 100.0	209 68.3	94 30.7	11 3.6	51 16.7	38 12.4	2 0.7
入院料1	157 100.0	128 81.5	47 29.9	8 5.1	24 15.3	12 7.6	1 0.6
入院料2	139 100.0	78 56.1	44 31.7	3 2.2	24 17.3	24 17.3	－ －
入院料3	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	1 100.0	－ －	－ －
入院料4	5 100.0	2 40.0	2 40.0	－ －	2 40.0	－ －	－ －
無回答・不明	4 100.0	1 25.0	－ －	－ －	－ －	2 50.0	1 25.0

Ⅳ 調査結果—療養病棟調査票

(注) 以下では、療養病棟の状況を記載。また 1 病院で複数の療養病棟を有する場合は、合算したデータでの回答を求めており、回答数＝回答病院数となっている。

1. 回答病棟の基本情報

(1) 算定入院料

算定している療養病棟入院料は、「入院料 1」が 83.2%で最も多く、次いで「入院料 2」が 9.1%であった。

表 209 算定している療養病棟入院料

	件数	割合 (%)
計	471	100.0
入院料 1	392	83.2
入院料 2	43	9.1
うち注 11 の経過措置該当	5	1.1
無回答・不明	36	7.6

※「無回答・不明」は、病院票で「療養病棟入院基本料」を算定していると回答したが、病棟票でその種類の回答が無かった病院。

(2) 病棟数・稼働病床数

療養病棟の数は、入院料 1 では、「1 病棟」が 61.2%で最も多く、次いで「2 病棟」が 19.4%で、平均は 1.6 病棟であった。

表 210 療養病棟数

	計	1 病棟	2 病棟	3 病棟以上	無回答・不明	平均 (病棟)
計	471 100.0	274 58.2	85 18.0	— —	112 23.8	1.5
入院料 1	392 100.0	240 61.2	76 19.4	— —	76 19.4	1.6
入院料 2	43 100.0	32 74.4	7 16.3	— —	4 9.3	1.5
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	2 5.6	— —	32 88.9	1.5

第2章 調査票別調査結果－療養病棟調査票

療養病棟の稼働病床数（合計数）は、入院料1では、「40～60床未満」が41.1%で最も多く、次いで「100床以上」が20.7%で、平均は71.1床であった。

表 211 療養病棟の稼働病床数（合計数）

	計	20床未満	20～40床未満	40～60床未満	60～80床未満	80～100床未満	100床以上	無回答・不明	平均（床）
計	471 100.0	11 2.3	81 17.2	180 38.2	38 8.1	39 8.3	85 18.0	37 7.9	70.3
入院料1	392 100.0	9 2.3	68 17.3	161 41.1	33 8.4	35 8.9	81 20.7	5 1.3	71.1
入院料2	43 100.0	2 4.7	13 30.2	17 39.5	3 7.0	4 9.3	4 9.3	－ －	64.0
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	2 5.6	2 5.6	－ －	－ －	32 88.9	59.5

(3) 稼働状況

調査時点（令和4年11月）の患者の入院・入棟／退院・退棟の状況は、入院料1の病棟では在棟患者延べ数が平均1,895.1日、新規入院患者は平均5.6人、新規入棟患者（自施設内の転棟患者）は平均4.8人、退院患者は平均9.7人、退棟患者（自施設内の転棟患者）は平均2.3人であった。

表 212 患者の入院・入棟／退院・退棟状況

	11月の在棟患者延べ数		11月の新規入院患者数		11月の新規入棟患者数 （自施設内の転棟）		11月の退院患者数		11月の退棟患者数 （自施設内の転棟）	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差
計 (n=471)	1,867.1	1,536.2	5.6	7.2	4.8	7.1	9.6	7.7	2.1	21.1
入院料1 (n=392)	1,895.1	1,447.6	5.6	7.3	4.8	7.2	9.7	7.8	2.3	22.3
入院料2 (n=43)	1,624.3	2,236.5	4.9	6.8	5.1	6.1	9.4	7.0	0.8	1.7
無回答・不明 (n=36)	1,652.3	382.3	5.0	7.0	3.3	3.7	3.3	0.5	2.0	2.8

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

調査時点（令和４年１１月）の退院患者に占める死亡退院した患者割合は、入院料１の病棟では「４０～６０％未満」が ２６．５％で最も多く、次いで「６０～８０％未満」が ２４．５％で、平均は ５４．４％であった。

表 213 死亡退院割合

	計	０％	０％超～ ２０％ 未満	２０～ ４０％ 未満	４０～ ６０％ 未満	６０～ ８０％未満	８０％以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	471 100.0	5 1.1	36 7.6	75 15.9	109 23.1	104 22.1	55 11.7	87 18.5	52.8
入院料１	392 100.0	3 0.8	24 6.1	66 16.8	104 26.5	96 24.5	51 13.0	48 12.2	54.4
入院料２	43 100.0	2 4.7	11 25.6	9 20.9	5 11.6	8 18.6	4 9.3	4 9.3	39.8
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	－ －	－ －	－ －	－ －	35 97.2	15.6

調査時点（令和４年１１月）の平均在棟日数は、入院料１の病棟では「１００～２００日未満」が ３０．９％で最も多く、次いで「２００～３００日未満」が ２３．０％で、平均は ２６２．２日であった。

表 214 平均在棟日数

	計	１００日 未満	１００～ ２００日 未満	２００～ ３００日 未満	３００～ ４００日 未満	４００～ ５００日 未満	５００日 以上	無回答 ・不明	平均 (日)
計	471 100.0	77 16.3	136 28.9	93 19.7	40 8.5	27 5.7	41 8.7	57 12.1	259.1
入院料１	392 100.0	64 16.3	121 30.9	90 23.0	38 9.7	24 6.1	36 9.2	19 4.8	262.2
入院料２	43 100.0	13 30.2	14 32.6	3 7.0	2 4.7	2 4.7	4 9.3	5 11.6	214.9
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	－ －	－ －	1 2.8	1 2.8	33 91.7	428.3

※平均在棟日数＝在棟患者延べ人数÷（新規入院・入棟患者数＋退院・退棟患者数）×２

第2章 調査票別調査結果－療養病棟調査票

調査時点（令和4年11月）の病床稼働率は、入院料1の病棟では「90%以上」が51.0%で最も多く、次いで「80～90%未満」が24.7%で、平均は95.7%であった。

表 215 病床稼働率

	計	50%未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90%以上	無回答・ 不明	平均 (%)
計	471 100.0	13 2.8	16 3.4	17 3.6	47 10.0	108 22.9	217 46.1	53 11.3	94.0
入院料1	392 100.0	8 2.0	12 3.1	14 3.6	43 11.0	97 24.7	200 51.0	18 4.6	95.7
入院料2	43 100.0	5 11.6	4 9.3	2 4.7	4 9.3	11 25.6	14 32.6	3 7.0	78.7
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	1 2.8	－ －	－ －	3 8.3	32 88.9	91.9

(4) 看護情報提供書の提供状況

調査時点（令和4年11月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数及び提供患者割合は、入院料1の病棟では、提供患者数は平均2.8人、提供割合は平均74.2%であった。

表 216 看護情報提供書の提供状況

	提供患者数（実人数）		提供患者割合	
	平均（人）	標準偏差	平均（%）	標準偏差
計（n=471）	2.9	4.0	74.2	34.2
入院料1（n=392）	2.8	3.9	74.2	34.3
入院料2（n=43）	4.1	4.9	73.6	33.5
無回答・不明（n=36）	1.5	2.1	100.0	0.0

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

調査時点（令和４年１１月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）について、入院期間中の退院に向けた複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数（記録に残しているもの）を尋ねた。

病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンスの１１月の実施延べ回数は、入院料１の病棟では、平均４.７回、退院患者（死亡退院を除く）１人あたり回数は平均１.２回であった。

一方、「②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス」の実施延べ回数は、入院料１の病棟では、平均１.４回、退院患者（死亡退院を除く）１人あたり回数は平均０.４回であった。

表 217 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

	①院内カンファレンス				②地域カンファレンス			
	実施延べ回数		１人あたり回数		実施延べ回数		１人あたり回数	
	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差
計 (n=471)	4.8	13.4	1.2	2.4	1.4	3.1	0.4	0.5
入院料１ (n=392)	4.7	13.6	1.2	2.5	1.4	3.1	0.4	0.5
入院料２ (n=43)	6.0	11.2	1.0	1.4	1.3	2.5	0.3	0.4
無回答・不明 (n=36)	2.8	3.0	0.0	0.0	1.0	1.7	0.0	0.0

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(6) 在宅復帰率

調査時点（令和４年１１月）の「在宅復帰率（直近６か月）」（※）を尋ねたところ、入院料１の病棟では「20%未満」が21.7%で最も多く、次いで「60～80%未満」が19.6%で、平均は47.9%であった。

（※）在宅復帰率は、在宅復帰機能強化加算の要件と同様の計算方法による。具体的には巻末調査票【療－１ ７）】を参照）

表 218 在宅復帰率（直近６か月）

	計	20%未満	20～40% 未満	40～60% 未満	60～80% 未満	80%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	471 100.0	102 21.7	58 12.3	55 11.7	82 17.4	73 15.5	101 21.4	46.8
入院料１	392 100.0	85 21.7	56 14.3	50 12.8	77 19.6	68 17.3	56 14.3	47.9
入院料２	43 100.0	17 39.5	1 2.3	5 11.6	5 11.6	5 11.6	10 23.3	36.5
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	－ －	－ －	－ －	35 97.2	30.9

(7) 入退院支援加算の算定状況

体制強化加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料1では40.8%が加算1を、19.9%が加算2を算定していた。

表 219 入退院支援加算の算定状況

	計	加算1を算定	加算2を算定	算定していない	無回答・不明
計	471 100.0	169 35.9	89 18.9	173 36.7	40 8.5
入院料1	392 100.0	160 40.8	78 19.9	148 37.8	6 1.5
入院料2	43 100.0	9 20.9	10 23.3	22 51.2	2 4.7
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	3 8.3	32 88.9

(8) 在宅復帰機能強化加算の算定状況

体制強化加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料1では31.1%が算定していた。

表 220 在宅復帰機能強化加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	471 100.0	123 26.1	307 65.2	41 8.7
入院料1	392 100.0	122 31.1	263 67.1	7 1.8
入院料2	43 100.0	1 2.3	40 93.0	2 4.7
無回答・不明	36 100.0	－ －	4 11.1	32 88.9

2. 回答病棟における在棟患者の状況

(1) 11月1日24時時点の入院患者数

令和4年11月1日24時時点で療養病棟に入院している患者数は、入院料1では「60人以上」が33.2%で最も多く、平均は63.2人であった。

表 221 11月1日24時時点の入院患者数

	計	20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40～50人未満	50～60人未満	60人以上	無回答・不明	平均(人)
計	471 100.0	25 5.3	47 10.0	93 19.7	78 16.6	53 11.3	141 29.9	34 7.2	62.1
入院料1	392 100.0	17 4.3	40 10.2	83 21.2	68 17.3	52 13.3	130 33.2	2 0.5	63.2
入院料2	43 100.0	8 18.6	7 16.3	9 20.9	10 23.3	－ －	9 20.9	－ －	52.5
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	1 2.8	－ －	1 2.8	2 5.6	32 88.9	55.3

(2) 入院患者の状態

直近3か月の医療区分2・3の該当患者割合(※)は、入院料1では平均90.3%であった。

(※) 施設基準により、入院料1では80%以上、入院料2では50%以上と定められている。なお医療区分2・3の対象疾患・状態は次ページのとおり。

表 222 医療区分2・3の該当患者割合

	計	85%未満	85～90%未満	90～95%未満	95%以上	無回答・不明	平均(%)
入院料1	392 100.0	65 16.6	116 29.6	92 23.5	112 28.6	7 1.8	90.3

	計	60%未満	60～70%未満	70～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
入院料2	43 100.0	11 25.6	18 41.9	9 20.9	4 9.3	1 2.3	66.2

【医療区分3】	
1	スモン
2	医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施されている状態（循環動態および呼吸状態が不安定なため、常時、動脈血酸素飽和度、血圧、心電図、呼吸等のバイタルサインを観察する必要がある等、医師及び看護職員により、24時間体制での監視及び管理を必要とする状態）
3	中心静脈注射を実施している状態
4	24時間持続して点滴を実施している状態
5	人工呼吸器を使用している状態
6	ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態
7	気管切開または気管内挿管が行われており、かつ発熱を伴う状態
8	酸素療法を実施している状態（密度の高い治療を要する状態に限る）
9	感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態
【医療区分2】	
10	筋ジストロフィー症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病関連疾患、その他の指定難病（スモンを除く）
11	脊髄損傷（頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに見られる場合に限る）
12	慢性閉塞性肺疾患（ヒュー・ジョーンズの分類がⅤ度の状態に該当する場合に限る）
13	悪性腫瘍（医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要な場合に限る）
14	肺炎に対する治療を実施している状態
15	尿路感染症に対する治療を実施している状態
16	傷病等によるリハビリテーションが必要な状態（原因となる傷病等の発症後、30日以内の場合で、実際にリハビリテーションを行っている場合に限る）
17	脱水に対する治療を実施している状態かつ発熱を伴う状態
18	消化管等の体内からの出血が反復継続している状態
19	頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態かつ発熱を伴う状態
20	褥瘡に対する治療を実施している状態（皮膚層の部分的喪失が認められる場合又は褥瘡が2か所以上に認められる場合に限る）
21	末しょう循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している状態
22	せん妄に対する治療を実施している状態
23	うつ症状に対する治療を実施している状態
24	他者に対する暴行が毎日認められる状態
25	人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施している状態
26	経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴う状態
27	1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態
28	気管切開また気管内挿管が行われている状態（発熱を伴う状態を除く）
29	頻回の血糖検査を実施している状態
30	創傷、皮膚潰瘍又は下腿もしくは足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療を実施している状態
31	酸素療法を実施している状態（密度の高い治療を要する状態を除く）
32	その他

医療区分2・3の対象疾患・状態別の患者数（複数当てはまる場合は複数でカウント）をみると、入院料1では、「27. 1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態」が平均22.2人で最も多く、次いで「3. 中心静脈注射を実施している状態」が平均11.6人だった。

表 223 医療区分3の対象疾患・状態別患者数（単位：人）

	1. スモン		2. 常時監視		3. 中心静脈注射		4. 24時間持続点滴		5. 人工呼吸器使用	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
計（n=471）	0.0	0.1	10.2	16.8	10.9	18.4	3.8	6.5	1.6	3.5
入院料1（n=392）	0.0	0.2	10.7	17.5	11.6	19.1	4.0	6.8	1.7	3.7
入院料2（n=43）	0.0	0.0	5.0	6.5	3.1	5.3	2.2	3.1	0.3	0.7
無回答・不明（n=36）	0.0	0.0	7.3	7.7	23.8	10.5	5.8	4.8	0.8	1.3
	6. ドレーン法等		7. 気管切開等		8. 酸素療法（高密度）		9. 感染隔離管理			
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
計（n=471）	0.3	1.3	1.0	2.5	5.5	11.0	2.9	7.9		
入院料1（n=392）	0.3	1.3	1.1	2.6	5.8	11.5	3.2	8.3		
入院料2（n=43）	0.1	0.2	0.4	1.0	2.5	4.0	0.5	1.4		
無回答・不明（n=36）	0.3	0.4	1.0	1.2	7.8	7.2	5.8	10.0		

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 224 医療区分2の対象疾患・状態別患者数（単位：人）

	10. 筋ジス等 難病		11. 脊椎損傷		12. 慢性閉塞性 肺疾患		13. 悪性腫瘍		14. 肺炎治療	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
計（n=471）	5.1	8.4	0.5	1.2	1.1	5.7	0.7	1.1	1.8	3.9
入院料1（n=392）	5.3	8.7	0.5	1.2	1.2	6.0	0.7	1.2	1.9	4.0
入院料2（n=43）	3.8	6.0	0.5	1.0	0.4	0.9	0.6	0.9	1.2	2.3
無回答・不明（n=36）	3.0	3.3	0.0	0.0	0.5	0.9	0.8	0.8	0.3	0.4
	15. 尿路感染 症		16. 傷病等 リハビリ		17. 脱水治療		18. 体内から の出血		19. 頻回の 嘔吐	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
計（n=471）	1.1	2.8	1.4	3.3	0.4	1.6	0.1	0.5	0.1	0.5
入院料1（n=392）	1.1	3.0	1.2	2.9	0.4	1.7	0.1	0.5	0.1	0.5
入院料2（n=43）	0.7	1.1	2.0	4.0	0.2	0.4	0.1	0.2	0.0	0.0
無回答・不明（n=36）	1.3	1.3	7.5	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20. 褥瘡治療		21. 下肢末端 開放創治療		22. せん妄 治療		23. うつ症状 治療		24. 他者に 対する暴行	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
計（n=471）	4.9	5.0	0.3	0.7	0.5	3.2	1.5	7.5	0.1	0.6
入院料1（n=392）	5.1	5.1	0.3	0.7	0.3	1.0	1.5	7.0	0.1	0.6
入院料2（n=43）	3.0	3.9	0.1	0.3	2.3	9.4	2.4	11.2	0.1	0.7
無回答・不明（n=36）	3.8	2.4	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	25. 人工腎臓 等		26. 経腸栄養		27. 1日8回 以上喀痰吸引		28. 気管切開 等		29. 頻回の 血糖検査	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
計（n=471）	5.4	11.5	3.4	8.7	20.6	25.6	7.6	10.6	3.9	5.5
入院料1（n=392）	5.9	12.0	3.6	9.1	22.2	26.5	8.2	11.0	4.1	5.6
入院料2（n=43）	1.5	3.4	1.6	3.6	7.3	7.5	2.9	3.4	2.0	4.0
無回答・不明（n=36）	3.5	4.1	0.8	1.3	5.3	6.8	2.8	4.2	3.3	3.4
	30. 創傷、皮膚 潰瘍等治療		31. 酸素療法		32. その他					
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差				
計（n=471）	0.8	2.1	9.3	10.1	1.4	7.1				
入院料1（n=392）	0.8	2.2	9.8	10.2	1.5	7.3				
入院料2（n=43）	0.5	1.6	3.6	6.0	1.0	4.7				
無回答・不明（n=36）	0.0	0.0	19.0	6.1	0.0	0.0				

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

また、医療区分と ADL 区分の組み合わせ別に患者割合を見ると、入院料 1 では、「医療区分 3・ADL 区分 3」の患者が平均 31.3%で最も多く、次いで「医療区分 2・ADL 区分 3」が 30.3%であった。

表 225 医療区分・ADL 区分別該当患者割合

【入院料 1 (n=392)】

(単位：%)	医療区分 1		医療区分 2		医療区分 3	
ADL 区分 1	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差
	2.8	6.9	8.8	13.6	3.0	9.5
ADL 区分 2	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差
	4.1	5.6	14.7	12.8	5.6	8.8
ADL 区分 3	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差
	4.9	8.1	30.3	19.3	31.3	22.2

【入院料 2 (n=43)】

(単位：%)	医療区分 1		医療区分 2		医療区分 3	
ADL 区分 1	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差
	8.0	8.9	7.7	10.4	1.1	3.0
ADL 区分 2	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差
	13.6	9.8	12.7	9.8	2.9	4.1
ADL 区分 3	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差	平均 (%)	標準偏差
	12.5	14.4	23.9	19.0	17.3	16.2

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(3) 令和3年度の新規入院患者数と入院元の内訳

令和3年度の新規入院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料1の病棟では「100人未満」が49.7%で最も多く、次いで「100～200人未満」が28.3%で、平均は114.6人であった。

新規入院患者の入院元（令和3年度）は、入院料1の病棟では「院内からの転棟」が50.7%で最も多く、次いで「他の病院・診療所からの転院」が31.5%であった。

表 226 令和3年度の新規入院患者数

	計	100人未満	100～200人未満	200～300人未満	300人以上	無回答・不明	平均(人)
計	471 100.0	213 45.2	126 26.8	40 8.5	17 3.6	75 15.9	115.9
入院料1	392 100.0	195 49.7	111 28.3	35 8.9	15 3.8	36 9.2	114.6
入院料2	43 100.0	17 39.5	15 34.9	5 11.6	2 4.7	4 9.3	128.8
無回答・不明	36 100.0	1 2.8	－ －	－ －	－ －	35 97.2	64.0

表 227 新規入院患者（令和3年度）の入院元別割合（平均値）

	院内からの転棟	家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院	介護施設からの入院	介護医療院からの入院	その他
計 (n=471)	50.9%	12.2%	31.0%	4.8%	0.7%	0.4%
入院料1 (n=392)	50.7%	12.0%	31.5%	4.7%	0.7%	0.4%
入院料2 (n=43)	52.3%	14.1%	27.4%	5.5%	0.1%	0.7%
無回答・不明 (n=36)	70.3%	0.0%	25.0%	4.7%	0.0%	0.0%

※n数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(4) 令和3年度の退院患者数と退院先の内訳

令和3年度の退院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料1の病棟では「50～100人未満」が30.4%で最も多く、次いで「100～150人未満」が21.2%で、平均は117.2人であった。

退院患者の退院先（令和3年度）は、入院料1の病棟では「死亡退院」が54.4%で最も多く、次いで「家庭へ退院」が15.3%であった。

表 228 令和3年度の退院患者数

	計	50人未満	50～100人未満	100～150人未満	150～200人未満	200～250人未満	250～300人未満	300人以上	無回答・不明	平均(人)
計	471 100.0	79 16.8	130 27.6	90 19.1	35 7.4	23 4.9	19 4.0	18 3.8	77 16.3	118.0
入院料1	392 100.0	70 17.9	119 30.4	83 21.2	28 7.1	19 4.8	18 4.6	16 4.1	39 9.9	117.2
入院料2	43 100.0	9 20.9	10 23.3	7 16.3	7 16.3	4 9.3	1 2.3	2 4.7	3 7.0	125.8
無回答・不明	36 100.0	— —	1 2.8	— —	— —	— —	— —	— —	35 97.2	64.0

表 229 退院患者（令和3年度）の退院先別割合（平均値）

	転院 棟内の 他の病 棟へ	家庭 へ退 院	転他 の病 院・ 診療 所へ	入介 所護 老人 保健 施設 に	入介 所護 老人 福祉 施設 に	介護 医療 院に 入所	老人 社会 福祉 施設 ・有 料ホ ーム 等に 入所	死亡 退院	その他
計 (n=471)	7.3%	16.1%	9.6%	4.0%	3.8%	1.4%	4.4%	52.8%	0.8%
入院料1 (n=392)	6.9%	15.3%	9.8%	3.7%	3.5%	1.5%	4.3%	54.4%	0.8%
入院料2 (n=43)	9.8%	22.8%	8.3%	6.5%	6.1%	0.5%	5.9%	39.8%	0.5%
無回答・不明 (n=36)	46.9%	14.1%	3.1%	14.1%	0.0%	0.0%	6.3%	15.6%	0.0%

※n数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(5) 在宅復帰の課題

在宅復帰の課題を尋ねたところ、入院料1の病棟では「老々介護・独居などの患者が多く自宅退院が難しい」が86.2%で最も多く、次いで「医療処置のある患者は介護施設の入所が困難」が82.9%であった。

表 230 在宅復帰の課題（複数回答）

	計	老々介護・独居などの患者が多く自宅退院が難しい	地域に訪問診療や訪問看護などの医療資源が乏しい	医療処置のある患者は介護施設の入所が困難	患者や家族が希望する地域の介護施設に空きがない	その他	無回答・不明
計	471 100.0	378 80.3	59 12.5	358 76.0	176 37.4	46 9.8	51 10.8
入院料1	392 100.0	338 86.2	51 13.0	325 82.9	152 38.8	42 10.7	13 3.3
入院料2	43 100.0	38 88.4	8 18.6	31 72.1	24 55.8	4 9.3	4 9.3
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	－ －	2 5.6	－ －	－ －	34 94.4

(6) 75歳以上の患者割合

令和4年11月1日24時時点で入院している患者のうち、75歳以上の患者割合は、入院料1の病棟では「80%以上」が50.8%で最も多く、次いで「70～80%未満」が21.7%で、平均は79.1%であった。

表 231 75歳以上患者割合

	計	50%未満	50～60%未満	60～70%未満	70～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	471 100.0	18 3.8	19 4.0	45 9.6	99 21.0	226 48.0	64 13.6	79.4
入院料1	392 100.0	15 3.8	18 4.6	45 11.5	85 21.7	199 50.8	30 7.7	79.1
入院料2	43 100.0	3 7.0	1 2.3	－ －	13 30.2	24 55.8	2 4.7	82.3
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	－ －	1 2.8	3 8.3	32 88.9	85.3

(7) 認知症の評価状況と認知症患者割合

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況は、入院料 1 では「評価している」が 50.3%であった。

表 232 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況

	計	評価して いる	評価して いる	無回答 ・不明
計	471 100.0	219 46.5	129 27.4	123 26.1
入院料 1	392 100.0	197 50.3	112 28.6	83 21.2
入院料 2	43 100.0	20 46.5	16 37.2	7 16.3
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	1 2.8	33 91.7

評価を行っている場合は、認知症高齢者の自立度判定基準別（Ⅰ～Ⅴ）別に人数を尋ねた。令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で入院している患者のうち、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上の患者割合は、入院料 1 の病棟では「50%未満」が 23.9%で最も多く、平均は 62.3%であった。

ランク別人数としては、入院料 1 ではランクⅢが最も多く、ランクⅤ該当者は中央値で 1 人だった。

表 233 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上患者割合

	計	50% 未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	219 100.0	55 25.1	21 9.6	27 12.3	30 13.7	29 13.2	20 9.1	37 16.9	61.5
入院料 1	197 100.0	47 23.9	19 9.6	26 13.2	29 14.7	24 12.2	18 9.1	34 17.3	62.3
入院料 2	20 100.0	8 40.0	2 10.0	— —	1 5.0	5 25.0	2 10.0	2 10.0	54.8
無回答・不明	2 100.0	— —	— —	1 50.0	— —	— —	— —	1 50.0	66.7

※ランクⅢ又はⅣ又はⅤに該当する患者割合を記載。

表 234 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランク別の人数（中央値）

(単位：人)	ランク				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
計	1	3	13	10	0
入院料 1	1	3	13	11	1
入院料 2	1	2	9.5	3.5	0

(8) 新規褥瘡発生の状況

調査時点（令和4年11月）の入院実患者のうち、d2以上の新規褥瘡を発生した患者割合は、入院料1の病棟では「0%」が42.0%で最も多く、次いで「2～4%未満」が22.4%で、平均は2.5%であった。

表 235 d2以上の新規褥瘡発生割合

	計	0%	0%超～ 2% 未満	2～4% 未満	4～6% 未満	6～8% 未満	8%以上	平均 (%)
計	283 100.0	120 42.4	41 14.5	61 21.6	30 10.6	7 2.5	24 8.5	2.7
入院料1	255 100.0	107 42.0	39 15.3	57 22.4	26 10.2	7 2.7	19 7.5	2.5
入院料2	24 100.0	11 45.8	2 8.3	4 16.7	3 12.5	－ －	4 16.7	4.4
無回答・不明	4 100.0	2 50.0	－ －	－ －	1 25.0	－ －	1 25.0	4.2

※構成比は、新規褥瘡発生割合「無回答・不明」を除外して算出。

(9) 身体的拘束の状況

調査時点（令和4年11月）に身体的拘束をした患者数は、入院料1の病棟では平均18.5人で、一人あたりの平均拘束日数は平均20.1日であった。

表 236 11月に身体的拘束をした患者数・平均拘束日数

	実患者数		延べ患者数		一人あたりの 平均拘束日数	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（日）	標準偏差
計（n=471）	17.9	43.0	331.3	466.4	20.0	11.0
入院料1（n=392）	18.5	45.3	338.4	478.0	20.1	11.0
入院料2（n=43）	11.4	12.5	250.0	345.1	18.7	11.0
無回答・不明（n=36）	21.3	5.8	480.3	314.8	22.6	12.5

※平均拘束日数＝身体的拘束をした延べ患者数÷身体的拘束をした実人数

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

※本調査における身体的拘束の定義は次の通り。

「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの器具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言う（診療報酬の認知症ケア加算の定義と同じ）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内在型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含む。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まない。4点柵の使用も含まない。

調査時点（令和４年１１月）に身体的拘束を実施した患者割合は、入院料１の病棟では「０%超～１０%未満」が２６.５%で最も多く、次いで「１０～２０%未満」が１７.６%で、平均は１８.７%であった。

表 237 身体的拘束実施患者割合

	計	0%	0%超～ 10% 未満	10～20% 未満	20～ 30% 未満	30～40% 未満	40% 以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	471 100.0	26 5.5	116 24.6	77 16.3	64 13.6	47 10.0	39 8.3	26 5.5	18.7
入院料 1	392 100.0	22 5.6	104 26.5	69 17.6	59 15.1	41 10.5	35 8.9	22 5.6	18.7
入院料 2	43 100.0	4 9.3	12 27.9	8 18.6	4 9.3	4 9.3	3 7.0	4 9.3	16.4
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	－ －	1 2.8	2 5.6	1 2.8	－ －	34.6

※身体的拘束実施患者割合＝身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数

（１０）器具の装着や処置等の状況

令和４年１１月１日２４時時点で入院している患者が、１１月１日の状態として、どのような器具の装着や処置等がされていたかを尋ねた。

点滴（持続的静脈注射）を実施した患者割合は、入院料１の病棟では「１～１０%未満」が３０.４%で最も多く、平均は１７.３%であった。

表 238 点滴（持続的静脈注射）の実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	471 100.0	58 12.3	133 28.2	103 21.9	51 10.8	78 16.6	48 10.2	17.0
入院料 1	392 100.0	50 12.8	119 30.4	92 23.5	44 11.2	71 18.1	16 4.1	17.3
入院料 2	43 100.0	8 18.6	13 30.2	11 25.6	7 16.3	4 9.3	－ －	13.2
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	－ －	－ －	3 8.3	32 88.9	31.8

第2章 調査票別調査結果－療養病棟調査票

経鼻経管栄養を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「30%以上」が32.7%で最も多く、平均は23.1%であった。

表 239 経鼻経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	471 100.0	34 7.2	88 18.7	90 19.1	78 16.6	136 28.9	45 9.6	22.5
入院料1	392 100.0	27 6.9	74 18.9	82 20.9	69 17.6	128 32.7	12 3.1	23.1
入院料2	43 100.0	7 16.3	11 25.6	8 18.6	8 18.6	8 18.6	1 2.3	17.8
無回答・不明	36 100.0	－ －	3 8.3	－ －	1 2.8	－ －	32 88.9	12.9

胃ろうもしくは腸ろう経管栄養を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が27.8%で最も多く、平均は19.0%であった。

表 240 胃ろうもしくは腸ろう経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	471 100.0	22 4.7	124 26.3	117 24.8	83 17.6	80 17.0	45 9.6	18.4
入院料1	392 100.0	15 3.8	109 27.8	102 26.0	78 19.9	76 19.4	12 3.1	19.0
入院料2	43 100.0	7 16.3	12 27.9	14 32.6	5 11.6	4 9.3	1 2.3	14.7
無回答・不明	36 100.0	－ －	3 8.3	1 2.8	－ －	－ －	32 88.9	6.6

心電図モニターを装着中の患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が44.6%で最も多く、平均は11.2%であった。

表 241 心電図モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	471 100.0	65 13.8	194 41.2	101 21.4	32 6.8	30 6.4	49 10.4	11.0
入院料1	392 100.0	53 13.5	175 44.6	91 23.2	29 7.4	28 7.1	16 4.1	11.2
入院料2	43 100.0	12 27.9	17 39.5	8 18.6	3 7.0	2 4.7	1 2.3	9.2
無回答・不明	36 100.0	－ －	2 5.6	2 5.6	－ －	－ －	32 88.9	11.2

SpO₂ モニターを装着中の患者割合は、入院料 1 の病棟では「1～10%未満」が 28.1%で最も多く、平均は 14.6%であった。

表 242 SpO₂ モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	471 100.0	112 23.8	124 26.3	76 16.1	46 9.8	65 13.8	48 10.2	14.2
入院料 1	392 100.0	94 24.0	110 28.1	71 18.1	43 11.0	59 15.1	15 3.8	14.6
入院料 2	43 100.0	16 37.2	13 30.2	4 9.3	3 7.0	6 14.0	1 2.3	11.4
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	1 2.8	1 2.8	－ －	－ －	32 88.9	6.0

痰の吸引を実施した患者割合は、入院料 1 の病棟では「30%以上」が 79.1%で最も多く、平均は 50.5%であった。

表 243 痰の吸引を実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	471 100.0	4 0.8	14 3.0	30 6.4	39 8.3	334 70.9	50 10.6	48.6
入院料 1	392 100.0	2 0.5	8 2.0	21 5.4	34 8.7	310 79.1	17 4.3	50.5
入院料 2	43 100.0	2 4.7	5 11.6	8 18.6	5 11.6	22 51.2	1 2.3	33.2
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	1 2.8	－ －	2 5.6	32 88.9	32.2

酸素投与中の患者割合は、入院料 1 の病棟では「30%以上」が 29.1%で最も多く、平均は 24.0%であった。

表 244 酸素投与中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	471 100.0	23 4.9	74 15.7	116 24.6	90 19.1	122 25.9	46 9.8	23.1
入院料 1	392 100.0	12 3.1	61 15.6	108 27.6	84 21.4	114 29.1	13 3.3	24.0
入院料 2	43 100.0	11 25.6	13 30.2	8 18.6	5 11.6	5 11.6	1 2.3	13.0
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	－ －	1 2.8	3 8.3	32 88.9	49.5

気管カニューレを挿入中の患者割合は、入院料1の病棟では「1～10%未満」が34.7%で最も多く、平均は13.4%であった。

表 245 気管カニューレ挿入中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	471 100.0	62 13.2	156 33.1	118 25.1	52 11.0	37 7.9	46 9.8	12.8
入院料1	392 100.0	45 11.5	136 34.7	112 28.6	52 13.3	34 8.7	13 3.3	13.4
入院料2	43 100.0	16 37.2	19 44.2	5 11.6	－ －	2 4.7	1 2.3	6.3
無回答・不明	36 100.0	1 2.8	1 2.8	1 2.8	－ －	1 2.8	32 88.9	22.5

(11) 経口摂取訓練の状況

令和4年11月1日24時時点で経口摂取していない患者割合は、入院料1の病棟では「70%以上」が25.5%で最も多く、次いで「30%未満」が17.9%で、平均は52.8%であった。

表 246 経口摂取をしていない患者割合

	計	30% 未満	30～40% 未満	40～50% 未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	471 100.0	88 18.7	50 10.6	50 10.6	51 10.8	69 14.6	106 22.5	57 12.1	51.2
入院料1	392 100.0	70 17.9	43 11.0	44 11.2	47 12.0	65 16.6	100 25.5	23 5.9	52.8
入院料2	43 100.0	18 41.9	5 11.6	6 14.0	4 9.3	3 7.0	5 11.6	2 4.7	36.4
無回答・不明	36 100.0	－ －	2 5.6	－ －	－ －	1 2.8	1 2.8	32 88.9	57.1

11月1日24時時点で経口摂取していない患者のうち、摂食嚥下の間接訓練をすでに開始している患者（11月1日に開始した患者を含む）の割合は、入院料1の病棟では平均15.7%であった。また間接訓練をすでに開始している患者のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練を含む）した患者割合は、入院料1の病棟では平均40.2%であった。

表 247 経口摂取をしていない患者のうち、間接訓練を行っている患者割合

	計	0%	0%超～ 20%未満	20～40% 未満	40～60% 未満	60～80% 未満	80% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	411 100.0	175 42.6	138 33.6	42 10.2	17 4.1	9 2.2	26 6.3	4 1.0	15.6
入院料 1	367 100.0	149 40.6	131 35.7	35 9.5	17 4.6	9 2.5	22 6.0	4 1.1	15.7
入院料 2	40 100.0	26.0 65.0	5.0 12.5	6.0 15.0	－ －	－ －	3.0 7.5	－ －	12.4
無回答・不明	4 100.0	－ －	2.0 50.0	1.0 25.0	－ －	－ －	1.0 25.0	－ －	35.3

表 248 間接訓練を開始した患者のうち、1 回でも経口摂取した患者割合

	計	0%	0%超～ 20%未満	20～40% 未満	40～60% 未満	60～80% 未満	80% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	232 100.0	77 33.2	28 12.1	23 9.9	25 10.8	8 3.4	68 29.3	3 1.3	41.2
入院料 1	214 100.0	73 34.1	26 12.1	21 9.8	24 11.2	6 2.8	61 28.5	3 1.4	40.2
入院料 2	14 100.0	4 28.6	1 7.1	2 14.3	－ －	2 14.3	5 35.7	－ －	50.1
無回答・不明	4 100.0	－ －	1 25.0	－ －	1 25.0	－ －	2 50.0	－ －	66.9

※経口摂取には直接訓練（食べ物を利用した訓練）を含む

(12) 24 時時点の CV カテーテル（中心静脈注射）の状況

令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で CV カテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者割合は、入院料 1 の病棟では「5%未満」が 33.4%で最も多く、平均は 17.0%であった。

表 249 CV カテーテル挿入患者割合

	計	5% 未満	5～10% 未満	10～15% 未満	15～20% 未満	20% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	471 100.0	154 32.7	55 11.7	53 11.3	33 7.0	128 27.2	48 10.2	16.3
入院料 1	392 100.0	131 33.4	45 11.5	51 13.0	31 7.9	119 30.4	15 3.8	17.0
入院料 2	43 100.0	23 53.5	10 23.3	2 4.7	2 4.7	5 11.6	1 2.3	8.0
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	4 11.1	32 88.9	37.2

第2章 調査票別調査結果－療養病棟調査票

11月1日24時時点でCVカテーテル（中心静脈注射）を挿入している患者のうち、11月30日までにCVカテーテルを抜去（ロックは含まない）した患者割合は、平均10.4%であった。

表 250 CVカテーテル抜去患者割合

	計	0%	0%超～ 5%未満	5～10% 未満	10～15% 未満	15～20% 未満	20% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	337 100.0	222 65.9	16 4.7	19 5.6	16 4.7	6 1.8	56 16.6	2 0.6	10.1
入院料1	310 100.0	200 64.5	16 5.2	17 5.5	16 5.2	5 1.6	54 17.4	2 0.6	10.4
入院料2	23 100.0	19 82.6	－ －	1 4.3	－ －	1 4.3	2 8.7	－ －	7.6
無回答・不明	4 100.0	3 75.0	－ －	1 25.0	－ －	－ －	－ －	－ －	2.1

(13) 24時時点の膀胱留置カテーテルの状況

令和4年11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者割合は、入院料1の病棟では「20～30%未満」が25.5%で最も多く、平均は26.7%であった。

表 251 膀胱留置カテーテル挿入患者割合

	計	10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30～40% 未満	40% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	471 100.0	56 11.9	98 20.8	109 23.1	88 18.7	67 14.2	53 11.3	26.4
入院料1	392 100.0	48 12.2	82 20.9	100 25.5	81 20.7	60 15.3	21 5.4	26.7
入院料2	43 100.0	8 18.6	16 37.2	9 20.9	4 9.3	6 14.0	－ －	22.4
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	－ －	3 8.3	1 2.8	32 88.9	40.6

11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者のうち、11月30日までに膀胱留置カテーテルを抜去した患者割合は、入院料1の病棟では平均7.2%であった。

表 252 膀胱留置カテーテル抜去患者割合

	計	0%	0%超～ 5%未満	5～10% 未満	10～15% 未満	15～20% 未満	20% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	408 100.0	249 61.0	23 5.6	48 11.8	32 7.8	8 2.0	44 10.8	4 1.0	7.5
入院料1	363 100.0	220 60.6	21 5.8	43 11.8	29 8.0	8 2.2	38 10.5	4 1.1	7.2
入院料2	41 100.0	27 65.9	1 2.4	4 9.8	3 7.3	－ －	6 14.6	－ －	10.1
無回答・不明	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	－ －	－ －	－ －	－ －	2.4

(14) 転倒・転落の状況

調査時点（令和4年11月）のレベル2以上の転倒・転落の発生件数（入院実患者100人換算）は、入院料1の病棟では「2件未満」が47.2%で最も多く、平均は1.9件であった。

表 253 転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

	計	2件 未満	2～4件 未満	4～6件 未満	6～8件 未満	8件 以上	無回答 ・不明	平均 (件)
計	471 100.0	206 43.7	36 7.6	24 5.1	9 1.9	16 3.4	180 38.2	1.8
入院料1	392 100.0	185 47.2	32 8.2	23 5.9	8 2.0	15 3.8	129 32.9	1.9
入院料2	43 100.0	18 41.9	3 7.0	1 2.3	1 2.3	1 2.3	19 44.2	1.4
無回答・不明	36 100.0	3 8.3	1 2.8	－ －	－ －	－ －	32 88.9	0.9

※転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

＝11月のレベル2以上の転倒・転落発生件数÷11月の入院実患者数×100

第2章 調査票別調査結果－療養病棟調査票

レベル2以上の転倒・転落が発生している場合の、転倒・転落の夜間帯発生割合は、入院料1の病棟では、平均55.1%であった。

表 254 転倒・転落のうち夜間帯発生割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	186 100.0	55 29.6	13 7.0	28 15.1	16 8.6	74 39.8	— —	54.6
入院料1	168 100.0	48 28.6	13 7.7	25 14.9	15 8.9	67 39.9	— —	55.1
入院料2	17 100.0	7 41.2	— —	2 11.8	1 5.9	7 41.2	— —	50.3
無回答・不明	1 100.0	— —	— —	1 100.0	— —	— —	— —	50.0

病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用している割合は、入院料1の病棟では77.8%であった。

表 255 統一された転倒・転落アセスメントツールの活用状況

	計	活用している	活用していない	無回答・不明
計	471 100.0	338 71.8	36 7.6	97 20.6
入院料1	392 100.0	305 77.8	31 7.9	56 14.3
入院料2	43 100.0	30 69.8	5 11.6	8 18.6
無回答・不明	36 100.0	3 8.3	— —	33 91.7

3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況

(1) 看護職員数、看護補助者数

調査時点（令和4年11月）の看護職員（非管理職）の配置数（実人数）は、入院料1の病棟では「10～20人未満」が45.9%で最も多く、平均は24.4人であった。准看護師比率（看護職員配置数（実人数）に占める准看護師の割合）は、入院料1の病棟では、平均22.3%であった。

表 256 11月の看護職員（非管理職）配置数（実人数）

	計	10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40人以上	無回答・不明	平均（人）
計	471 100.0	23 4.9	206 43.7	93 19.7	46 9.8	60 12.7	43 9.1	24.1
入院料1	392 100.0	18 4.6	180 45.9	85 21.7	44 11.2	56 14.3	9 2.3	24.4
入院料2	43 100.0	5 11.6	25 58.1	5 11.6	2 4.7	4 9.3	2 4.7	21.2
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	3 8.3	－ －	－ －	32 88.9	21.5

表 257 准看護師比率

	計	2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8～10%未満	10%以上	無回答・不明	平均（%）
計	471 100.0	44 9.3	5 1.1	18 3.8	27 5.7	16 3.4	315 66.9	46 9.8	22.8
入院料1	392 100.0	40 10.2	5 1.3	17 4.3	24 6.1	14 3.6	280 71.4	12 3.1	22.3
入院料2	43 100.0	4 9.3	－ －	－ －	3 7.0	2 4.7	32 74.4	2 4.7	28.5
無回答・不明	36 100.0	－ －	－ －	1 2.8	－ －	－ －	3 8.3	32 88.9	12.3

第2章 調査票別調査結果－療養病棟調査票

11月の看護補助者の配置数（実人数）は、入院料1の病棟では「10～15人未満」が28.1%で最も多く、平均は17.6人であった。

表 258 11月の看護補助者配置数（実人数）

	計	5人未満	5～10人未満	10～15人未満	15～20人未満	20人以上	無回答・不明	平均（人）
計	471 100.0	12 2.5	117 24.8	125 26.5	65 13.8	108 22.9	44 9.3	17.5
入院料1	392 100.0	11 2.8	100 25.5	110 28.1	58 14.8	104 26.5	9 2.3	17.6
入院料2	43 100.0	1 2.3	16 37.2	14 32.6	5 11.6	4 9.3	3 7.0	16.1
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	1 2.8	2 5.6	－ －	32 88.9	13.3

（2）実質的な看護職員配置、看護補助者配置

調査時点（令和4年11月）の実質的な看護職員配置（非管理職）は、入院料1の病棟では「12対1を満たさないが15対1を満たす」が26.8%で最も多く、平均は13.2対1配置であった。同様に、実質的な看護補助者配置を算出すると、入院料1の病棟では平均23.5対1配置であった。

表 259 実質的な看護職員配置（非管理職）

	計	10対1を満たす	10対1を満たさないが12対1を満たす	12対1を満たさないが15対1を満たす	15対1を満たさない	無回答・不明	平均
計	471 100.0	78 16.6	68 14.4	112 23.8	113 24.0	100 21.2	13.1
入院料1	392 100.0	63 16.1	64 16.3	105 26.8	102 26.0	58 14.8	13.2
入院料2	43 100.0	14 32.6	4 9.3	7 16.3	10 23.3	8 18.6	11.9
無回答・不明	36 100.0	1 2.8	－ －	－ －	1 2.8	34 94.4	11.7

※実質的な看護職員配置（X対1）の“X”＝11月の在棟患者延べ数×8時間×3勤務帯
÷看護職員（非管理職）の11月の総勤務時間数×100

表 260 実質的な看護補助者配置

	計	15 対 1 を 満たす	15 対 1 を 満たさないが 20 対 1 を 満たす	20 対 1 を 満たさないが 25 対 1 を 満たす	25 対 1 を 満たさない	無回答 ・不明	平均
計	471 100.0	118 25.1	140 29.7	55 11.7	58 12.3	100 21.2	23.3
入院料 1	392 100.0	106 27.0	124 31.6	52 13.3	52 13.3	58 14.8	23.5
入院料 2	43 100.0	12 27.9	15 34.9	2 4.7	6 14.0	8 18.6	21.0
無回答・不明	36 100.0	- -	1 2.8	1 2.8	- -	34 94.4	19.4

(3) 他の医療専門職の病棟配置状況

他の医療専門職の病棟配置数（実人数）については、入院料 1 の病棟では、①理学療法士が専従 1.4 人・兼務 2.4 人、②作業療法士が専従 0.8 人・兼務 1.4 人、③言語聴覚士が専従 0.3 人・兼務 0.8 人、④管理栄養士が専従 0.3 人・兼務 0.8 人、⑤薬剤師が専従 0.5 人・兼務 1.0 人、⑥MSW が専従 0.3 人・兼務 1.0 人であった（人数はすべて平均値）。

表 261 他の医療専門職（専従・兼務）の病棟配置数（実人数）

	①理学療法士				②作業療法士				③言語聴覚士			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=471)	1.3	3.2	2.5	4.9	0.7	2.0	1.4	2.6	0.3	1.1	0.8	1.5
入院料 1 (n=392)	1.4	3.4	2.4	5.0	0.8	2.1	1.4	2.6	0.3	1.2	0.8	1.5
入院料 2 (n=43)	0.9	1.6	3.0	3.3	0.3	0.6	1.5	2.2	0.1	0.3	0.9	1.6
無回答・不明 (n=36)	1.0	1.2	0.0	0.0	1.0	1.4	0.0	0.0	0.7	0.9	0.0	0.0

	④管理栄養士				⑤薬剤師				⑥MSW			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=471)	0.3	0.7	0.7	0.9	0.5	1.2	1.0	1.4	0.3	0.7	0.9	1.2
入院料 1 (n=392)	0.3	0.7	0.8	1.0	0.5	1.2	1.0	1.5	0.3	0.7	1.0	1.3
入院料 2 (n=43)	0.2	0.6	0.6	0.7	0.3	0.8	0.9	1.1	0.1	0.3	0.6	0.8
無回答・不明 (n=36)	0.5	0.5	0.0	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0	0.5	0.9	1.0	0.0

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制

平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制について尋ねたところ、2交代制の入院料1の病棟では、看護職員は夜勤1.9人・早出0.3人・遅出0.4人で、看護補助者は夜勤1.4人・早出0.9人・遅出0.9人、リハビリ職員は夜勤0.0人・早出0.0人・遅出0.0人であった（人数はすべて平均値）。

表 262 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制 ①看護職員・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差
計（n=425）	1.8	0.8	0.3	0.6	0.4	0.6
入院料1（n=353）	1.9	0.7	0.3	0.6	0.4	0.7
入院料2（n=37）	1.7	0.9	0.3	0.5	0.3	0.5
無回答・不明（n=35）	1.7	0.5	3.0	0.0	2.0	0.0

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 263 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差
計（n=425）	1.4	0.8	0.9	1.0	0.8	0.9
入院料1（n=353）	1.4	0.8	0.9	1.0	0.9	0.9
入院料2（n=37）	1.3	0.6	0.8	0.8	0.6	0.6
無回答・不明（n=35）	2.0	0.0	5.0	0.0	1.0	0.0

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 264 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ③リハビリ職員・2交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差
計（n=425）	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
入院料1（n=353）	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
入院料2（n=37）	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
無回答・不明（n=35）	0.0	0.0	-	-	-	-

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

また、3 交代制の入院料 1 の病棟では、看護職員は準夜勤 1.8 人・深夜勤 1.7 人・早出 0.3 人・遅出 0.4 人、看護補助者は準夜勤 1.1 人・深夜勤 1.1 人・早出 1.3 人・遅出 1.0 人、リハビリ職員は準夜勤 0.0 人・深夜勤 0.0 人・早出 0.0 人・遅出 0.0 人であった（人数はすべて平均値）。

表 265 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ①看護職員・3 交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=125)	1.8	0.9	1.7	0.8	0.4	0.6	0.4	0.6
入院料 1 (n=80)	1.8	0.9	1.7	0.8	0.3	0.6	0.4	0.6
入院料 2 (n=12)	1.7	0.8	1.8	0.9	0.6	0.5	0.4	0.5
無回答・不明 (n=33)	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 266 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・3 交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=125)	1.0	0.6	1.0	0.8	1.2	1.1	1.0	1.1
入院料 1 (n=80)	1.1	0.7	1.1	0.7	1.3	1.2	1.0	1.2
入院料 2 (n=12)	0.7	0.5	0.5	0.5	1.2	0.7	1.0	0.6
無回答・不明 (n=33)	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 267 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ③リハビリ職員・3 交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=125)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 1 (n=80)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料 2 (n=12)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=33)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 月平均夜勤時間

調査時点（令和4年11月）の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間は、入院料1の病棟では、「65時間未満」が34.4%で最も多く、平均は70.9時間であった。

表 268 看護職員1人あたりの月平均夜勤時間

	計	65時間 未満	65～72 時間未満	72～80 時間未満	80時間 以上	無回答 ・不明	平均 (時間)
計	471 100.0	151 32.1	74 15.7	71 15.1	105 22.3	70 14.9	70.4
入院料1	392 100.0	135 34.4	68 17.3	60 15.3	100 25.5	29 7.4	70.9
入院料2	43 100.0	16 37.2	5 11.6	9 20.9	5 11.6	8 18.6	65.2
無回答・不明	36 100.0	－ －	1 2.8	2 5.6	－ －	33 91.7	72.1

(6) 患者・家族への支援の状況

調査時点（令和4年11月）の患者・家族に対する意思決定支援（ICの同席やACPを含む）の延べ回数は、入院料1の病棟では、平均6.5回であった。

同様に、患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導回数は、入院料1の病棟では、平均2.3回であった。

表 269 患者・家族への支援の実施状況

	患者・家族に対する 意思決定支援回数		患者・家族に対する病態管理や 在宅移行に関する指導回数	
	平均（回）	標準偏差	平均（回）	標準偏差
計（n=471）	6.6	8.8	2.4	5.3
入院料1（n=392）	6.5	8.6	2.3	4.9
入院料2（n=43）	7.1	10.9	3.4	8.4
無回答・不明（n=36）	4.3	4.1	0.0	0.0

※ n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況

調査時点（令和4年11月）の看護職員による退院前訪問の実施件数は、入院料1の病棟では、平均0.1回であり、その内訳は病棟配属の看護職員によるものが平均0.0回、入退院支援部門配属の看護職員によるものが平均0.1回、外来部門等その他の所属の看護職員によるものが平均0.0回であった。

表 270 看護職員による退院前訪問の実施状況

	(内訳)							
	看護職員による退院前訪問件数		病棟配属の看護職員の訪問		入退院支援部門配属の看護職員の訪問		外来部門等その他の所属の看護職員の訪問	
	平均(件)	標準偏差	平均(件)	標準偏差	平均(件)	標準偏差	平均(件)	標準偏差
計 (n=416)	0.1	0.5	0.0	0.3	0.1	0.4	0.0	0.1
入院料1 (n=374)	0.1	0.5	0.0	0.2	0.1	0.4	0.0	0.1
入院料2 (n=38)	0.1	0.8	0.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(8) 夜間のトイレ介助の状況

トイレ歩行の際に見守りもしくは介助が必要な状態の患者に対する、夜間のトイレ介助の現状を尋ねたところ、入院料1の病棟では、「できるだけトイレ誘導している（看護職員・看護補助者が共同して介助）」が40.1%で最も多く、次いで「夜間は主にポータブルトイレを使用している」が15.8%であった。

表 271 夜間のトイレ介助の状況

	計	できるだけトイレ誘導している（看護職員が中心）	できるだけトイレ誘導している（看護補助者が中心）	できるだけトイレ誘導している（看護職員・看護補助者が共同して介助）	夜間は主にポータブルトイレを使用している	夜間は主にオムツを使用している	見守り・介助が必要な患者がいない	無回答・不明
計	471 100.0	43 9.1	40 8.5	175 37.2	72 15.3	47 10.0	38 8.1	56 11.9
入院料1	392 100.0	38 9.7	37 9.4	157 40.1	62 15.8	42 10.7	35 8.9	21 5.4
入院料2	43 100.0	5 11.6	3 7.0	18 41.9	9 20.9	4 9.3	3 7.0	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	— —	— —	— —	1 2.8	1 2.8	— —	34 94.4

(9) タスク・シフト／シェアの状況

病棟内の各種業務について、主に実施している職種（部門）を尋ねた。

「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が40.6%で最も多く、次いで「看護補助者」が40.1%であった。

表 272 「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	471 100.0	8 1.7	181 38.4	169 35.9	2 0.4	66 14.0	45 9.6
入院料1	392 100.0	8 2.0	159 40.6	157 40.1	2 0.5	54 13.8	12 3.1
入院料2	43 100.0	－ －	20 46.5	10 23.3	－ －	12 27.9	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	－ －	2 5.6	2 5.6	－ －	－ －	32 88.9

「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「リハビリ職員」が56.4%で最も多く、次いで「看護職員」が24.0%であった。

表 273 「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはま らない	無回答 ・ 不明
計	471 100.0	244 51.8	106 22.5	28 5.9	48 10.2	45 9.6
入院料1	392 100.0	221 56.4	94 24.0	26 6.6	39 9.9	12 3.1
入院料2	43 100.0	21 48.8	11 25.6	2 4.7	8 18.6	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	1 2.8	－ －	1 2.8	32 88.9

「入院時の持参薬の確認」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「薬剤師」が 72.4%で最も多く、次いで「看護職員」が 18.4%であった。

表 274 「入院時の持参薬の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	471 100.0	314 66.7	86 18.3	15 3.2	13 2.8	43 9.1
入院料 1	392 100.0	284 72.4	72 18.4	14 3.6	12 3.1	10 2.6
入院料 2	43 100.0	28 65.1	12 27.9	1 2.3	1 2.3	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	2 5.6	－ －	－ －	32 88.9

「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「看護職員」が 60.5%で最も多く、次いで「薬剤師」が 31.1%であった。

表 275 「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	471 100.0	136 28.9	268 56.9	－ －	22 4.7	45 9.6
入院料 1	392 100.0	122 31.1	237 60.5	－ －	21 5.4	12 3.1
入院料 2	43 100.0	12 27.9	29 67.4	－ －	1 2.3	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	2 5.6	－ －	－ －	32 88.9

「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が77.3%で最も多く、次いで「薬剤師」が14.8%であった。

表 276 「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	471 100.0	69 14.6	337 71.5	－ －	16 3.4	49 10.4
入院料1	392 100.0	58 14.8	303 77.3	－ －	15 3.8	16 4.1
入院料2	43 100.0	9 20.9	32 74.4	－ －	1 2.3	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	2 5.6	－ －	－ －	32 88.9

「退院時の服薬指導」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「薬剤師」が61.2%で最も多く、次いで「看護職員」が23.0%であった。

表 277 「退院時の服薬指導」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	471 100.0	263 55.8	109 23.1	39 8.3	14 3.0	46 9.8
入院料1	392 100.0	240 61.2	90 23.0	37 9.4	12 3.1	13 3.3
入院料2	43 100.0	22 51.2	17 39.5	1 2.3	2 4.7	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	1 2.8	2 5.6	1 2.8	－ －	32 88.9

「栄養指導」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「管理栄養士」が81.4%で最も多かった。

表 278 「栄養指導」を主に実施している職種（部門）

	計	管理栄養士	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	471 100.0	358 76.0	8 1.7	49 10.4	10 2.1	46 9.8
入院料1	392 100.0	319 81.4	7 1.8	46 11.7	8 2.0	12 3.1
入院料2	43 100.0	36 83.7	1 2.3	3 7.0	2 4.7	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	3 8.3	－ －	－ －	－ －	33 91.7

「退院調整」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「退院支援部門」が 37.5% で最も多く、次いで「病棟配置の MSW」が 29.6%であった。

表 279 「退院調整」を主に実施している職種（部門）

	計	退院支援 部門	病棟 看護職員	病棟配置の MSW	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	471 100.0	159 33.8	94 20.0	122 25.9	51 10.8	45 9.6
入院料 1	392 100.0	147 37.5	77 19.6	116 29.6	40 10.2	12 3.1
入院料 2	43 100.0	12 27.9	15 34.9	6 14.0	9 20.9	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	－ －	2 5.6	－ －	2 5.6	32 88.9

(10) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況

看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施しているか尋ねたところ、入院料 1 の病棟では、「実施している」が 67.1%であった。

表 280 看護補助者との役割分担に係る病棟看護職員への研修状況

	計	実施している	実施していない	無回答・不明
計	471 100.0	293 62.2	130 27.6	48 10.2
入院料 1	392 100.0	263 67.1	114 29.1	15 3.8
入院料 2	43 100.0	28 65.1	14 32.6	1 2.3
無回答・不明	36 100.0	2 5.6	2 5.6	32 88.9

4. 令和4年度診療報酬改定の影響

(1) 診療報酬改定事項への対応

令和4年度診療報酬改定により、摂食機能または嚥下機能の回復に必要な体制整備が求められた(※)ことを受けて、看護提供体制等に関して対応したことを尋ねたところ、入院料1の病棟では「特に対応はしていない」が80.9%で最も多かった。

(※) 入院料1又は2の入院料A、B又はCを算定する場合であって、当該病棟において中心静脈栄養を実施している状態にある者の、摂食機能又は嚥下機能の回復に必要な体制が確保されていると認められない場合の減算規定が設けられた。

表 281 摂食機能または嚥下機能の回復に必要な体制整備が求められたことを受けて、看護提供体制等に関して対応したこと（複数回答）

	回答病院数	看護職員を 加配した	看護補助者を 加配した	特に対応は していない	その他	無回答・ 不明
計	471 100.0	20 4.2	12 2.5	355 75.4	44 9.3	47 10.0
入院料1	392 100.0	17 4.3	11 2.8	317 80.9	40 10.2	13 3.3
入院料2	43 100.0	2 4.7	1 2.3	35 81.4	4 9.3	2 4.7
無回答・不明	36 100.0	1 2.8	－ －	3 8.3	－ －	32 88.9

「特に対応していない」と回答した場合のその理由は、入院料1の病棟では、「以前から摂食機能または嚥下機能の回復に必要な体制整備がなされている」が47.9%で最も多く、次いで「以前から看護職員を多く配置している」が20.5%であった。

表 282 摂食機能または嚥下機能の回復に必要な体制整備が求められたことに対し、特に対応していない理由（複数回答）

	回答病院数	以前からの摂食・嚥下機能回復に必要な体制整備がなされている	以前から看護職員を多く配置している	以前から看護補助者を多く配置している	その他	無回答・不明
計	355 100.0	170 47.9	71 20.0	36 10.1	104 29.3	10 2.8
入院料1	317 100.0	152 47.9	65 20.5	33 10.4	91 28.7	10 3.2
入院料2	35 100.0	17 48.6	5 14.3	3 8.6	12 34.3	－ －
無回答・不明	3 100.0	1 33.3	1 33.3	－ －	1 33.3	－ －

V 調査結果—緩和ケア病棟調査票

1. 回答病棟の基本情報

(注) 以下では、緩和ケア病棟の状況を記載。また 1 病院で複数の緩和ケア病棟を有する場合は、合算したデータでの回答を求めている、回答数＝回答病院数となっている。

(1) 算定入院料

算定している緩和ケア病棟入院料は、「入院料 1」が 58.5%で最も多く、次いで「入院料 2」が 39.5%であった。

表 283 算定している緩和ケア病棟入院料

	件数	割合 (%)
計	147	100.0
入院料 1	86	58.5
入院料 2	58	39.5
無回答・不明	3	2.0

※「無回答・不明」は、病院票で「緩和ケア病棟入院料」を算定していると回答したが、病棟票でその種類の回答が無かった病院。

(2) 病棟数・稼働病床数

緩和ケア病棟の数は、入院料 1 では、「1 病棟」が 87.2%で最も多く、平均は 1.0 病棟であった。

表 284 緩和ケア病棟数

	計	1 病棟	2 病棟	3 病棟以上	無回答・不明	平均 (病棟)
計	147 100.0	131 89.1	1 0.7	— —	15 10.2	1.0
入院料 1	86 100.0	75 87.2	— —	— —	11 12.8	1.0
入院料 2	58 100.0	56 96.6	1 1.7	— —	1 1.7	1.0
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	3 100.0	—

第2章 調査票別調査結果－緩和ケア病棟調査票

緩和ケア病棟の稼働病床数（合計数）は、入院料1では、「20～40床未満」が52.3%で最も多く、次いで「20床未満」が44.2%で、平均は19.2床であった。

表 285 緩和ケア病棟の稼働病床数（合計数）

	計	20床未満	20～40床未満	40～60床未満	60床以上	無回答・不明	平均(床)
計	147 100.0	69 46.9	70 47.6	3 2.0	－ －	5 3.4	19.2
入院料1	86 100.0	38 44.2	45 52.3	1 1.2	－ －	2 2.3	19.2
入院料2	58 100.0	31 53.4	25 43.1	2 3.4	－ －	－ －	19.2
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

(3) 稼働状況

調査時点（令和4年11月）の患者の入院・入棟／退院・退棟の状況は、入院料1の病棟では在棟患者延べ数が平均399.6人、新規入院患者は平均11.3人、新規入棟患者（自施設内の転棟患者）は平均8.4人、退院患者は平均17.2人、退棟患者（自施設内の転棟患者）は平均1.1人であった。

表 286 患者の入院・入棟／退院・退棟状況

	11月の在棟患者延べ数		11月の新規入院患者数		11月の新規入棟患者数 (自施設内の転棟)		11月の退院患者数		11月の退棟患者数 (自施設内の転棟)	
	平均(人)	標準偏差	平均(人)	標準偏差	平均(人)	標準偏差	平均(人)	標準偏差	平均(人)	標準偏差
計 (n=142)	398.9	168.5	11.2	7.2	7.8	8.0	16.6	7.7	0.9	2.7
入院料1 (n=84)	399.6	139.2	11.3	7.2	8.4	8.5	17.2	8.1	1.1	3.2
入院料2 (n=58)	398.1	203.7	11.0	7.2	6.9	7.2	15.6	7.0	0.7	1.9
無回答・不明 (n=0)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

調査時点（令和４年１１月）の退院患者に占める死亡退院した患者割合は、入院料１の病棟では「60～80%未満」が41.9%で最も多く、次いで「80%以上」が32.6%で、平均は72.1%であった。

表 287 死亡退院割合

	計	0%	0%超～ 20% 未満	20～ 40% 未満	40～ 60% 未満	60～ 80% 未満	80%以上	無回答・ 不明	平均 (%)
計	147 100.0	－ －	3 2.0	2 1.4	19 12.9	64 43.5	46 31.3	13 8.8	71.9
入院料１	86 100.0	－ －	1 1.2	1 1.2	13 15.1	36 41.9	28 32.6	7 8.1	72.1
入院料２	58 100.0	－ －	2 3.4	1 1.7	6 10.3	28 48.3	18 31.0	3 5.2	71.8
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

調査時点（令和４年１１月）の平均在棟日数は、入院料１の病棟では「20～40日未満」が48.8%で最も多く、次いで「20日未満」が39.5%で、平均は25.2日であった。

表 288 平均在棟日数

	計	20日 未満	20～ 40日 未満	40～ 60日 未満	60～ 80日 未満	80～ 100日 未満	100日 以上	無回答・ 不明	平均 (日)
計	147 100.0	58 39.5	67 45.6	13 8.8	－ －	1 0.7	2 1.4	6 4.1	25.9
入院料１	86 100.0	34 39.5	42 48.8	6 7.0	－ －	1 1.2	1 1.2	2 2.3	25.2
入院料２	58 100.0	24 41.4	25 43.1	7 12.1	－ －	－ －	1 1.7	1 1.7	27.0
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

※ 平均在棟日数＝在棟患者延べ人数÷（新規入院・入棟患者数＋退院・退棟患者数）×2

調査時点（令和４年１１月）の病床稼働率は、入院料１の病棟では「60～70%未満」が25.6%で最も多く、次いで「70～80%未満」が19.8%で、平均は69.6%であった。

表 289 病床稼働率

	計	50%未満	50～60% 未満	60～70% 未満	70～80% 未満	80～90% 未満	90%以上	無回答・ 不明	平均 (%)
計	147 100.0	17 11.6	20 13.6	40 27.2	27 18.4	21 14.3	16 10.9	6 4.1	69.1
入院料１	86 100.0	9 10.5	13 15.1	22 25.6	17 19.8	11 12.8	11 12.8	3 3.5	69.6
入院料２	58 100.0	8 13.8	7 12.1	18 31.0	10 17.2	10 17.2	5 8.6	－ －	68.5
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

(4) 看護情報提供書の提供状況

調査時点（令和4年11月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数及び提供患者割合は、入院料1の病棟では、提供患者数は平均3.5人、提供割合は平均76.3%であった。

表 290 看護情報提供書の提供状況

	提供患者数（実人数）		提供患者割合	
	平均（人）	標準偏差	平均（%）	標準偏差
計（n=147）	3.1	3.0	75.3	32.4
入院料1（n=86）	3.5	3.0	76.3	33.3
入院料2（n=58）	2.6	3.0	73.4	30.6
無回答・不明（n=3）	-	-	-	-

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

調査時点（令和4年11月）の、死亡退院以外の退院患者（転院も含む）について、入院期間中の退院に向けた複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数（記録に残しているもの）を尋ねた。

病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンスの11月の実施延べ回数は、入院料1の病棟では、平均7.6回、退院患者（死亡退院を除く）1人あたり回数は平均1.9回であった。

一方、「②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス」の実施延べ回数は、入院料1の病棟では、平均1.7回、退院患者（死亡退院を除く）1人あたり回数は平均0.4回であった。

表 291 退院に向けた複数職種によるカンファレンスの実施状況

	①院内カンファレンス				②地域カンファレンス			
	実施延べ回数		1人あたり回数		実施延べ回数		1人あたり回数	
	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差	平均 (回)	標準 偏差
計（n=147）	6.9	10.3	1.9	2.5	1.6	2.7	0.5	1.7
入院料1（n=86）	7.6	11.1	1.9	2.7	1.7	2.4	0.4	0.4
入院料2（n=58）	5.8	8.9	1.8	2.2	1.5	3.1	0.8	2.7
無回答・不明（n=3）	-	-	-	-	-	-	-	-

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(6) 自宅に帰宅できた患者割合

11月1日時点でACPにおいて自宅への帰宅（一時帰宅を含む）を望む患者は、入院料1の病棟では平均4.1人であった。

表 292 11月1日時点でACPにおいて自宅への帰宅を望む患者数

	計	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7～8人	8人以上	無回答・不明	平均(人)
計	147 100.0	27 18.4	39 26.5	36 24.5	14 9.5	11 7.5	12 8.2	8 5.4	3.7
入院料1	86 100.0	13 15.1	23 26.7	23 26.7	7 8.1	6 7.0	9 10.5	5 5.8	4.1
入院料2	58 100.0	14 24.1	16 27.6	13 22.4	7 12.1	5 8.6	3 5.2	— —	3.0
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

そのうち、11月30日までに一度でも自宅に帰宅できた患者割合は、入院料1の病棟では「80%以上」が38.4%で最も多く、平均は65.9%であった。

表 293 自宅に帰宅できた患者割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	120 100.0	12 10.0	14 11.7	22 18.3	15 12.5	49 40.8	8 6.7	65.3
入院料1	73 100.0	6 8.2	8 11.0	14 19.2	12 16.4	28 38.4	5 6.8	65.9
入院料2	44 100.0	6 13.6	6 13.6	8 18.2	3 6.8	21 47.7	— —	64.4
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

(7) 緩和ケア病棟入院初期加算の算定状況

緩和ケア病棟入院初期加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料1では58.1%が加算を算定していた。

表 294 緩和ケア病棟入院初期加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	147 100.0	68 46.3	75 51.0	4 2.7
入院料1	86 100.0	50 58.1	35 40.7	1 1.2
入院料2	58 100.0	18 31.0	40 69.0	— —
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	3 100.0

(8) 緩和ケア疼痛評価加算の算定状況

緩和ケア疼痛評価加算の算定状況（令和4年11月1日時点）を尋ねたところ、入院料1では89.5%が加算を算定していた。

表 295 緩和ケア疼痛評価加算の算定状況

	計	算定している	算定していない	無回答・不明
計	147 100.0	132 89.8	9 6.1	6 4.1
入院料1	86 100.0	77 89.5	7 8.1	2 2.3
入院料2	58 100.0	55 94.8	2 3.4	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	3 100.0

2. 回答病棟における在棟患者の状況

(1) 11月1日24時時点の入院患者数

令和4年11月1日24時時点で緩和ケア病棟に入院している患者数は、入院料1では「20人未満」が86.0%で最も多く、平均は13.3人であった。

うち、算定要件に該当しない患者割合は、入院料1では「0%」が83.7%で最も多く、平均は6.2%であった。また入院患者数に占める新型コロナウイルス感染症患者割合（※）は、「0%」が94.2%で最も多く、平均は0.5%であった。

※個室が多い緩和ケア病棟を、新型コロナ病床に転用する動きがあったことを踏まえて、新型コロナウイルス感染症患者数についても本調査では把握した。

表 296 11月1日24時時点の入院患者数

	計	20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40～50人未満	50～60人未満	60人以上	無回答・不明	平均(人)
計	147 100.0	128 87.1	11 7.5	2 1.4	1 0.7	— —	— —	5 3.4	13.1
入院料1	86 100.0	74 86.0	8 9.3	1 1.2	1 1.2	— —	— —	2 2.3	13.3
入院料2	58 100.0	54 93.1	3 5.2	1 1.7	— —	— —	— —	— —	12.8
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

表 297 算定要件に該当しない患者割合

	計	0%	0～20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	147 100.0	126 85.7	4 2.7	2 1.4	2 1.4	2 1.4	4 2.7	7 4.8	5.3
入院料1	86 100.0	72 83.7	3 3.5	1 1.2	2 2.3	2 2.3	2 2.3	4 4.7	6.2
入院料2	58 100.0	54 93.1	1 1.7	1 1.7	— —	— —	2 3.4	— —	4.2
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

表 298 新型コロナウイルス感染症患者割合

	計	0%	0%超～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30～40%未満	40%以上	無回答・不明	平均(%)
計	147 100.0	138 93.9	1 0.7	1 0.7	— —	1 0.7	— —	6 4.1	0.4
入院料1	86 100.0	81 94.2	1 1.2	— —	— —	1 1.2	— —	3 3.5	0.5
入院料2	58 100.0	57 98.3	— —	1 1.7	— —	— —	— —	— —	0.2
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

(2) 令和3年度の新規入院患者数と入院元の内訳

令和3年度の新規入院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料1の病棟では「100～200人未満」が34.9%で最も多く、次いで「200～300人未満」が29.1%で、平均は203.3人であった。

新規入院患者の入院元（令和3年度）は、入院料1の病棟では「院内からの転棟」が40.5%で最も多く、次いで「家庭からの入院」が37.8%であった。

表 299 令和3年度の新規入院患者数

	計	100人未満	100～200人未満	200～300人未満	300人以上	無回答・不明	平均(人)
計	147 100.0	18 12.2	56 38.1	43 29.3	19 12.9	11 7.5	198.4
入院料1	86 100.0	11 12.8	30 34.9	25 29.1	13 15.1	7 8.1	203.3
入院料2	58 100.0	7 12.1	26 44.8	18 31.0	6 10.3	1 1.7	191.6
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

表 300 新規入院患者（令和3年度）の入院元別割合（平均値）

	院内からの転棟	家庭からの入院	他の病院・診療所からの転院	介護施設からの入院	介護医療院からの入院	その他
計 (n=147)	39.6%	36.4%	21.7%	2.0%	0.0%	0.3%
入院料1 (n=86)	40.5%	37.8%	19.3%	2.1%	0.0%	0.3%
入院料2 (n=58)	38.3%	34.4%	25.0%	2.0%	0.0%	0.3%
無回答・不明 (n=3)	－	－	－	－	－	－

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(3) 令和3年度の退院患者数と退院先の内訳

令和3年度の退院患者数（病床機能報告と同様）は、入院料1の病棟では「100～200人未満」が36.0%で最も多く、次いで「200～300人未満」が31.4%で、平均は210.0人であった。

退院患者の退棟先（令和3年度）は、入院料1の病棟では「死亡退院」が72.1%で最も多く、次いで「家庭へ退院」が20.3%であった。

表 301 令和 3 年度の退院患者数

	計	100 人未満	100～200 人未満	200～300 人未満	300 人以上	無回答・不明	平均 (人)
計	147 100.0	14 9.5	59 40.1	43 29.3	18 12.2	13 8.8	201.5
入院料 1	86 100.0	8 9.3	31 36.0	27 31.4	12 14.0	8 9.3	210.0
入院料 2	58 100.0	6 10.3	28 48.3	16 27.6	6 10.3	2 3.4	189.7
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

表 302 退院患者（令和 3 年度）の退棟先別割合（平均値）

	転院 院内の他の病棟へ	家庭へ退院	転院 他の病院・診療所へ	介護 老人保健施設に 入所	介護 老人福祉施設に 入所	介護医療院に入所	老人福祉施設・有料 老人ホーム等に入所	死亡退院	その他
計 (n=147)	3.3%	20.6%	2.2%	0.3%	0.2%	0.0%	1.2%	72.0%	0.2%
入院料 1 (n=86)	3.9%	20.3%	2.4%	0.3%	0.2%	0.0%	0.9%	72.1%	0.1%
入院料 2 (n=58)	2.5%	21.1%	2.0%	0.4%	0.2%	0.0%	1.7%	71.8%	0.4%
無回答・不明 (n=3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(4) 75 歳以上の患者割合

令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で入院している患者のうち、75 歳以上の患者割合は、入院料 1 の病棟では「80%以上」が 23.3%で最も多く、次いで「50%未満」「60～70%未満」が 22.1%で、平均は 61.9%であった。

表 303 75 歳以上患者割合

	計	50%未満	50～60%未満	60～70%未満	70～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均
計	147 100.0	30 20.4	19 12.9	29 19.7	27 18.4	33 22.4	9 6.1	64.2
入院料 1	86 100.0	19 22.1	14 16.3	19 22.1	10 11.6	20 23.3	4 4.7	61.9
入院料 2	58 100.0	11 19.0	5 8.6	10 17.2	17 29.3	13 22.4	2 3.4	67.6
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

(5) 認知症の評価状況と認知症患者割合

認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況は、入院料 1 では「評価している」が 40.7%であった。

表 304 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況

	計	評価して いる	評価して いない	無回答 ・不明
計	147 100.0	57 38.8	65 44.2	25 17.0
入院料 1	86 100.0	35 40.7	40 46.5	11 12.8
入院料 2	58 100.0	22 37.9	25 43.1	11 19.0
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	3 100.0

評価を行っている場合は、認知症高齢者の自立度判定基準別（Ⅰ～Ⅴ）別に人数を尋ねた。令和 4 年 11 月 1 日 24 時時点で入院している患者のうち、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上の患者割合は、入院料 1 の病棟では「10%未満」が 20.0%で最も多く、次いで「50%以上」が 11.4%で、平均は 29.0%であった。

ランク別人数としては、入院料 1 ではランクⅠ～Ⅳまで全て中央値 1 人であり、ランクⅤ該当者は中央値で 0 人だった。

表 305 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランクⅢ以上患者割合

	計	10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30～40% 未満	40～50% 未満	50% 以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	57 100.0	14 24.6	5 8.8	5 8.8	4 7.0	2 3.5	7 12.3	20 35.1	25.1
入院料 1	35 100.0	7 20.0	1 2.9	4 11.4	3 8.6	1 2.9	4 11.4	15 42.9	29.0
入院料 2	22 100.0	7 31.8	4 18.2	1 4.5	1 4.5	1 4.5	3 13.6	5 22.7	20.4
無回答・不明	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－

※ランクⅢ又はⅣ又はⅤに該当する患者割合を記載。

表 306 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランク別の人数（中央値）

(単位：人)	ランク				
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
計	1	1	1	1	0
入院料 1	1	1	1	1	0
入院料 2	1	2	1	1	0

(6) 新規褥瘡発生の状況

調査時点（令和4年11月）の入院実患者のうち、d2以上の新規褥瘡を発生した患者割合は、入院料1の病棟では「0%」が50.8%で最も多く、次いで「2～4%未満」が16.9%で、平均は3.5%であった。

表 307 d2 以上の新規褥瘡発生割合

	計	0%	0%超 ～2% 未満	2～4% 未満	4～6% 未満	6～8% 未満	8%以上	平均 (%)
計	109 100.0	52 47.7	1 0.9	15 13.8	13 11.9	5 4.6	23 21.1	4.1
入院料1	65 100.0	33 50.8	1 1.5	11 16.9	8 12.3	2 3.1	10 15.4	3.5
入院料2	44 100.0	19 43.2	－ －	4 9.1	5 11.4	3 6.8	13 29.5	5.0
無回答・不明	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－

※構成比は、新規褥瘡発生割合「無回答・不明」を除外して算出。

(7) 身体的拘束の状況

調査時点（令和4年11月）に身体的拘束をした患者数は、入院料1の病棟では平均4.7人で、一人あたりの平均拘束日数は平均10.4日であった。

表 308 11月に身体的拘束をした患者数・平均拘束日数

	実患者数		延べ患者数		一人あたりの 平均拘束日数	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（日）	標準偏差
計（n=147）	5.0	7.0	54.0	81.4	10.4	6.0
入院料1（n=86）	4.7	7.4	51.5	81.3	10.4	5.5
入院料2（n=58）	5.4	6.3	57.7	81.4	10.6	6.6
無回答・不明（n=3）	－	－	－	－	－	－

※平均拘束日数＝身体的拘束をした延べ患者数÷身体的拘束をした実人数

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

※本調査における身体的拘束の定義は次の通り。

「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの器具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言う（診療報酬の認知症ケア加算の定義と同じ）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内在型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含む。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まない。4点柵の使用も含まない。

調査時点（令和4年11月）に身体的拘束を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「0%」が41.9%で最も多く、次いで「40%以上」が12.8%で、平均は14.9%であった。

表 309 身体的拘束実施患者割合

	計	0%	0%超～ 10%未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30～40% 未満	40%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	147 100.0	53 36.1	19 12.9	15 10.2	11 7.5	10 6.8	23 15.6	16 10.9	18.1
入院料1	86 100.0	36 41.9	10 11.6	8 9.3	8 9.3	5 5.8	11 12.8	8 9.3	14.9
入院料2	58 100.0	17 29.3	9 15.5	7 12.1	3 5.2	5 8.6	12 20.7	5 8.6	22.9
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

※身体的拘束実施患者割合＝身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数

(8) 器具の装着や処置等の状況

令和4年11月1日24時時点で入院している患者が、11月1日の状態として、どのような器具の装着や処置等がされていたかを尋ねた。

点滴（持続的静脈注射）を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「30%以上」が44.2%で最も多く、平均は29.6%であった。

表 310 点滴（持続的静脈注射）の実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	147 100.0	33 22.4	8 5.4	21 14.3	9 6.1	70 47.6	6 4.1	33.2
入院料1	86 100.0	21 24.4	7 8.1	12 14.0	6 7.0	38 44.2	2 2.3	29.6
入院料2	58 100.0	12 20.7	1 1.7	9 15.5	3 5.2	32 55.2	1 1.7	38.6
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

経鼻経管栄養を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が82.6%で最も多く、平均は1.2%であった。

表 311 経鼻経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・不明	平均 (%)
計	147 100.0	119 81.0	11 7.5	8 5.4	－ －	－ －	9 6.1	1.2
入院料1	86 100.0	71 82.6	7 8.1	5 5.8	－ －	－ －	3 3.5	1.2
入院料2	58 100.0	48 82.8	4 6.9	3 5.2	－ －	－ －	3 5.2	1.3
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

胃ろうもしくは腸ろう経管栄養を実施した患者割合は、入院料 1 の病棟では「1%未満」が 75.6%で最も多く、平均は 2.4%であった。

表 312 胃ろうもしくは腸ろう経管栄養の実施患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	147 100.0	113 76.9	12 8.2	11 7.5	3 2.0	— —	8 5.4	2.0
入院料 1	86 100.0	65 75.6	9 10.5	7 8.1	3 3.5	— —	2 2.3	2.4
入院料 2	58 100.0	48 82.8	3 5.2	4 6.9	— —	— —	3 5.2	1.3
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

心電図モニターを装着中の患者割合は、入院料 1 の病棟では「1%未満」が 86.0%で最も多く、平均は 1.4%であった。

表 313 心電図モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	147 100.0	124 84.4	7 4.8	4 2.7	3 2.0	— —	9 6.1	1.3
入院料 1	86 100.0	74 86.0	5 5.8	2 2.3	2 2.3	— —	3 3.5	1.4
入院料 2	58 100.0	50 86.2	2 3.4	2 3.4	1 1.7	— —	3 5.2	1.0
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

SpO₂ モニターを装着中の患者割合は、入院料 1 の病棟では「1%未満」が 87.2%で最も多く、平均は 2.1%であった。

表 314 SpO₂ モニター装着中の患者割合

	計	1%未満	1～10% 未満	10～20% 未満	20～30% 未満	30%以上	無回答 ・ 不明	平均 (%)
計	147 100.0	126 85.7	5 3.4	2 1.4	— —	6 4.1	8 5.4	2.9
入院料 1	86 100.0	75 87.2	4 4.7	2 2.3	— —	2 2.3	3 3.5	2.1
入院料 2	58 100.0	51 87.9	1 1.7	— —	— —	4 6.9	2 3.4	3.9
無回答・不明	3 100.0	— —	— —	— —	— —	— —	3 100.0	—

第2章 調査票別調査結果－緩和ケア病棟調査票

痰の吸引を実施した患者割合は、入院料1の病棟では「20～30%未満」が27.9%で最も多く、平均は18.5%であった。

表 315 痰の吸引を実施患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	147 100.0	23 15.6	24 16.3	26 17.7	39 26.5	29 19.7	6 4.1	19.0
入院料1	86 100.0	11 12.8	13 15.1	20 23.3	24 27.9	16 18.6	2 2.3	18.5
入院料2	58 100.0	12 20.7	11 19.0	6 10.3	15 25.9	13 22.4	1 1.7	19.6
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

酸素投与中の患者割合は、入院料1の病棟では「30%以上」が36.0%で最も多く、平均は24.2%であった。

表 316 酸素投与中の患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	147 100.0	14 9.5	15 10.2	23 15.6	31 21.1	58 39.5	6 4.1	26.2
入院料1	86 100.0	9 10.5	10 11.6	15 17.4	19 22.1	31 36.0	2 2.3	24.2
入院料2	58 100.0	5 8.6	5 8.6	8 13.8	12 20.7	27 46.6	1 1.7	29.0
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

気管カニューレを挿入中の患者割合は、入院料1の病棟では「1%未満」が82.6%で最も多く、平均は1.3%であった。

表 317 気管カニューレ挿入中の患者割合

	計	1%未満	1～10%未満	10～20%未満	20～30%未満	30%以上	無回答・不明	平均(%)
計	147 100.0	121 82.3	11 7.5	4 2.7	－ －	1 0.7	10 6.8	1.1
入院料1	86 100.0	71 82.6	8 9.3	2 2.3	－ －	1 1.2	4 4.7	1.3
入院料2	58 100.0	50 86.2	3 5.2	2 3.4	－ －	－ －	3 5.2	0.9
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

(9) 転倒・転落の状況

調査時点（令和4年11月）のレベル2以上の転倒・転落の発生件数（入院実患者100人換算）は、入院料1の病棟では「2件未満」が33.7%で最も多く、平均は4.3件であった。

表 318 転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

	計	2件未満	2～4件未満	4～6件未満	6～8件未満	8件以上	無回答・不明	平均(件)
計	147 100.0	53 36.1	12 8.2	13 8.8	10 6.8	22 15.0	37 25.2	4.5
入院料1	86 100.0	29 33.7	8 9.3	9 10.5	5 5.8	13 15.1	22 25.6	4.3
入院料2	58 100.0	24 41.4	4 6.9	4 6.9	5 8.6	9 15.5	12 20.7	4.8
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

※転倒・転落発生件数（入院実患者100人換算）

＝11月のレベル2以上の転倒・転落発生件数÷11月の入院実患者数×100

レベル2以上の転倒・転落が発生している場合の、転倒・転落の夜間帯発生割合は、入院料1の病棟では、平均48.9%であった。

表 319 転倒・転落のうち夜間帯発生割合

	計	20%未満	20～40%未満	40～60%未満	60～80%未満	80%以上	無回答・不明	平均(%)
計	147 100.0	26 17.7	6 4.1	13 8.8	7 4.8	24 16.3	71 48.3	48.7
入院料1	86 100.0	19 22.1	1 1.2	7 8.1	6 7.0	16 18.6	37 43.0	48.9
入院料2	58 100.0	7 12.1	5 8.6	6 10.3	1 1.7	8 13.8	31 53.4	48.4
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用している割合は、入院料1の病棟では80.2%であった。

表 320 統一された転倒・転落アセスメントツールの活用状況

	計	活用している	活用していない	無回答・不明
計	147 100.0	121 82.3	3 2.0	23 15.6
入院料1	86 100.0	69 80.2	2 2.3	15 17.4
入院料2	58 100.0	52 89.7	1 1.7	5 8.6
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	3 100.0

3. 回答病棟の看護・医療の提供体制・提供状況

(1) 看護職員数、看護補助者数

調査時点（令和4年11月）の看護職員（非管理職）の配置数（実人数）は、入院料1の病棟では「10～20人未満」が60.5%で最も多く、平均は18.6人であった。准看護師比率（看護職員配置数（実人数）に占める准看護師の割合）は、入院料1の病棟では、平均0.5%であった。

表 321 11月の看護職員（非管理職）配置数（実人数）

	計	10人未満	10～20人未満	20～30人未満	30～40人未満	40人以上	無回答・不明	平均（人）
計	147 100.0	1 0.7	101 68.7	36 24.5	1 0.7	2 1.4	6 4.1	18.1
入院料1	86 100.0	1 1.2	52 60.5	29 33.7	1 1.2	1 1.2	2 2.3	18.6
入院料2	58 100.0	－ －	49 84.5	7 12.1	－ －	1 1.7	1 1.7	17.4
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

表 322 准看護師比率

	計	2%未満	2～4%未満	4～6%未満	6～8%未満	8～10%未満	10%以上	無回答・不明	平均（%）
計	147 100.0	134 91.2	－ －	4 2.7	－ －	－ －	1 0.7	8 5.4	0.3
入院料1	86 100.0	78 90.7	－ －	4 4.7	－ －	－ －	1 1.2	3 3.5	0.5
入院料2	58 100.0	56 96.6	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	2 3.4	0.0
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

11月の看護補助者の配置数（実人数）は、入院料1の病棟では「5人未満」が94.2%で最も多く、平均は1.6人であった

表 323 11月の看護補助者配置数（実人数）

	計	5人未満	5～10人未満	10～15人未満	15～20人未満	20人以上	無回答・不明	平均（人）
計	147 100.0	134 91.2	7 4.8	－ －	－ －	－ －	6 4.1	1.8
入院料1	86 100.0	81 94.2	3 3.5	－ －	－ －	－ －	2 2.3	1.6
入院料2	58 100.0	53 91.4	4 6.9	－ －	－ －	－ －	1 1.7	2.1
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

(2) 実質的な看護職員配置、看護補助者配置

調査時点（令和4年11月）の実質的な看護職員配置（非管理職）は、入院料1の病棟では「3対1を満たさないが4対1を満たす」が30.2%で最も多く、平均は3.8対1配置であった。同様に、実質的な看護補助者配置を算出すると、入院料1の病棟では平均48.2対1配置であった。

表 324 実質的な看護職員配置（非管理職）

	計	3対1を満たす	3対1を満たさないが4対1を満たす	4対1を満たさないが5対1を満たす	5対1を満たさない	無回答・不明	平均
計	147 100.0	30 20.4	48 32.7	35 23.8	15 10.2	19 12.9	3.8
入院料1	86 100.0	18 20.9	26 30.2	24 27.9	8 9.3	10 11.6	3.8
入院料2	58 100.0	12 20.7	22 37.9	11 19.0	7 12.1	6 10.3	3.7
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

※実質的な看護職員配置（X対1）の“X”＝11月の在棟患者延べ数×8時間×3勤務帯
÷看護職員（非管理職）の11月の総勤務時間数×100

表 325 実質的な看護補助者配置

	計	15 対 1 を 満たす	15 対 1 を 満たさないが 20 対 1 を 満たす	20 対 1 を 満たさないが 25 対 1 を 満たす	25 対 1 を 満たさない	無回答 ・ 不明	平均
計	147 100.0	15 10.2	9 6.1	9 6.1	68 46.3	46 31.3	43.8
入院料 1	86 100.0	6 7.0	5 5.8	7 8.1	39 45.3	29 33.7	48.2
入院料 2	58 100.0	9 15.5	4 6.9	2 3.4	29 50.0	14 24.1	38.1
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0	－

(3) 他の医療専門職の病棟配置状況

他の医療専門職の病棟配置数（実人数）については、入院料 1 の病棟では、①理学療法士が専従 0.3 人・兼務 1.2 人、②作業療法士が専従 0.1 人・兼務 0.5 人、③言語聴覚士が専従 0.1 人・兼務 0.3 人、④管理栄養士が専従 0.0 人・兼務 0.7 人、⑤薬剤師が専従 0.2 人・兼務 1.0 人、⑥MSW が専従 0.1 人・兼務 0.8 人であった（人数はすべて平均値）。

表 326 他の医療専門職（専従・兼務）の病棟配置数（実人数）

	①理学療法士				②作業療法士				③言語聴覚士			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=147)	0.2	1.2	1.6	5.1	0.1	0.5	0.7	1.9	0.1	0.4	0.3	0.8
入院料 1 (n=86)	0.3	1.5	1.2	3.2	0.1	0.6	0.5	1.3	0.1	0.4	0.3	0.7
入院料 2 (n=58)	0.1	0.3	2.1	6.9	0.1	0.2	0.9	2.5	0.1	0.2	0.4	1.0
無回答・不明 (n=3)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

	④管理栄養士				⑤薬剤師				⑥MSW			
	専従		兼務		専従		兼務		専従		兼務	
	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差	平均 (人)	標準 偏差
計 (n=147)	0.1	0.2	0.7	0.8	0.1	0.5	1.0	1.4	0.1	0.3	0.8	0.8
入院料 1 (n=86)	0.0	0.2	0.7	0.9	0.2	0.6	1.0	1.6	0.1	0.4	0.8	0.9
入院料 2 (n=58)	0.1	0.3	0.7	0.5	0.1	0.3	1.0	1.0	0.1	0.3	0.9	0.8
無回答・不明 (n=3)	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

(4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制

平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制について尋ねたところ、2 交代制の入院料 1 の病棟では、看護職員は夜勤 2.5 人・早出 0.1 人・遅出 0.3 人で、看護補助者は夜勤 0.1 人・早出 0.3 人・遅出 0.2 人、リハビリ職員は夜勤 0.0 人・早出 0.0 人・遅出 0.0 人であった（人数はすべて平均値）。

表 327 平日の夜間・早朝の標準的な看護等提供体制 ①看護職員・2 交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差
計（n=124）	2.3	0.5	0.1	0.3	0.3	0.6
入院料 1（n=73）	2.5	0.6	0.1	0.3	0.3	0.6
入院料 2（n=48）	2.1	0.3	0.1	0.3	0.3	0.6
無回答・不明（n=3）	－	－	－	－	－	－

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値の算出母数とは異なる。

表 328 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・2 交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差
計（n=124）	0.1	0.2	0.3	0.5	0.2	0.5
入院料 1（n=73）	0.1	0.3	0.3	0.5	0.2	0.5
入院料 2（n=48）	0.1	0.2	0.3	0.5	0.3	0.4
無回答・不明（n=3）	－	－	－	－	－	－

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 329 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ③リハビリ職員・2 交代

	夜勤人数		早出		遅出	
	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差	平均（人）	標準偏差
計（n=124）	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
入院料 1（n=73）	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
入院料 2（n=48）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明（n=3）	－	－	－	－	－	－

※早出：勤務時間帯が 7-8 時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が 17-18 時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

また、3交代制の入院料1の病棟では、看護職員は準夜勤2.2人・深夜勤2.3人・早出0.1人・遅出0.4人、看護補助者は準夜勤0.0人・深夜勤0.0人・早出0.3人・遅出0.0人、リハビリ職員は準夜勤0.0人・深夜勤0.0人・早出0.0人・遅出0.0人であった（人数はすべて平均値）。

表 330 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ①看護職員・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=39)	2.1	0.3	2.2	0.4	0.2	0.4	0.4	0.5
入院料1 (n=22)	2.2	0.4	2.3	0.5	0.1	0.3	0.4	0.5
入院料2 (n=14)	2.0	0.0	2.0	0.0	0.3	0.5	0.4	0.5
無回答・不明 (n=3)	-	-	-	-	-	-	-	-

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 331 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ②看護補助者・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=39)	0.1	0.3	0.1	0.3	0.5	0.5	0.2	0.4
入院料1 (n=22)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0
入院料2 (n=14)	0.1	0.3	0.1	0.3	0.6	0.5	0.4	0.5
無回答・不明 (n=3)	-	-	-	-	-	-	-	-

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

表 332 平日の夜間・早朝の平均的な看護等提供体制 ③リハビリ職員・3交代

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出		遅出	
	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差	平均 (人)	標準偏差
計 (n=39)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料1 (n=22)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
入院料2 (n=14)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答・不明 (n=3)	-	-	-	-	-	-	-	-

※早出：勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むもの（夜勤勤務者は除く）

※遅出：勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むもの（日勤勤務者又は夜勤勤務者は除く）

※n数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(5) 月平均夜勤時間

調査時点（令和 4 年 11 月）の看護職員 1 人あたりの月平均夜勤時間（夜勤専従者や月あたりの夜勤時間 16 時間未満のものは含まない。ただし短時間正職員の場合は月あたり 12 時間以上のものを含む）は、入院料 1 の病棟では、「80 時間以上」が 27.9%で最も多く、平均は 73.9 時間であった。

表 333 看護職員 1 人あたりの月平均夜勤時間

	計	65 時間 未満	65～72 時間未満	72～80 時間未満	80 時間 以上	無回答 ・不明	平均 (時間)
計	147 100.0	27 18.4	36 24.5	35 23.8	39 26.5	10 6.8	73.6
入院料 1	86 100.0	17 19.8	18 20.9	20 23.3	24 27.9	7 8.1	73.9
入院料 2	58 100.0	10 17.2	17 29.3	15 25.9	15 25.9	1 1.7	73.2
無回答・不明	3 100.0	－ －	1 33.3	－ －	－ －	2 66.7	70.4

(6) 患者・家族への支援の状況

調査時点（令和 4 年 11 月）の患者・家族に対する意思決定支援（IC の同席や ACP を含む）の延べ回数は、入院料 1 の病棟では、平均 18.9 回であった。

同様に、患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導回数は、入院料 1 の病棟では、平均 11.2 回であった。

表 334 患者・家族への支援の実施状況

	患者・家族に対する 意思決定支援回数		患者・家族に対する病態管理や 在宅移行に関する指導回数	
	平均（回）	標準偏差	平均（回）	標準偏差
計（n=147）	18.3	17.0	11.2	21.9
入院料 1（n=86）	18.9	16.9	11.2	24.6
入院料 2（n=58）	17.3	17.2	11.3	17.0
無回答・不明（n=3）	－	－	－	－

※ n 数は調査対象数を示しており、各平均値等の算出母数とは異なる。

(7) 看護職員による退院前訪問の実施状況

調査時点（令和4年11月）の看護職員による退院前訪問の実施件数は、入院料1の病棟では、平均0.3回であり、その内訳は病棟配属の看護職員によるものが平均0.0回、入退院支援部門配属の看護職員によるものが平均0.3回、外来部門等その他の所属の看護職員によるものが平均0.0回であった。

表 335 看護職員による退院前訪問の実施状況

	(内訳)							
	看護職員による退院前訪問件数		病棟配属の看護職員の訪問		入退院支援部門配属の看護職員の訪問		外来部門等その他の所属の看護職員の訪問	
	平均 (件)	標準 偏差	平均 (件)	標準 偏差	平均 (件)	標準 偏差	平均 (件)	標準 偏差
計 (n=139)	0.2	1.4	0.0	0.2	0.2	1.3	0.0	0.1
入院料1 (n=83)	0.3	1.7	0.0	0.2	0.3	1.7	0.0	0.0
入院料2 (n=56)	0.1	0.3	0.0	0.2	0.0	0.3	0.0	0.1
無回答・不明 (n=0)	－	－	－	－	－	－	－	－

(8) タスク・シフト／シェアの状況

病棟内の各種業務について、主に実施している職種（部門）を尋ねた。

「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が95.3%で最も多く、次いで「どれにもあてはまらない」が2.3%であった。

表 336 「日中の病棟での日常生活援助」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	看護 補助者	該当患者 がいない	どれにも あてはま らない	無回答 ・不明
計	147 100.0	3 2.0	135 91.8	2 1.4	－ －	2 1.4	5 3.4
入院料1	86 100.0	1 1.2	82 95.3	－ －	－ －	2 2.3	1 1.2
入院料2	58 100.0	2 3.4	53 91.4	2 3.4	－ －	－ －	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0

「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「リハビリ職員」が41.9%で最も多く、次いで「看護職員」が32.6%であった。

表 337 「摂食嚥下訓練や口腔機能訓練」を主に実施している職種（部門）

	計	リハビリ 職員	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	147 100.0	63 42.9	46 31.3	22 15.0	11 7.5	5 3.4
入院料1	86 100.0	36 41.9	28 32.6	15 17.4	6 7.0	1 1.2
入院料2	58 100.0	27 46.6	18 31.0	7 12.1	5 8.6	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	- -	- -	- -	- -	3 100.0

「入院時の持参薬の確認」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「薬剤師」が75.6%で最も多く、次いで「看護職員」が20.9%であった。

表 338 「入院時の持参薬の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	147 100.0	109 74.1	31 21.1	- -	2 1.4	5 3.4
入院料1	86 100.0	65 75.6	18 20.9	- -	2 2.3	1 1.2
入院料2	58 100.0	44 75.9	13 22.4	- -	- -	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	- -	- -	- -	- -	3 100.0

「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が68.6%で最も多く、次いで「薬剤師」が23.3%であった。

表 339 「薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	147 100.0	29 19.7	104 70.7	- -	9 6.1	5 3.4
入院料1	86 100.0	20 23.3	59 68.6	- -	6 7.0	1 1.2
入院料2	58 100.0	9 15.5	45 77.6	- -	3 5.2	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	- -	- -	- -	- -	3 100.0

「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「看護職員」が77.9%で最も多く、次いで「薬剤師」が16.3%であった。

表 340 「継続処方の確認・処方依頼」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	147 100.0	20 13.6	117 79.6	－ －	5 3.4	5 3.4
入院料1	86 100.0	14 16.3	67 77.9	－ －	4 4.7	1 1.2
入院料2	58 100.0	6 10.3	50 86.2	－ －	1 1.7	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0

「退院時の服薬指導」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「薬剤師」が54.7%で最も多く、次いで「看護職員」が37.2%であった。

表 341 「退院時の服薬指導」を主に実施している職種（部門）

	計	薬剤師	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	147 100.0	89 60.5	46 31.3	1 0.7	6 4.1	5 3.4
入院料1	86 100.0	47 54.7	32 37.2	1 1.2	5 5.8	1 1.2
入院料2	58 100.0	42 72.4	14 24.1	－ －	1 1.7	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0

「栄養指導」を主に実施しているのは、入院料1の病棟では「管理栄養士」が72.1%で最も多く、次いで「看護職員」が12.8%であった。

表 342 「栄養指導」を主に実施している職種（部門）

	計	管理栄養士	看護職員	該当患者が いない	どれにも あてはまら ない	無回答 ・不明
計	147 100.0	107 72.8	16 10.9	17 11.6	2 1.4	5 3.4
入院料1	86 100.0	62 72.1	11 12.8	10 11.6	2 2.3	1 1.2
入院料2	58 100.0	45 77.6	5 8.6	7 12.1	－ －	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0

「退院調整」を主に実施しているのは、入院料 1 の病棟では「退院支援部門」が 34.9%で最も多く、次いで「病棟配置の MSW」が 33.7%であった。

表 343 「退院調整」を主に実施している職種（部門）

	計	退院支援 部門	病棟 看護職員	病棟配置の MSW	どれにも あてはまら ない	無回答 ・ 不明
計	147 100.0	49 33.3	28 19.0	51 34.7	14 9.5	5 3.4
入院料 1	86 100.0	30 34.9	19 22.1	29 33.7	7 8.1	1 1.2
入院料 2	58 100.0	19 32.8	9 15.5	22 37.9	7 12.1	1 1.7
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	－ －	－ －	3 100.0

(9) 看護補助者との役割分担に係る研修の状況

看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施しているか尋ねたところ、入院料 1 の病棟では、「実施している」が 74.4%であった。

表 344 看護補助者との役割分担に係る病棟看護職員への研修状況

	計	実施している	実施していない	無回答・不明
計	147 100.0	110 74.8	30 20.4	7 4.8
入院料 1	86 100.0	64 74.4	20 23.3	2 2.3
入院料 2	58 100.0	46 79.3	10 17.2	2 3.4
無回答・不明	3 100.0	－ －	－ －	3 100.0

4. 令和4年度診療報酬改定の影響

(1) 診療報酬改定事項への対応

令和4年度診療報酬改定により、「緩和ケア病棟疼痛評価加算」（疼痛の評価を実施し、療養上必要な指導を行った場合の加算）が新設されたことを受けて、看護提供体制に関して対応したことを尋ねたところ、入院料1の病棟では「特に対応はしていない」が88.3%で最も多く、次いで「看護職員を加配した」が3.9%であった。

なお本設問は、緩和ケア病棟疼痛評価加算を「算定している」病院のみが回答した。

表 345 緩和ケア病棟疼痛評価加算が新設されたことを受けて、
看護提供体制に関して対応したこと（複数回答）

	回答 病院数	看護 職員を 加配した	看護 補助者 を加配した	特に対応 していない	その他	無 回答・ 不明
計	132 100.0	5 3.8	4 3.0	114 86.4	9 6.8	1 0.8
入院料1	77 100.0	3 3.9	2 2.6	68 88.3	5 6.5	－ －
入院料2	55 100.0	2 3.6	2 3.6	46 83.6	4 7.3	1 1.8
無回答・不明	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －

「特に対応していない」と回答した場合のその理由は、入院料1の病棟では、「以前から緩和ケア疼痛評価を行っている」が77.9%で最も多く、次いで「以前から看護職員を多く配置している」が16.2%であった。

表 346 緩和ケア病棟疼痛評価加算が新設されたことに対し、
特に対応していない理由（複数回答）

	回答 病院数	以前から 緩和ケア 疼痛評価 を行っている	以前から 看護職員 を多く 配置している	以前から 看護補助 者を多く 配置している	その他	無 回答・ 不明
計	114 100.0	88 77.2	18 15.8	3 2.6	15 13.2	1 0.9
入院料1	68 100.0	53 77.9	11 16.2	1 1.5	9 13.2	1 1.5
入院料2	46 100.0	35 76.1	7 15.2	2 4.3	6 13.0	－ －
無回答・不明	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －

調査票

- ①病院調査票（全医療機関共通）・・・・・・・・・・ P224
- ②回復期リハビリテーション病棟調査票・・・・・・・・ P228
- ③地域包括ケア病棟調査票・・・・・・・・・・ P235
- ④療養病棟調査票・・・・・・・・・・ P242
- ⑤緩和ケア病棟調査票・・・・・・・・・・ P250

回復期・慢性期看護実態調査【病院調査票】

【回答方法】

・設問は、下記の通りご回答ください。

⇒プルダウンメニューから1つ選んでください

☐ ⇒該当する選択肢の横に○印

⇒数値を入力してください

⇒文字等を入力してください

【本調査における用語の整理】

「看護職員」とは、看護師・准看護師・保健師・助産師のことを指します。看護補助者は含みません。

「リハビリ職員」とは、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のことを指します。

「看護補助者」には、介護福祉士の資格を持つ人も含みます。

病－１．病院概要についてお伺いします。

１）設置主体についてお答えください。

	1 国	2 公立病院	3 公的病院
	4 社会保険関係団体	5 法人	6 その他

２）許可病床数についてお答えください。

①病院全体の許可病床数	② ①のうち、一般病床	③ ①のうち、療養病床
床	床	床

３）算定入院料について伺います。

(1) 2022年11月1日現在で算定している入院基本料について、あてはまる入院料すべてにご回答ください。

【入院基本料ごとに単数回答】

①急性期一般入院基本料		1 入院料1	2 入院料2	3 入院料3	4 入院料4
		5 入院料5	6 入院料6		
②地域一般入院基本料		1 入院料1	2 入院料2	3 入院料3	
		4 特別入院基本料			
③療養病棟入院基本料		1 入院料1	2 入院料2	3 特別入院基本料	
		(特別入院基本料算定の場合は、療養病棟票への回答は不要)			
④結核病棟入院基本料		1 7対1	2 10対1	3 13対1	4 15対1
		5 18対1	6 20対1	7 特別入院基本料	
⑤精神病棟入院基本料		1 10対1	2 13対1	3 15対1	4 18対1
		5 20対1	6 特別入院基本料		
⑥特定機能病院入院基本料	⑥-1.一般病棟		1 7対1	2 10対1	
	⑥-2.結核病棟		1 7対1	2 10対1	3 13対1
	⑥-3.精神病棟		1 7対1	2 10対1	3 13対1
⑦専門病院入院基本料		1 7対1	2 10対1	3 13対1	
⑧障害者施設等入院基本料		1 7対1	2 10対1	3 13対1	4 15対1

(2) 2022年11月1日現在で算定している特定入院料について、あてはまるものすべてに○をつけてください。【複数回答可】

☐	1 救命救急入院料	☐	13 地域包括ケア病棟入院料
☐	2 特定集中治療室管理料	☐	14 地域包括ケア入院医療管理料
☐	3 ハイケアユニット入院医療管理料	☐	15 特殊疾患病棟入院料
☐	4 脳卒中ケアユニット入院医療管理料	☐	16 緩和ケア病棟入院料
☐	5 小児特定集中治療室管理料	☐	17 精神科救急急性期医療入院料
☐	6 新生児特定集中治療室管理料	☐	18 精神科急性期治療病棟入院料
☐	7 総合周産期特定集中治療室管理料	☐	19 精神科救急・合併症入院料
☐	8 新生児治療回復室入院医療管理料	☐	20 児童・思春期精神科入院医療管理料
☐	9 一類感染症患者入院医療管理料	☐	21 精神療養病棟入院料
☐	10 特殊疾患入院医療管理料	☐	22 認知症治療病棟入院料
☐	11 小児入院医療管理料	☐	23 特定一般病棟入院料
☐	12 回復期リハビリテーション病棟入院料	☐	24 地域移行機能強化病棟入院料
		☐	25 特定機能病院リハビリテーション病棟入院料

4) 併設する訪問看護事業所・介護施設について、あてはまるものすべてに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 訪問看護事業所	☐	5 有料老人ホーム
☐	2 介護医療院	☐	6 その他の介護施設
☐	3 介護老人保健施設	→ ()	
☐	4 特別養護老人ホーム	☐	7 併設する介護施設・訪問看護事業所はない

病－２．貴院の医療提供体制について伺います。

1) 貴院の救急医療体制についてお答えください。[単数回答]

☐	1 救急告示・指定病院である	→1.と回答した方はあてはまるものをお答えください。	
☐	2 救急告示・指定病院ではない	☐	1. 3次救急
		☐	2. 2次救急（24時間365日対応）
		☐	3. 2次救急（輪番制）
		☐	4. 1次救急

2) 医療安全対策加算の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 医療安全対策加算 1 を算定している
☐	2 医療安全対策加算 2 を算定している
☐	3 医療安全対策加算を算定していない

3) 認知症ケア加算の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 認知症ケア加算 1 を算定している
☐	2 認知症ケア加算 2 を算定している
☐	3 認知症ケア加算 3 を算定している
☐	4 認知症ケア加算を算定していない

4) 排尿自立支援加算の算定状況についてお答えください。（週1回12週を限度に算定可能）[単数回答]

☐	1 排尿自立支援加算を算定している	☐	2 排尿自立支援加算を算定していない
--------------------------	-------------------	--------------------------	--------------------

5) 摂食嚥下機能回復体制加算の算定状況についてお答えください。[複数回答可]

☐	1 摂食嚥下機能回復体制加算 1 を算定している
☐	2 摂食嚥下機能回復体制加算 2 を算定している
☐	3 摂食嚥下機能回復体制加算 3 を算定している（療養病棟入院料算定患者のみ）
☐	4 摂食嚥下機能回復体制加算を算定していない

6) 感染対策向上加算の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 感染対策向上加算 1 を算定している
☐	2 感染対策向上加算 2 を算定している
☐	3 感染対策向上加算 3 を算定している
☐	4 感染対策向上加算を算定していない

病－３．貴院の看護提供体制についてお答えください。

1) 貴院では看護管理者を長とした看護部門（看護部等）はありますか。[単数回答]

☐	1 ある	☐	2 ない
-----------------------	------	-----------------------	------

2) 貴院全体の看護職員の確保状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 貴院で求める看護職員数を確保できている
☐	2 貴院で求める看護職員数を確保できていない

3) 看護職員を確保する際の、有料職業紹介所（派遣会社）の使用の有無についてお答えください。[単数回答]

☐	1 有料職業紹介所（派遣会社）を使用している
☐	2 有料職業紹介所（派遣会社）を使用していない

4) 症例検討会等で集まる他施設の看護師や病院見学の看護学生等に貴院の魅力として発信している内容として、あてはまるものすべてに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 患者の回復過程（在宅復帰支援）に携わる看護の魅力を発信している
☐	2 長期療養患者のその人らしい生活を支える看護や家族支援の魅力を発信している
☐	3 緩和ケアが必要となる患者の看護（人生の最終段階への関わりも含む）の魅力について発信している
☐	4 新人や中途採用者に対する教育体制がある
☐	5 ローテーション制度があり、急性期領域から回復期・慢性期まで経験できる
☐	6 時間外勤務が少ない
☐	7 看護職員の負担が少なくなるよう配置を多くしている（昼間・夜間問わず）
☐	8 有給休暇がとりやすい
☐	9 近隣医療機関と比較して、給与が高い
☐	10 その他 →()
☐	11 魅力として発信している内容はない

5) 11月1日時点の①専門看護師資格と認定看護師資格の双方を取得している者、②専門看護師、③認定看護師、④特定行為研修修了者（看護師）の人数（実人数・管理職を含む）をお答えください。

①専門看護師資格と認定看護師資格の双方を取得している者	人	うち特定行為研修修了者	人
②専門看護師資格取得者（①を除く）	人	うち特定行為研修修了者	人
③認定看護師資格取得者（①を除く）	人	うち特定行為研修修了者	人
④特定行為研修修了者（専門看護師、認定看護師を除く）	人		

6) 5) で回答した専門看護師・認定看護師の分野についてあてはまるものすべてに○をつけてください。
[複数回答可]

☐	1 摂食嚥下障害看護／摂食・嚥下障害看護認定看護師
☐	2 脳卒中看護／脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
☐	3 感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師
☐	4 皮膚・排泄ケア認定看護師
☐	5 認知症看護認定看護師、老年看護専門看護師、精神看護専門看護師
☐	6 緩和ケア看護認定看護師
☐	7 がん性疼痛看護認定看護師、がん薬物療法看護／がん化学療法看護認定看護師、乳がん看護認定看護師、がん看護専門看護師
☐	8 その他の分野の認定看護師、専門看護師

7) 5) の④で回答した特定行為研修修了者の領域別パッケージおよび特定行為研修修了区分についてあてはまるものすべてに○をつけてください。[複数回答可]

【領域別パッケージ研修】(あてはまるものすべてに○をつけてください)

☐	1 在宅・慢性期領域	☐	4 救急領域
☐	2 外科術後病棟管理領域	☐	5 外科系基本領域
☐	3 術中麻酔管理領域	☐	6 集中治療領域

【特定行為研修修了区分】(領域別パッケージ研修以外で、あてはまるものすべてに○をつけてください)

☐	1 呼吸器(気道確保に係るもの) 関連	☐	11 創傷管理関連
☐	2 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの) 関連	☐	12 創部ドレーン管理関連
☐	3 呼吸器(長期呼吸療法に係るもの) 関連	☐	13 動脈血液ガス分析関連
☐	4 循環器関連	☐	14 透析管理関連
☐	5 心嚢ドレーン管理関連	☐	15 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
☐	6 胸腔ドレーン管理関連	☐	16 感染に係る薬剤投与関連
☐	7 腹腔ドレーン管理関連	☐	17 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
☐	8 ろう孔管理関連	☐	18 術後疼痛管理関連
☐	9 栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理) 関連	☐	19 循環動態に係る薬剤投与関連
☐	10 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理) 関連	☐	20 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連
		☐	21 皮膚損傷に係る薬剤投与関連

8) 貴院に設置している「専門看護師・認定看護師または特定行為研修修了看護師」及び他の医療専門職種を含む医療チーム(名称や診療報酬の算定の有無は問わない)についてあてはまるものに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 栄養サポートチーム(NST)
☐	2 感染防止対策チーム(ICT)
☐	3 褥瘡対策チーム
☐	4 緩和ケアチーム
☐	5 摂食嚥下チーム
☐	6 糖尿病チーム
☐	7 認知症サポートチーム
☐	8 心不全チーム
☐	9 その他 →()

回復期・慢性期看護実態調査【回復期リハビリテーション病棟調査票】

【回答方法】

・設問は、下記の通りご回答ください。

- | | |
|--|-----------------------|
| | ⇒プルダウンメニューから1つ選んでください |
| | ⇒該当する選択肢の横に○印 |
| | ⇒数値を入力してください |
| | ⇒文字等を入力してください |

回－1. 回復期リハビリテーション病棟入院料算定病棟の概要について

1) 11月1日時点の算定入院料をお答えください。【複数回答可】

	1 回復期リハビリテーション病棟入院料 1
	2 回復期リハビリテーション病棟入院料 2
	3 回復期リハビリテーション病棟入院料 3
	4 回復期リハビリテーション病棟入院料 4
	5 回復期リハビリテーション病棟入院料 5

※複数の入院料を算定する医療機関については、入院料1または2について以下の問にお答えください。

2) 11月1日時点で回復期リハビリテーション病棟の病棟数および稼働病床数をお答えください。

病棟数		病棟		稼働病床数		床	
-----	--	----	--	-------	--	---	--

3) 11月の回復期リハビリテーション病棟入院料における以下①～⑩について、お答えください。

※複数病棟ある場合には、合計値を入力

①11月の在棟患者延べ数		人
②11月の新規入院患者数		人
③11月の新規入棟患者数（自施設内の転棟患者）		人
④11月の退院患者数（転院も含む）		人
⑤ ④のうち、死亡退院した患者数		人
⑥ ④のうち、死亡退院以外の患者数（④-⑤）		人
⑦11月の退棟患者数（自施設内の転棟患者）		人
⑧11月の平均在棟日数 【自動計算： ①÷〔（②+③+④+⑦）÷2〕】		日
⑨病床稼働率 【自動計算： ①÷（30×稼働病床数）】		%
⑩回転率 【自動計算： 30÷⑧】		

4) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数（実人数）をお答えください。

		人
--	--	---

5) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者について、入院期間中における、退院に向けた以下の複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数をお答えください。

①病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンス		回
②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス（院内の他職種が同席したカンファレンスも含む）		回

※記録に残しているもののみ数えてください。

6) 11月に厚生局に届出を行った「在宅復帰率（直近6か月）」（入院料1・2は様式49の2②※、入院料3・4は様式49の3②※）をお答えください。（入院料5については空欄で可）

		%
--	--	---

※厚生労働省保険局医療課長通知「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」（保医発0304第2号 令和4年3月4日）参照

7) 11月に厚生局へ届出を行った「リハビリテーション実績指数」(様式49※)をお答えください。

--	--	--

※厚生労働省保険局医療課長通知「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」(保医発0304第2号令和4年3月4日) 参照

8) 11月に厚生局へ届出を行った「直近6か月間に退院した患者で、入院時の判定で重症だった患者のうち、退院時に入院時と比較して、入院料1・2では、日常生活機能評価で4点以上、FIM総得点で16点以上、入院料3・4・5では日常生活機能評価で3点以上、FIM総得点で12点以上改善している患者の割合」(様式49の4④※)をお答えください。(入院料5については空欄で可)

		%
--	--	---

※厚生労働省保険局医療課長通知「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」(保医発0304第2号令和4年3月4日) 参照

(回復期リハビリテーション病棟入院料1又は2を算定している病院のみ)

9) 体制強化加算の算定状況(11月1日時点)についてお答えください。[単数回答]

	1 体制強化加算1を算定している
	2 体制強化加算2を算定している
	3 体制強化加算を算定していない

(回復期リハビリテーション病棟入院料3又は4を算定している病院のみ)

10) 休日リハビリテーション提供体制加算の算定状況(11月1日時点)についてお答えください。[単数回答]

	1 休日リハビリテーション提供体制加算を算定している
	2 休日リハビリテーション提供体制加算を算定していない

回－２．患者の状況について

1) 11月1日24時時点で回復期リハビリテーション病棟に入院している患者数をお答えください。

		人	うち、算定要件に該当しない患者数		人
--	--	---	------------------	--	---

2) 11月の回復期リハビリテーション病棟の入院実患者数をお答えください。

		人
--	--	---

3) 2) で回答した11月の回復期リハビリテーション病棟の入院実患者数のうち、以下の回復期リハビリテーションを要する状態にあてはまる実患者数についてお答えください。（該当患者がいない場合は0を記入ください）

1 脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント手術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後若しくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態		人
うち、高次脳機能障害を持つ患者数		人
2 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節若しくは膝関節の骨折又は2肢以上の多発骨折の発症後又は手術後の状態		人
3 外科手術後又は肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後又は発症後の状態		人
4 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態		人
5 股関節又は膝関節の置換術後の状態		人
6 急性心筋梗塞、狭心症発作その他急性発症した心大血管疾患又は手術後の状態		人
7 上記以外（算定要件にあてはまらない）の患者数		人

4) 令和3年度の新規入院患者数および、入院元の内訳をお答えください。（病床機能報告と同様）

新規入院患者数		人
(内訳)	院内からの転棟	人
	家庭からの入院	人
	他の病院・診療所からの転院	人
	介護施設からの入院	人
	介護医療院からの入院	人
	その他	人

5) 令和3年度退院患者数および退院先の内訳をお答えください。（病床機能報告と同様）

退院患者数		人
(内訳)	院内の他の病棟へ転棟	人
	家庭へ退院	人
	他の病院・診療所へ転院	人
	介護老人保健施設に入所	人
	介護老人福祉施設に入所	人
	介護医療院に入所	人
	社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	人
	死亡退院	人
	その他	人

6) 11月に厚生局へ届出を行った直近6か月間の「重症の新規入院患者の割合」（入院料1・2は様式49の2⑤※、入院料3・4は様式49の3⑤※）をお答えください。（入院料5については空欄で可）

		%
--	--	---

※厚生労働省保険局医療課長通知「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」（保医発0304第2号 令和4年3月4日）参照

- 7) 11月1日24時時点で入院している患者のうち、75歳以上の患者数及び、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況とランク別の認知症患者数についてお答えください。

①75歳以上の患者数（実人数）		人
②認知症高齢者の日常生活自立度判定基準〔単数回答〕		
1 評価していない		
2 評価している →人数をお答えください。		
I		人
II		人
III		人
IV		人
M		人
	(II a	人、
	(III a	人、
	II b	人)
	III b	人)

- 8) 11月のd 2以上の新規褥瘡発生患者数（実人数）をお答えください。

		人
--	--	---

- 9) 11月に身体的拘束をした患者数（実人数）および延べ患者数をお答えください。

①11月に身体的拘束をした実患者数		人
②11月に身体的拘束をした延べ患者数		人
③身体的拘束患者割合		%
【自動計算：身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数】		

※ここでいう身体的拘束とは「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの用具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言います（診療報酬の認知症ケア加算の定義と揃えています）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内在型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含まれます。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まれません。4点柵の使用も含まれません。

- 10) 11月1日24時時点で入院している患者（実人数）のうち、11月1日の状態として以下に該当する患者数（実人数）をお答えください。

①点滴（持続的静脈注射）を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
②経鼻経管栄養		人			
③胃ろうもしくは腸ろう経管栄養		人			
④心電図モニター装着中		人			
⑤SpO2モニター装着中		人			
⑥痰の吸引を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
⑦酸素投与中		人			
⑧気管カニューレ挿入中		人			

- 11) 11月1日24時時点において、経口摂取していない患者数、およびその患者のうち、摂食嚥下の間接訓練をすでに開始している患者数（11月1日に開始した患者も含む）をお答えください。さらに、その患者のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練への移行も含む）をした患者数をお答えください。

1. 経口摂取していない患者数		人
2. 1.のうち、間接訓練を実施している患者数		人
3. 2.のうち、11月30日までに1回でも経口摂取(直接訓練への移行も含む)した患者数		人

※間接訓練：食べ物を利用しない訓練

直接訓練：食べ物を利用した訓練

- 12) 11月1日24時時点で中心静脈（以下、CV）注射を実施している患者数および、その患者のうち11月30日までにCVカテーテルを抜去（ロックは含まない）した患者数をお答えください。

1. 11月1日時点でのCVカテーテル挿入患者数		人
2. 1.のうち、11月30日までにCVカテーテルの抜去に至った患者数		人

- 13) 11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者数および、11月30日までに抜去した患者数をお答えください。

1. 11月1日時点での膀胱留置カテーテル挿入患者数		人
2. 1.のうち、11月30日までに膀胱留置カテーテルの抜去に至った患者数		人

14) 11月の転倒・転落についてお答えください。

1. 11月のレベル2以上の転倒・転落の発生件数		件
2. 1.のうち、夜間帯のレベル2以上の転倒・転落の発生件数		件
3. 2.の件数を集計した時間帯	時 分 ~ 時 分	
※24時間表記でご記入ください。(例) 18時00分~6時00分 (計 時間)【自動計算】		
4. 病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール(スクリーニングツール)を活用していますか。[単数回答]		
1 している	2 していない	

回-3. 看護・医療提供体制について

1) 11月の非管理職の看護職員配置数(実人数)および看護補助者配置数(実人数)についてお答えください。

看護職員	人	うち、准看護師	人
看護補助者	人		

2) 11月の非管理職の看護職員および看護補助者の総勤務時間数、および貴院における1か月の規定の就労時間数をお答えください。

1. 看護職員(非管理職)の総勤務時間数	時間
2. 看護補助者の総勤務時間数	時間
3. 貴院の1か月の規定の就労時間数	時間
4. 実質的な看護職員配置 【自動計算: 在棟患者延べ数×8時間×3勤務帯/看護職員(非管理職)の総勤務時間数】	対1

3) 他の医療専門職種の病棟配置についてお答えください。(実人数)

職種	専従	兼務
① 理学療法士	人	人
② 作業療法士	人	人
③ 言語聴覚士	人	人
④ 管理栄養士	人	人
⑤ 薬剤師	人	人
⑥ MSW	人	人

4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護提供体制についてお答えください。(実人数)

※1 本問の「早出」とは、勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むものをいいます(夜勤勤務者は除く)。

※2 本問の「遅出」とは、勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むものをいいます(日勤勤務者または夜勤勤務者は除く)。

2交代の場合

	夜勤人数	早出(※1)	遅出(※2)
① 看護職員	人	人	人
② 看護補助者	人	人	人
③ リハビリ職員	人	人	人

3交代の場合

	準夜勤人数	深夜勤人数	早出(※1)	遅出(※2)
① 看護職員	人	人	人	人
② 看護補助者	人	人	人	人
③ リハビリ職員	人	人	人	人

5) 11月の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間数についてお答えください。

	時間
--	----

※夜勤専従者や月あたりの夜勤時間16時間未満のものは含まない。ただし、短時間正職員の場合は月あたり12時間以上のものを含む。

6) 11月に看護職員が患者・家族に対して実施した以下の延べ回数をお答えください。

1. 意思決定支援(ICの同席やACPを含む)	回
2. 患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導	回

※記録に残しているもののみ数えてください。

7) 11月の看護職員による退院前訪問の実施件数をお答えください。

		件
	うち、病棟配属の看護職員の訪問	件
	入退院支援部門配属の看護職員の訪問	件
	外来部門等その他の所属の看護職員の訪問	件

8) トイレ歩行の際に見守りもしくは介助が必要な状態の患者に対する、夜間のトイレ介助の現状として、最も近いものをお答えください。[単数回答]

	1 できるだけトイレ誘導している（看護職員が中心）
	2 できるだけトイレ誘導している（看護補助者が中心）
	3 できるだけトイレ誘導している（看護職員・看護補助者が協働して介助）
	4 夜間は主にポータブルトイレを使用している
	5 夜間は主にオムツを使用している
	6 見守り・介助が必要な患者がいない

9) 以下の業務について、主に実施している職種（部門）についてお答えください。[単数回答]

※記載の職種以外が実施または、どちらが主とは言えない場合、「どれにもあてはまらない」を選択ください。

(1) 日中の病棟での日常生活援助

	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(2) 朝および夕方の食事介助

	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(3) 夜間のトイレ介助

	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(4) 休日のリハビリテーション

	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(5) リハビリテーション中の排泄ケア

	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(6) リハビリテーション中の痰の吸引

	1 リハビリ職員	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(7) 摂食嚥下機能訓練や口腔機能訓練

	1 リハビリ職員	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(8) 入院時の持参薬の確認

	1 薬剤師	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(9) 薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認

	1 薬剤師	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(10) 継続処方の確認・処方依頼

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(11) 退院時の服薬指導

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(12) 栄養指導

☐	1 管理栄養士	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(13) 退院調整

☐	1 退院支援部門	2 病棟看護職員
☐	3 病棟配置のMSWが実施	4 どれにもあてはまらない

10) 看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施していますか。[単数回答]

☐	1 実施している	2 実施していない
--------------------------	----------	-----------

回－4. 令和4年度診療報酬改定の影響について

- 1) 新規入院患者の重症患者割合が引き上げられたことで、看護提供体制等に関して対応したことがあればあてはまるものすべてに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 算定入院料を変更した
☐	2 看護職員を加配した
☐	3 リハビリ職種を加配した
☐	4 看護補助者を加配した
☐	5 特に対応はしていない
☐	6 その他 → ()

- 2) 1) で「5 特に対応はしていない」と答えた方に伺います。特に対応していない理由についてあてはまるものに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 以前から重症患者割合が高い
☐	2 以前から看護職員を多く配置している
☐	3 以前からリハビリ職を多く配置している
☐	4 以前から看護補助者を多く配置している
☐	5 その他 → ()

回－5. 今後の方向性と課題について

- 1) 回復期リハビリテーション病棟入院料の今後の方向性と課題についてお答えください。[自由記載]

--

回復期・慢性期看護実態調査【地域包括ケア病棟調査票】

【回答方法】

・設問は、下記の通りご回答ください。

- ⇒プルダウンメニューから1つ選んでください
- ⇒該当する選択肢の横に○印
- ⇒数値を入力してください
- ⇒文字等を入力してください

地－１．地域包括ケア病棟入院料算定病棟の概要について

1) 11月1日時点の算定入院料をお答えください。【単数回答】

	1 地域包括ケア病棟入院料 1 2 地域包括ケア病棟入院料 2 3 地域包括ケア病棟入院料 3 4 地域包括ケア病棟入院料 4
--	--

2) 11月1日時点で地域包括ケア病棟の病棟数および稼働病床数をお答えください。

病棟数		病棟		稼働病床数		床
-----	--	----	--	-------	--	---

3) 11月の地域包括ケア入院料における以下①～⑩について、お答えください。

※複数病棟ある場合には、合計値を入力

①11月の在棟患者延べ数		人	
②11月の新規入院患者数		人	
③11月の新規入棟患者数（自施設内の転棟患者）		人	
④11月の退院患者数（転院も含む）		人	
⑤ ④のうち、死亡退院した患者数		人	
⑥ ④のうち、死亡退院以外の患者数（④-⑤）		人	
⑦11月の退棟患者数（自施設内の転棟患者）		人	
⑧11月の平均在棟日数		日	
【自動計算： ①÷〔（②＋③＋④＋⑦）÷2〕】			
⑨病床稼働率		%	
【自動計算： ①÷（30×稼働病床数）】			
⑩回転率			
【自動計算： 30÷⑧】			

4) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数（実人数）をお答えください。

		人
--	--	---

5) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者について、入院期間中における、退院に向けた以下の複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数をお答えください。

①病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンス		回
②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス（院内の他職種が同席したカンファレンスも含む）		回

※記録に残しているもののみ数えてください。

6) 11月に厚生局に届出を行った「在宅等へ退出した患者の割合（直近6か月）」（様式50※）をお答えください。

		%
--	--	---

※厚生労働省保険局医療課長通知「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」（保医発0304第2号 令和4年3月4日）参照

- 7) 直近3か月の「同一保険医療機関の一般病棟から転棟した患者割合」(様式50参照※)をお答えください。11月に厚生局に届出を行っている場合は、その値をお書きください。

①直近3月間における当該病棟の入院患者数		人
②①のうち、同一の保険医療機関の一般病棟から転棟した患者数		人
③同一の保険医療機関の一般病棟から転棟した患者の占める割合 【自動計算：②÷①】		%

- 8) 直近3か月の「自宅等からの入棟患者割合」(様式50参照※)をお答えください。11月に厚生局に届出を行っている場合は、その値をお書きください。

①直近3月間における当該病棟の入院患者数(再掲)		人
②①のうち、自宅又は有料老人ホーム等から入棟した患者数		人
③自宅等から入棟した患者の占める割合【自動計算：②÷①】		%

- 9) 直近3か月の「自宅等からの緊急入院患者数」(様式50参照※)をお答えください。11月に厚生局に届出を行っている場合は、その値をお書きください。

		人
--	--	---

- 10) 看護職員配置加算(11月1日時点)の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 算定している
☐	2 算定していない

- 11) 看護職員夜間配置加算(11月1日時点)の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 算定している
☐	2 算定していない

- 12) 看護補助者配置加算(11月1日時点)の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 算定している
☐	2 算定していない

- 13) 看護補助体制充実加算(11月1日時点)の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 算定している
☐	2 算定していない

地-2. 患者の状況について

- 1) 11月1日24時時点で地域包括ケア病棟に入院している患者数をお答えください。

		人
--	--	---

- 2) 11月の地域包括ケア病棟の入院実患者数をお答えください。

		人	うち、算定要件に該当しない患者数		人
--	--	---	------------------	--	---

- 3) 11月1日時点で届出を行っている重症度、医療・看護必要度の測定方法をお答えください。[単数回答]

☐	1 重症度、医療・看護必要度Ⅰ	2 重症度、医療・看護必要度Ⅱ
-----------------------	-----------------	-----------------

- 4) 11月の重症度、医療・看護必要度の該当患者割合をお答えください。

		%
--	--	---

- 5) 11月に地域包括ケア病棟に入院した患者の主な主傷病名を多い順に3つお答えください。

1 番目	
2 番目	
3 番目	

6) 令和3年度の新規入院患者数および、入院元の内訳をお答えください。(病床機能報告と同様)

新規入院患者数			人
(内訳)	院内からの転棟		人
	家庭からの入院		人
	他の病院・診療所からの転院		人
	介護施設からの入院		人
	介護医療院からの入院		人
	その他		人

7) 令和3年度退院患者数および退院先の内訳をお答えください。(病床機能報告と同様)

退院患者数			人
(内訳)	院内の他の病棟へ転棟		人
	家庭へ退院		人
	他の病院・診療所へ転院		人
	介護老人保健施設に入所		人
	介護老人福祉施設に入所		人
	介護医療院に入所		人
	社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所		人
	死亡退院		人
	その他		人

8) 11月の地域包括ケア病棟の入院実患者数のうち、75歳以上の患者数(実人数)をお答えください。

		人
--	--	---

9) 11月1日24時時点で入院している患者のうち、75歳以上の患者数及び、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況とランク別の認知症患者数についてお答えください。

①75歳以上の患者数(実人数)			人
②認知症高齢者の日常生活自立度判定基準[単数回答]			
	1 評価していない		
	2 評価している → 人数をお書きください。		
I		人	
II		人	(II a 人、 II b 人)
III		人	(III a 人、 III b 人)
IV		人	
M		人	

10) 11月のd 2以上の新規褥瘡発生患者数(実人数)をお答えください。

		人
--	--	---

11) 11月に身体的拘束をした患者数(実人数)および延べ患者数をお答えください。

①11月に身体的拘束をした実患者数		人
②11月に身体的拘束をした延べ患者数		人
③身体的拘束患者割合		%
【自動計算：身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数】		

※ここでいう身体的拘束とは「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの用具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言います(診療報酬の認知症ケア加算の定義と揃えています)。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内蔵型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含まれます。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まれません。4点柵の使用も含まれません。

- 12) 11月1日24時時点で入院している患者（実人数）のうち、11月1日の状態として以下に該当する患者数（実人数）をお答えください。

① 点滴（持続的静脈注射）を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
② 経鼻経管栄養		人			
③ 胃ろうもしくは腸ろう経管栄養		人			
④ 心電図モニター装着中		人			
⑤ SpO2モニター装着中		人			
⑥ 痰の吸引を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
⑦ 酸素投与中		人			
⑧ 気管カニューレ挿入中		人			

- 13) 11月1日24時時点において、経口摂取していない患者数、およびその患者のうち、摂食嚥下の間接訓練をすでに開始している患者数（11月1日に開始した患者も含む）をお答えください。さらに、その患者のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練への移行も含む）をした患者数をお答えください。

1. 経口摂取していない患者数		人
2. 1.のうち、間接訓練を開始している患者数		人
3. 2.のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練への移行も含む）した患者数		人

※間接訓練：食べ物を利用しない訓練

直接訓練：食べ物を利用した訓練

- 14) 11月1日24時時点で中心静脈（以下、CV）注射を実施している患者数および、その患者のうち11月30日までにCVカテーテルを抜去（ロックは含まない）した患者数をお答えください。

1. 11月1日時点でのCVカテーテル挿入患者数		人
2. 1.のうち、11月30日までにCVカテーテルの抜去に至った患者数		人

- 15) 11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者数および、11月30日までに抜去した患者数をお答えください。

1. 11月1日時点での膀胱留置カテーテル挿入患者数		人
2. 1.のうち、11月30日までに膀胱留置カテーテルの抜去に至った患者数		人

- 16) 11月の転倒・転落についてお答えください。

1. 11月のレベル2以上の転倒・転落の発生件数		件
2. 1.のうち、夜間帯のレベル2以上の転倒・転落の発生件数		件
3. 2.の件数を集計した時間帯	時 分 ～ 時 分	
※24時間表記でご記入ください。（例）18時00分～6時00分（計 時間）【自動計算】		
4. 病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用していますか。[単数回答]	1 している	2 していない

地－3. 看護・医療提供体制について

- 1) 11月の看護職員配置数（実人数）および看護補助者配置数（実人数）についてお答えください。

看護職員		人	うち、准看護師		人
看護補助者		人			

- 2) 11月の非管理職の看護職員および看護補助者の総勤務時間数、および貴院における1か月の規定の就労時間数をお答えください。

1. 看護職員（非管理職）の総勤務時間数		時間
2. 看護補助者の総勤務時間数		時間
3. 貴院の1か月の規定の就労時間数		時間
4. 実質的な看護職員配置 【自動計算：在床患者延べ数×8時間×3勤務帯／看護職員（非管理職）の総勤務時間数】		対1

3) 他の医療関係職種の病棟配置についてお答えください。(実人数)

職種	専従	兼務
① 理学療法士	人	人
② 作業療法士	人	人
③ 言語聴覚士	人	人
④ 管理栄養士	人	人
⑤ 薬剤師	人	人
⑥ MSW	人	人

4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護提供体制についてお答えください。(実人数)

※1 本問の「早出」とは、勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むものをいいます(夜勤勤務者は除く)。

※2 本問の「遅出」とは、勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むものをいいます(日勤勤務者または夜勤勤務者は除く)。

2交代の場合

	夜勤人数	早出(※1)	遅出(※2)
① 看護職員	人	人	人
② 看護補助者	人	人	人
③ リハビリ職員	人	人	人

3交代の場合

	準夜勤人数	深夜勤人数	早出(※1)	遅出(※2)
① 看護職員	人	人	人	人
② 看護補助者	人	人	人	人
③ リハビリ職員	人	人	人	人

5) 11月の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間数についてお答えください。

	時間
--	----

※夜勤専従者や月あたりの夜勤時間16時間未満のものは含まない。ただし、短時間正職員の場合は月あたり12時間以上のものを含む。

6) 11月に看護職員が患者・家族に対して実施した以下の延べ回数をお答えください。

1. 意思決定支援(ICの同席やACPを含む)	回
2. 患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導	回

※記録に残しているもののみ数えてください。

7) 11月の看護職員による退院前訪問の実施件数をお答えください。

	件
うち、病棟配属の看護職員の訪問	件
入退院支援部門配属の看護職員の訪問	件
外来部門等その他の所属の看護職員の訪問	件

8) トイレ歩行の際に見守りもしくは介助が必要な状態の患者に対する、夜間のトイレ介助の現状として、最も近いものをお答えください。

1 できるだけトイレ誘導している(看護職員が中心) 2 できるだけトイレ誘導している(看護補助者が中心) 3 できるだけトイレ誘導している(看護職員・看護補助者が協働して介助) 4 夜間は主にポータブルトイレを使用している 5 夜間は主にオムツを使用している 6 見守り・介助が必要な患者がいない

9) 以下の業務について、主に実施している職種（部門）についてお答えください。[単数回答]

※記載の職種以外が実施または、どちらが主とは言えない場合、「どれにもあてはまらない」を選択ください。

(1) 日中の病棟での日常生活援助

☐	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
☐	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(2) 摂食嚥下機能訓練や口腔機能訓練

☐	1 リハビリ職員	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(3) 入院時の持参薬の確認

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(4) 薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(5) 継続処方の確認・処方依頼

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(6) 退院時の服薬指導

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(7) 栄養指導

☐	1 管理栄養士	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(8) 退院調整

☐	1 退院支援部門	2 病棟看護職員
☐	3 病棟配置のMSWが実施	4 どれにもあてはまらない

10) 看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施していますか。[単数回答]

※看護補助体制充実加算の算定の有無は問いません。

☐	1 実施している	2 実施していない
--------------------------	----------	-----------

地－４．令和４年度診療報酬改定の影響について

- １） 令和４年度改定において自宅からの入院患者割合引き上げ、緊急入院患者受け入れ数の引き上げ、在宅復帰率が引き上げられたことへの看護提供体制等に関する対応として、あてはまるものに○をつけてください。〔複数回答可〕

☐	1 算定入院料を変更した
☐	2 看護職員を加配した
☐	3 リハビリ職員を加配した
☐	4 看護補助者を加配した
☐	5 特に対応はしていない
☐	6 その他 →()

- ２） １）で5.特に対応はしていないと答えた方に伺います。特に対応していない理由についてあてはまるものに○をつけてください。〔複数回答可〕

☐	1 以前から緊急入院患者の受け入れ数が多く、自宅からの入院患者割合、在宅復帰率が高い（今回の引き上げられた要件を以前から満たしている）
☐	2 以前から看護職員を多く配置している
☐	3 以前からリハビリ職員を多く配置している
☐	4 以前から看護補助者を多く配置している
☐	5 その他 →()

地－５．今後の方向性と課題について

- １） 地域包括ケア病棟入院料の今後の方向性と課題についてお答えください。〔自由記載〕

回復期・慢性期看護実態調査【療養病棟調査票】

【回答方法】

・設問は、下記の通りご回答ください。

- | | |
|--|-----------------------|
| | ⇒プルダウンメニューから1つ選んでください |
| | ⇒該当する選択肢の横に○印 |
| | ⇒数値を入力してください |
| | ⇒文字等を入力してください |

療 - 1. 療養病棟入院基本料算定病棟の概要について

1) 11月1日時点の算定入院料をお答えください。【単数回答】

	1 療養病棟入院料 1
	2 療養病棟入院料 2
	→2.の場合、注11の経過措置【単数回答】
	1. 該当する (看護職員配置20対1又は看護補助者配置20対1を満たせない 場合、もしくは医療区分2・3の患者割合が50%未満)
	2. 該当しない

2) 11月1日時点で療養病棟の病棟数および稼働病床数をお答えください。

病棟数		病棟		稼働病床数		床	
-----	--	----	--	-------	--	---	--

3) 11月の療養病棟入院料における以下①～⑩について、お答えください。

※複数病棟ある場合には、合計値を入力

①11月の在棟患者延べ数		人
②11月の新規入院患者数		人
③11月の新規入棟患者数（自施設内の転棟患者）		人
④11月の退院患者数（転院も含む）		人
⑤ ④のうち、死亡退院した患者数		人
⑥ ④のうち、死亡退院以外の患者数（④-⑤）		人
⑦11月の退棟患者数（自施設内の転棟患者）		人
⑧11月の平均在棟日数 【自動計算： ①÷〔（②+③+④+⑦）÷2〕】		日
⑨病床稼働率 【自動計算： ①÷（30×稼働病床数）】		%
⑩回転率 【自動計算： 30÷⑧】		

4) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数（実人数）をお答えください。

		人
--	--	---

5) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者について、入院期間中における、退院に向けた以下の複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数をお答えください。

①病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンス		回
②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス（院内の他職種が同席したカンファレンスも含む）		回

※記録に残しているもののみ数えてください。

6) 入退院支援加算（11月1日時点）の算定状況についてお答えください。【単数回答】

	1 入退院支援加算 1 を算定している
	2 入退院支援加算 2 を算定している
	3 入退院支援加算を算定していない

7) 在宅復帰率（直近6か月）をお答えください。（※在宅復帰機能強化加算の要件と同様の計算方法）

① 直近 6 月間における退院患者数（他病棟から当該病棟に転棟した患者のうち当該病棟での入院期間が 1 月未満の患者、再入院患者及び死亡退院患者を除く）		人
② ①のうち、在宅への退院患者		人
③ ②のうち、退院した患者の在宅での生活が 1 月以上（医療区分 3 の患者については 1 4 日以上）継続する見込みであることを確認できた患者		人
④ 在宅復帰率（③÷①）		%

8) 在宅復帰機能強化加算（11月1日時点）の算定状況についてお答えください。[単数回答]

☐	1 在宅復帰機能強化加算を算定している
☐	2 在宅復帰機能強化加算を算定していない

9) 在宅復帰に関する課題として、あてはまるものに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 老々介護・独居などの患者が多く自宅退院が難しい
☐	2 地域に訪問診療や訪問看護などの医療資源が乏しい
☐	3 医療処置のある患者は介護施設の入所が困難
☐	4 患者や家族が希望する地域の介護施設に空きがない
☐	5 その他 →()

療－ 2. 患者の状況について

1) 11月1日24時時点で療養病棟に入院している患者数をお答えください。

		人
----------------------	----------------------	---

2) 11月の療養病棟の入院実患者数をお答えください。

		人
----------------------	----------------------	---

3) 療養病棟における直近3か月の医療区分 2・3 の該当患者割合をお答えください。

		%
----------------------	----------------------	---

- 4) 11月1日24時点で療養病棟入院基本料を算定している患者のうち、以下の医療区分に当てはまる患者数についてお答えください。(複数あてはまる場合は、複数でカウント可)

【医療区分3】		
1 スモン		人
2 医師及び看護職員により、常時、監視及び管理を実施されている状態 (循環動態および呼吸状態が不安定なため、常時、動脈血酸素飽和度、血圧、心電図、呼吸等のバイタルサインを観察する必要がある等、医師及び看護職員により、24時間体制での監視及び管理を必要とする状態)		人
3 中心静脈注射を実施している状態		人
4 24時間持続して点滴を実施している状態		人
5 人工呼吸器を使用している状態		人
6 ドレーン法又は胸腔若しくは腹腔の洗浄を実施している状態		人
7 気管切開または気管内挿管が行われており、かつ発熱を伴う状態		人
8 酸素療法を実施している状態(密度の高い治療を要する状態に限る)		人
9 感染症の治療の必要性から隔離室での管理を実施している状態		人
【医療区分2】		
10 筋ジストロフィー症、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病関連疾患、その他の指定難病(スモンを除く)		人
11 脊髄損傷(頸椎損傷を原因とする麻痺が四肢すべてに見られる場合に限る)		人
12 慢性閉塞性肺疾患(ヒュー・ジョーンズの分類がⅤ度の状態に該当する場合に限る)		人
13 悪性腫瘍(医療用麻薬等の薬剤投与による疼痛コントロールが必要な場合に限る)		人
14 肺炎に対する治療を実施している状態		人
15 尿路感染症に対する治療を実施している状態		人
16 傷病等によるリハビリテーションが必要な状態(原因となる傷病等の発症後、30日以内の場合で、実際にリハビリテーションを行っている場合に限る)		人
17 脱水に対する治療を実施している状態かつ発熱を伴う状態		人
18 消化管等の体内からの出血が反復継続している状態		人
19 頻回の嘔吐に対する治療を実施している状態かつ発熱を伴う状態		人
20 褥瘡に対する治療を実施している状態(皮膚層の部分的喪失が認められる場合又は褥瘡が2か所以上に認められる場合に限る)		人
21 末しょう循環障害による下肢末端の開放創に対する治療を実施している状態		人
22 せん妄に対する治療を実施している状態		人
23 うつ症状に対する治療を実施している状態		人
24 他者に対する暴行が毎日認められる状態		人
25 人工腎臓、持続緩徐式血液濾過、腹膜灌流又は血漿交換療法を実施している状態		人
26 経鼻胃管や胃瘻等の経腸栄養が行われており、かつ、発熱又は嘔吐を伴う状態		人
27 1日8回以上の喀痰吸引を実施している状態		人
28 気管切開または気管内挿管が行われている状態(発熱を伴う状態を除く)		人
29 頻回の血糖検査を実施している状態		人
30 創傷、皮膚潰瘍又は下腿もしくは足部の蜂巣炎、膿等の感染症に対する治療を実施している状態		人
31 酸素療法を実施している状態(密度の高い治療を要する状態を除く)		人
32 その他		人

- 5) 11月1日24時時点で療養病棟入院基本料を算定している患者の、医療区分1～3とA D L区分1～3の組み合わせに該当する患者数をお答えください。

	医療区分 1		医療区分 2		医療区分 3	
A D L 区分 1		人		人		人
A D L 区分 2		人		人		人
A D L 区分 3		人		人		人

- 6) 令和3年度の新規入院患者数および、入院元の内訳をお答えください。(病床機能報告と同様)

新規入院患者数			人
(内訳)	院内からの転棟		人
	家庭からの入院		人
	他の病院・診療所からの転院		人
	介護施設からの入院		人
	介護医療院からの入院		人
	その他		人

- 7) 令和3年度退院患者数および退院先の内訳をお答えください。(病床機能報告と同様)

退院患者数			人
(内訳)	院内の他の病棟へ転棟		人
	家庭へ退院		人
	他の病院・診療所へ転院		人
	介護老人保健施設に入所		人
	介護老人福祉施設に入所		人
	介護医療院に入所		人
	社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所		人
	死亡退院		人
	その他		人

- 8) 11月1日24時時点で入院している患者のうち、75歳以上の患者数及び、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況とランク別の認知症患者数についてお答えください。

①75歳以上の患者数（実人数）		人
②認知症高齢者の日常生活自立度判定基準〔単数回答〕		
1 評価していない		
2 評価している →人数をお書きください。		
I		人
II		人
III		人
IV		人
M		人
(II a		人、
III a		人、
II b		人)
III b		人)

- 9) 11月のd 2以上の新規褥瘡発生患者数（実人数）をお答えください。

		人
--	--	---

- 10) 11月に身体的拘束をした患者数（実人数）および延べ患者数をお答えください。

①11月に身体的拘束をした実患者数		人
②11月に身体的拘束をした延べ患者数		人
③身体的拘束患者割合		%
【自動計算：身体拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数】		

※ここでいう身体的拘束とは「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの用具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言います（診療報酬の認知症ケア加算の定義と揃えています）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内蔵型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含まれます。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含まれません。4 点柵の使用も含まれません。

- 11) 11月1日24時時点で入院している患者（実人数）のうち、11月1日の状態として以下に該当する患者数（実人数）をお答えください。

① 点滴（持続的静脈注射）を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
② 経鼻経管栄養		人			
③ 胃ろうもしくは腸ろう経管栄養		人			
④ 心電図モニター装着中		人			
⑤ SpO2モニター装着中		人			
⑥ 痰の吸引を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
⑦ 酸素投与中		人			
⑧ 気管カニューレ挿入中		人			

- 12) 11月1日24時時点において、経口摂取していない患者数、およびその患者のうち、摂食嚥下の間接訓練をすでに開始している患者数（11月1日に開始した患者も含む）をお答えください。さらに、その患者のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練への移行も含む）をした患者数をお答えください。

1. 経口摂取していない患者数		人
2. 1.のうち、間接訓練を開始している患者数		人
3. 2.のうち、11月30日までに1回でも経口摂取（直接訓練への移行も含む）した患者数		人

※間接訓練：食べ物を利用しない訓練

直接訓練：食べ物を利用した訓練

- 13) 11月1日24時時点で中心静脈（以下、CV）注射を実施している患者数および、その患者のうち11月30日までにCVカテーテルを抜去（ロックは含まない）した患者数をお答えください。

1. 11月1日時点でのCVカテーテル挿入患者数		人
2. 1.のうち、11月30日までにCVカテーテルの抜去に至った患者数		人

- 14) 11月1日24時時点で膀胱留置カテーテルを挿入している患者数および、11月30日までに抜去した患者数をお答えください。

1. 11月1日時点での膀胱留置カテーテル挿入患者数		人
2. 1.のうち、11月30日までに膀胱留置カテーテルの抜去に至った患者数		人

- 15) 11月の転倒・転落についてお答えください。

1. 11月のレベル2以上の転倒・転落の発生件数												件						
2. 1.のうち、夜間帯のレベル2以上の転倒・転落の発生件数												件						
3. 2.の件数を集計した時間帯											時		分	～		時		分
※24時間表記でご記入ください。（例）18時00分～6時00分（計											時間）【自動計算】							
4. 病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用していますか。[単数回答]																		
1 している													2 していない					

療－３．看護・医療提供体制について

1) 11月の看護職員配置数（実人数）および看護補助者配置数（実人数）についてお答えください。

看護職員		人	うち、准看護師		人
看護補助者		人			

2) 11月の非管理職の看護職員および看護補助者の総勤務時間数、および貴院における1か月の規定の就労時間数をお答えください。

1. 看護職員（非管理職）の総勤務時間数		時間
2. 看護補助者の総勤務時間数		時間
3. 貴院の1か月の規定の就労時間数		時間
4. 実質的な看護職員配置 【自動計算：在棟患者延べ数×8時間×3勤務帯／看護職員（非管理職）の総勤務時間数】		対1

3) 他の医療専門職種の病棟配置についてお答えください。（実人数）

職種	専従	兼務
① 理学療法士	人	人
② 作業療法士	人	人
③ 言語聴覚士	人	人
④ 管理栄養士	人	人
⑤ 薬剤師	人	人
⑥ MSW	人	人

4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護提供体制についてお答えください。（実人数）

※1 本問の「早出」とは、勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むものをいいます（夜勤勤務者は除く）。

※2 本問の「遅出」とは、勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むものをいいます（日勤勤務者または夜勤勤務者は除く）。

2交代の場合

	夜勤人数	早出（※1）	遅出（※2）
① 看護職員	人	人	人
② 看護補助者	人	人	人
③ リハビリ職員	人	人	人

3交代の場合

	準夜勤人数	深夜勤人数	早出（※1）	遅出（※2）
① 看護職員	人	人	人	人
② 看護補助者	人	人	人	人
③ リハビリ職員	人	人	人	人

5) 11月の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間数についてお答えください。

	時間
--	----

※夜勤専従者や月あたりの夜勤時間16時間未満のものは含まない。ただし、短時間正職員の場合は月あたり12時間以上のものを含む。

6) 11月に看護職員が患者・家族に対して実施した以下の延べ回数をお答えください。

1. 意思決定支援（ICの同席やACPを含む）	回
2. 患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導	回

※記録に残しているもののみ数えてください。

7) 11月の看護職員による退院前訪問の実施件数をお答えください。

	件
うち、病棟配属の看護職員の訪問	件
入退院支援部門配属の看護職員の訪問	件
外来部門等その他の所属の看護職員の訪問	件

8) 以下の業務について、主に実施している職種（部門）についてお答えください。[単数回答]

※記載の職種以外が実施または、どちらが主とは言えない場合、「どれにもあてはまらない」を選択ください。

(1) 日中の病棟での日常生活援助

☐	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
☐	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(2) 摂食嚥下機能訓練や口腔機能訓練

☐	1 リハビリ職員	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(3) 入院時の持参薬の確認

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(4) 薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(5) 継続処方の確認・処方依頼

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(6) 退院時の服薬指導

☐	1 薬剤師	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(7) 栄養指導

☐	1 管理栄養士	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(8) 退院調整

☐	1 退院支援部門	2 病棟看護職員
☐	3 病棟配置のMSWが実施	4 どれにもあてはまらない

8) - 2

トイレ歩行の際に見守りもしくは介助が必要な状態の患者に対する、夜間のトイレ介助の現状として、最も近いものをお答えください。

☐	1 できるだけトイレ誘導している（看護職員が中心）
☐	2 できるだけトイレ誘導している（看護補助者が中心）
☐	3 できるだけトイレ誘導している（看護職員・看護補助者が協働して介助）
☐	4 夜間は主にポータブルトイレを使用している
☐	5 夜間は主にオムツを使用している
☐	6 見守り・介助が必要な患者がいない

9) 看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施していますか。[単数回答]

☐	1 実施している	2 実施していない
--------------------------	----------	-----------

療－４．令和4年度診療報酬改定の影響について

- 1) 令和4年度診療報酬改定において追加された摂食機能または嚥下機能の回復に必要な体制整備について、看護提供体制に関して対応したことがあればあてはまるものすべてに○をつけてください。〔複数回答可〕

☐	1 看護職員を加配した
☐	2 看護補助者を加配した
☐	3 特に対応はしていない
☐	4 その他 →()

- 2) 1) で3. 特に対応はしていないと答えた方に伺います。特に対応していない理由についてあてはまるものに○をつけてください。〔複数回答可〕

☐	1 以前から摂食機能または嚥下機能の回復に必要な体制整備がなされている
☐	2 以前から看護職員を多く配置している
☐	3 以前から看護補助者を多く配置している
☐	4 その他 →()

療－５．今後の方向性と課題について

- 1) 療養病棟入院基本料の今後の方向性と課題についてお答えください。〔自由記載〕

--

回復期・慢性期看護実態調査【緩和ケア病棟調査票】

【回答方法】

・設問は、下記の通りご回答ください。

- | | |
|--|-----------------------|
| | ⇒プルダウンメニューから1つ選んでください |
| | ⇒該当する選択肢の横に○印 |
| | ⇒数値を入力してください |
| | ⇒文字等を入力してください |

緩－１．緩和ケア病棟入院料算定病棟の概要について

1) 11月1日時点の算定入院料をお答えください。【単数回答】

	1 緩和ケア病棟入院料 1
	2 緩和ケア病棟入院料 2

2) 11月1日時点で緩和ケア病棟の病棟数および稼働病床数をお答えください。

病棟数		病棟		稼働病床数		床
-----	--	----	--	-------	--	---

3) 11月の緩和ケア病棟入院料における以下①～⑩について、お答えください。

※複数病棟ある場合には、合計値を入力

①11月の在棟患者延べ数		人
②11月の新規入院患者数		人
③11月の新規入棟患者数（自施設内の転棟患者）		人
④11月の退院患者数（転院も含む）		人
⑤ ④のうち、死亡退院した患者数		人
⑥ ④のうち、死亡退院以外の患者数（④-⑤）		人
⑦11月の退棟患者数（自施設内の転棟患者）		人
⑧11月の平均在棟日数 【自動計算： ①÷〔（②＋③＋④＋⑦）÷2〕】		日
⑨病床稼働率 【自動計算： ①÷（30×稼働病床数）】		%
⑩回転率 【自動計算： 30÷⑧】		

4) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者のうち、看護情報提供書を転院・退院先（訪問看護事業所も含む）へ提供した患者数をお答えください。

		人
--	--	---

5) 上記3) ⑥で回答した11月の死亡退院以外の退院（転院含む）患者について、入院期間中における、退院に向けた以下の複数職種によるカンファレンスの延べ実施回数をお答えください。

①病棟看護職員と院内他職種（医師、薬剤師、リハビリ職員、管理栄養士等）によるカンファレンス		回
②病棟看護職員と地域の関係者（地域の医師、薬剤師、訪問看護師、ケースワーカー、ケアマネ等）によるカンファレンス（院内の他職種が同席したカンファレンスも含む）		回

※記録に残しているもののみ数えてください。

6) 緩和ケア病棟緊急入院初期加算の算定状況（11月1日時点）についてお答えください。【単数回答】

	1 緩和ケア病棟緊急入院初期加算を算定している
	2 緩和ケア病棟緊急入院初期加算を算定していない

7) 緩和ケア疼痛評価加算の算定状況（11月1日時点）についてお答えください。【単数回答】

	1 緩和ケア疼痛評価加算を算定している
	2 緩和ケア疼痛評価加算を算定していない

緩－２．患者の状況について

1) 11月1日24時時点で緩和ケア病棟に入院している患者数をお答えください。

		人	① うち、算定要件に該当しない患者数		人
			② ①のうち、新型コロナウイルス感染症患者数		人

2) 11月の緩和ケア病棟の入院実患者数をお答えください。

		人
--	--	---

3) 令和3年度の新規入院患者数および、入院元の内訳をお答えください。（病床機能報告と同様）

新規入院患者数			人
(内訳)	院内からの転棟		人
	家庭からの入院		人
	他の病院・診療所からの転院		人
	介護施設からの入院		人
	介護医療院からの入院		人
	その他		人

4) 令和3年度退院患者数および退院先の内訳をお答えください。（病床機能報告と同様）

退院患者数			人
(内訳)	院内の他の病棟へ転棟		人
	家庭へ退院		人
	他の病院・診療所へ転院		人
	介護老人保健施設に入所		人
	介護老人福祉施設に入所		人
	介護医療院に入所		人
	社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所		人
	死亡退院		人
	その他		人

5) 11月1日時点でACPIにおいて自宅への帰宅（一時帰宅も含む）を望む患者のうち、11月30日までに1度でも自宅に帰宅できた患者数をお答えください。

11月1日時点でのACPで帰宅を望む患者数		人
うち、11月30日までに1回でも帰宅できた患者数		人

6) 11月1日24時時点で入院している患者のうち、75歳以上の患者数及び、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準を用いた評価の実施状況とランク別の認知症患者数についてお答えください。

①75歳以上の患者数（実人数）			人
②認知症高齢者の日常生活自立度判定基準〔単数回答〕			
	1 評価していない		
	2 評価している →人数をお書きください。		
	I		人
	II		人
	III		人
	IV		人
	M		人
	(II a		人、
	(III a		人、
	II b		人)
	III b		人)

7) 11月のd 2以上の新規褥瘡発生患者数（実人数）をお答えください。

		人
--	--	---

8) 11月に身体的拘束をした患者数（実人数）および延べ患者数をお答えください。

①11月に身体的拘束をした実患者数		人
②11月に身体的拘束をした延べ患者数		人
③身体的拘束患者割合		%
【自動計算：身体的拘束をした実患者数÷病棟の入院実患者数】		

※ここでいう身体的拘束とは「抑制帯等、患者の身体又は衣服に触れるなんらかの用具を使用して、一時的に当該患者の身体を拘束し、その運動を抑制する行動の制限」を言います（診療報酬の認知症ケア加算の定義と揃えています）。体動コールやクリップセンサー、離床センサー内蔵型ベッド等、患者の衣服に触れている状態のものは身体的拘束に含みます。足元のマットセンサーなど、患者の衣服に触れていないものや、センサーの電源をオフとしている場合は含みません。4 点柵の使用も含みません。

9) 11月1日24時時点で入院している患者（実人数）のうち、11月1日の状態として以下に該当する患者数（実人数）をお答えください。

① 点滴（持続的静脈注射）を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
② 経鼻経管栄養		人			
③ 胃ろうもしくは腸ろう経管栄養		人			
④ 心電図モニター装着中		人			
⑤ SpO2モニター装着中		人			
⑥ 痰の吸引を実施		人	うち、夜間（17時～8時）実施		人
⑦ 酸素投与中		人			
⑧ 気管カニューレ挿入中		人			

10) 11月の転倒・転落についてお答えください。

1. 11月のレベル2以上の転倒・転落の発生件数						件				
2. 1.のうち、夜間帯のレベル2以上の転倒・転落の発生件数						件				
3. 2.の件数を集計した時間帯			時		分	～		時		分
※24時間表記でご記入ください。（例）18時00分～6時00分（計								時間）【自動計算】		
4. 病院内で統一された転倒・転落アセスメントツール（スクリーニングツール）を活用していますか。[単数回答]										
		1 している		2 していない						

緩－3. 看護・医療提供体制について

1) 11月の看護職員配置数（実人数）および看護補助者配置数（実人数）についてお答えください。

看護職員		人	うち、准看護師		人
看護補助者		人			

2) 11月の非管理職の看護職員および看護補助者の総勤務時間数、および貴院における1か月の規定の就労時間数をお答えください。

1. 看護職員（非管理職）の総勤務時間数		時間
2. 看護補助者の総勤務時間数		時間
3. 貴院の1か月の規定の就労時間数		時間
4. 実質的な看護職員配置 【自動計算：在棟患者延べ数×8時間×3勤務帯／看護職員（非管理職）の総勤務時間数】		対1

3) 他の医療専門職種の病棟配置についてお答えください。（実人数）

職種	専従	兼務
① 理学療法士		人
② 作業療法士		人
③ 言語聴覚士		人
④ 管理栄養士		人
⑤ 薬剤師		人
⑥ MSW		人

4) 平日の夜間・早朝の標準的な看護提供体制についてお答えください。(実人数)

※1 本問の「早出」とは、勤務時間帯が7-8時の時間帯を含むものをいいます(夜勤勤務者は除く)。

※2 本問の「遅出」とは、勤務時間帯が17-18時の時間帯を含むものをいいます(日勤勤務者または夜勤勤務者は除く)。

2交代の場合

	夜勤人数		早出(※1)		遅出(※2)	
① 看護職員		人		人		人
② 看護補助者		人		人		人
③ リハビリ職員		人		人		人

3交代の場合

	準夜勤人数		深夜勤人数		早出(※1)		遅出(※2)	
① 看護職員		人		人		人		人
② 看護補助者		人		人		人		人
③ リハビリ職員		人		人		人		人

5) 11月の看護職員1人あたりの月平均夜勤時間数についてお答えください。

		時間
--	--	----

※夜勤専従者や月あたりの夜勤時間16時間未満のものは含まない。ただし、短時間正職員の場合は月あたり12時間以上のものを含む。

6) 11月に看護職員が患者・家族に対して実施した以下の延べ回数をお答えください。

1. 意思決定支援(ICの同席やACPを含む)		回
2. 患者・家族に対する病態管理や在宅移行に関する指導		回

※記録に残しているもののみ数えてください。

7) 11月の看護職員による退院前訪問の実施件数をお答えください。

		件
うち、病棟配属の看護職員の訪問		件
入退院支援部門配属の看護職員の訪問		件
外来部門等その他の所属の看護職員の訪問		件

8) 以下の業務について、主に実施している職種(部門)についてお答えください。[単数回答]

※記載の職種以外が実施または、どちらが主とは言えない場合、「どれにもあてはまらない」を選択ください。

(1) 日中の病棟での日常生活援助

	1 リハビリ職員	2 看護職員	3 看護補助者
	4 該当患者がいない	5 どれにもあてはまらない	

(2) 摂食嚥下機能訓練や口腔機能訓練

	1 リハビリ職員	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(3) 入院時の持参薬の確認

	1 薬剤師	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(4) 薬剤の準備、残薬確認、病棟配置薬剤の確認

	1 薬剤師	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(5) 継続処方の確認・処方依頼

	1 薬剤師	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(6) 退院時の服薬指導

	1 薬剤師	2 看護職員
	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(7) 栄養指導

☐	1 管理栄養士	2 看護職員
☐	3 該当患者がいない	4 どれにもあてはまらない

(8) 退院調整

☐	1 退院支援部門	2 病棟看護職員
☐	3 病棟配置のMSWが実施	4 どれにもあてはまらない

9) 看護補助者との役割分担について、病棟の看護職員への研修を実施していますか。[単数回答]

☐	1 実施している	2 実施していない
--------------------------	----------	-----------

緩－4. 令和4年度診療報酬改定の影響について

※緩-1の7)で緩和ケア疼痛評価加算を算定していると回答した方のみお答えください。

- 1) 令和4年度診療報酬改定において緩和ケア疼痛評価加算の算定にあたって、看護提供体制に関して対応したことがあればあてはまるものすべてに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 看護職員を加配した
☐	2 看護補助者を加配した
☐	3 特に対応はしていない
☐	4 その他 →()

- 2) 1)で2. 特に対応はしていないと答えた方に伺います。特に対応していない理由についてあてはまるものに○をつけてください。[複数回答可]

☐	1 以前から緩和ケア疼痛評価を行っている
☐	2 以前から看護職員を多く配置している
☐	3 以前から看護補助者を多く配置している
☐	4 その他 →()

緩－5. 今後の方向性と課題について

- 1) 緩和ケア病棟入院料の今後の方向性と課題についてお答えください。[自由記載]

--

<検討委員会名簿>

回復期・慢性期における看護の役割の明確化に係る調査検討委員会

【委員長】	栗生田 友子	日本リハビリテーション看護学会／理事長 埼玉医科大学保健医療学部 看護学科／教授
【委員】	一宮 禎美	回復期リハビリテーション病棟協会／理事 N T T 東日本伊豆病院／看護部長
	伊波 早苗	淡海医療センター／統括看護部長
	梅崎 亜希子	医療法人愛の会光風園病院／看護部長
	寺門 通子	茨城県立医療大学付属病院／認定看護管理者、看護部長
	橋本 康子	医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院／理事長
【事務局】		
担当理事	吉川 久美子	公益社団法人日本看護協会 常任理事（研究責任者）
担当部署	岩澤 由子	公益社団法人日本看護協会 医療政策部長
	土屋 あゆみ	公益社団法人日本看護協会 医療政策部医療制度課
	南平 直宏	公益社団法人日本看護協会 医療政策部医療制度課

回復期・慢性期看護実態調査 報告書

2023 年 3 月 31 日発行

発行 公益社団法人 日本看護協会

〒150-0001 渋谷区神宮前 5-8-2 日本看護協会ビル

TEL : 03(5778)8804
